

業務委託見積システム
for Windows

Ver 2.2.4

操 作 説 明 書

目次

1. はじめに.....	1
2. 機能概要.....	2
2-1. システムイメージ.....	2
2-2. システム構成.....	3
2-3. 機能構成.....	4
2-4. システム動作環境.....	5
2-5. データの共有について.....	5
3. 処理を始める前に.....	6
3-1. ライセンス認証について.....	6
3-2. ハードウェアプロテクタについて.....	6
3-3. システム導入準備の流れ.....	7
4. 業務委託見積システムのCDメニューの説明.....	8
5. 初期設定.....	9
5-1. システムの起動.....	9
5-2. ライセンス認証情報の設定.....	9
5-3. 初期ログイン（新規ユーザID登録）.....	12
6. 各機能・画面説明.....	14
6-1. メインメニュー画面.....	14
①システムバージョン.....	14
②マスタバージョン.....	14
③マスタバージョン状態.....	14
④使用者.....	14
⑤メニューボタン.....	14
⑥上部メニュー.....	15
6-2. 見積書作成機能.....	16
6-2-1. 鏡画面.....	16
6-2-2. 既存見積選択画面.....	21
6-2-3. 内訳画面.....	23
6-2-4. 内訳項目追加画面.....	34
6-2-5. 単価表画面.....	38
6-2-6. 変化率一覧画面.....	48
6-2-7. 変化率データ設定画面.....	52
6-2-8. 使用単価一覧画面.....	54
6-2-9. EXCEL出力画面.....	55
6-2-10. 外業日数一覧画面.....	58
6-2-11. 金額構成一覧画面.....	60
6-2-12. 電子成果品作成費等（手動設定）画面.....	62
6-2-13. 宿泊旅費画面.....	64
6-2-14. ライトバン運転費画面.....	69
6-2-15. 旅費交通費（率計上）画面.....	72
6-2-16. 日当・宿泊料（率計上）画面.....	74
6-2-17. 安全费率入力画面.....	79
6-2-18. 橋梁点検コピー画面.....	80
6-3. マスタのメンテナンス機能.....	82
6-3-1. マスタメンテナンスメニュー.....	82

目次

6-3-2.	歩掛マスタ	83
6-3-3.	変化率マスタ	98
6-3-4.	単価マスタ	104
6-3-5.	積上単価マスタ	112
6-3-6.	客先マスタ	116
6-3-7.	署名マスタ	119
6-3-8.	ユーザマスタ	121
6-3-9.	最新マスタへ更新	123
6-4.	外部入出力機能	126
6-4-1.	外部入出力選択画面	126
6-4-2.	見積書データ読み込み	126
6-4-3.	見積書データ書き出し	128
6-4-4.	マスタデータ読み込み	130
6-5.	環境設定画面	132
6-6.	バックアップ機能	134
6-7.	その他の機能（更新・履歴・起動時・ヘルプ）に関する機能	135
6-7-1.	更新機能	135
6-7-2.	履歴機能	139
6-7-3.	起動時設定機能	139
6-7-4.	ヘルプ機能	140
7.	帳票説明	141
7-1.	帳票の種類	141
7-2.	各帳票の説明	143
7-2-1.	鏡	143
7-2-2.	見積り条件	144
7-2-3.	総括表	145
7-2-4.	数量表	146
7-2-5.	内訳表	147
7-2-6.	内訳表[直人別表示]	148
7-2-7.	単価表	149
7-2-8.	単価表（宿泊旅費）	152
7-2-9.	2次単価表	153
7-2-10.	変化率一覧表	154
7-2-11.	金額構成一覧	155
7-2-12.	金額構成一覧（経費目別）	156
7-2-13.	外業日数一覧	157
7-3.	オリジナル鏡シート	159
7-3-1.	作成シートの準備	159
7-3-2.	鏡シートの作成	159
7-3-3.	環境設定でオリジナルシート使用を設定する	162
7-3-4.	オリジナル鏡シートに関する留意事項	162
8.	操作手順説明	163
8-1.	基本的な見積書作成手順	163
8-1-1.	新規見積書作成の流れ	163
8-1-2.	変更見積書作成の流れ	166
8-1-3.	既存見積書修正の流れ	167
8-2.	作成済み見積りをコピーして類似見積りを作成する	168
8-2-1.	[新規見積り作成]ボタンからの「鏡」画面で[既存案件から複写]ボタンを押す	

目次

方法	168
8-2-2. [見積り修正]ボタンからの「既存見積選択」画面で[複写]ボタンを押し、一旦複製を作成し、その複製を修正する方法	169
8-3. 各種マスタ設定手順	171
8-3-1. 歩掛マスタの登録	171
8-3-2. 変化率マスタの登録	174
8-3-3. 単価マスタの登録	178
8-3-4. 積上単価マスタの登録	180
8-3-5. 客先マスタの登録	182
8-3-6. 署名マスタの登録	184
8-3-7. ユーザマスタの登録	185
8-4. 電子成果品作成費等（手動設定）の設定方法	186
8-4-1. 電子成果品作成費等（手動設定）を追加する	186
8-4-2. 設定画面を表示する	186
8-4-3. 計算式を設定する。	187
8-5. 宿泊旅費の設定方法（率を用いない場合）	188
8-5-1. 宿泊旅費を追加する	188
8-5-2. 設定画面を表示する	188
8-5-3. 各種値を設定する	189
8-5-4. 職種毎の外業日数を設定する	189
8-5-5. 2025年度以降の宿泊旅費	191
※宿泊旅費に関する注意事項	191
8-6. 宿泊旅費の設定方法（率を用いた積算）	191
8-6-1. 旅費交通費と日当・宿泊料を追加する	191
8-6-2. 日当・宿泊料画面を表示する	192
8-6-3. 職種毎の外業日数を設定する	192
8-6-4. 2025年度以降の宿泊旅費（率を用いた）	194
※宿泊旅費に関する注意事項	195
8-7. ライトバン運転費の設定方法	196
8-7-1. ライトバン運転費を追加する	196
8-7-2. 設定画面を表示する	196
8-7-3. 各種値を設定する	197
8-8. システムのバージョンアップ手順	198
8-8-1. 自動アップデート機能を行う方法	198
8-8-2. 手動でセットアップを行う方法	199
8-9. マスタのバージョンアップ手順	201
8-9-1. マスタバージョンアップ機能を使った方法	201
8-9-2. 手動で更新XMLをダウンロードし読み込む方法	202
8-10. 市場単価の切り替え手順	204
8-10-1. 任意データ読み替え機能を使った方法	204
8-10-2. 手動で更新XMLをダウンロードし読み込む方法	204
8-11. 橋梁定期点検のコピー機能の使用方法	207
8-11-1. 橋梁定期点検業務の「状態の把握（点検）特定の溝橋等以外（橋）」歩掛を「点検コピー」機能を使用して複数追加する方法	207
8-11-2. 橋梁定期点検業務の「点検調書作成」を一括作成	209
9. 参考資料【見積作成時の留意点等】	210
9-1. 共通	210
9-2. 測量	214
9-3. 設計	215

－ 目 次 －

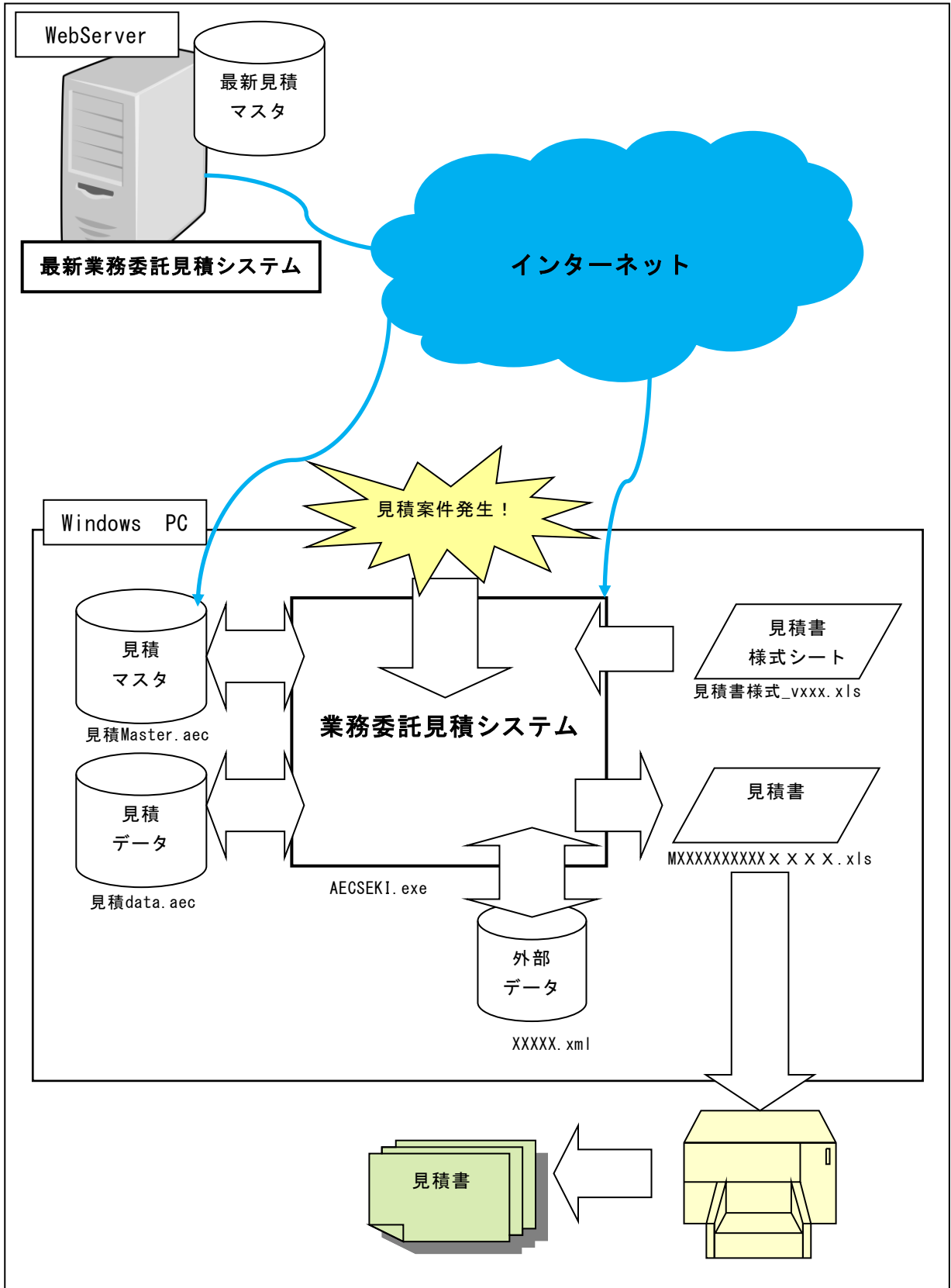
9-4. その他.....	216
10. プロテクタの更新方法.....	221
11. 業務委託見積システムが必要なくなったとき.....	224

1. はじめに

この操作説明書では、「業務委託見積システム for Windows」のインストールから起動までのセットアップ方法、及びプログラムの基本操作について記述してあります。計算の考え方・仕様につきましては「概説書」をご覧ください。

2. 機能概要

2-1. システムイメージ



2-2. システム構成

ファイル名	内容	保存場所
AECSEKI.exe	本システムプログラム	ユーザ指定のインストールフォルダ
見積Master.aec	歩掛マスタ、単価マスタ等を格納しているファイル	任意
見積Data.aec	ユーザが作成した見積書データが格納されるファイル	任意
見積書様式_v010.xls ~ 見積書様式_v050.xls	旧見積書の様式元シート	任意
見積書様式_v051.xls	見積書の様式元シート	
ExcelCreator.Shared.v10.dll	Excel出力するために必要なシステムファイル	AECSEKI.exeと同じフォルダ
ExcelCreator.Xls.Core.v10.dll		
ExcelCreator.Xls.Creator.v10.dll		
ExcelCreator.Xls.View.v10.dll		
Msvcr71.dll	本システムを実行するのに必要なファイル	
sx32w.dll		
unins000.exe	本システムで使用するデータベースのアンインストール実行ファイル	
unins000.dat	unins000.exeを実行するために必要なファイル	
sysver.dat	本システムのバージョン管理ファイル	
操作説明.pdf	操作説明書	
AECSEKI.inf	環境設定用ファイル	
AECPRO.KEY	プロテクタ情報ファイル	
AECLicense2.dll	インターネット認証に必要なファイルです。	
Interop.JRO.dll	本システムの一部機能に必要なファイル	
AutoVerUp.exe		
AutoVerUp.inf		
AsproxyLibrary.dll		
dcallist.csv	システム内で使用する電子成果品作成費等の計算式等が設定されているファイル	

※上記ファイルはいずれも必要なファイルですので、削除しないでください。

2-3. 機能構成

機能名称		機能内容
見積書作成	新規見積り作成	見積書を新規に作成します。既存の見積書からコピーする機能もあります。
	変更見積り作成	変更見積書を作成します。元の見積書を修正するのではなく、版数を上げて作成します。指定により、前版の内容を併記出来ます。
	見積書修正	1度作成した見積書の修正を行います。変更履歴は残りません。
Excel出力	鏡	作成した見積書の各様式をExcelシートに作成します。 必要な様式を選択して作成出来ます。
	見積条件	
	総括表	
	数量表	
	内訳書	
	単価表	
	2次単価表	
	単価表（宿泊旅費）	
	変化率一覧	
	金額構成一覧	
マスタ登録	歩掛マスタ	歩掛マスタの登録・修正・削除を行います。
	変化率マスタ	変化率マスタの登録・修正・削除を行います。
	単価マスタ	単価の登録・修正・削除を行います。
	積上単価マスタ	積上単価の登録・修正・削除を行います。
	客先マスタ	客先マスタの登録・修正・削除を行います。
	署名マスタ	見積書の署名欄に表示する署名情報の登録・修正・削除を行います。
	ユーザマスタ	ログイン用社員情報の登録・修正・削除を行います。
外部入出力	見積書データ読み込み	外部入出力の「書き出し」機能により書き出されたデータファイルを読み込む機能です。
	見積書データ書き出し	登録済みの見積データをxml形式で書き出します。
	マスタデータ読み込み	歩掛マスタや単価マスタの追加・更新データを読み込む機能です。
環境設定	各種パス指定	本システム運用に必要な各種ファイルの格納場所の指定を行います。
	プロテクタ設定	プロテクタIDの登録やプロテクタの種類（スタンドアロン・ネットワーク）を選択します。

2-4. システム動作環境

動作形態	スタンドアロン
OS	日本語オペレーションシステム Microsoft Windows 7、Microsoft Windows8(8.1)、 Microsoft Windows 10、Microsoft Windows11
PC本体	PC/A T互換機
ハードディスク容量	作成する見積件数により増加
ディスプレイ	解像度1024×768以上 画面のフォントは標準フォントを選択してください。また、DPIは通常（100%）のサイズを選択してください。 設定によっては画面が正しく表示されない場合があります。
その他	<ul style="list-style-type: none">・ システム配付媒体がCDの場合はCD-ROMドライブが必要です。・ システム動作にはMicrosoft .NET Framework 4.5以降が必要です。（インストールするにはインターネット接続環境が必要です。）・ 見積書を出力するにはMicrosoft Excel2000以降が必要です。

2-5. データの共有について

本システムは、スタンドアロン運用のみ想定しており、ネットワーク運用はサポートしていません。実際には使用するデータベースをネットワーク先のPCやPCサーバに配置することも可能ですが、同時使用時の排他制御等は行っていませんので十分注意してください。

3. 処理を始める前に

3-1. ライセンス認証について

「業務委託見積りシステムfor Windows」をご利用頂くためには、ライセンスの認証をして頂く必要があります。認証方法にはインターネット経由でのソフトウェア認証とハードウェアプロテクタを使用するハードウェア認証の2種類があり、ご契約段階によって異なります。以下の通り、その時点での認証方法に従ってパソコンの設定をして頂く必要があります。

認証方法 契約段階	インターネット認証	ハードウェアプロテクタ認証 (スタンドアロン認証)
試用版	○	△※1
正式リース契約	×※2	○

※1 ご希望によりハードウェアプロテクタをお貸し出しすることも可能です。

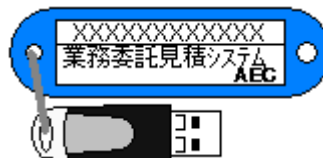
※2 正式リース契約を頂いた場合は、全てハードウェアプロテクタ認証になります。事前に試用版でインターネット認証をして頂いていた場合でも、ハードウェアプロテクタ認証に切り替えて頂く必要があります。

3-2. ハードウェアプロテクタについて

ハードウェアプロテクタで認証する場合は、事前にハードウェアプロテクタのドライバソフトをインストールして頂く必要があります。ハードウェアプロテクタの取り付け方や必要なドライバソフトウェアの種類は、ご利用になる環境によって異なる場合があります。別添の「ハードウェアプロテクタ取扱説明書」をご覧になってお取り付けください。

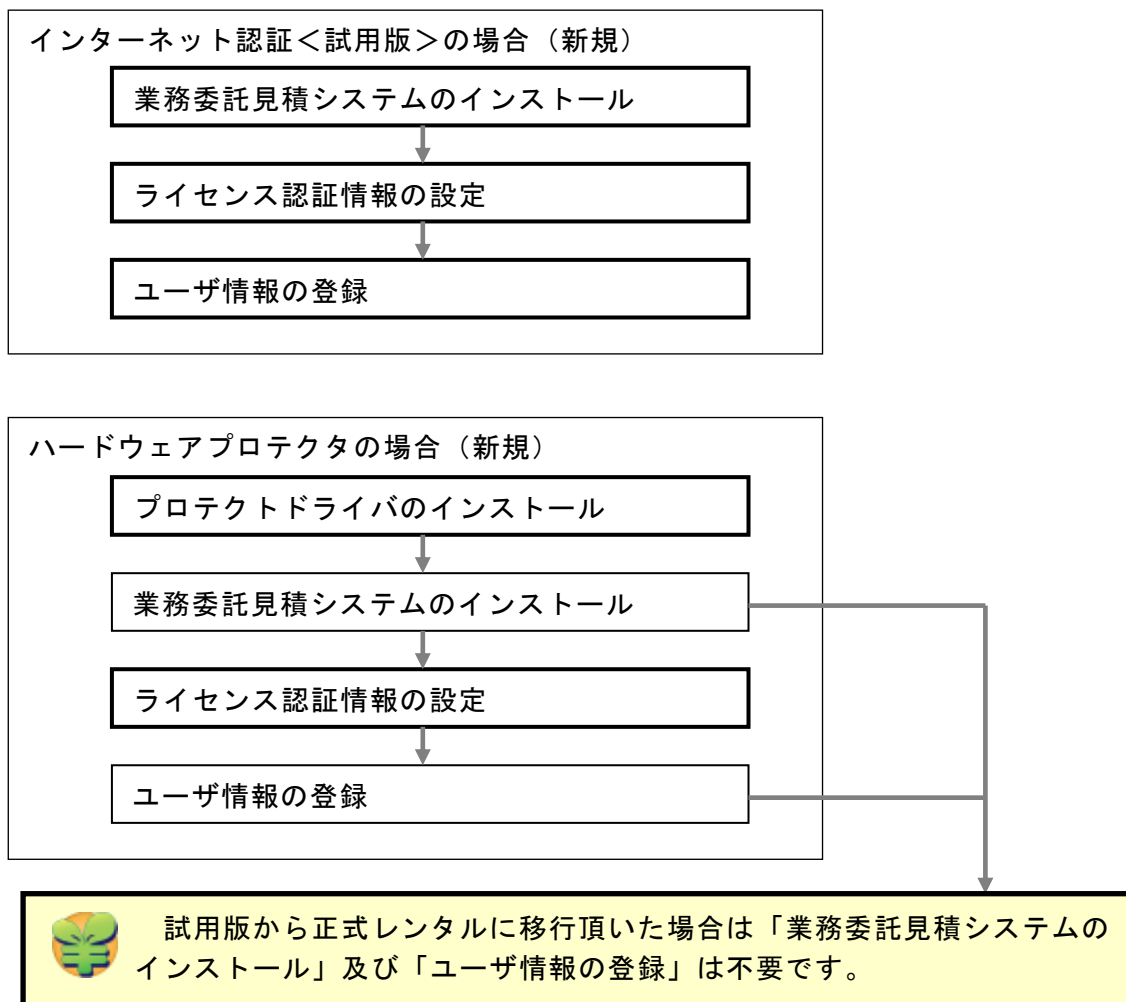
- ※ 必ず、ハードウェアプロテクタをパソコンに取り付ける前にプロテクトドライバをインストールしてください。ハードウェアプロテクタを取り付けた状態ではプロテクトドライバのインストール・アンインストールはできません。
- ※ ドライバをインストールする前に取り付けてしまった場合には、デバイスマネージャーで一旦ハードウェアプロテクタを削除した上でプロテクトドライバのインストールを行ってください。

プロテクタイメージ図



3-3. システム導入準備の流れ

システム導入の流れは、お申し込みの段階により異なります。以下の順序で導入準備作業を行ってください。詳しくは別紙「システム導入ガイド」をご参照の上、システム導入を行ってください。



4. 業務委託見積システムのCDメニューの説明

※ 本項は、CDメニューの説明のみとなっておりますので、実際のシステム導入手順は別紙「システム導入ガイド」をご参照ください。

業務委託見積システムCDをCDドライブにセットすると自動的にCDメニューが起動します。



※ パソコンの設定によっては自動起動しない場合があります。その場合はマイコンピュータなどからCD内の「Autorun.exe」を起動してください。

<メニュー項目の説明>

メニュー項目	内容
システムのインストール	業務委託見積システム本体とそれに必要なシステムモジュールをインストールします。
マスタDBのインストール	業務委託見積システムで使用する歩掛データや、作成した見積データを保存するデータベースをインストールします。
《スタンドアロン用プロテクトツール》 ドライバ (Verx. x. x)	ハードウェアプロテクトのドライバのインストールを行います。
AEC RUS (プロテクトの更新)	ハードウェアプロテクトの内容を更新する時に使用します。

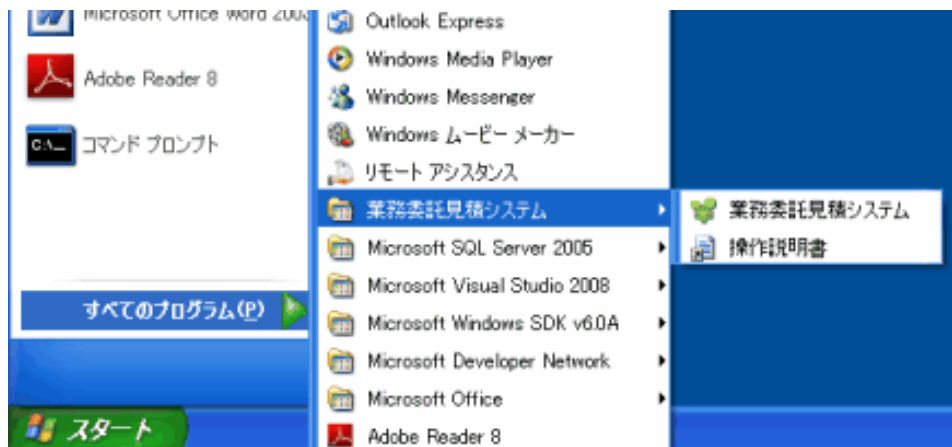
※ 業務委託見積システムのCDは、初期のシステム導入時のみにご使用頂きます。システム導入後は不要です。

5. 初期設定

※本項は別紙「システム導入ガイド」の「5. ユーザ情報の登録」と内容が重複しております。既に作業がお済の場合、作業は不要です。

5-1. システムの起動

本システムを起動するには、[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] - [業務委託見積システム] をクリックしてください。



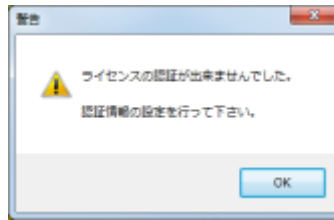
または、デスクトップに本システムのアイコンが追加されていますので、そちらをクリックしても起動します。



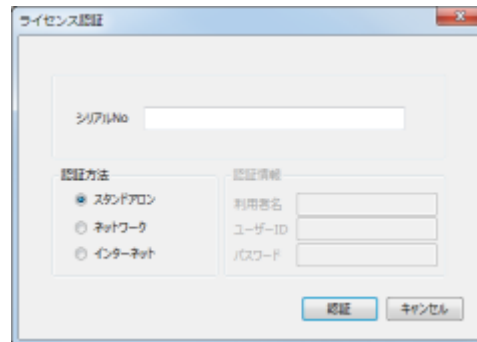
5-2. ライセンス認証情報の設定

本システムを動作させるためには、認証情報設定を行いライセンスの認識を行う必要があります。ライセンス認証が正しく行われなければシステムを起動することは出来ません。以下の手順で設定を行ってください。

- ① ハードウェア (USB) タイプのプロテクタを使用する場合は、事前に「プロテクタドライバのインストール」が行われていることを確認してください。(インターネット認証 (試用版) の場合は不要です。)
- ② 本システム付属のハードウェア (USB) プロテクタをパソコンのUSBコネクタに差し込みます。(インターネット認証 (試用版) の場合は不要です。)
USBコネクタの位置や差し込み方などはお使いのパソコンの取扱説明書などでご確認ください。
- ③ 初めてシステムを起動した場合はプロテクタを接続していても以下のメッセージが表示されます。[OK]を押してください。



- ④ ライセンス認証画面が表示されます。シリアルNoと認証方法等を設定して[認証]ボタンを押してください。



- ・ シリアルNo USBプロテクタに取り付けられているタグに記載されている12桁を登録してください。インターネット認証（試用版）の場合は別途弊社からお知らせしているシリアルNoを指定してください。
- ・ 認証方法 ライセンス認証の方法を指定します。
 - <スタンドアロン>
USBタイプのプロテクタを取り付けて認証する場合に選択します。通常、レンタル契約をして頂いた場合はこちらになります。
 - <ネットワーク>
業務委託見積システムではご使用出来ません。
 - <インターネット>
インターネットで認証する場合に選択します。現在は、試用版をご使用頂く場合のみインターネット認証となります。
- ・ 認証情報 インターネット認証の場合のみ設定します。スタンドアロン認証の場合は入力不要です。
 - <利用名>
利用者を識別するための任意の名称です。Web管理画面に表示され、現在使用中であることがわかります。
 - <ユーザID>
認証サーバに登録されているユーザ管理IDです。試用版お申し込み後、弊社からご案内します。Web管理画面で変更された場合は、変更後のユーザIDを指定してください。
 - <パスワード>
認証サーバに登録されているパスワードです。ユーザID同様、初期値は弊社からご案内しておりますが、ユーザ様にて変更されている場合は変更のパスワードを指定してください。

※ シリアルNoは、プロテクタ毎に異なります。複数ライセンスご契約時には、特に

ご注意ください。

- ※ スタンドアロン認証はプロテクタをパソコンに接続した状態で行ってください。
- ※ インターネット認証時のユーザID、パスワードは、ユーザ様により再設定して頂くことを推奨しており、そのWebページを用意しております。詳しくは試用版お申し込み後、別途ご案内申し上げます。

⑤ ライセンス認証が正しく行われると以下のようなログイン画面が表示されます。



以上でライセンス認証情報の設定は完了です。引き続き「5-3. 初期ログイン」に進んでください。

5-3. 初期ログイン（新規ユーザID登録）

システムを使用するには、ユーザIDの登録が必要です。システムインストール直後の初期状態ではユーザIDの登録がされていないので、以下の画面のような画面が表示されます。

- ① 「新規ユーザID登録」ボタンを押してください。



- ② 「ユーザ情報」登録画面が表示されますので、各項目を入力して[OK]を押してください。

[ユーザID]

ユーザを一意に識別するための5桁のコードです。新規作成時に入力します。修正時は変更出来ません。※省略不可 見積もりN0に組み込まれます。→ ([「6-2-1.鏡画面」](#) [見積N0]参照)

[氏名]

ユーザの氏名を入力します。※省略不可

[よみがな]

読み仮名をひらがなで指定します。

[分類コード]

当該ユーザを分類するためのグループコード3桁を指定します。※省略不可。見積

もりNOに組み込まれます。→（「[6-2-1.鏡画面](#)」[見積NO]参照）

[労務費単価県]

見積書を新規作成する際に、既定値としてセットされる労務単価の県を設定します。
当該ユーザIDで見積する際にもっともよく適用する県を登録しておきます。

※ 但し、見積書作成時において、選択した客先情報に労務単価県が設定されている場合は、そちらが優先されます。

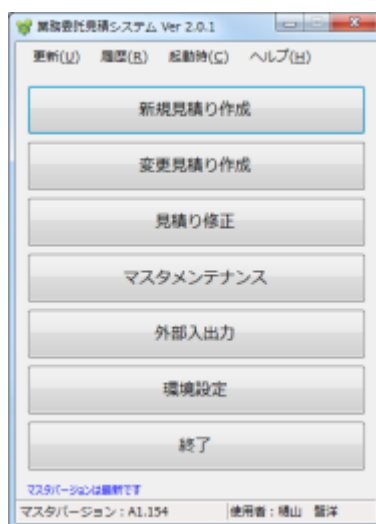
[備考]

任意に文字を登録出来ます。

ログインしたユーザIDと分類コードは見積り番号の一部に使用されます。見積書の作成者を特定する意味で重要ですので、必ず個人のIDおよび分類コードを確定後、運用するようにしてください。



③ 以下のようなメインメニューが表示されれば、初期設定は完了です。

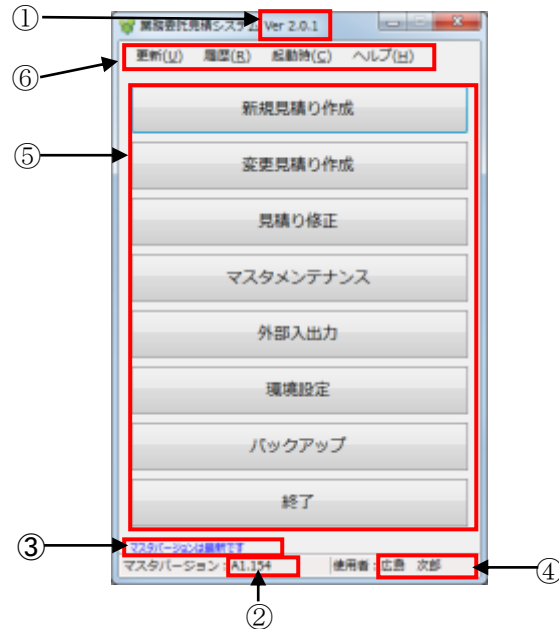


※ 「5. 初期設定」の作業は、基本的にインストール後1度行くと次回からは行う必要はありません

6. 各機能・画面説明

6-1. メインメニュー画面

システムを起動し、ログインすると以下の「メインメニュー」が表示されます。



①システムバージョン

現在起動している見積システムのシステムバージョンを表示します。

②マスターバージョン

現在読み込まれている歩掛や単価の状態をあらわすマスターバージョンを表示します。

③マスターバージョン状態

現在のマスターバージョンとWebサーバ上の最新マスターバージョンの比較結果を表示します。

④ユーザー

現在ログインしているユーザ名を表示します。

⑤メニューボタン

【新規見積り作成】ボタン

新規に見積書を作成します。選択すると [鏡] 登録画面を表示します。

([6-2-1. 鏡画面](#))

【変更見積り作成】ボタン

変更見積書を作成します。選択すると既存の見積一覧を表示する画面を開きます。

([6-2-2. 既存見積選択画面](#))

【見積り修正】ボタン

1度作成した見積書の修正を行います。選択すると既存の見積一覧を表示する画面を開きます。([6-2-2. 既存見積選択画面](#))

[マスタメンテナンス] ボタン

単価や歩掛等のメンテナンスを行います。選択すると、マスタ項目を選択するメニューを表示します。([6-3. マスタメンテナンス機能](#))

[外部入出力] ボタン

外部入出力機能の [読み込み] と [書き出し] 選択メニューを表示します。([6-4. 外部入出力機能](#))

[環境設定] ボタン

環境設定画面を開きます。([6-5. 環境設定画面](#))

[バックアップ] ボタン

バックアップ画面を開きます。([6-6. バックアップ機能](#))

[終了] ボタン

システムを終了します。

⑥ 上部メニュー

各上部メニューを押すと以下のサブメニューが表示されます。

[更新] メニュー

- └[最新システムバージョンのチェック&更新(U)]
- └[最新マスタバージョンのチェック&更新(M)]

[履歴] メニュー

- └[システム更新履歴の確認(S)]
- └[マスタ更新履歴の確認(R)]

[起動時] メニュー

- └[起動時に最新システムバージョンをチェック]
- └[起動時に最新マスタバージョンをチェック]

[ヘルプ] メニュー

- └[操作説明書(J)]
- └[概説書(K)]
- └[FAQ(Q)]
- └[バージョン情報(A)]
- └[プロテクタの更新(P)]

([6-7. その他の機能 \(更新・履歴・起動時・ヘルプ\) に関する機能](#))

※メインメニュー画面は、システムを終了するまで画面上に常時表示されていますが、各作業中（別の画面が表示されている時）は、このメニューを押すことは出来ません。

6-2. 見積書作成機能

6-2-1. 鏡画面

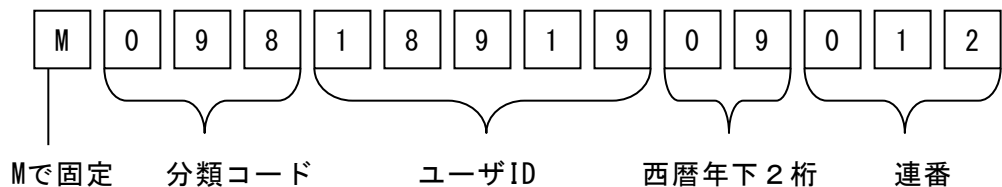
[新規見積り作成]、[変更見積り作成] ボタン、及び「内訳画面」内の [鏡] ボタンを押すと以下の [鏡画面] が表示されます。

[見積NO]

作成中の見積書の見積NOを表示します。但し、[新規見積り作成] から開いた時には何も表示されません。

採番は自動で設定され、ユーザによる変更はできません。

<各桁の意味>



[版数]

作成中の見積書の版数を表示します。初版は「01」で+1ずつ増えます。自動設定でユーザによる変更は不可です。

[見積日付]

見積書の鏡に印刷される日付です。新規作成時は現在の日付が既定値としてセットされます。任意に変更が可能です。

入力様式 yyyy年mm月dd日
 yyyy : 西暦年4桁
 mm : 月2桁
 dd : 日2桁

※右端の▼ボタンを押すとカレンダーイメージが表示され日付を指定することが出来ます。

[件名]

見積書の鏡に印刷される案件名称です。任意の文字を入力出来ます。

[見積先]

見積書の鏡に印刷される見積り先情報です。

[労務費単価の地域]

現在作成中の見積で使用する労務費単価をどこの地域の単価で作成するのを選択します。新規作成時の既定値は、見積先を客先マスタから選択した場合は、その客先に設定されている労務単価の地域がセットされます。客先マスタの客先にこの労務単価の地域が設定されていない場合（初期時）は、現在ログインされているユーザのユーザ情報に登録されている労務費単価地域がセットされます。必要に応じて変更して使用してください。

[市場単価の適用区分]

現在作成中の見積でその市場単価を使用する場合、次の5通りの中から適用する単価を選択してください。また「労務単価の地域」と同様、見積先を客先マスタから選択した場合は、その客先に設定されている適用区分がセットされます。必要に応じて変更してください。（初期値（客先マスタ未設定時）は5「積算資料と建設物価の平均（国）」になっています。）

- ・ 1 「積算資料」（経済調査会発行の月刊誌「積算資料」から抜粋）
- ・ 2 「建設物価」（建設物価調査会発行の月刊誌「建設物価」から抜粋）
- ・ 3 「積算資料と建設物価の平均」（10円未満切り捨て）
- ・ 4 「積算資料と建設物価の低額側」
- ・ 5 「積算資料と建設物価の平均（国）」（基準書準拠）

[署名情報]

見積書の鏡に印刷される署名情報です。[署名選択]ボタンを押して署名マスタに登録済みの情報を選択表示出来ます。

また、任意にこの項目を手入力することも出来ます。

新規作成時の既定値は、署名マスタの登録で既定値指定をしているものが表示されます。（[「6-3-7. 署名マスタ」](#)参照）

[計算方法]

業種毎に補正後の工数の桁と丸め方法等を指定します。

- ・ 測量、地質（一般）

[作業量補正後工数丸め]・・・延長や面積といった作業量補正で工数に掛ける補正がある場合の補正後の桁数を指定します。

既定値：少数第3位（第4位四捨五入）

[歩掛単価計算時の丸め]・・・測量業並びに地質調査業（一般）の場合の歩掛単価を求める際に、有効桁4桁丸めを行わないように設定出来ます。（規定値はチェックオフの状態です。）

- ・ 設計、地質（解析）

[補正後工数丸め]・・・工数に補正を掛ける場合の補正後の桁数を指定します。

既定値：少数第3位（第4位四捨五入）

・補償

[補正後工数丸め] 工数に補正を掛ける場合の補正後の桁数を指定します。

既定値：少数第3位（第4位四捨五入）

[補正の掛け方] 補償業務に限り、「0：各個別工数を補正」と「1：合計工数を補正」を選択指定します。

※新規で作成するものは初期値として「1合計工数を補正」が設定されます。

本機能追加以前（Ver1.3.4以前）に作成された見積の場合は「0各個別工数を補正」が選択されています。

[設計、地質（解析）等の単価表で「最終単価丸め」を指定した場合の計算方法]

設計、地質（解析）、補償の一部で単価表画面の「最終単価丸め」を「有効桁4桁未満切り捨て」または「千円未満切り捨て」を選択した場合の計算方法を2つのうちどちらかに設定します。

「0：構成要素の合計を丸めその額を最終単価とする」

旧バージョンの計算方法です。最終単価そのものを丸めます。最終単価の構成要素である人件費、電子計算機使用料などもそれぞれ丸めます。したがって、最終単価＝構成要素合計にならないケースがありますので、その場合は人件費以外の構成要素に差額を含めます。

「1：構成要素を丸めその合計を最終単価とする」

最終単価の構成要素である人件費や電子計算機使用料などを丸め、それらを合計したものを最終単価とします。その結果、最終単価自体が指定の丸めをされていない状態になるケースもあります。

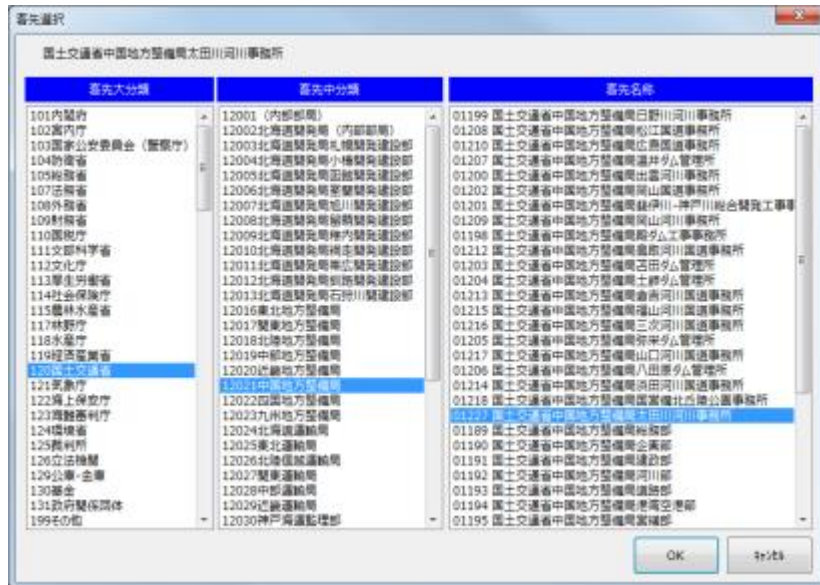
※設計関連で最終単価の丸めを行う場合の計算方法は何らかの基準に沿ったものではございません。上記のいずれの計算方法を選択しても、その結果については十分ご確認いただきますようお願いいたします。

[消費税率]

現在作成中の見積で適用する消費税率を指定します。入力は%単位で行います。新規作成時の既定値は、環境設定の「見積作成時の消費税率初期値」で設定されている率が設定されます。（[「6-5.環境設定」](#)参照）

[...] ボタン

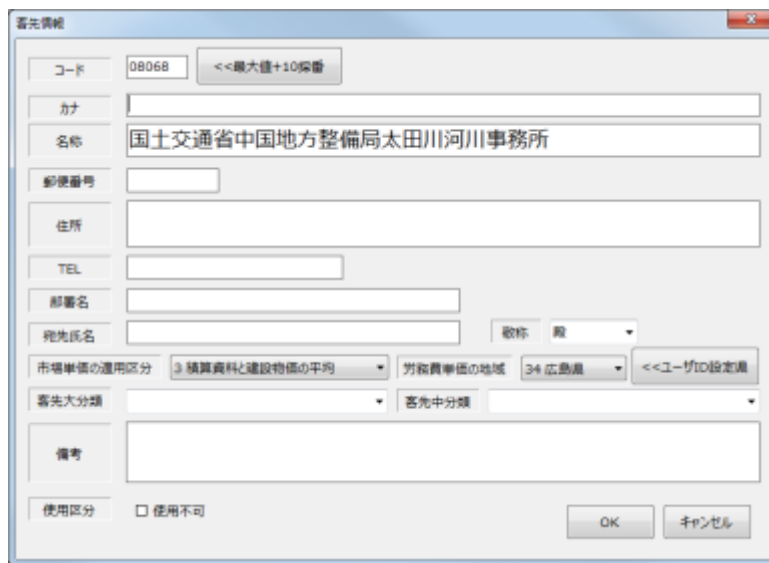
[見積り先]に設定する客先情報（機関名、部門名等）を客先マスタに登録されている客先情報から選択する画面を表示します。



[大分類]-[中分類]-[名称]の順に選択し、[OK]を押します。
 (「6-3-6-1. 客先選択画面」参照。)

[見積先を客先マスタに登録] ボタン

[見積り先]に入力されている客先情報を客先マスタに登録する画面を表示します。



必要な客先情報を入力して[OK]ボタンを押します。
 (「6-3-6-2. 客先情報画面」参照。)

[署名選択] ボタン

署名マスタに登録済みの署名情報を選択して現在作成中の見積書の署名情報に設定します。

[既存案件から複写] ボタン

今までに作成している既存見積りデータから内容（歩掛から変化率設定まで全ての内容）をコピーしてきます。見積もりを新規作成する場合の最初の鏡画面でのみ使用できます。

[作成] または [更新] ボタン

現在開いている鏡画面の情報操作を有効にして閉じます。今行った登録作業を有

効にする場合に押します。

[新規見積り作成] と [変更見積り作成] 時には [作成]、[見積り修正] 時には [更新] と表示されます。

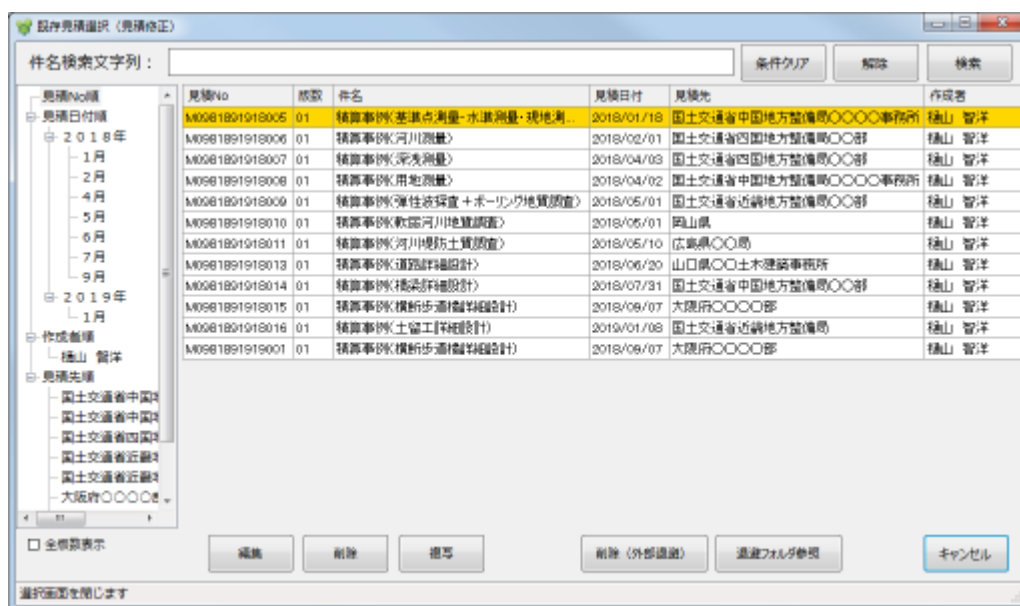
[キャンセル] ボタン

現在開いている鏡画面の情報操作を無効として閉じます。今行った登録や修正作業をキャンセルする場合に押します。

- ※ 各項目は任意に手入力出来ませんが、改行は出来ません。また、文字数は最大255文字まで入力出来ませんが、印刷時（Excel様式時）の印刷有効範囲に収まるよう注意してください。

6-2-2. 既存見積選択画面

[メインメニュー]の[変更見積り作成]、[見積り修正]ボタン、[外部入出力]の[書き出し]ボタンを押した時などの、既存の対象見積りデータを選択する場面では、以下の選択画面が表示されます。



画面左側から整列・絞込みを選択すると、中央から右側のリストが表示されます。表示されたリスト部分をクリックすることで対象データを選択出来ます。

また、登録済みの見積りデータから特定の条件(件名と発注者名)を指定して検索し、絞り込んだものを表示することも出来ます。

[件名検索文字列:]

件名で検索する場合に任意の文字列を指定します。

[客先検索]

客先名称で検索する場合に任意の文字列を指定します。[...]ボタンを押すと客先選択画面が表示され、それを選択することでも設定出来ます。

[条件クリア] ボタン

現在設定されている件名検索文字列をクリアします。

[解除] ボタン

検索処理を実施し、リストが絞り込まれている場合に、その検索を解除し、元の全体を表示するリストに戻します。

※ 解除をしても[件名検索文字列]に設定されている文字はクリアされません。

[検索] ボタン

[件名検索文字列]に指定されている文字列を検索し、リストを絞り込みます。

[編集] ボタン (見積り修正時のみ)

選択されている見積りの内訳画面を表示します。

[選択] ボタン (変更見積り作成時のみ)

選択されている見積りの変更見積りを作成するための鏡画面を表示します。

[書き出し] ボタン (外部入出力の書き出し時のみ)

選択されている見積りデータを外部出力するための書き出し先指定画面を表示します。

[削除] ボタン (見積り修正時のみ)

選択されている見積りをデータベース内から完全に削除します。2版以上の場合は最新版のみが削除されます。削除後、前の版数が表示されますので、前版数も削除したい場合は再度選択して削除してください。

[複写] ボタン (見積り修正時のみ)

選択されている見積りの内容を複写し別の見積りデータを作成します。(別の見積り番号が自動採番され選択リストに追加されます。)

[削除 (外部退避)] ボタン (見積り修正時のみ)

選択されている見積りを一旦外部フォルダにXML形式で書き出し退避した後、データベース上から削除します。退避先フォルダとファイル名については以下の通りです。

退避フォルダ	環境設定で指定されているマスタDBのフォルダ配下の [Finish]フォルダ 例) C:\AEC アプリケーション\業務委託見積\DATA\DB\Finish
ファイル名	'FDT'+[見積No]+[版数].xml 例) FDTM123123451900101.xml

※この退避フォルダ及びファイル名は、当該機能の動作対象としては変更出来ません。つまり、エクスプローラ等でこのフォルダやファイル名の変更は可能ですが、当該ボタン及び次の[退避フォルダ参照]ボタンは上記規定のフォルダ及びファイル名を対象として動作します。

※説明のとおり、外部フォルダにデータを退避しますが、データベース上は削除されますので、より万全を期し事前にデータベースの[バックアップ]を実施することをお勧めします。(「[6-6. バックアップ機能](#)」参照)

[退避フォルダ参照] ボタン (見積り修正時のみ)

[削除 (外部退避)]ボタンにより削除された際に退避されたデータの一覧を表示します。一覧から選択してデータベース内に復元することが出来ます。

[閉じる] ボタン

データ選択を中止し、元の画面に戻ります。

6-2-3. 内訳画面

[新規見積り作成]、[変更見積り作成]時の鏡画面入力後、または[見積り修正]時の既存見積り選択実行後に表示されます。

内訳項目	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	Σ 諸電
1 測量					15,019,771		
2 運保測量費					9,056,124		
3 基準点測量					2,664,540		
4 2級基準点測量 (既採なし)	平地-非池(0.00)	点	4.00	223,400	883,600	単-01	☑☑☑
5 基準点設置 地上埋設 (普通) [2級基準点]	平地-非池(0.00)	点	4.00	62,410	249,640	単-02	☑☑☑
6 3級基準点測量 (既採なし-永久標識設置あり)	平地-非池(0.00)	点	6.00	89,400	536,400	単-03	☑☑☑
7 基準点設置 コンクリート杭設置 [3級基準点]	平地-非池(0.00)	点	6.00	34,140	204,840	単-04	☑☑☑
8 4級基準点測量 (既採なし)	平地-非池(0.00)	点	19.00	25,990	779,700	単-05	☑☑☑
9 水準測量					137,530		
10 3級水準測量観測	道路外 平地-非池(-0.10)	km	2.00	42,600	85,200	単-06	☑☑☑
11 3級水準測量観測	道路外 平地-非池(0.10)	km	1.00	52,170	52,170	単-07	☑☑☑
12 現地測量					1,397,144		
13 現地測量 作業計画 (1/500)	平地-非池(0.00)	業務	1.00	27,310	27,310	単-08	☑☑☑
14 現地測量 (1/500)	平地-非池(0.00) [718.95°K+28.105]V100	式	1.00	1,369,834	1,369,834	単-09	☑☑☑
15 地形測量					3,050,600		
16 作業計画		業務	1.00	89,560	89,560	単-10	☑☑☑
17 現地踏査	平地-非池(0.00), 1000~3000台 未満/12時間(0.10)	km	2.00	79,220	158,440	単-11	☑☑☑
合計					15,019,000		
消費税					1,200,000		
総額					16,219,000		

※ 新規見積り作成時は、当初内訳行はありません。作業用の行が1行表示されているだけです。

[見積りNO]

現在作成中の見積りの見積りNOです。表示のみで変更は出来ません。

[版数]

現在作成中の見積りの版数です。表示のみで変更は出来ません。

[件名]

現在作成中の見積りの件名です。ここで修正等は出来ません。件名の修正は[鏡]画面で行います。

[内訳項目]

[内訳項目追加] (或いは直接入力)により登録された業種、費目、工種、種別といった項目が表示されます。

内訳項目にマウスカーソルを合わせ、マウスの左ボタンをダブルクリックすると、項目修正ダイアログが表示されます。項目名称に修正があれば、適宜修正を行ってください。

各分類により、表示位置及び表示色が異なります。

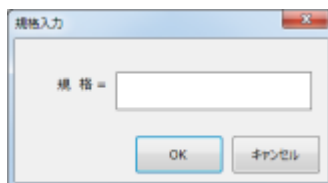
- [業種] : 青色で最左に表示されます。(測量、設計など)
 - [費目] : 茶色で業種より一段右に表示されます。(直接測量費など)
 - [工種] : 緑色で費目より一段右に表示されます。(基準点測量など)
 - [種別] : 黒色で工種より一段右に表示されます。(1級基準点測量など)
- ※ 歩掛マスタに登録済みの項目（[内訳項目追加]ボタンで選んだ項目）の場合は、項目レベル（業種・費目・工種・種別）は変更出来ません。
- ※ また、直接入力した場合（[挿入]ボタンで行挿入した場合）は初回登録時のみ項目レベルを設定出来ます。

[規格]

変化率が設定されている工種では、自動的に選択した変化率の条件が表示されます。また、電子成果品作成費、諸経費、その他原価、一般管理費等の自動計算される項目の場合はその根拠となる計算式が表示されます。

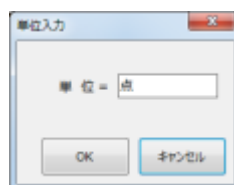
（自動表示される変化率条件や計算式の編集はできません）。

規格欄をダブルクリックすると任意の文字列を入力出来ます。変化率が設定されている工種では変化率条件の後に表示されます。規格項目にマウスカーソルを合わせ、マウスの左ボタンをダブルクリックすると、任意文字列を入力出来ます。



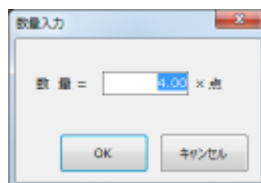
[単位]

当該種別の基準単位を表示します。内訳内容に拘らず任意に修正も可能です。単位項目にマウスカーソルを合わせ、マウスの左ボタンをダブルクリックすると、作業項目の単位が変更できます。



[数量]

当該種別に対する数量を表示します。マウスでクリックすることで数量を入力出来ます。数量項目にマウスカーソルを合わせ、マウスの左ボタンをダブルクリックすると、数量の入力ダイアログが表示されるので、必要な数量を入力します。



但し、内訳項目の項目レベルが[種別]のものと、一部（技術経費等）の特別な項目の場合のみ登録可能です。

※ 特別項目における[数量]

測量業務、地質調査業務、橋梁点検業務の[安全費]、設計と地質解析業務の[技術経費]においては、通常の数値とは異なり、それぞれの定める率（％）を登録・表示します。

それぞれ通常の登録ウィンドウと異なります。

－ [安全費] の場合－

	大市街地	市街地甲	市街地乙 都市近郊	その他
▶ 主として現道上	4.0%	3.5%	3.0%	2.5%

安全費率 = %

延長加重平均

OK キャンセル

地域地形別の安全費率の選択表が表示されますので、ウィンドウ内の安全費率を選択して [OK] を押します。（「[6-2-17. 安全費率入力画面](#)」参照）
 — [技術経費] の場合 —

種別項目	対象金額	技術経費率
道路詳細設計 (B) 予備設計なし		20.0%
(RC) 単純床版橋 (<sim>10m)		20.0%
(RC) 単純T桁橋 (5~20m)		20.0%
道路概略設計 (A)		40.0%
道路概略設計 (B)		40.0%

技術経費率 %

OK キャンセル

同業種内で現在内訳画面に登録されているものの技術経費率をリスト表示しますので適用する技術経費率の行を選択し [OK] を押します。

— [その他原価]、[一般管理費等]の場合 —

α = %

α ÷ (1 - α) = 0.5385

少数点以下桁数: (0~7)

OK キャンセル

α、又はβをパーセント指定します。また、その率を用いて算出される係数の小数点以下桁数も変更 (0~7桁) 出来ます。（既定値は4桁に設定されています）
 ※指定桁への丸めは、四捨五入です。

[単価]

単価計算された単価が表示されます。任意項目を追加した場合のみ、任意の単価を入力することが可能です。単価項目にマウスカーソルを合わせ、マウスの左ボタンをダブルクリックすると、単価の変更が行えます。

単価 = 円

OK キャンセル

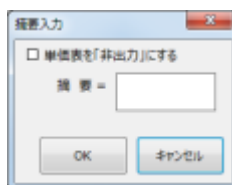
項目レベルが [種別] で歩掛マスタ登録されている行の単価欄をクリックした場合は単価表画面が表示されます。（「[6-2-5. 単価表画面](#)」参照）

[金額]

数量と単価により計算された金額が表示されます。この金額欄は手動での登録・変更は出来ません。

[摘要]

単価表が構成されている歩掛の場合は、単価表番号が自動的に付加されて表示されます。摘要欄にマウスカーソルを合わせ、ダブルクリックすると摘要の入力が行えます。また、「単価表を「非出力にする」」をチェックすると、Excel出力時にその単価表を非出力に設定することが出来ます。



※『単価表を「非出力」にする』をチェックすると、内訳書画面の備考欄に単価表番号が表示されなくなります。また、出力する単価表の単価表番号は、出力対象のみの単価表で再採番されます。

[Σ]

合計金額を算出する場合に、対象となる行の項目にチェックを入れます。

通常、[内訳項目追加]ボタンにより追加される種別項目はチェックが付いた状態で設定されます。逆に種別以外の項目（業種、費目、工種レベル）はチェックが外れた状態で設定されます。また、[挿入]ボタンにより追加された行の既定はチェックが外れた状態です。

[諸]

当該歩掛が諸経費計算の対象/非対象かを表示・設定します。チェックが付いているものは諸経費の対象となり、外れているものは非対象となります。

チェックボックスをダブルクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。

[電]

当該歩掛が電子成果品作成費または業務成果品費（補償業務の場合材料費等）の対象/非対象かを表示・設定します。

チェックボックスをダブルクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。

※港湾関係の業務成果品費もこのスイッチの対象ですが、港湾関係の業務成果品費は、元々対象となる歩掛が分かれており、それぞれの計算式で計算するようになっています。従って、このスイッチ如何に関わらず元々対象でない歩掛は計算に含めることは出来ません。

例えば、港湾関係予備設計と実施設計の歩掛を含む見積もりがあり、業務成果品費（港湾・漁港 実施設計）を計上した場合、対象となる歩掛は実施設計の歩掛のみで、内訳表の予備設計の[電]がONになっていても、業務成果品費（港湾・漁港 実施設計）の対象となる訳ではありません。予備設計分の業務成果品費を計上したい場合は、業務成果品費（港湾・漁港 予備設計、基本設計）を別途追加してやる必要があります。

※通常（港湾・漁港でない）の設計業務に対する電子成果品作成費は、港湾関係とは逆に、主たる業務の計算式で全てを計算することを想定した仕様となっており、分割した計算は出来ません。

※Ver1.2.7より港湾関係、及び通常の設計業務等全てを対象とした1つの電子成果品作成費（もしくは業務成果品費）を作成出来るようになりました。（[「6-2-11. 電子成果品作成費等（手動設定）画面」](#)参照）

[旅]

当該歩掛が旅費交通費（率計上）の対象/非対象かを表示・設定します。

チェックボックスをダブルクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。

[安]

当該歩掛が安全費の対象/非対象かを表示・設定します。

チェックボックスをダブルクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。

※[Σ][諸][電][旅][安]の各チェックはダブルクリックで切り替わります。シングルクリックでは切り替わりませんのでご注意ください。

※[電][旅][安]列は、作成中の見積書内訳に該当する計算項目（電子成果品作成、旅費交通費（率計上）、安全費）が設定されていなければ表示されません。また、複合業務において業種単位で該当項目の有無が異なる場合は無い業種の該当チェックボックスは表示されません。（例えば測量業務に安全費があり、設計業務は安全費がないケース）は、設計業務の[安]列のチェックボックスは表示されません。）

[内訳項目追加] ボタン

歩掛マスタに登録されている歩掛を選択登録するためのウィンドウを開きます。

（[「6-2-4. 内訳項目追加画面」](#)参照）

[別見積複写] ボタン

既に登録済みの別見積りから内訳データを丸ごと複写するために既存見積り選択画面を開きます。（[「6-2-2. 既存見積り選択画面」](#)参照）

※複数回追加で複写可能です。但し、重複した業種を読み込んだ場合の制御はしておりません（正しく読み込めません）ので、注意してください。

[前版再読込] ボタン

編集中的見積書が2版以降の場合のみ表示されます。現在表示されている前回情報を実際の前版データから読み直して再表示します。

<「前版再読込」ボタン使用例>

「前版再読込」ボタンは、通常では使用する必要の無い機能ですが、以下のような場面を想定したものです。

例) 変更見積作成で2版を作成し、前版表示で初版状態も表示したいが、初版の一部内容（数量や金額）を修正したいケース（変更前の内容を変更したいケース）

この場合、変更見積を作成した後では、前版の内容は修正出来ません。変更内容が軽微な場合は、変更見積を一旦削除し、前版状態に戻してから修正し、変更見積を再度作成し直せばいいのですが、変更箇所が多くやり直しが躊躇われる場合、以下の手順で対応可能です。

1) 変更見積を作成中の場合は一旦保存します。

2) 「外部入出力」-「見積書データ書き出し」で変更見積の2版を外部出力しておきます。

3) 「見積り修正」を選択し、「既存見積り選択」画面で該当の2版の見積りを選択し「削除」ボタンを押します。

※削除を実際に行う前に2版の外部出力が正しく行われていることを確認してください。

※2版を削除すると表示が1版に戻ります。

4) 「見積り修正」から1版の状態に戻った見積書を開き、目的の訂正作業を行い保存します。

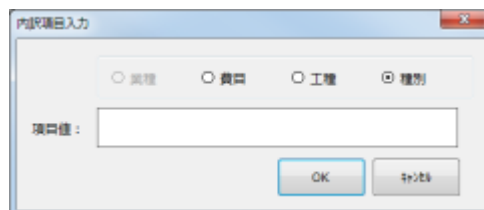
5) 「外部入出力」-「見積書データ読み込み」で先に外部出力しておいた2版の見積りデータを読み込みます。（該当見積りが2版に戻ります）

6) 「見積り編集」から2版になった見積りを開き、内訳画面を確認すると、前

回情報は修正前の表示になっているので、ここで「前版再読込」ボタンを押します。
これで前版情報を修正出来ました。

【行挿入】ボタン

リストで選択されている行の前に行を挿入し、任意の内訳項目を入力出来ます。
ボタンを押すと行が挿入され、以下のような[内訳項目]を設定する画面が表示されます。



- ※ 歩掛マスタに登録されていない注釈文字列や任意積上げ項目が追加出来ます。
- ※ この[挿入]ボタンで追加した場合は、「単価表」は作成されません。逆に任意の単価を内訳表の単価欄に設定出来ます。
- ※ Σ欄のチェックは、挿入時はチェックが外れた状態です。金額の計算に含める場合はチェックを付けてください。
(内訳項目、その他の項目の登録については、それぞれの説明箇所を参照してください。)

【行削除】ボタン

リストで選択されている行を削除します。確認ウィンドウが開きますので、[OK]もしくは[キャンセル]ボタンを押します。

【行複写】ボタン

リストで選択されている行を選択行の次の行に複写します。複数行を複写する場合は確認ウィンドウが開きますので、[OK]もしくは[キャンセル]ボタンを押します。

- ※ 単一行の複写の場合、確認ウィンドウは表示されず即座に複写されます。
- ※ 業種レベル、及び費目レベルの行は複写出来ません。

【▲上移動】 【▼下移動】ボタン

リストで選択されている行を上、または下に移動します。
但し、上位階層を移動する場合は、その下位下層の行も付属して移動します。

【一括数量入力】ボタン

選択されている複数行の数量を一括で入力します。

<複数行の選択方法>

- (1) マウスをクリックした状態でマウスカーソルをスライドさせる。

①はじめの行を左クリック

②左クリックをしたまま下にスライド

(2) SHIFTキーを押しながら終点ををクリックする。

①はじめの行を左クリック

②SHIFTキーを押しながら最終行を左クリック

(3) CTRLキーを押しながら行を連続クリックする。(間を飛ばして選択)

②CTRLキーを押しながら各行を左クリック

②CTRLキーを押しながら各行を左クリック

[単価年度変更] ボタン

作成中の見積りに使用されている単価を別の年度の単価に一括して変更します。

単価年度一括変更指定

当件見積り中の単価のうち、単価マスクから引用されているもの全て又は選択分を指定される年度単価に変更します。

単価年度切り替え対象

全歩掛 選択歩掛

単価年度 = 2022

OK キャンセル

- ・ 単価年度切り替え対象
- ・ 単価年度の切り替え対象を選択します。選択歩掛に使用されている単価を対象とする場合は、当該

[単価年度変更]ボタンを押す前に内訳画面上から対象歩掛の行を選択しておく必要があります。

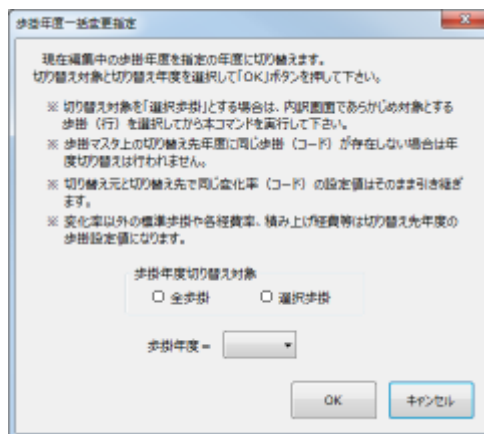
- ・ 単価年度 現在単価マスタに登録されている年度がコンボリストに表示されるので、変更したい年度を選択します。

[OK]ボタンを押すと年度変更処理を実行します。

※歩掛個別に年度を変更する場合は、単価表から個別に変更出来ます。

[歩掛年度変更] ボタン

作成中の見積りに使用されている歩掛を別の年度の同じ歩掛に一括して変更します。



- ・ 歩掛年度切り替え対象 歩掛年度の切り替え対象を選択します。選択歩掛を選択する場合は、当該[歩掛年度変更]ボタンを押す前に、内訳画面上から対象歩掛の行を選択しておく必要があります。
- ・ 歩掛年度 現在歩掛マスタに登録されている年度がコンボリストに表示されるので、変更したい年度を選択します。

[OK]ボタンを押すと年度変更処理を実行します。

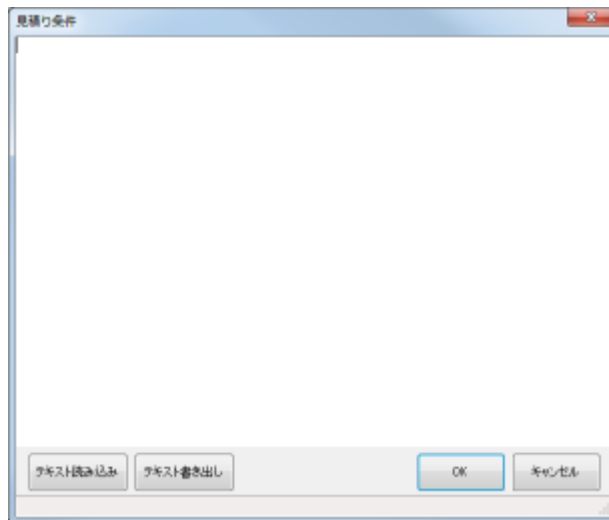
※歩掛は年度によって基準パターン形式や補正が異なるケースが想定され、単純に切り替えが出来ないケースも考えられます。画面上の留意事項を確認し、変更後のチェックを必ず行うようにしてください。

[鏡] ボタン

作成中の見積りの鏡画面を開きます。（[「6-2-1. 鏡画面」](#)参照）

[見積り条件] ボタン

見積り条件を入力するウィンドウを開きます。



見積り条件は任意の文字を入力できます。また、改行及びタブの入力も出来ます。
ここに入力した内容はそのまま、見積書の「見積条件」シートに書き出されますが、入力欄の大きさと実際のExcel様式での印刷有効範囲とは関連性がありません。
登録内容が正しく印刷されるかはExcel出力を実際に行って確認する必要があります。

[単価表] ボタン

選択されている行の種別の単価表画面を表示します。但し、項目レベルが[種別]で歩掛マスタ登録されている行でない場合は実行出来ません。
([「6-2-5. 単価表画面」](#)参照)

[変化率一覧] ボタン

現在作成中の見積内の全ての変化率を一覧表示する変化率一覧表画面を表示します。([「6-2-6. 変化率一覧画面」](#)参照)

[使用単価一覧] ボタン

現在作成中の見積内で使用されている単価を一覧表示する使用単価一覧表画面を表示します。([「6-2-8. 使用単価一覧画面」](#)参照)

[印刷/Excel] ボタン

現在の見積書を印刷もしくはExcelファイルに出力するためのExcel出力画面を表示します。([「6-2-9. Excel出力画面」](#)参照)

[外業日数一覧] ボタン

現在作成中の見積内で、測量業務を除く業務内の外業日数一覧を表示します。([「6-2-10. 外業日数一覧画面」](#)参照)

[金額構成一覧] ボタン

現在作成中の見積内で、測量業務、地質(一般)を除く業務内の金額構成一覧を表示します。([「6-2-11. 金額構成一覧画面」](#)参照)

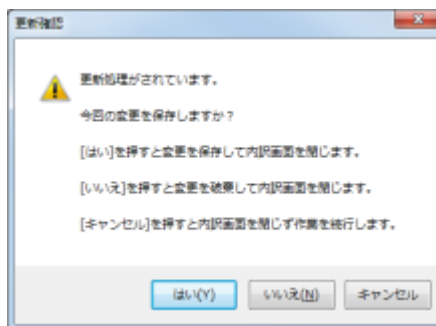
[保存] ボタン

現在開いている見積をデータベースに保存します。
このボタンを押すと、現在内容が確定され、変更前に戻すことは出来なくなります。

[閉じる] ボタン

内訳画面を閉じてメインメニューに戻ります。

但し、新規登録や修正で内訳画面やその配下の単価表画面、変化率画面等で登録・修正・作業が行われていた場合で、[保存]ボタンを押していない場合は、変更があった旨を表示し、保存するか確認してきます。



各ボタンを押した場合の動作は以下の通りとなります。

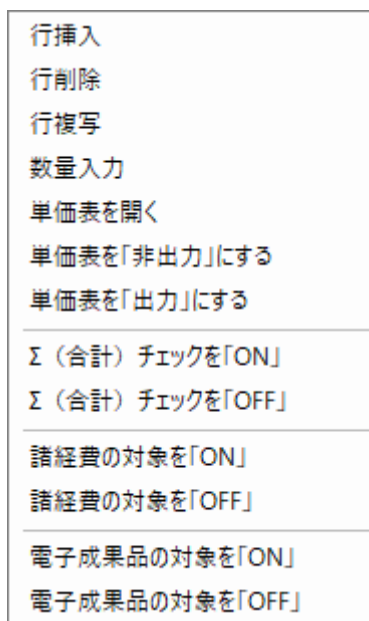
[はい]：データベースに今回の登録・変更内容を保存して、内訳画面を閉じます。

[いいえ]：前回の保存時点まで処理をキャンセルして、内訳画面を閉じます

[キャンセル]：保存処理を行わず、内訳画面に戻ります。

<右クリック機能>

内訳画面の各行でマウスの右ボタンを押すと表示されるメニューで行える機能に以下があります。内訳行を複数選択してまとめて処理を実行することが出来ます。



- ① 行挿入 : [行挿入]ボタンと同じ機能。指定行の前に行を挿入します。
※行挿入の場合は複数行選択は無視され最後に選択された行の前に行挿入されます。
- ② 行削除 : [行削除]ボタンと同じ機能。指定行を削除します。
- ③ 行複写 : 指定行の内容を全てコピーし、指定行の次に挿入します。単価表が作成されている行の場合は、その単価表の内容もコピーされます。
- ④ 数量入力 : [一括数量入力]ボタンと同じ機能。
- ⑤ 単価表を開く : [単価表]ボタンと同じ機能。複数行選択の場合は表示されません。
- ⑥ 単価表を「非出力」にする : 指定の単価表をExcel出力時に非出力に設定します。摘要欄をダブルクリックして表示される「単価表を「非出力にする」」チェックをオンに設定する機能と同じです。複数行選択して行くとまとめて設定出来ます。
- ⑦ 単価表を「出力」にする : 指定の単価表をExcel出力時に出力するように設定し

ます。摘要欄をダブルクリックして表示される「単価表を「非出力にする」」チェックをオフに設定する機能と同じです。複数行選択して行うとまとめて設定出来ます。

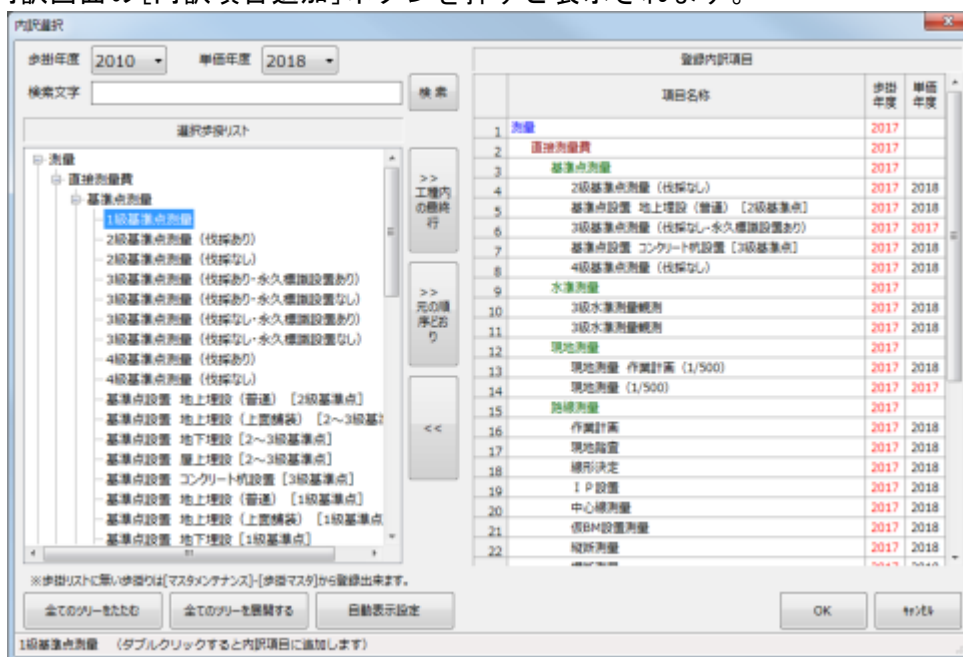
※⑥⑦はこの右クリックメニュー上でのみ指定できる機能となります。

- ⑧ Σ （合計）チェックを「ON」 : 指定行の Σ 列のチェックをONにします。[Σ]列をダブルクリックしてチェックを入れるのと同じです。
- ⑨ Σ （合計）チェックを「OFF」 : 指定行の Σ 列のチェックをOFFにします。[Σ]列をダブルクリックしてチェックを外すのと同じです。
- ⑩ 諸経費の対象を「ON」 : 指定行の「諸」列のチェックをONにします。[諸]列をダブルクリックしてチェックを入れるのと同じです。
- ⑪ 諸経費の対象を「OFF」 : 指定行の「諸」列のチェックをOFFにします。[諸]列をダブルクリックしてチェックを外すのと同じです。
- ⑫ 電子成果品の対象を「ON」 : 指定行の「電」列のチェックをONにします。[電]列をダブルクリックしてチェックを入れるのと同じです。
- ⑬ 電子成果品の対象を「OFF」 : 指定行の「電」列のチェックをOFFにします。[電]列をダブルクリックしてチェックを外すのと同じです。

※⑧～⑬のチェック列の内容については前述の各列の説明をご参照ください。

6-2-4. 内訳項目追加画面

内訳画面の[内訳項目追加]ボタンを押すと表示されます。



[歩掛年度]

現在[歩掛リスト]に表示されている歩掛情報の年度を表します。この年度を切り替えると[歩掛リスト]の内容が切り替わります。

[単価年度]

[歩掛リスト]から[内訳項目]に追加される歩掛の単価年度を表します。この年度の変更は[歩掛リスト]から[内訳項目]へ追加する前に行ってください。一旦追加された歩掛の単価年度はここでは変更出来ません。追加済みの単価年度を変更するには個別に歩掛の単価表を開いて修正する必要があります。（「[6-2-5. 単価表画面](#)」を参照。）

[検索文字] 入力欄

[歩掛リスト]の歩掛情報から検索したい任意の文字列を指定します。
([検索]ボタン説明を参照)

[選択歩掛リスト]

歩掛マスタに登録されている歩掛情報が表示されます。ツリー構造になっており、+をクリックすると配下の情報が開くようになっています。

最下層レベルの歩掛（種別）をダブルクリックすると、右側の[内訳項目]にその内容が追加されます。

※ 選択出来る行は1行ずつです。

[登録内訳項目]

現在内訳項目に追加されている歩掛が表示されています。

新規見積り作成時の最初にこの画面を開いた時は、作業用の行が1行あるだけです。逆に、既に一度項目追加して内訳画面に表示されている行は、この画面を開くとその内訳画面の行と同じ歩掛が表示されています。

[項目名称] 登録されている内訳項目名称が表示されます。

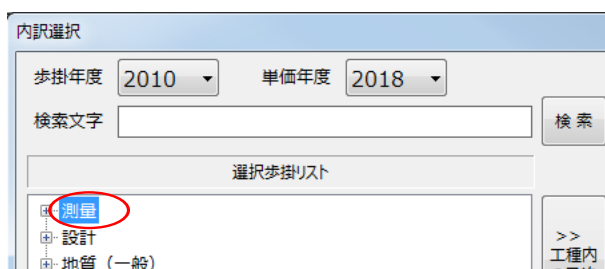
[歩掛年度][単価年度] 登録されている内訳項目の歩掛年度及び単価年度が表示されます。

※年度の赤色表示・・・画面左上の年度選択コンボと異なる年度で登録されている場合赤色で表示されます。今から選択する歩掛や単価の年度に間違いがないかの注意喚起を意味します。

【検索】ボタン

[検索文字]に設定された文字列を[歩掛リスト]から検索します。

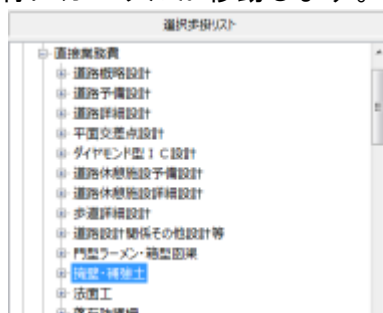
- 例) “補強”という文字列が含まれるものを検索する。
1. まず、歩掛リストの先頭にカーソルを位置付けます。



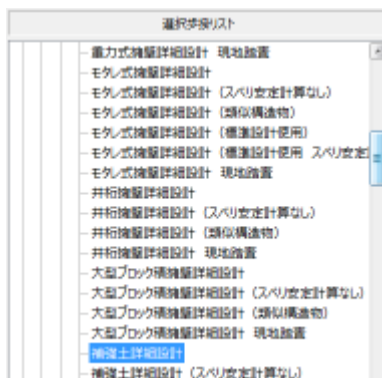
2. がテキストボックスに“補強”と入力し、[検索]ボタンを押します。



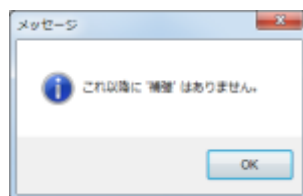
3. 最初にカーソルが位置付けられていたところから下方に検索が行われ、最初に見つかった項目行にカーソルが移動します。



4. 続けて[検索]を押す都度、次に“補強”が含まれる行に移動します。



5. 現在のカーソル位置より下方に検索文字列が無くなればその旨が表示されます。



[>>工種内の最終行] ボタン

[歩掛リスト]で選択している歩掛を[内訳項目]に追加します。同工種の末尾に追加されます。

- ※ [歩掛リスト]をダブルクリックしても同じ動作をします。
- ※ また、選択された種別の親に当たる業種、費目、工種が[内訳項目]にない場合は自動的にそれらも追加します。
- ※ 選択された歩掛に関する直接経費や間接業務費などのうち、常習的に必要になる諸経費や技術経費などを自動的に追加します。(追加される項目は[自動表示設定]ボタンで確認・設定出来ます。)

[>>元の順序どおり] ボタン

[歩掛リスト]で選択している歩掛を[内訳項目]に追加します。歩掛コードの順序に従った位置に挿入されます。

- ※ その他の動作は [>>工種内の最終行] ボタンと同じです。

[<<<] ボタン(削除)

現在[内訳項目]に登録されている歩掛のうち、選択された行を削除します。

こちらの選択は複数行を選択出来ます。マウスの左ボタンを押しながらスライドさせると連続した複数行が選択出来ます。また、不連続行を複数選択するには、CTRLキーを押しながら、それぞれの行をクリックしてください。

※注意事項

登録内容項目からの選択されている行単位での削除しか行いませんので、データに矛盾が発生しないように削除は行わないでください。

例えば画面の例で成果検定費を削除する場合、成果検定費の行のみ削除すると[技術管理費]という行は残ります。

	2018	2018		2018	2018
6	4級基準点測量 (仕様あり)			6	4級基準点測量 (仕様あり)
7	測量経費	2018		7	測量経費
8	安全費	2018		8	安全費
9	技術管理費	2018		9	技術管理費
10	成果検定費	2018	2018	10	成果検定費
11	経費測量費	2018		11	経費測量費

なので、技術管理費の行も含めて選択し削除します。

	2018	2018		2018	2018
6	4級基準点測量 (仕様あり)			6	4級基準点測量 (仕様あり)
7	測量経費	2018		7	測量経費
8	安全費	2018		8	安全費
9	技術管理費	2018		9	技術管理費
10	成果検定費	2018	2018	10	経費測量費
11	経費測量費	2018		11	測量業務価格

もちろん、それぞれ1行ずつ削除してもかまいません。

[全てのツリーをたたむ] ボタン

[歩掛リスト]の展開されている階層表示を全て閉じます。

[全てのツリー展開する] ボタン

[歩掛リスト]を全て展開した状態にします。

[自動表示設定] ボタン

「自動表示項目設定」画面を表示します。

業種	名目	設定
測量	諸経費	<input checked="" type="checkbox"/>
測量	測量文通費	<input checked="" type="checkbox"/>
測量	安全費	<input checked="" type="checkbox"/>
測量	電子成果品作成費	<input type="checkbox"/>
測量	基地関係費	<input type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (浮遊測量・水陸測量・汀域測量)	<input checked="" type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (浮遊測量・水陸測量・汀域測量) ※電子納品以外	<input checked="" type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (陸域測量)	<input checked="" type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (陸域測量) ※電子納品以外	<input type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (水質・底質調査)	<input checked="" type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (水質・底質調査) ※電子納品以外	<input type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (環境生物調査)	<input checked="" type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (環境生物調査) ※電子納品以外	<input type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (空気調査)	<input checked="" type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (空気調査)	<input checked="" type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (空気調査) ※電子納品以外	<input type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (潜水調査)	<input checked="" type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (潜水調査) ※電子納品以外	<input type="checkbox"/>
測量	業務成果品費 (底層調査等) ※電子納品以外	<input type="checkbox"/>

この画面の[設定]にチェックがあるものは、関係のある直接業務歩掛が[歩掛リスト]から[内訳項目]へ追加される際に、一緒に自動追加されます。

※リストへの新たな項目追加は出来ません。このリストにない項目を自動設定にすることは出来ません。あらかじめ決まった項目が自動表示項目候補として表示されます。

※[設定]チェックはユーザが自由に変更できます。

※[設定]チェックの変更はシステムを終了しても保持されます。

※[設定]にチェックされている項目は、その業種の項目が初めて登録内訳項目に追加される際にのみ自動挿入されます。尚、各業種の登録が初回かどうかの判定は[諸経費]或いは[その他原価]が登録されているかで行われます。したがって、[諸経費]や[その他原価]のチェックは外さないようにしてください。

6-2-5. 単価画面

内訳画面の単価欄をダブルクリックするか、[単価表]ボタンを押すと表示されます。

単価表画面にはタブがあり、大きく「人件費等」と「機械経費等・変化率」に分かれます。

<人件費等タブ画面>

①ヘッダ欄

[工種名]

内訳画面で選択した種別の属する工種名称を表示します。

※この項目はここでは修正は出来ません。

[種別名]

内訳画面で選択した種別名称を表示します。

[歩掛年度]

内訳項目追加画面で選択した歩掛年度を表示します。

※この項目はここでは修正は出来ません。

[単価年度]

内訳項目追加画面で選択した単価年度を表示します。単価年度を変更すると、表示単価が指定年度の単価に切り替わります。

[市場単価の適用区分]

鏡画面で選択した市場単価の適用区分を表示します。

※この項目はここでは修正は出来ません。

[基準数量]

内訳画面で選択した種別項目の基準数量を表示します。

※この項目はここでは修正は出来ません。

[計上数量]

内訳画面で選択した種別項目の計上数量を表示します。この数量を変更すると[計上数量単位当り単価]の額が変わります。

[単位]

内訳画面で選択した種別項目の単位を表示します。

※この項目はここでは修正は出来ません。

[単価表非出力]

チェックを付けると、現在表示している単価表をExcel出力時に非出力にします。チェックを外すと出力する設定に戻ります。

※内訳書画面の摘要欄並びに右クリックで設定された内容と同じです。

②人件費等作業明細欄

人件費タブ内は2段表示になっており、工数、及び金額は上段が実際の見積り計算に使用される数値となります。下段は参考値として標準歩掛の数値を表示しております。

入力出来るのは上段のみです。また、上段には既定値として下段と同じ数値がセットされています。下段と異なる数値を入力した場合は、表示色が変わります。

※現行バージョンでは、下段にもカーソルが移動しますが、入力は出来ません。

[選択] チェック

その行の工程の有効、無効を表します。マウスでクリックすると変更出来ます。

チェックを外すと、今回の見積りからその作業工程が除外されます。

※画面上、行はそのまま残りますが、合計列の工数、金額は消えます。

[作業工程]

作業工程名称を表示します。また、任意に修正可能です。

[内訳]

内訳の一番左の列は測量と補償業務のみ「内業」「外業」が表示されます。それ以外の業種は何も表示されません。

[技術者名・単価]

[内訳]の右側（ヘッダ部分）には技術者名と単価が表示されます。

選択	作業項目	内訳	42,200 測量主任 技師	34,800 測量技師	28,100 測量技師 補	28,000 測量助手	28,000 測量
<input checked="" type="checkbox"/>	作業計画	内業	1,500	2,500	2,000		
			1,500	2,500	2,000		
<input checked="" type="checkbox"/>	選占	外業		8,500	8,500		

囲み内をダブルクリックすると技術者・単価の変更、又は技術者名の修正等が出来ます。

↓

単価マスター

直接人件費 名称 **測量技術** 規格

年度 2018 単価 34,800 独自単価 単位 日 摘要 影響資金対象比: 55%

[独自単価]をチェックすると、単価は変更できますが、下の一覧からの選択ができなくなり、マスター単価での再計算対象から外れます。
[独自単価]のチェックを外すと、単価は変更できませんが、下の一覧からの選択ができ、マスター単価で再計算も行えます。

コード	名称	規格	単位	単価 (円)	摘要
T30010002	測量主任技師		日	42,200	影響資金対象比: 55%
T30010003	測量技師		日	34,800	影響資金対象比: 55%
T30010004	測量技師補		日	28,100	影響資金対象比: 50%
T30010005	測量助手		日	28,000	影響資金対象比: 55%
T30010019	測量補助員		日	22,700	影響資金対象比: 55%
T30010006	撮像士		日	47,000	影響資金対象比: 35%
T30010007	整備士		日	36,700	影響資金対象比: 45%
T30010008	撮影士		日	35,100	影響資金対象比: 50%
T30010009	撮影助手		日	31,100	影響資金対象比: 50%
T30010020	測量船撮像士		日	26,300	影響資金対象比: 55%
T30010010	測量技師[24時間]		日	45,566	影響資金対象比: 55%
T30010011	測量技師補[24時間]		日	36,003	影響資金対象比: 50%
T30010012	測量助手[24時間]		日	36,662	影響資金対象比: 55%
T30010021	測量補助員[24時間]		日	29,722	影響資金対象比: 55%
T30010013	測量技師[昼12時間]		日	43,771	影響資金対象比: 55%
T30010014	測量技師補[昼12時間]		日	34,685	影響資金対象比: 50%
T30010015	測量助手[昼12時間]		日	35,218	影響資金対象比: 55%
T30010022	測量補助員[昼12時間]		日	28,552	影響資金対象比: 55%

積上単価

OK キャンセル

技術者と単価を別のものに変更する場合はリストから選択して、[OK]を押してください。技術者名称を変更する場合は、上部の名称欄を修正して[OK]を押してください。マスタとは異なる単価を入力したい場合は、[独自単価]にチェックを付けてください。単価を変更できるようになりますが、一覧からの選択はできなくなります。

[各工数]

選択	作業項目	内訳	42,200 測量主任 技師	34,800 測量技師	28,100 測量技師 補	28,000 測量助手	22 測量!
<input checked="" type="checkbox"/>	作業計画	内業	1.500	2.500	2.000		
			1.500	2.500	2.000		
<input checked="" type="checkbox"/>	選占	外業		8.500	8.500		

各技術者・単価が掛かる工数を表示します。単位は日です。小数第3位まで入力出来ます。

③人件費等合計欄

人件費等明細欄の合計が表示されます。[補正]以外の項目は計算結果の表示で修正等は出来ません。

[工数]

作業工程毎の工数の合計です。
※この項目は入力出来ません。

[金額]

各工数に単価を掛けて出した金額の合計額です。
※この項目は入力出来ません。

[補正]

[金額]に掛ける補正率です。百分率で入力します。通常は100%が既定値として設定されています。

[金額×補正]

[金額]に[補正]を掛けた補正後金額です。

※この項目は入力出来ません。

<機械経費等・変化率タブ画面>

④機械経費等欄

機械経費等欄は更に[機械経費・損料]、[通信運搬費]、[材料費]、[精度管理費]、[電子計算機使用料]の5つのタブに別れており、設定されているデータはそれぞれ異なりますが、タブ内の設定項目は同じです。

[名称]

各費用名称が入ります。[単価マスター]ボタンを押すと単価マスターから選択出来ます。任意に文字を入力することも出来ます。

[規格]

任意に文字列を入力出来ます。[単価マスター]ボタンを押して単価マスターから選択した場合は、マスターに登録されている内容が設定されます。

[積上単価]

単価を入力します。[単価マスター]ボタンを押して単価マスターから選択した場合は、マスターに登録されている単価が設定されます。マスターとは異なる単価を入力したい場合は、[単価マスター]画面の[独自単価]にチェックを付けてください。単価を変更できるようになりますが、一覧からの選択はできなくなります。

※ 後述の[比率計算対象]を指定すると、この単価はクリアされます。

[積上単位]

[積上数量]に対する単位です。[単価マスター]ボタンを押して単価マスターから選択した場合は、マスターに登録されている内容が設定されます。

[積上数量]

積上げ計算する場合の[積上単価]に掛ける数量です。

[比率計算対象]

単価×数量ではなく、人件費等に一定の率を掛けて金額を計算する場合に指定します。コンボボックスから対象金額を選択します。現行バージョンでは以下が選択出来ます。

- ・ 直接人件費
- ・ 補正前直接人件費 (※電子計算機使用料時のみ)
- ・ 人件費等
- ・ 人件費等及び機械経費 (※機械経費・損料時以外のみ)
- ・ 標準歩掛
- ・ 上記 (その行より上に登録されている経費の合計)

[比率計算掛率]

[比率計算対象]で指定した対象額に掛ける率を百分率で指定します。

※少数点以下第3位四捨五入。

[金額]

[積上単価]×[積上数量]もしくは[比率計算対象]×[比率計算掛率]で計算した金額を表示します。

※この項目は入力出来ません。

[摘要]

任意の文字を入力出来ます。[単価マスター]ボタンを押し単価マスタから選択した場合は、マスタに登録されている内容が設定されます。

⑤変化率欄

現在の歩掛に掛かる変化率を表示・指定します。

[変化率式]

現在の歩掛に掛かる複数の変化率の合計式を表示・指定します。入力方法は歩掛マスタを参照してください。(「[6-3-2-2. 単価表登録画面](#)」参照)

[小数点以下桁数]

変化率の小数点以下桁数を表示します。

※ この小数点以下桁数はここでは変更出来ません。修正が必要な場合は歩掛マスタの修正で行ってください。(「[6-3-2-2. 単価表登録画面](#)」参照)

[変化率リスト]

現在の歩掛に掛かる変化率の[コード][名称][選択条件][入力値][計算式]および[変化率]が表示されます。[...]ボタンを押して、リストへの追加・削除を行います。

ダブルクリックで[変化率データ設定画面]が表示されます。変化率条件や、入力値が変更出来ます。(「[6-2-7. 変化率データ設定画面](#)」参照)

[...] ボタン

現在の[変化率リスト]に変化率を追加・削除する場合に使用します。登録方法は歩掛マスタを参照してください。(「[6-3-2-2. 単価表登録画面](#)」参照)

[コード] [+][-][*][/] [()] ボタン

ボタンを押すと変化率式に挿入します。コードは[変化率リスト]で選択されている変化率コードを指します。

[式詳細入力] ボタン

作業項目毎に変化率式を設定できます。入力方法は歩掛マスタを参照してください。（「[6-3-2-2. 単価表登録画面](#)」参照）

- ※ 業種が[設計]、[地質(解析等)]、[補償]の場合のみ入力できます。
- ※ ボタンの左側の変化率式（全作業項目共通の変化率式）が設定されている場合はこのボタンを押せません。
- ※ 作業項目毎に変化率式を設定した後、ボタンの左側の変化率式（全作業項目共通の変化率式）を設定した場合は、作業項目毎に設定した変化率式を無視します。

[変化率画面] ボタン

ボタンを押すと[変化率リスト]に表示されている変化率の[変化率データ設定画面]が表示されます。変化率条件や、入力値が変更出来ます。

変化率データ設定画面を閉じると、[変化率リスト]の内容が変更されます。

（「[6-2-7. 変化率データ設定画面](#)」参照）

⑥フッタ情報欄

[特記欄]

現在開いている歩掛に関する注意事項等が表示されます。

- ※ この項目は入力出来ません。

[直接人件費計]

人件費等タブで計算された金額のうち、人件費のみの額を表示します。

- ※ この項目は入力出来ません。

[労務費計]

人件費等タブで計算された金額のうち、労務費のみの額を表示します。

- ※ この項目は入力出来ません。

[人件費等合計]

[直接人件費計]+[労務費計]です。

- ※ この項目は入力出来ません。

[機械経費]

[機械経費]タブに登録されている金額の合計です。

- ※ この項目は入力出来ません。

[通信運搬費]

[通信運搬費]タブに登録されている金額の合計です。

- ※ この項目は入力出来ません。

[材料費]

[材料費]タブに登録されている金額の合計です。

- ※ この項目は入力出来ません。

[精度管理費]

[精度管理費]タブに登録されている金額の合計です。

※ この項目は入力出来ません。

[電子計算機使用料]

[電子計算機使用料]タブに登録されている金額の合計です。

※ この項目は入力出来ません。

[変化率]

変化率欄の変化率リストで表されている変化率を変化率合計式で計算した合計変化率です。

※ この項目は入力出来ません。

[合計金額]

※この項目は入力出来ません。

[全体補正]

[合計金額]に掛かる全体補正を指定します。既定値は100（%）が設定されています。

[合計×全体補正]

[合計金額]×[全体補正]を計算した金額を表示します。

※ この項目は入力出来ません。

[技術経費率]

歩掛単位で定められた技術経費率を表示します。

※ この項目は入力出来ません。

[計上数量単位当り単価]（それぞれの計上数量と単位により表示が異なる）

[合計×全体補正]額を[基準数量]で割って[計上数量]を掛けた額です。

最終的に内訳画面の単価に表示される額になります。

※ この項目は入力出来ません。

[行追加] ボタン

[人件費等]タブ内の工程明細表の最終行に新たな行を追加します。

※ 2行ひと組で追加されますが、標準歩掛は空白です。

[行挿入] ボタン

[人件費等][機械経費等・変化率]タブ内の工程明細表、機械経費等一覧表の指定位置に新たな行を挿入します。

※ [人件費等]タブ内の工程明細表は2行ひと組で挿入されますが、標準歩掛は空白です。

[行削除] ボタン

[人件費等][機械経費等・変化率]タブ内の工程明細表、機械経費等一覧表の指定行を削除します。

[列挿入] ボタン

[人件費等]タブ内の工程明細表の指定位置の前に新たに[技術者名・単価]列を挿

入します。

[列削除] ボタン

[人件費等]タブ内の工程明細表の指定の[技術者名・単価]列を削除します。

[上移動] ボタン

[人件費等]や[機械経費等・変化率]のタブ内の表の指定行を1行上に移動します。

[下移動] ボタン

[人件費等]や[機械経費等・変化率]のタブ内の表の指定行を1行下に移動します。

[外業日数一覧] ボタン

外業日数一覧画面を表示します。詳細は「[6-2-10. 外業日数一覧画面](#)」を参照してください。

[積上単価] ボタン

積上単価一覧画面を表示します。[人件費]タブを選択しているときに実行可能です。所定の列の単価を積上単価一覧から選択したものに変更します。

[単価マスタ] ボタン

[機械経費・損料]及び[材料費]タブを選択しているときに実行可能です。所定の行に単価マスタで選択した情報を設定します。

[電子成果品作成費又は業務成果品費等の計算対象] チェックボックス

当該歩掛が電子成果品作成費または業務成果品費（補償業務の場合材料費等）の対象/非対象かを表示・設定します。

チェックボックスをダブルクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。内訳書画面の[電]でも設定可能です。

※**港湾関係の業務成果品費もこのスイッチの対象ですが、港湾関係の業務成果品費は、元々対象となる歩掛が分かれており、それぞれの計算式で計算するようになっています。従って、このスイッチ如何に関わらず元々対象でない歩掛は計算に含めることは出来ません。**

例えば、港湾関係予備設計と実施設計の歩掛を含む見積もりがあり、業務成果品費（港湾・漁港 実施設計）を計上した場合、対象となる歩掛は実施設計の歩掛のみで、内訳書の予備設計の[電]がONになっていても、業務成果品費（港湾・漁港 実施設計）の対象となる訳ではありません。予備設計分の業務成果品費を計上したい場合は、業務成果品費（港湾・漁港 予備設計、基本設計）を別途追加してやる必要があります。

※通常（港湾・漁港でない）の設計業務に対する電子成果品作成費は、港湾関係とは逆に、主たる業務の計算式で全てを計算することを想定した仕様となっており、分割した計算は出来ません。

※Ver1.2.7より港湾関係、及び通常の設計業務等全てを対象とした1つの電子成果品作成費（もしくは業務成果品費）を作成出来るようになりました。（「[6-2-12. 電子成果品作成費等（手動設定）画面](#)」参照）

[諸経費の計算対象/その他原価・一般管理費等の計算対象] チェックボックス

当該歩掛が諸経費計算の対象/非対象かを表示・設定します。チェックが付いているものは諸経費の対象となり、外れているものは非対象となります。

チェックボックスをクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。内訳書画面の[諸]でも設定可能です。

【旅費交通費（率計上）の計算対象】チェックボックス

当該歩掛が旅費交通費（率計上）の対象/非対象かを表示・設定します。
チェックボックスをダブルクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。
内訳書画面の[旅]でも設定可能です。

【安全費の計算対象】チェックボックス

当該歩掛が安全費の対象/非対象かを表示・設定します。
チェックボックスをダブルクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。
内訳書画面の[安]でも設定可能です。

※安全費に関しては、システムのバージョン変遷の都合上、従来バージョン（2024年度歩掛まで）とは別の項目設定がされており、従来の安全費のままでは本選択機能は有効となりません。本チェックボックスを切り替えても安全費対象額が変わらない場合は、内訳画面から「安全費」項目を新しい「安全費」を選び直してみてください。

【同一作業の内外業は経費をまとめて計算】チェックボックス

当該歩掛単価の要素のうち、割合経費（機械経費、通信運搬費、材料費、精度管理費、電子計算機使用料）の計算において、同一の作業工程が内外業にわかれているものについて、内外業を合わせて一つの作業工程とみなし、合計値に対する割合で算出するか別々の作業工程として計算するかを指定します。

例) 「用地測量」－「建物の登記記録調査」（2017年度）の場合

・「同一作業の内外業は経費をまとめて計算」がチェックされていない場合

作業項目		人件費	機械経費 (1%)	材料費 (0.5%)	合計	1戸当たり 単価
建物の登記 記録調査	内業	5,370	53	26	5,449	544
	外業	5,370	53	26	5,449	544
	計	10,740	106	52	10,898	1,088

内業外業のそれぞれの人件費から機械経費、材料費を算出し、別々に合計、1戸当たりを算出したのち1戸当たりを合計する。

・「同一作業の内外業は経費をまとめて計算」がチェックされている場合

作業項目		人件費	機械経費 (1%)	材料費 (0.5%)	合計	1戸当たり 単価
建物の登記 記録調査	内業	5,370				
	外業	5,370				
	計	10,740	107	53	10,900	1,090

内業外業の人件費を合計し、その合計値から機械経費、材料費を算出し、それらを加算した値から1戸当たり単価を算出する。

- ※ システムVer1.4.4より追加された機能で2018年度歩掛より既定値はONでそれ以前はOFF状態となります。
- ※ 合計計算されるのは、作業工程名称が同じもののみで、名称が異なる場合は同スイッチがONの場合でも別々（従来どおり）に計算されます。
- ※ 同一単価表内に上記のような内外業同一作業とそれ以外の別作業が混在する場合は、同一作業名のみ合計計算され、それ以外は別々（作業工程毎）に計算されます。（例えば、現地測量の場合、細部測量が内外業にわかれているのでその部分は合計計算されます。それ以外の作業計画、数値編集、データファイル作成はそれぞれ別計算され、最後にそれらを合算します。）
- ※ また、本スイッチにより計算方法が変わっても結果が同じ場合もあります。

【有効桁数4桁丸め（作業工程毎）】チェックボックス

測量及び地質（一般）の歩掛の場合、歩掛単価を算出する過程において、各作業

工程の金額を算出した際に有効桁4桁丸めを行うか行わないかを設定します。

※測量及び地質（一般）以外の歩掛は、当該チェックボックスは表示されません。

※鏡画面で「測量、地質（一般）」の場合の歩掛単価計算時に有効桁4桁丸めを行わない」チェックボックスをONにしている場合は、本チェックボックスは表示されず、鏡での設定が有効となります。

[人件費合計から経費を算出] チェックボックス

測量及び地質（一般）の歩掛の場合、歩掛単価を算出する過程の当該歩掛単価の要素のうち、割合経費（機械経費、通信運搬費、材料費、精度管理費、電子計算機使用料）の計算において、作業工程がわかれているものについて、全ての作業工程を一つに合計し、その合計値に対する割合で算出するようになります。

※測量及び地質（一般）以外の歩掛は、当該チェックボックスは表示されません。

※本チェックをONにすると〔同一作業の内外業は経費をまとめて計算〕と〔有効桁数4桁丸め（作業工程毎）〕チェックボックスの状態は無視されます。

[最終単価有効桁数4桁丸め] コンボボックス

単価表の各要素から算出された基準数量当りの最終単価の丸め方法を指定します。
※選択肢は以下の3つです。

- ・「無し」
- ・「有効桁4桁未満切り捨て」
- ・「千円未満切り捨て」

※既定値はマスタ設定により変わります。システムが提供する歩掛に関しては弊社（アライズソリューション）が基準に沿って判断しております。

※鏡画面で「測量、地質（一般）」の場合の歩掛単価計算時に有効桁4桁丸めを行わない」チェックボックスをONにしている場合は、測量、地質（一般）業務の歩掛に限り本コンボボックスは表示されず、鏡での設定が有効となります。

※設計、地質（一般）、補償業務において「無し」以外を選択した場合は、2通りの計算方法があり、鏡画面でその選択が可能です。

但し、いずれの計算方法も何らかの基準に沿ったものではありませんのでご注意ください。（[「6-2-1. 鏡画面」の「設計、地質（解析）等の単価表で「最終単価丸め」を指定した場合の計算方法」](#)を参照）

[参考元]（Ver2.1.4～）

開いている歩掛の参考元である書籍名やそのページなどが表示されます。

※見積書（Excel様式）出力時に表示・非表示が選択できます。

※見積作成中の内容はユーザにより編集可能です。

※歩掛マスタに設定される情報となりますが、年度初めの初期段階では、情報が確定しておらず内容は暫定的な場合があります。書籍等の発刊により情報が確定した段階で更新データをご案内いたします。

[閉じる] ボタン

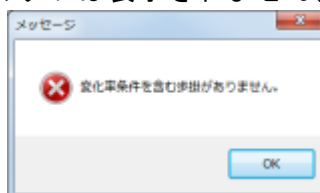
現在の開いている単価表画面を閉じて、内訳画面に戻ります。

6-2-6. 変化率一覧画面

内訳画面から[変化率一覧]ボタンを押すと表示されます。

内訳項目	変化率名称	選択条件	変化率
基準点測量			
2級基準点測量 (杖探り)	H0010001 基準点測量 泡城地形	平地-耕地	0.00
	---<< 補正率 >>---	1+H0010001	1.00
基準点設置 地上埋設 (普通) [2級基準点]	H0010001 基準点測量 泡城地形	平地-耕地	0.00
	---<< 補正率 >>---	1+H0010001	1.00
3級基準点測量 (杖探り・永久標識設置あり)	H0010001 基準点測量 泡城地形	平地-耕地	0.00
	---<< 補正率 >>---	1+H0010001	1.00
基準点設置 コンクリート杭設置 [3級基準点]	H0010001 基準点測量 泡城地形	平地-耕地	0.00
	---<< 補正率 >>---	1+H0010001	1.00
4級基準点測量 (杖探り)	H0010001 基準点測量 泡城地形	平地-耕地	0.00
	---<< 補正率 >>---	1+H0010001	1.00
水準測量			
3級水準測量観測	H0010002 水準測量 泡城地形	道路外 平地-耕地	-0.10
	---<< 補正率 >>---	1+H0010002	0.90
3級水準測量観測	H0010002 水準測量 泡城地形	道路外 平地-耕地	0.10
	---<< 補正率 >>---	1+H0010002	1.10
現地測量			
現地測量 作業計画 (1/500)	H0010102 現地測量 作業計画 (1/500)	平地-耕地	0.00
	---<< 補正率 >>---	1+H0010102	1.00
現地測量 (1/500)	H0010173 現地測量 (1/500) 泡城地形	平地-耕地	0.00

内訳画面に登録されている歩掛に含まれる全ての変化率が、業種毎のタブに分かれて表示されます。変化率がない業種のタブは表示されません。



また、内訳画面に登録されている歩掛に一切変化率が含まれない場合は上のようなメッセージを表示し、変化率一覧画面は開きません。

[内訳項目]

変化率を含む歩掛の名称（工種と種別）が表示されます。同一種別に複数の変化率条件が存在する場合は、先頭行にのみ表示されます。

[変化率名称]

[内訳項目]に含まれる変化率コードと名称が表示されます。また、種別ごとに変化率合計を表示する行を示す「---<<補正率>>---」が表示されます。

[選択条件]

当該変化率条件で、何が選択されているか（計算式の場合は変化率計算式、選択表の場合は選択条件）が表示されます。

また、合計行には、変化率合計式が表示されます。

[変化率]

計算、或いは選択された変化率が表示されます。

合計行には変化率合計式により計算されたその歩掛に掛かる最終変化率が表示されます。

但し、計算式により求めるタイプの変化率でXが指定されていない状態の変化率は表示されません。またそれを含む合計変化率も表示されません。

〔変化率の変更〕ボタン

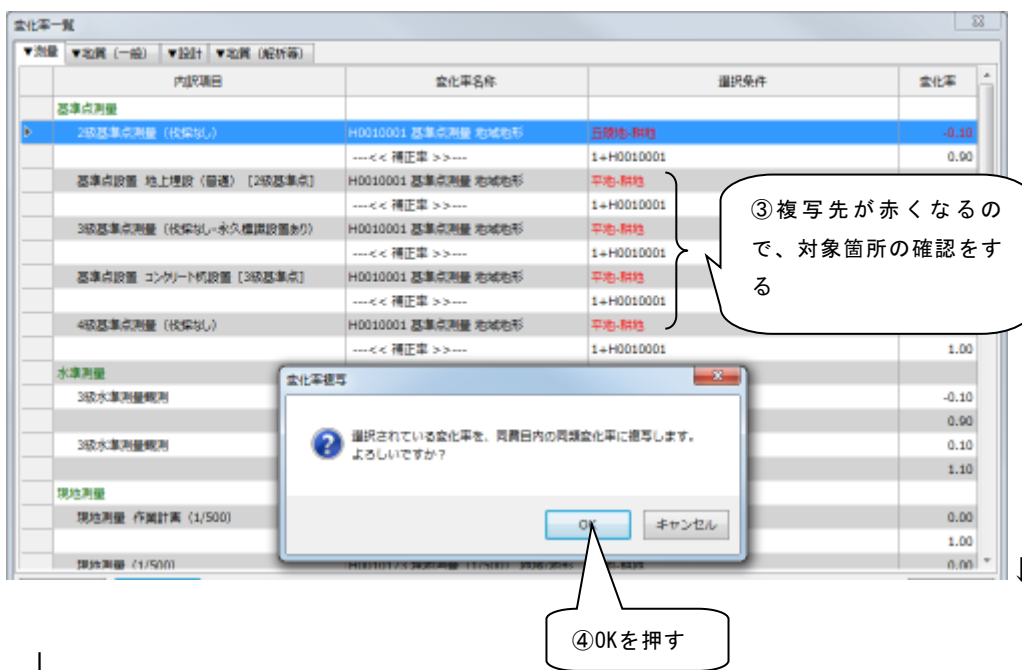
リストで選択されている変化率の条件選択または変化率計算式のX値を設定するための変化率データ設定画面を表示します。その画面で設定した変化率条件や変化率がリストに反映されます。（「6-2-7. 変化率データ設定画面」参照）

〔同費目内複写〕ボタン

選択されている行の変化率と同じ変化率（※変化率名称に表示されているコードが同じもの）が、歩掛（種別）をまたがって存在する場合、このボタンを押すとそれら同一変化率の選択条件、計算式、変化率を複写して、同じ状態にします。

複写が実行されると、複写元と複写先の変化率条件と変化率が赤字で表示されます。

例1) 選択タイプの複写



内訳項目	変化率名称	選択条件	変化率
基準点測量			
2級基準点測量 (比較地)	H0010001 基準点測量 老域地形	丘陵地-耕地	-0.10
	---<< 補正率 >>---	1+H0010001	0.00
基準点設置 地上埋設 (普通) [2級基準点]	H0010001 基準点測量 老域地形	丘陵地-耕地	-0.10
	---<< 補正率 >>---	1+H0010001	0.00
3級基準点測量 (比較地)	H0010001 基準点測量 老域地形	丘陵地-耕地	-0.10
	---<< 補正率 >>---	1+H0010001	0.00
基	H0010001 基準点測量 老域地形	丘陵地-耕地	-0.10
	---<< 補正率 >>---	1+H0010001	0.00
4級	H0010001 基準点測量 老域地形	丘陵地-耕地	-0.10
	---<< 補正率 >>---	1+H0010001	0.00
水準測量			
3級水準測量観測	H0010002 水準測量 老域地形	道路上 平地-耕地	-0.10
	---<< 補正率 >>---	1+H0010002	0.00
3級水準測量観測	H0010002 水準測量 老域地形	道路外 平地-耕地	0.10
	---<< 補正率 >>---	1+H0010002	1.10
現地測量			
現地測量 作業計画 (1/500)	H0010192 現地測量 作業計画 (1/500)	田舎-田舎	0.00
	---<< 補正率 >>---	H0010192 現地測量 作業計画 (1/500) 老域地形	1.00
現地測量 (1/500)	H0010173 現地測量 (1/500) 老域地形	平地-耕地	0.00

コピーされた行の選択条件と変化率が変わる

※変化率を表から選択するタイプの場合は変化率コードが同じものでなければ複写の対象になりませんが、計算式による計算で変化率を算出するタイプの場合に限り、変化率コードが異なっても同一費目内であればX値を複写します。(適用例 解析業務のボーリング本数など)

例) 計算タイプの複写

内訳項目	変化率名称	選択条件	変化率
土質ボーリング (深度50m以下)			
土質ボーリング66mm (軟弱地) オールコアボー	H0030001 土質ボーリング せん孔深度	50m超80m以下	1.10
	H0030002 土質ボーリング せん孔方向	水平	1.20
	---<< 補正率 >>---	H0030001*H0030002	1.32
土質ボーリング66mm (玉石混り土砂) オールコア	H0030003 土質ボーリング せん孔深度	50m超80m以下	1.10
	---<< 補正率 >>---	30001*H0030002	1.20
	---<< 補正率 >>---	30001*H0030002	1.32
岩盤ボーリング (オールコアボーリング、深度50m以下)			
岩盤ボーリング66mm (軟岩)	H0030003 岩盤ボーリング	50m以下	1.00
	H0030004 岩盤ボーリング せん孔方向	傾斜下方	1.00
	---<< 補正率 >>---	H0030003*H0030004	1.00
解析等調査業務 (直接労務費)			
資料整理とりまとめ	H0030009 解析 (資料整理とりまとめ) ボーリ	0.040*X+0.76 X=4	0.92
	---<< 補正率 >>---	H0030009	0.92
新築四等の作成	H0030010 解析 (新築四等の作成) ボーリン	0.040*X+0.76 X=未設定	
	---<< 補正率 >>---	H0030010	
弾性法調査業務			
測線設定	H0030013 弾性法調査 (解析等調査業務)	0.492*X+0.508 X=0.31	0.66
	---<< 補正率 >>---	H0030013	0.66
	---<< 補正率 >>---	0.508 X=0.31	0.66

① 複写元になる行を選択

② 同費目内複写を押す



変化率一覧

内訳項目	変化率名称		
土質ボーリング(深さ50m以下)			
土質ボーリング66mm(雑置りの土砂) オールコアボ	H0030001 土質ボーリング せん孔深さ	50m幅	
	H0030002 土質ボーリング せん孔方向	水平	
土質ボーリング66mm(玉石置りの土砂) オ			1.32
			1.10
			1.20
			1.32
土質ボーリング(オールコアボ)			1.00
土質ボーリング66			1.00
			1.00
船舳等調査費(直造方改良)			1.00
資材整理とりまとめ	H0030009 船舳(資材整理とりまとめ) ボーリ	$0.040 * X + 0.76$ X=4	0.92
	---<< 補正率 >>---	H0030009	0.92
断面回等の作成	H0030010 船舳(断面回等の作成) ボーリン	$0.040 * X + 0.76$ X=未設定	0.92
	---<< 補正率 >>---	H0030010	0.92
弾性土調査費	H0030013 弾性土調査(船舳等調査費)	$0.483 * X + 0.518$ X=0.71	0.66

③OKを押す

③複写先が赤くなるので、対象箇所の確認をする

変化率複写

選択されている変化率を、異費目内の同種変化率に複写します。よろしいですか?

OK キャンセル

↓

HUMAN 船舳のボーリング せん孔方向			1.00
---<< 補正率 >>---		H0030003*H0030004	1.00
H0030009 船舳(資材整理とりまとめ) ボーリ		$0.040 * X + 0.76$ X=4	0.92
---<< 補正率 >>---		H0030009	0.92
H0030010 船舳(断面回等の作成) ボーリン		$0.040 * X + 0.76$ X=4	0.92
---<< 補正率 >>---		H0030010	0.92
弾性土調査費			

変化率コードが異なっても複写され、Xの値が同じになる。

【閉じる】ボタン

変化率一覧画面を閉じて内訳画面に戻ります。

6-2-7. 変化率データ設定画面

変化率一覧画面の[変化率の変更]または単価表画面の[変化率画面]ボタンを押すと表示されます。

	平地	丘陵地	低山地	高山地
大市街地	0.80			
市街地甲	0.70			
市街地乙	0.50	0.80		
都市近郊	0.20	0.50		
耕地	0.00	0.20	0.50	
原野	0.10	0.30	0.70	1.00
森林		0.40	1.40	1.70

[業種リスト]

現在開いている変化率が設定されている種別が属する業種が表示されます。

[変化率リスト]

選択された歩掛（種別）に含まれる変化率のコードと名称が表示されます。

ここをクリックして選択することで、右側の各項目（変化率表や計算式等）が切り替わります。

[計算式]

[変化率リスト]で選択されている変化率が計算式によって求められるタイプの場合、ここにその計算式が表示されます。

※ ここで計算式自体を変更することは出来ません。

（式自体を変更する場合→「[6-3-3. 変化率マスタ](#)」参照）

[X=]

[変化率リスト]で選択されている変化率が計算式によって求められるタイプの場合、[計算式]内のXに対する値を設定します。

[変化率表]

[変化率リスト]で選択されている変化率が条件選択により求めるタイプの場合、その条件と変化率が表形式で表示されます。

表内の変化率が表示されているセルをダブルクリックすると、そのセルがピンクにかわり、その率が選択されていることを示します。

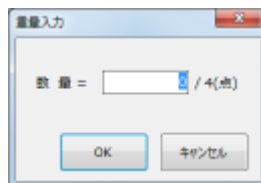
※ ここでは変化率選択表自体を変更することは出来ません。

（変化率選択表自体を変更する場合→「[6-3-3. 変化率マスタ](#)」参照）

[重量計算] チェックボックス

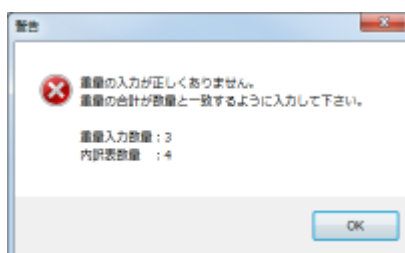
[変化率リスト]で選択されている変化率が条件選択により求めるタイプの場合で、変化率を複数選択し重量按分する場合にチェックします。

重量計算にチェックを付けると、現在選択されているセルがリセットされますので、再度該当するセルをダブルクリックすると以下のような重量入力画面が表示されます。

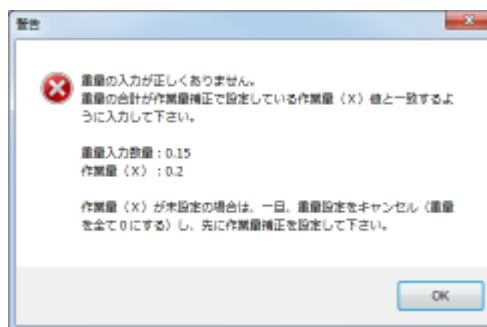


ここで数量に該当する条件の重量を入力し[OK]を押します。

- ※ 重量計算する場合、選択出来るのは10個までです。
- ※ 重量のトータルが、内訳画面で入力した数量と一致する必要があります。従って、内訳画面で数量未設定の場合は、重量計算入力出来ません。



- ※ 現地測量（旧平板測量）の地域補正での重量平均に限り、重量トータルは作業量補正値を求める際の面積値（X）と一致する必要があります。従って、現地測量の場合は、先に作業量補正を設定してから、地域補正値を設定してください。
また、その場合の各重量値の小数点以下桁数は、作業量補正で設定した面積値（X）の小数点以下桁数と同じに丸められます。



[小数点以下桁数]

現在表示されている変化率の小数点以下桁数を示します。ここを変更することで当該変化率の小数点以下桁数を変更出来ます。

（既定の変化率桁数を変更する場合→「[6-3-3. 変化率マスタ](#)」参照）

[備考]

この変化率に関する特記事項等が表示されます。ここでこの内容を変更することは出来ません。

（備考を変更する場合→「[6-3-3. 変化率マスタ](#)」参照）

6-2-8. 使用単価一覧画面

内訳画面から[使用単価一覧]ボタンを押すと表示されます。

コード	年度	名称	単価 (円)
T.J0010002	2017	測量主任技師	41,400
T.J0010003	2017	測量技師	38,300
T.J0010004	2017	測量技師補	26,800
T.J0010005	2017	測量助手	26,800
T.J0010019	2017	測量補助員	21,800
0K000001	2017	ラベリング費	24,000

内訳画面に登録されている歩掛に含まれる全ての単価が一覧表示されます。

[コード]

単価コードを表示します。

[年度]

使用単価の年度です。同じ単価でも年度が異なる場合は別々に表示されます。

[名称]

使用単価の名称です。

[単価 (円)]

使用単価の単価を円単位で表示します。市場単価の場合は適用区分によって計算された単価が表示されます。

[変更] ボタン

選択している使用単価を単価マスタから選択し直すか、独自単価として設定し直すことができます。（一覧表の各行をダブルクリックでも同様に変更できます）

6-2-9. EXCEL出力画面

内訳画面から[印刷/Excel]ボタンを押すと表示されます。



Excel出力

印刷するものにチェックを入れてOKを押して下さい。

見積日付: 2018年 1月18日 敬称: 殿 見積りNO表示

宛名パターン

- パターン1: [1行] 機関名+敬称
- パターン2: [1行] 機関名+部署名+敬称
- パターン3: [1行] 機関名+部署名+氏名+敬称
- パターン4: [2行] 機関名+部署名+改行+氏名+敬称
- パターン5: [2行] 機関名+改行+部署名+敬称
- パターン6: [2行] 機関名+改行+部署名+氏名+敬称

国土交通省中国地方整備局国営備北丘陵公園事務所
用地課 殿

出力選択

鏡 見積り条件

総括表 総括表 (前回あり) 総括表に歩掛年度表示

数量表

内訳表 内訳表 (前回あり)

内訳表[直人別表示] 内訳表[直人別表示] (前回あり)

[Σ]OFF行を内訳書に出力しない 改め計との差額を諸経費 (または一般管理費等) で調整

単価表 単価表 (2段表示)

単価表の工数表示: 補正後の工数を表示

※設計、地質 (解析)、補償、及び現地測量の単価表にのみ有効

参考元情報を表示する 市場単価を従来の単価表様式で出力

変化率一覧表 外業日数一覧

設計、解析、補償業務に限り出力可能な一覧表

金額構成一覧 機械経費一覧 通信運搬費一覧

材料費一覧 電子計算機使用料一覧

PDF出力表示 印刷 Excel表示 閉じる

出力する様式の種類や表示する日付や宛名表示形式 (鏡様式内) を指定出来ます。

[見積りNO表示] チェック

見積NOを各用紙に表示するかを選択します。チェックを外すと見積NOは表示されません。(既定はチェックされています。)

[見積日付]

見積書の鏡に印刷する日付を設定出来ます。(鏡画面で設定された日付と同じ)

[敬称]

見積書の鏡に印刷する見積先に対する敬称表現を選択出来ます。

[宛名パターン]

見積書の鏡に印刷する見積先の書式を選択出来ます。リストからパターンを選択すると、リストの下側に実際にExcelに出力される宛名が表示されます。

※文字フォントはExcelの設定により変わります。ここではあくまで文字の並びを表すものです。

[歩掛年度表示]

見積書の総括表、内訳書、単価表に、見積作成にあたり使用した歩掛マスタの年度を表示するかしないかを選択します。(規定はチェックされていません。)

[出力選択] 各チェック

出力したい様式名にチェックを入れます。

(各印刷様式については「[7. 帳票説明](#)」参照)

- ・ [[Σ]OFF行を内訳書に出力しない]

内訳書の[Σ]欄のチェックをOFFにしている行をExcelに出力しない場合はこのチェックをONにします。このチェックを有効にしていない場合は、[Σ]をOFFにしている場合でも、対象の行はExcelに金額が空白で出力されます。

- ・ [改め計との差額を諸経費（または一般管理費等）で調整]
内訳画面で「改め計」を設定している場合でこのチェックを付けると、Excelに出力される内訳書では「改め計」を表示せず、「業務価格」と「改め計」との差額を「諸経費」または「一般管理費等」から差し引きし「業務価格」を調整表示します。このチェックを外すと、内訳画面と同じように「改め計」を表示する形式になります。
※内訳画面に「改め計」が含まれていない場合は、このチェックを付けても調整表示はされません。
- ・ [単価表の工数表示]コンボボックス
「補正前の工数を表示」・・・各員個別の工数並びに各工数計を、変化率を掛ける前の値で表示（印刷）します。
「補正後の工数を表示」・・・各員個別の工数並びに各工数計を、変化率を掛けた後の値で表示（印刷）します。
「工数計のみ補正後を表示」・・・各員個別の工数は補正前の値、各工数計は補正後（単価表画面と同じ形式）の値で表示（印刷）します。（既定値で、旧バージョンでの表示と同じになります。）
※ 尚、この工数表示の切り替えが有効なのは設計、地質（解析）、補償の業務歩掛に限りです。測量、地質（一般）の変化率は工数に掛かりません（一部を除く）計算方法については「概説書」をご確認ください。
- ・ [市場単価を従来の単価表様式で出力]
システムVer1.4.8より、市場単価と一部歩掛において単価表の様式を変更したことに伴い、それらを従来の単価表様式で出力したい場合にチェックします。
- ・ [金額構成一覧及び個別経費目の一覧]
設計、地質（解析）、補償業務に限り出力可能です。測量、地質（一般）は選択出来ません。

[印刷] ボタン

出力選択で選択された様式が直接プリンタに印刷されます。

「環境設定」において[Excel出力と同時にPDFにも書き出す]チェックボックスにチェックを入れている場合はPDF形式ファイルも書き出されます。

[Excel表示] ボタン

出力選択で選択された様式をExcelファイルに書き出し、そのExcelファイルを開いて表示します。

「環境設定」において[Excel出力と同時にPDFにも書き出す]チェックボックスにチェックを入れている場合はPDF形式ファイルも書き出されます。

[PDF出力表示] ボタン

出力選択で選択された様式をPDFファイルに書き出し、そのPDFを開いて表示します。「環境設定」の[Excel出力と同時にPDFにも書き出す]チェックボックスに関係なくPDF形式ファイルを書き出します。（※Excelファイルも便宜上作成されます）

【閉じる】ボタン

Excel出力を中止して内訳画面に戻ります。

※PDF出力機能に関しては、お使いのPC環境又はExcelのバージョン等によっては動作しない場合がございます。ご了承ください。

6-2-10. 外業日数一覧画面

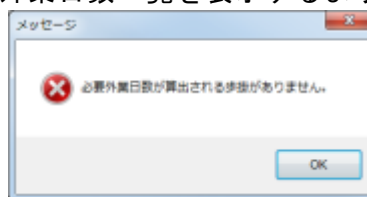
内訳画面から[外業日数一覧]ボタンを押すと表示されます。

内訳項目	日当り作業量	単位当り必要外業日数	計上数量	外業日数
測量				62.924
基準点測量				18.964
2級基準点測量 (枕形なし)		1.350	4.00	5.400
基準点設置 地上埋設 (管溝) [2級基準点]		0.600	4.00	2.400
3級基準点測量 (枕形なし-永久標識設置あり)		0.575	6.00	3.450
基準点設置 コンクリート杭設置 [3級基準点]		0.500	6.00	3.000
4級基準点測量 (枕形なし)		0.157	30.00	4.714
水準測量				0.812
3級水準測量観測		0.252	2.00	0.504
3級水準測量観測		0.308	1.00	0.308
現地測量				16.168
現地測量 (1/500)		16.168	1.00	16.168
図録測量				23.980
現地踏査		1.100	2.00	2.200
I P設置		0.880	2.00	1.760
中心線測量		2.970	2.00	5.940
切目設置測量		0.880	2.00	1.760

合計日数	測量	地質 (一般)	設計	地質 (設計)	計
	62.924	106.451	4.756	9.030	183.161 日

内訳画面に登録されている歩掛に含まれる全ての外業日数が、業種毎のタブに分かれて表示されます。外業がない業種のタブは表示されません。

※Ver1.2.7より測量業も外業日数一覧を表示するようになりました。



また、内訳画面に登録されている歩掛に一切外業が含まれない場合は上のようなメッセージを表示し、外業日数一覧画面は開きません。

[内訳項目]

外業日数を含む歩掛の名称 (工種と種別) が表示されます。

[日当り作業量]

項目が地質調査市場単価の場合で、国土交通省・地質調査積算基準に対応したのも※はその項目の日当り作業量が表示されます。それ以外は「日当り作業量」欄には何も表示されません。

(※①機械ボーリング②サンプリング③サウンディング及び原位置試験④現場内小運搬⑤足場仮設⑥その他間接調査費)

[単位当り必要外業日数]

当該歩掛の単位当りの必要外業日数を表示します。歩掛表で外業登録をされている作業工程の最大日数を表示します。

[計上数量]

内訳書内で指定した数量が表示されます。

[外業日数]

- ・ 日当り作業量の場合

$$\text{外業日数} = \text{計上数量} \div \text{日当り作業量}$$

- ・ 単位当り必要外業日数の場合

$$\text{外業日数} = \text{単位当り必要外業日数} \times \text{計上数量}$$

※「打合せ協議」の場合、上記計算式をそのまま適用しないケースがあるため、注意喚起の意味で赤字表示されます。（外業日数はあくまで上記式で計算された値になっています。）

[土質ボーリング～サウンディング及び原位置試験は補正を考慮しない]

地質（一般）の場合に限り表示されます。（システムバージョンVer2.0.8以降）

チェックを入れると表記の通り外業日数算出において補正（例えばボーリングであれば深度補正やせん孔方向補正）を考慮しない状態となります。チェックを外すと補正されます。既定値はシステムVer2.0.8以降に作成するものはONでそれ以前に作成されているものを開いた場合はOFFとなります。

外業日数一覧					
▼地質（一般）		▼地質（解析等）			
	内訳項目	日当り作業量	単位当り必要外業日数	計上数量	外業日数
<input checked="" type="checkbox"/>	土質ボーリング～サウンディング及び原位置試験は補正を考慮しない				
▶	直接調査				100.600
	土質ボーリング（深度50m以下）				10.588
	土質ボーリング66mm（礫混じり土砂）オールコアボーリング	3.4		20.00	5.882
	土質ボーリング66mm（玉石混じり土砂）オールコアボーリング	1.7		8.00	4.706

※スイッチの対象となる歩掛は以下の工種配下のものに限ります。

0030100010 土質ボーリング（深度50m以下）

～

0030100040 サウンディング及び原位置試験

6-2-11. 金額構成一覧画面

内訳画面から[金額構成一覧]ボタンを押すと表示されます。

内訳項目	金額合計	人件費	労務費	機械経費・損料	通信運搬費	材料費	精度管理費	調整額	その他経費
直接測量費	3,215,725	2,737,554	0	125,874	28,713	60,226	189,609	-251	74,000
基準点測量	849,000	721,200	0	21,570	21,570	17,970	66,810	-120	0
4級基準点測量（杖探なし）	849,000	721,200	0	21,570	21,570	17,970	66,810	-120	
現地測量	1,674,745	1,469,974	0	92,916	7,143	28,588	76,119	5	0
作業計画（業務）	40,428	40,428	0	0	0	0	0	0	0
現地測量（1/500）	1,634,317	1,429,546	0	92,916	7,143	28,588	76,119	5	
路線測量	617,980	546,380	0	11,388	0	13,668	46,680	-136	0
作業計画	90,780	90,780	0	0	0	0	0	0	0
横断測量	527,200	455,600	0	11,388	0	13,668	46,680	-136	
直接経費	74,000	0	0	0	0	0	0	0	74,000
電子成果品作成費	74,000	0	0	0	0	0	0	0	74,000

内訳画面に登録されている直接原価（直接業務費）配下の歩掛に関する金額構成一覧が業種毎のタブに分かれて表示されます。

また、内訳画面に金額構成一覧を表示出来る歩掛が一切無い場合は上のようなメッセージを表示し、金額構成一覧画面は表示されません。



【内訳項目】

該当歩掛の名称（工種と種別）が表示されます。

【金額合計】

当該歩掛の金額（内訳書の金額欄と同じ）が表示されます。

【人件費】～【電子計算機使用料】

該当歩掛の金額の内訳額がそれぞれ表示されます。

【調整額】

測量及び地質（一般）業種の場合、計算工程及び有効桁4桁丸めなどを行う事により「金額合計」≠「人件費～精度管理費の合計」となるケースが発生します。その誤差金額が表示されます。

※測量及び地質（一般）の歩掛単価は、通常人件費も含めた各経費を合算した後に補正率を掛けその後単位数量に除算して求めます。したがって、各経費単位で補正後の単位数量当たりの最終的な単価は正式には求めておりません。従いまして、測量、地質（一般）においてここに上がっている各経費額に関しては参考額としてください。但し、人件費に関しては電子成果品作成費や旅費の計算の対象額として使用される金額となります。

[その他経費]

該当歩掛が直接経費配下の場合（電子成果品作成費やライトバン運転費など）の経費が表示されます。

6-2-12. 電子成果品作成費等（手動設定）画面

内訳項目追加で「電子成果品作成費等（手動設定）」を内訳項目に追加している場合、画面で単価欄をダブルクリックすると表示されます。

【業種】 【費目】 【工程】

選択されている電子成果品作成費等（手動設定）の上位分類が表示されます。

【種別】

選択されている電子成果品作成費等（手動設定）の種別名が表示されます。ここで名称を変更することが出来ます。適切な名称に変更してください。

【計算式パターン】

選択されている電子成果品作成費等（手動設定）で行う計算方法をこのコンボボックスから選択することが出来ます。▼を押してコンボボックスを展開すると各基準書に基づいた計算式パターンと概略名称が表示されます。

適用したいものを選択してクリックします。

※この計算パターンはあくまで次で説明の「計算式」を設定するためのサンプルパターンを選択するものです。最終的にはこの設定が計算に使用されるわけではありません。

【計算式】

選択されている電子成果品作成費等（手動設定）で実際に計算される計算式です。

計算式パターンを選択して「▼計算式セット」ボタンを押すと対応した計算式が設定されます。式中には J01、J02等の記号が含まれますが、式設定と同時に右下に凡例が表示されます。また、式中での丸めや条件判定のため I F や F I X 等

の文字列も含まれる場合がありますがこれらは変化率式の設定で説明されているものと同様です。詳しくはそちらをご参照ください。（「[6-3-3. 変化率マスタ](#)」の「計算式」を参照）

[下限値]

この値を設定すると、計算式で計算された結果がこの値を下回る場合、最終的な最終的な単価（内訳書に表示される単価）をここで設定した値にします。下限値が不要な場合は0もしくは何も設定しないでください。

計算式パターンを選択して設定した場合は、既定の下限値が設定されます。

[上限値]

この値を設定すると、計算式で計算された結果がこの値を上回る場合、最終的な最終的な単価（内訳書に表示される単価）をここで設定した値にします。上限値が不要な場合は0もしくは何も設定しないでください。

※上限値を0に設定しても上限値は0にはなりません。

計算式パターンを選択して設定した場合は、既定の上限値が設定されます。

[丸め]

計算式で計算された結果を最終的に丸める方法を設定します。設定出来る丸め方法は以下の通りです。

- ・指定位以下切り捨て・・・・・・・・指定した位（整数の位）以下を切り捨てます。
- ・上位有効桁数以下切り捨て・・・・指定した数の上位桁以下を切り捨てます。
- ・1円未満四捨五入・・・・・・・・小数第1位を四捨五入します。

計算式パターンを選択して設定した場合は、既定の丸めが設定されます。

[単位]

選択されている電子成果品作成費等（手動設定）の単位を表示・設定します。

計算式パターンをから設定した場合、既定の単位が設定されます。

通常の歩掛と同様に内訳画面でも設定可能です。

[数量]

選択されている電子成果品作成費等（手動設定）の単位を表示・設定します。

計算式パターンをから設定した場合、既定値として1が設定されます。必要に応じて修正してください。

通常の歩掛と同様に内訳画面でも設定可能です。

[計算式を規格欄に表示]

ここにチェックを入れると、上記計算式に実際の人件費等を当てはめた式が内訳書画面の規格欄に表示されます。

6-2-13. 宿泊旅費画面

内訳項目追加で「宿泊旅費」を内訳項目に追加している場合、画面で単価欄をダブルクリックすると表示されます。

※2025年度に宿泊を伴う旅費に関する改訂があり、それ以前と画面が若干異なります。
 <2024年度以前>

宿泊旅費設定

項目名称

年度 2025 所在地 甲地方 乙地方

片道の移動日数 0.5 消費税率 10%

■片道の交通費 (1人当り)

交通手段	交通費	税抜額
鉄道料金	3000	2,727

交通費 (税抜) 2,727 円

※注意
 税抜額を直接入力することは出来ません。税抜で設定する場合は消費税率を0に設定して下さい。
 交通費としてクレジット/運転費等を計上する場合は、一人当たり片道に換算した額を入力して下さい。

▼全外業日数集計 ▼選択作業集計

■旅費計算表 基準日額を計算しない 休日補正を計算しない 日当 半日当

職種	編成人員	外業所要日数	休日補正日数	基準日額	移動日数	日当	日数	交通費	普通旅費	宿泊料【30日未満】	日数	宿泊料【30日～59日】	日数	宿泊料【60日以上】	日数	合計		
測量技師	1	9.9	2	52,300	1	1,000	2	5,454	8,909	8,354	11					160,557		
測量技師補	1	7.9	2	41,100	1	772	2	5,454	7,090	6,736	9					115,812		
測量技師補	3	1.6		41,100	1	772	2	5,454	7,090	6,736	1					185,772		
測量助手	2	1.6		34,900	1	772	2	5,454	7,090	6,736	1					111,448		
測量助手	1	1.8		34,900	1	772	2	5,454	7,090	6,736	1					55,724		
測量補助員	3	1.4		28,700	1	772	2	5,454	7,090	6,736	1					148,572		
				基準日額計				436,200				基準日額を除く計				384,473	合計	820,673

最終単価丸め 無し OK キャンセル

<2025年度以降>

宿泊旅費設定

項目名称

年度 2025 所在地 甲地方 乙地方

片道の移動日数 0.5 消費税率 10%

■片道の交通費 (1人当り)

交通手段	交通費	税抜額
鉄道料金	3,000	2,727

交通費 (税抜) 2,727 円

※注意
 税抜額を直接入力することは出来ません。税抜で設定する場合は消費税率を0に設定して下さい。
 交通費としてクレジット/運転費等を計上する場合は、一人当たり片道に換算した額を入力して下さい。

▼全外業日数集計 ▼選択作業集計

■旅費計算表 基準日額を計算しない 休日補正を計算しない 日当 半日当

職種	編成人員	外業所要日数	休日補正日数	基準日額	移動日数	交通費	普通旅費	宿泊費【広島県】	日数	宿泊手当	日数	合計	
測量技師	1	9.9	2	52,300	1	5,454		11,818	12	2,181	12	225,742	
測量技師補	1	7.9	2	41,100	1	5,454		11,818	10	2,181	10	186,544	
測量技師補	3	1.6		41,100	1	5,454		11,818	2	2,181	2	223,656	
測量助手	2	1.6		34,900	1	5,454		11,818	2	2,181	2	136,704	
測量助手	1	1.8		34,900	1	5,454		11,818	2	2,181	2	68,352	
測量補助員	3	1.4		28,700	1	5,454		11,818	2	2,181	2	186,456	
				基準日額計		436,200		基準日額を除く計		639,407		合計	1,075,607

最終単価丸め 無し OK キャンセル

[項目名称]

既定で「宿泊旅費」が設定されています。名称を変更したい場合は、修正することが出来ます。内訳画面の「内訳項目」として表示される内容です。

[年度]

宿泊旅費を計算する上で、日額単価や日当、宿泊料を決定する年度を指定します。既定は「内訳項目追加」で宿泊旅費を選択した時の単価年度です。

[滞在地] (2024年度以前)

宿泊料を決定する際の甲乙地方を選択します。既定は「乙地方」になっています。

[片道の移動日数]

往復旅行日の日当計算に使用します。既定は「0.5」になっています。

[消費税率]

往復運賃に含まれる消費税の税率を指定します。既定は鏡で指定されている税率が設定されています。

※交通費を税抜で指定する場合は0を設定してください。

[■片道の交通費 (1人当り)]

	交通手段	交通費	税抜額
▶	普通運賃	3,750	3,472
	特急料金	2,730	2,527
*			
※注意			交通費(税抜) 5,999 円

- ・交通手段・・・運賃の種類を文字で入力します。
 - ・交通費・・・1人当たりの運賃を税込で入力します。
 - ・税抜額・・・交通費から自動計算されます。ここに入力出来ません。
- ※交通費を税抜で指定したい場合は消費税率に0を設定してください。交通費＝税抜額になります。
- ※この指定はあくまで片道料金で1人当たりの金額です。ライトバン運転費等をここに指定する場合は、相当額を入力するようにしてください。
- ※入力可能行数は最大14行までです。

[作業工程毎外業日数一覧]

該当業種内の外業日数を歩掛作業項目毎技術者毎に一覧表示します。
 ※ここで表示する外業日数はあくまで参考値として表示しているにすぎません。
 実際の日数は次項[■旅費計算表]で設定します。その前段階として歩掛情報から値を表示しているにすぎません。

作業項目	計上数量	日当作業量	<延>測量主任技師	<延>測量技師	<延>測量技師補	<延>測量助手	<延>操縦士	<延>整備士	<延>撮影士	<延>撮影助手
基準点測量										
1級基準点測量	10									
選点				6,000	7,000					
観測				6,000	9,000	3,000				
2級基準点測量<伐採あり>	10									
選点				8,500	8,500					
伐採				2,000	2,000					
観測				5,000	12,000					

- ・作業項目・・・歩掛項目名が表示されます。
- ・計上数量・・・内訳画面で登録している数量が表示されます。
- ・日当作業量・・・市場単価の場合で日当り作業量が設定されている場合に表示されます。

- ・ 技術者<延> それぞれの技術者毎の工数（計上数量の掛った値）が作業項目毎に表示されます。
※市場単価によるものは、計上数量と日当作業量から計算されたものが工数として換算表示されます。また、「設計業務等標準積算基準書」に示されている編成人員が掛った値になっています。
- ・ 技術者（編） 作業項目毎の既定の編成人員が表示されます。
※編成人員は休日補正を計算する際に影響します。詳しくは「設計業務等標準積算基準（参考資料）第2章 1-3-5 宿泊を伴う外業所要日数の休日補正の算定」をご参照ください。
※市場単価によるもので「設計業務等標準積算基準書」に編成人員が指定されているものは、ここでの編成人員は全て1.0となっております。

【旅費計算表】

宿泊旅費として計上する金額を技術者毎に指定、計算します。

<2024年度以前>

職種	編成人員	外業所要日数	休日補正日数	基準日額	移動日数	日当	日数	交通費	普通旅費	宿泊料【30日未満】	日数	宿泊料【30日～59日】	日数	宿泊料【60日以上】	日数	合計	
測量主任技師	1	6	2	42,200	1	1,047	2		9,338	8,752	7					114,891	
測量技師	1	15.8	4	34,800	1	1,047	2		9,338	8,752	19					212,515	
測量技師補	1	22.1	8	28,100	1	809	2		7,428	7,057	29	6,952	1			248,151	
測量助手	1	19.1	6	28,000	1	809	2		7,428	7,057	25					213,471	
測量補助員	1	10.6	2	22,700	1	809	2		7,428	7,057	12					116,430	
基準日額計								155,800	円	基準日額を除く計		749,658	円	合計		905,458	円

<2025年度以降>

職種	編成人員	外業所要日数	休日補正日数	基準日額	移動日数	交通費	宿泊費【広島県】	日数	宿泊手当	日数	合計			
測量技師	1	9.9	2	52,300	1	5,454	11,818	12	2,181	12	225,742			
測量技師補	1	7.9	2	41,100	1	5,454	11,818	10	2,181	10	186,544			
測量技師補	3	1.6		41,100	1	5,454	11,818	2	2,181	2	223,656			
測量助手	2	1.6		34,900	1	5,454	11,818	2	2,181	2	136,704			
測量助手	1	1.8		34,900	1	5,454	11,818	2	2,181	2	68,352			
測量補助員	3	1.4		28,700	1	5,454	11,818	2	2,181	2	186,456			
基準日額計						436,200	円	基準日額を除く計		639,407	円	合計	1,075,607	円

- ・ 職種 技術者を選択します。該当する業種の技術者が選択出来ます。
※同一職種でも編成人員が異なる場合は別行に登録可能です。

職種	編成人員	外業所要日数	休日補正日数
測量技師	1	3	
測量技師	2	1.5	
測量技師補	1	3.5	
測量技師補	3	1.5	

- ・ 編成人員 編成人員を入力します。編成人員を0、もしくは未設定の場合はその技術者の合計金額が計算されません。値は整数値となります。（小数点以下を入力すると四捨五入されます。）
- ・ 外業所要日数 技術者毎の外業所要日数を指定します。
（外業所要日数＝外業日数<延>÷編成人員）
- ・ 休日補正日数 外業所要日数から所定の補正式により計算されます。
詳しくは「設計業務等標準積算基準（参考資料）第2章 1-3-5 宿泊を伴う外業所要日数の休日補正の算定」をご参照ください。

- ・ 基準日額 選択された技術者の指定年度の日額単価を表示します。ここで直接基準日額を入力することは出来ません。
※コンボボックスから技術者を選択し別項目にカーソルが位置づけられた時に金額が変更されます。
- ・ 移動日数 「片道移動日数」で指定した値の2倍値が移動日数として表示されます。ここで直接移動日数を指定することは出来ません。
- ・ 日当 (2024年度以前)
 - ・ 選択された技術者の指定年度の日当 (既定は半日分、切り替え可) を表示します。ここで直接日当を入力することは出来ません。
- ・ 日数 (2024年度以前)
 - ・ 日当を計算する日数が表示されます。(片道移動日数の小数部切り上げをした日数×2が設定されます。)
- ・ 交通費 「片道の交通費 (1人当り)」で設定された金額×2が表示されます。全ての技術者に同額が設定されます。
- ・ 普通旅費 (2024年度以前)
 - ・ 選択された技術者の指定年度の普通旅費が設定されます。ここで金額を変更することは出来ません。
- ・ 宿泊料【30日未満】、【30～59日】、【60日以上】 (2024年度以前)
 - ・ 技術者毎の滞在日額旅費を表示します。滞在期間が満たない部分の金額は表示されません。
- ・ 日数 (左から30日未満、30～59日、60日以上) (2024年度以前)
 - ・ 上記宿泊料に掛る日数を表示します。
- ・ 宿泊費【〇〇県】 (2025年度以降)
 - ・ 労務単価県で指定された県の1日当り滞在宿泊費を表示します。
※国家公務員等の旅費支給規程 (別表第二 宿泊費基準額)
- ・ 日数 (2025年度以降)
 - ・ 上記宿泊費に掛る日数を表示します。
- ・ 宿泊手当 (2025年度以降)
 - ・ 1日当りの宿泊手当を表示します。※国家公務員等の旅費支給規程 (別表第三 宿泊手当)
- ・ 日数 (2025年度以降)
 - ・ 上記宿泊手当に掛る日数を表示します。
- ・ 合計 技術者毎の合計金額を表示します。
※合計額は人数が掛った額です。
- ・ 基準日額計 計算された金額のうち、基準日額分の合計額を表示します。
※設計関係の場合の直接人件費分になる額です。
- ・ 基準日額を除く計 計算された金額のうち、基準日額分を除く額の計を表示します。
- ・ 合計 宿泊旅費の合計金額です。

[土質ボーリング～サウンディング及び原位置試験は補正を考慮しない]チェックボックス

地質 (一般) の土質ボーリング～サウンディング及び原位置試験がある場合に限り表示されます。(システムバージョンVer2.0.8以降) チェックを入れると表記の通り外業日数算出において補正 (例えばボーリングであれば深度補正やせん孔方向補正) を考慮しない状態となります。チェックを外すと補正されます。既定値はシステムVer2.0.8以降に作成するものはONでそれ以前に作成されているものを開いた場合はOFFとなります。

※このスイッチは外業日数一覧画面の同様のスイッチと連動しており、片方でチェックボックスを切り替えると、もう片方の状態も同様に切り替わります。
※但し、以下の「宿泊旅費に関する注意事項」のとおり、旅費計算表自体は自動では再計算されません。

[▼全外業日数集計] ボタン

[作業工程毎外業日数一覧] で表示されている外業日数を全て集計し「旅費計算表」に技術者、外業日数等を設定します。

※既に「旅費計算表」側に値が設定されている場合は、同一技術者の値は上書きされます。

[▽選択作業集計] ボタン

[作業工程毎外業日数一覧] で選択されている行の作業に限定して外業日数を集計し「旅費計算表」に技術者、外業日数等を設定します。

[基準日額を計算しない] チェックボックス

既定はOFF。チェックを付けると「旅費計算表」で基準日額を計上しなくなります。

[休日補正を計算しない] チェックボックス

既定はOFF。チェックを付けると「旅費計算表」で休日補正をしなくなります。

[日当] コンボボックス (2024年度以前)

既定は半日日当。「旅費計算表」で計算する日当の種類を次から選択出来ます。

- ・半日日当 (既定値)
- ・1日日当
- ・日当なし

[▲] [▼] ボタン

「旅費計算表」の選択行を上下に移動します。

[行追加] ボタン

「旅費計算表」に行を追加します。作成可能行数は15行です。

[行削除] ボタン

「旅費計算表」の選択行を削除します。

※宿泊旅費に関する注意事項

- ・宿泊旅費は、歩掛工数や数量が変更され外業日数に変更になっても、自動的に再計算されません。その都度宿泊旅費画面を開き、外業日数等の変更を手動で行う必要があります。
- ・外業日数計算の補助機能として[▼全外業日数集計]ボタンあるいは[▽選択作業集計]ボタンがありますが、作業工程の順序や流れは一切考慮されておりません。最終的な外業日数はユーザ様の判断で決定してください。

6-2-14. ライトバン運転費画面

内訳項目追加で「ライトバン運転費」を内訳項目に追加している場合、画面で単価欄をダブルクリックすると表示されます。

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ガソリン	レギュラー	リットル	5.2	121.0	629	
ライトバン運転費 (1500cc: 運転時当たり)	9座	時	2	169	338	国土交通省中国地方...
ライトバン運転費 (1500cc: 供用日当たり)	国土交通省中国地方...	日	1	879	879	国土交通省中国地方...
					0	

[種別名]

内訳書に表示されるライトバン運転費の名称を設定します。

[歩掛年度]

内訳項目追加画面で選択した歩掛年度を表示します。

※ この項目はここでは修正は出来ません。

[単価年度]

ライトバン運転費を構成するガソリン単価やライトバン損料単価の単価年度を表示します。コンボボックスから切り替え可能な年度を選択し単価を切り替えます。

[基準数量]

ライトバン運転費の基準数量です。

[計上数量]

ライトバン運転費の計上数量です。

[単位]

ライトバン運転費の単位を表示します。

[明細表]

- ・ 名称 ライトバン運転費を構成する明細の名称です。手入力により編集可能です。単価マスタから選択した場合は選択した単価名称が表示されます。
- ・ 規格 ライトバン運転費を構成する明細の名称です。手入力により編集可能です。単価マスタから選択した場合はその単価の規格内容が表示されます。
- ・ [...] このボタンを押すことで、構成単価を単価マスタから選択することが出来ます。このボタンから単価マスタの単価を選択することで、名称、規格、単位、単価が設定されます。
- ・ 単位 ライトバン運転費を構成する明細の単位です。手入力により編集可能です。単価マスタから選択した場合はその単価

の単位が表示されます。

- ・数量・・・・・・・・ライトバン運転費を構成する明細の数量です。手入力により設定します。ガソリン、及び軽油（トラック運転費の場合）は運転時間と時間当たり燃費により自動計算されます。
- ・単価・・・・・・・・ライトバン運転費を構成する明細の単価です。単価マスタから選択するか、手入力により設定します。
※一旦、[...] ボタンを押し単価マスタから選択した場合、単価欄がグレー反転し手入力による直接入力には出来なくなります。マスタ選択した行を直接入力に切り替えたい場合は、[...] ボタンを押し単価選択画面を開き、画面上部の「独自単価」のチェックをONにして単価を入力するか、明細行を「行削除」ボタンにより一旦削除し、改めて単価を手入力により設定してください。
- ・金額・・・・・・・・数量×単価を表示します。直接金額欄を指定することは出来ません。
- ・摘要・・・・・・・・ライトバン運転費を構成する明細の摘要です。必要の都度手入力により設定します。

[時間当たり燃費]

ライトバン運転費の燃料を算出する際に使用されます。この値を設定した上で運転時間を設定すると燃料の数量を自動計算し設定します。

※但し、この燃費による燃料数量自動計算が有効となるのは明細に設定されている燃料及び損料が単価マスタより選択された所定のものである必要があります。これらを独自に設定する場合は自動計算されませんのでご注意ください。

[合計金額]

明細に設定された要素の金額の合計を表示します。

[1 単位当たり]

[合計金額]額を[基準数量]で割って[計上数量]を掛けた額です。
最終的に内訳画面の単価に表示される額になります。

[▲] ボタン

明細行を選択した上で押すと、その行が1行上に移動します。

[▼] ボタン

明細行を選択した上で押すと、その行が1行下に移動します。

[行削除] ボタン

明細行を選択した上で押すと、その行が削除されます。

[電子成果品作成費又は業務成果品費等の計算対象] チェックボックス

ライトバン運転費を電子成果品作成費の対象/非対象かを表示・設定します。
チェックボックスをクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。
内訳書画面の[電]でも設定可能です。

※ライトバン運転費画面における本スイッチの表示は、測量業の場合のみ表示設定可能となります。それ以外の業種では本スイッチは表示されません。（電子成果品作成費の計算対象が測量港湾以外は直接人件費であるため、ライトバン運転費を対象とすることはないため）

〔諸経費の計算対象/その他原価・一般管理費等の計算対象〕チェックボックス

当該歩掛が諸経費計算の対象/非対象かを表示・設定します。チェックが付いているものは諸経費の対象となり、外れているものは非対象となります。

チェックボックスをクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。
内訳書画面の〔諸〕でも設定可能です。

〔最終単価丸め〕コンボボックス

単位当り単価を選択した方法で丸めて最終的な単価とします。

- ・無し（丸めを行わない）
- ・有効桁4桁未満切捨て
- ・千円未満切捨て

※鏡画面で「測量、地質（一般）の場合の歩掛単価計算時に有効桁4桁丸めを行わない」チェックボックスをONにしている場合は、測量、地質（一般）の本コンボボックスは表示されず、鏡での設定が有効となります。

＜ライトバン運転費画面で表示されるもの（システムコード）＞

- ・測量・・・・・・・・・・ 00101090000011ライトバン運転費
00101090000013ライトバン運転費（安全費対象）
- ・設計・・・・・・・・・・ 01201090000020ライトバン運転費
- ・地質（一般）・・・・ 00302000100010ライトバン運転費
00302000100020トラック運転費 2 t
00302000100030トラック運転費 3 t
00302000100040トラック運転費 4 t
- ・地質（解析）・・・・ 01401090000020ライトバン運転費
- ・補償・・・・・・・・・・ 01501090000030ライトバン運転費

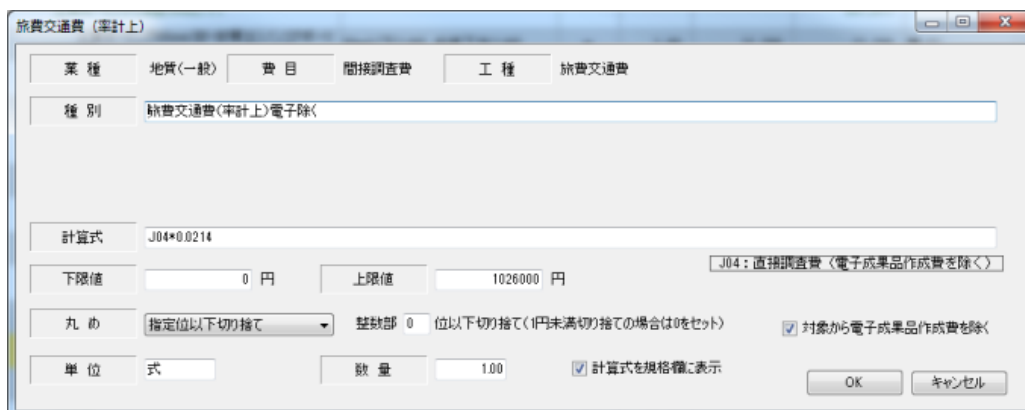
＜ライトバン運転費画面で表示されるもの（独自コードを作成する場合）＞

- ・測量・・・・・・・・・・ 00101090001011ライトバン運転費
00101090001013ライトバン運転費（安全費対象）
- ・設計・・・・・・・・・・ 01201090001020ライトバン運転費
- ・地質（一般）・・・・ 00302000101010ライトバン運転費
00302000101020トラック運転費 2 t
00302000101030トラック運転費 3 t
00302000101040トラック運転費 4 t
- ・地質（解析）・・・・ 01401090001020ライトバン運転費
- ・補償・・・・・・・・・・ 01501090001030ライトバン運転費

※つまり、ライトバン運転費画面で表示したい独自歩掛を作成する場合は、システムコードのライトバン運転費と同じコードを指定してください。（独自コード作成時は下4桁目が自動的に1になる）

6-2-15. 旅費交通費（率計上）画面

内訳項目追加で「旅費交通費（率計上）」を内訳項目に追加している場合、画面で単価欄をダブルクリックすると表示されます。



【業種】 【費目】 【工種】

選択されている旅費交通費（率計上）の上位分類が表示されます。

【種別】

選択されている旅費交通費（率計上）の種別名が表示されます。ここで名称を変更することが出来ます。適切な名称に変更してください。

【計算式】

旅費交通費（率計上）で計算される計算式です。

式中にはJ02、J04等の記号が含まれますが、右下に凡例が表示されます。また、式中での丸めや条件判定のためIFやFIX等の文字列も含まれる場合がありますがこれらは変化率式の設定で説明されているものと同様です。詳しくはそちらをご参照ください。（[「6-3-3. 変化率マスタ」](#)の「計算式」を参照）

【下限値】

この値を設定すると、計算式で計算された結果がこの値を下回る場合、最終的な最終的な単価（内訳書に表示される単価）をここで設定した値にします。下限値が不要な場合は0もしくは何も設定しないでください。

計算式パターンを選択して設定した場合は、既定の下限値が設定されます。

【上限値】

この値を設定すると、計算式で計算された結果がこの値を上回る場合、最終的な最終的な単価（内訳書に表示される単価）をここで設定した値にします。上限値が不要な場合は0もしくは何も設定しないでください。

※上限値を0に設定しても上限値は0にはなりません。

計算式パターンを選択して設定した場合は、既定の上限値が設定されます。

【丸め】

計算式で計算された結果を最終的に丸める方法を設定します。設定出来る丸め方法は以下の通りです。

- ・指定位以下切り捨て・・・・・・・・指定位（整数の位）以下を切り捨てます。
- ・上位有効桁数以下切り捨て・・・・指定位の数の上位桁以下を切り捨てます。
- ・1円未満四捨五入・・・・・・・・小数第1位を四捨五入します。

計算式パターンを選択して設定した場合は、既定の丸めが設定されます。

[単位]

選択されている旅費交通費（率計上）の単位を表示・設定します。
既定の単位として「式」が設定されます。
通常の歩掛と同様に内訳画面でも設定可能です。

[数量]

選択されている旅費交通費（率計上）の数量を表示・設定します。
既定値として1が設定されます。必要に応じて修正してください。
通常の歩掛と同様に内訳画面でも設定可能です。

[計算式を規格欄に表示]

ここにチェックを入れると、上記計算式に実際の人件費等を当てはめた式が内訳書画面の規格欄に表示されます。

[対象から電子成果品作成費を除く]

地質（一般）業務の旅費交通費（率計上）を選択した場合のみ表示されます。
文字通りこのスイッチは、率計算の対象となる直接調査費から電子成果品作成費を除くか含めるかを切り替えます。既定値はチェックした状態（除く）です。

※ちなみに、地質（一般）業務以外の業種に関しては率計算の対象が直接人件費となっており、自動的に電子成果品作成費は含まれないため、当該スイッチはありません。

6-2-16. 日当・宿泊料（率計上）画面

内訳項目追加で「日当・宿泊料（率計上）」を内訳項目に追加している場合、内訳表画面で単価欄をダブルクリックすると表示されます。

※2025年度に宿泊を伴う旅費に関する改訂があり、それ以前と画面が若干異なります。

<2024年度以前>

作業項目	計上数量	日当の作業量	<延> 測量主任技師	<延> 測量技師	<延> 測量技師補	<延> 測量助手	<延> 測量補助員	<延> 操縦士	<延> 整備士	<延> 撮影士	<延> 撮影助手	<延> 測量船操縦士	(補) 測量主任技師	(補) 測量技師	(補) 測量技師補	(補) 測量助手
基準点測量																
2級基準点測量（枝採なし）	4			3,400	3,400											
選点							4,200								1.0	1.0
観測				2,000	4,800										1.0	3.0
3級基準点測量（枝採なし・永久...	6															
測点				1,000	1,000	1,500									1.0	1.0

■外業日数計算表

職種	構成人員	外業所要日数	休日補正日数	基準日数	移動日数
測量技師	1	9.9		52,300	1
測量技師補	1	7.9		41,100	1
測量技師補	3	1.6		41,100	1
測量助手	2	1.6		34,900	1
測量助手	1	1.8		34,900	1
測量補助員	3	1.4		28,700	1
測量補助員	1	0.1		28,700	1

年度 2025

片道の移動日数 0.5

休日補正を計算しない

基準日数を計算しない

電子成果品作成費又は業務成果品費等の計算対象

雑経費の計算対象

日当・宿泊料 7.3 × 37 = 270,100 円

基準日数計 436,200 円

合計 706,300 円

<2025年度以降>

作業項目	計上数量	日当の作業量	<延> 測量主任技師	<延> 測量技師	<延> 測量技師補	<延> 測量助手	<延> 測量補助員	<延> 操縦士	<延> 整備士	<延> 撮影士	<延> 撮影助手	<延> 測量船操縦士	(補) 測量主任技師	(補) 測量技師	(補) 測量技師補	(補) 測量助手
基準点測量																
2級基準点測量（枝採なし）	4			3,400	3,400											
選点							4,200								1.0	1.0
観測				2,000	4,800										1.0	3.0
3級基準点測量（枝採なし・永久...	6															
測点				1,000	1,000	1,500									1.0	1.0

■外業日数計算表

職種	構成人員	外業所要日数	休日補正日数	基準日数	移動日数
測量技師	1	9.9		52,300	1
測量技師補	1	7.9		41,100	1
測量技師補	3	1.6		41,100	1
測量助手	2	1.6		34,900	1
測量助手	1	1.8		34,900	1
測量補助員	3	1.4		28,700	1
測量補助員	1	0.1		28,700	1

年度 2025

片道の移動日数 0.5

休日補正を計算しない

基準日数を計算しない

電子成果品作成費又は業務成果品費等の計算対象

雑経費の計算対象

※税抜き

・宿泊費 11,818 円

・宿泊手当 2,181 円

・(宿泊費+宿泊手当) 13,999 円 × 37 = 517,963 円

基準日数計 436,200 円

合計 954,163 円

[項目名称]

既定で「日当・宿泊料（率計上）XX業務」が設定されています。名称を変更したい場合は、修正することが出来ます。内訳画面の「内訳項目」として表示される内容です。（XXには測量、設計、地質（一般）等が入ります）

[作業工程毎外業日数一覧]

該当業種内の外業日数を歩掛作業項目毎技術者毎に一覧表示します。

※ここで表示する外業日数はあくまで参考値として表示しているにすぎません。

実際の日数は次項[■外業日数計算表]で設定します。その前段階として歩掛情報から値を表示しているにすぎません。

■作業工程毎外業日数一覧 土質ボーリング・サンディング及び原位貫試験は補正を考慮しない Exce

作業項目	計上数量	日当作業量	<延>測量主任技師	<延>測量技師	<延>測量技師補	<延>測量助手	<延>操縦士	<延>整備士	<延>撮影士	<延>撮影助手
基準点測量										
1級基準点測量	10									
運点				6,000	7,000					
観測				6,000	9,000	3,000				
2級基準点測量<伐採あり>	10									
運点				8,500	8,500					
伐採				2,000	2,000					
観測				5,000	12,000					

- ・作業項目・・・歩掛項目名が表示されます。
- ・計上数量・・・内訳画面で登録している数量が表示されます。
- ・日当作業量・・・市場単価の場合で日当り作業量が設定されている場合に表示されます。
- ・技術者<延>・・・それぞれの技術者毎の工数（計上数量の掛った値）が作業項目毎に表示されます。
 ※市場単価によるものは、計上数量と日当り作業量から計算されたものが工数として換算表示されます。また、「設計業務等標準積算基準書」に示されている編成人員が掛った値になっています。
- ・技術者（編）・・・作業項目毎の既定の編成人員が表示されます。
 ※編成人員は休日補正を計算する際に影響します。詳しくは「設計業務等標準積算基準（参考資料）第2章 1-3-5 宿泊を伴う外業所要日数の休日補正の算定」をご参照ください。
 ※市場単価によるもので「設計業務等標準積算基準書」に編成人員が指定されているものは、ここでの編成人員は全て1.0となっております。

[■外業日数計算表]

宿泊旅費として計上する金額を技術者毎に指定、計算します。

■外業日数計算表

	職種	編成人員	外業所要日数	休日補正日数	基準日額	移動日数
▶	測量技師	1	15.4	4	40,000	1
	測量技師	2	1.5		40,000	1
	測量技師補	1	15.9	4	29,700	1
	測量技師補	3	3.5		29,700	1
	測量助手	1	3		29,500	1
	測量助手	2	1.4		29,500	1
	測量補助員	1	1.4		23,400	1

- ・職種・・・技術者を選択します。該当する業種の技術者が選択出来ます。
 ※同一職種でも編成人員が異なる場合は別行に登録可能です。
- ・編成人員・・・編成人員を入力します。編成人員を0、もしくは未設定の場合はその技術者の外業日数及び基準日額は計算されません。値は整数値となります。（小数点以下を入力すると四捨五入されます。）
- ・外業所要日数・・・技術者毎の外業所要日数を指定します。
 （外業所要日数＝外業日数<延>÷編成人員）
- ・休日補正日数・・・外業所要日数から所定の補正式により計算されます。
 詳しくは「設計業務等標準積算基準（参考資料）第2章 1-3-5 宿泊を伴う外業所要日数の休日補正の算定」をご参照ください。

- ・ 基準日額 選択された技術者の指定年度の日額単価を表示します。ここで直接基準日額を入力することは出来ません。
※コンボボックスから技術者を選択し別項目にカーソルが位置づけられた時に金額が変更されます。
- ・ 移動日数 「片道移動日数」で指定した値の2倍値が移動日数として表示されます。ここで直接移動日数を指定することは出来ません。

[土質ボーリング～サウンディング及び原位置試験は補正を考慮しない]チェックボックス

地質（一般）の土質ボーリング～サウンディング及び原位置試験がある場合に限り表示されます。（システムバージョンVer2.0.8以降）チェックを入れると表記の通り外業日数算出において補正（例えばボーリングであれば深度補正やせん孔方向補正）を考慮しない状態となります。チェックを外すと補正されます。既定値はシステムVer2.0.8以降に作成するものはONでそれ以前に作成されているものを開いた場合はOFFとなります。

※このスイッチは外業日数一覧画面の同様のスイッチと連動しており、片方でチェックボックスを切り替えると、もう片方の状態も同様に切り替わります。

※但し、以下の「日当・宿泊料に関する注意事項」のとおり、日当・宿泊料自体は自動では再計算されません。

[▼全外業日数集計] ボタン

〔作業工程毎外業日数一覧〕で表示されている外業日数を全て集計し「外業日数計算表」に技術者、外業日数等を設定します。

※既に「外業日数計算表」側に値が設定されている場合は、同一技術者の値は上書きされます。

[▽選択作業集計] ボタン

〔作業工程毎外業日数一覧〕で選択されている行の作業に限定して外業日数を集計し「外業日数計算表」に技術者、外業日数等を設定します。

[▲] [▼] ボタン

「外業日数計算表」の選択行を上下に移動します。

[行追加] ボタン

「外業日数計算表」に行を追加します。作成可能行数は15行です。

[行削除] ボタン

「外業日数計算表」の選択行を削除します。

[年度]

往復旅行時間に掛かる人件費を求める際の基準日額人件費の年度を指定します。

[片道の移動日数]

往復旅行日数の基となります。既定は「0.5」になっています。

[休日補正を計算しない] チェックボックス

既定はOFF。チェックを付けると「外業日数計算表」で休日補正をしなくなります。

[基準日額を計算しない] チェックボックス

既定はOFF。チェックを付けると「外業日数計算表」で基準日額を計上しなくなります。

[電子成果品作成費又は業務成果品費等の計算対象] チェックボックス

当該日当・宿泊料を電子成果品作成費の対象/非対象かを表示・設定します。チェックボックスをクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。内訳書画面の[電]でも設定可能です。

※本スイッチの表示は、地質（一般）の場合は非表示となります。（電子成果品作成費の計算対象が直接調査費のため）

[諸経費の計算対象/その他原価・一般管理費等の計算対象] チェックボックス

当該歩掛が諸経費計算の対象/非対象かを表示・設定します。チェックが付いているものは諸経費の対象となり、外れているものは非対象となります。

チェックボックスをクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。

内訳書画面の[諸]でも設定可能です。

[最終単価丸め] コンボボックス

単位当り単価を選択した方法で丸めて最終的な単価とします。

- ・無し（丸めを行わない）
- ・有効桁4桁未満切捨て
- ・千円未満切捨て

※鏡画面で「測量、地質（一般）の場合の歩掛単価計算時に有効桁4桁丸めを行わない」チェックボックスをONにしている場合は、測量、地質（一般）の本コンボボックスは表示されず、鏡での設定が有効となります。

[宿泊費]（2025年度以降）

宿泊費を設定・表示します。右の「<規定値読み込み」ボタンを押すと、鏡で設定されている労務単価県の宿泊費を設定します。（単価マスタに登録されている県別の宿泊費）※国家公務員等の旅費支給規程（別表第二 宿泊費基準額）手入力編集可能です。

[宿泊手当]（2025年度以降）

宿泊手当を設定・表示します。右の「<規定値読み込み」ボタンを押すと、単価マスタから宿泊費を設定します。※国家公務員等の旅費支給規程（別表第三 宿泊手当）手入力編集可能です。

[宿泊費+宿泊手当]（2025年度以降）

宿泊費と宿泊手当を合算した金額に延べ日数を掛けた金額を表示します。

※ここに表示されている延べ日数を直接変更することはできません。この値を修正したい場合は外業日数計算表の編成人員、外業所要日数を修正してください。

[日当・宿泊料]（2024年度以前）

当該業種の係数×延べ日数を計算し計算した金額を表示します。

※ここに表示されている延べ日数を直接変更することはできません。この値を修正したい場合は外業日数計算表の編成人員、外業所要日数を修正してください。

[基準日額計]

外業日数計算表に表示されている基準日額×移動日数により計算されます。

※[基準日額を計算しない]チェックボックスをチェックした場合は0になります。

[合計]

日当・宿泊料＋基準日額計の額が表示されます。最終単価丸めを指定した場合は丸めごの値になります。

※日当・宿泊料に関する注意事項

- ・日当・宿泊料は、歩掛工数や数量が変更され外業日数が変更になっても、自動的に再計算されません。その都度日当・宿泊料（率計上）画面を開き、外業日数等の変更を手動で行う必要があります。
- ・外業日数計算の補助機能として[▼全外業日数集計]ボタンあるいは[▽選択作業集計]ボタンがありますが、作業工程の順序や流れは一切考慮されておりません。最終的な外業日数はユーザ様の判断で決定してください。

6-2-17. 安全費率入力画面

内訳項目追加で「安全費」を内訳項目に追加している場合、内訳表画面で数量欄（安全費の場合率を設定する欄）をダブルクリックすると表示されます。

	大市街地	市街地甲	市街地乙 都市近郊	その他
▶ 主として現道上	4.0%	3.5%	3.0%	2.5%

安全費率 = %

延長加重平均

OK キャンセル

安全費率は、内訳項目に追加した当初は、地域地形が「その他」（2.5%）に設定されており、上記のような画面が表示されます。

表中の率部分をクリックすることで地域地形を変更し、安全費率を変更することができます。あるいは、「安全費率＝」横のテキストボックスに直接率を設定することもできます。

※テキストボックスに直接率を設定する場合は、表中にない中間的な率も設定できます。

[延長加重平均チェック]ボックス

安全費率を地域地形延長の加重平均で設定する場合にONにすると以下のような画面に変わります。

	大市街地 (4.0%)	市街地甲 (3.5%)	市街地乙 都市近郊 (3.0%)	その他 (2.5%)
距離による加重 平均				

安全費率 = % 延長計 = 0

延長加重平均

OK キャンセル

	大市街地 (4.0%)	市街地甲 (3.5%)	市街地乙 都市近郊 (3.0%)	その他 (2.5%)
▶ 距離による加重 平均		1.2	1.5	0.3

安全費率 = % 延長計 = 3

延長加重平均

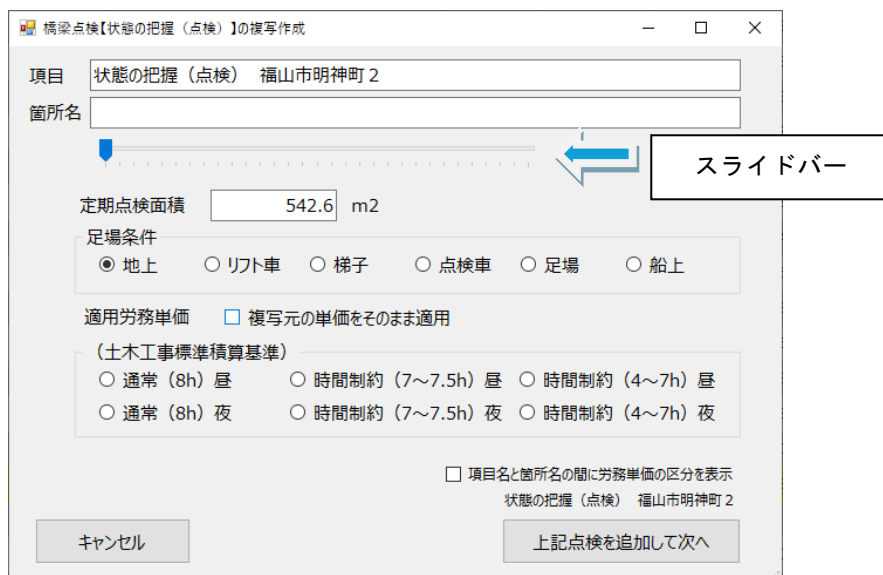
OK キャンセル

※各地域地形に延長を設定すると、安全費率が計算されます。

6-2-18. 橋梁点検コピー画面

内訳表画面で「道路施設点検業務 橋梁定期点検業務」のうち、「状態の把握（点検）特定の溝橋等以外（橋）」または「第三者被害予防措置 打音検査（橋）」の行を選択して右クリックして表示されるメニューから「点検コピー」を選択すると表示されます。

1橋当りの点検を大量に設定する場合に通常の単価表画面を開いて設定するより簡易に設定可能です。



[項目]

コピー先の内訳項目の内容の共通となる名称部分を設定します。コピー元の内訳項目のうち、スライドバーが指定する位置より左側（前方）が表示されます。コピー内容をここで修正することもできます。

[箇所名]

コピー先の内訳項目の内容の変更部分となる名称部分を設定します。コピー元の内訳項目のうち、スライドバーが指定する位置より右側（後方）が表示されます。通常ここに個別の橋梁名などを設定します。

[スライドバー]

コピー先の内訳項目の内容の共通部分と変更部分と境界位置を設定します。一度設定すると、連続コピー中はもちろん、一度本機能を終了しても見積システムを終了するまではその位置を記憶し次回も同様の位置で表示されます。

[定期点検面積]

コピー先に設定する点検面積を設定します。既定値でコピー元の点検面積が設定されているので変更して設定します。

[足場条件]

コピー先に設定する足場条件を選択します。既定値でコピー元の足場条件が設定されているので必要なら変更して設定します。

[適用労務単価（土木工事標準積算基準）]

コピー先に設定する労務単価を選択します。既定値でコピー元の労務単価が設定されているので必要なら変更して設定します。

[複写元の単価をそのまま適用]

このチェックをONにすると、コピー元に設定されている単価をそのままコピー先に設定します。その場合「土木工事標準積算基準」で選択されている内容はクリアされ無視されます。

[キャンセル]

コピーを中断し内訳表画面に戻ります。

[上記点検を追加して次へ]

指定された補正条件及び単価を設定し歩掛をコピーし内訳表画面に追加した後、コピーされた項目をコピー元にして再び本画面を表示します。

<留意事項>

※本機能画面が使用可能な項目は以下の2項目に限ります。

- ・ 01201004600131 状態の把握(点検) 特定の溝橋等以外(橋)
- ・ 01201004600141 第三者被害予防措置 打音検査(橋)

※一旦内訳表に登録された点検項目を修正するために表示することはできません。作成済みの点検項目を修正する場合は通常の単価表画面を開いて設定してください。

※適用労務単価(土木工事標準積算基準)で選択可能な単価は通常の割増の無い単価と2種類の時間制約に基づく割り増し率を掛けた単価、及びそれに夜間割り増しをしたもの以下の計6パターンのみです。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ・ 通常(8h) 昼 | |
| ・ 時間制約(7~7.5h) 昼 | 通常(8h) 昼×1.06 |
| ・ 時間制約(4~7h) 昼 | 通常(8h) 昼×1.14 |
| ・ 通常(8h) 夜 | 通常(8h) 昼×1.5 |
| ・ 時間制約(7~7.5h) 夜 | 通常(8h) 昼×1.5×1.06 |
| ・ 時間制約(4~7h) 夜 | 通常(8h) 昼×1.5×1.06 |

実際の作業時間によって設定される割増率がそれら標準的なパターン以外に設定されている場合や、土木工事標準積算基準によらない場合は、本コピー機能でそれらを選び直すことは出来ません。但し、コピー元とコピー先を同じ単価で複写することは「複写元の単価をそのまま適用」で可能です。

6-3. マスタのメンテナンス機能

6-3-1. マスタメンテナンスメニュー

メインメニューから[マスタメンテナンス]を押すと、マスタ設定に関する以下のサブメニューが表示されます。



[歩掛マスタ] ボタン

歩掛マスタの登録・修正・削除を行う「歩掛登録」画面を表示します。

([6-3-2. 歩掛マスタ](#))

[変化率マスタ] ボタン

変化率マスタの登録・修正・削除を行う「変化率マスタ」設定画面を表示します。

([6-3-3. 変化率マスタ](#))

[単価マスタ] ボタン

単価マスタの登録・修正・削除を行う「単価マスタ」画面を表示します。

([6-3-4. 単価マスタ](#))

[積上単価マスタ] ボタン

積上単価マスタの登録・修正・削除を行う「積上単価一覧」画面を表示します。

([6-3-5. 積上単価マスタ](#))

[客先マスタ] ボタン

客先マスタの登録・修正・削除を行う「客先選択」画面を表示します。

([6-3-6. 客先マスタ](#))

[署名マスタ] ボタン

署名マスタの登録・修正・削除を行う「署名選択」画面を表示します。

([6-3-7. 署名マスタ](#))

[ユーザマスタ] ボタン

ユーザマスタの登録・修正・削除を行う「ユーザ選択」画面を表示します。

([6-3-8. ユーザマスタ](#))

[最新マスタへ更新] ボタン

Webサーバに公開されている最新のマスタ情報を取得し更新を行う画面を表示します。

([6-3-9. 最新マスタへ更新](#))

6-3-2. 歩掛マスタ

6-3-2-1. 歩掛マスター一覧画面

[マスタメンテナンス]のサブメニューで[歩掛マスタ]を押すと表示されます。

コード	業種	コード	工程	コード	種別
001	測量	0010100010	基準点測量	00101000100010	1級基準点測量
012	設計	0010100020	水準測量	00101000100020	2級基準点測量 (伐採あり)
003	地質 (一般)	0010100030	現地測量	00101000100030	2級基準点測量 (伐採なし)
014	地質 (解析等)	0010100040	路線測量	00101000100040	3級基準点測量 (伐採あり・永久標識設置あり)
015	補償	0010100050	河川測量	00101000100050	3級基準点測量 (伐採あり・永久標識設置なし)
		0010100060	深淺測量	00101000100060	3級基準点測量 (伐採なし・永久標識設置あり)
		0010100070	用地測量	00101000100070	3級基準点測量 (伐採なし・永久標識設置なし)
		0010100080	空中写真測量 撮影 (デジタル)	00101000100080	4級基準点測量 (伐採あり)
		0010100090	空中写真測量 標定点測量及び同時調整	00101000100090	4級基準点測量 (伐採なし)
		0010100100	空中写真測量 数値図化	00101000100100	基準点設置 地上埋設 (普通) [2級基準点]
		0010100110	航空レーザ測量	00101000100110	基準点設置 地上埋設 (上面舗装) [2~3級基準点]
		0010100120	三次元点群測量	00101000100120	基準点設置 地下埋設 [2~3級基準点]
		0010100180	洪水痕跡調査業務	00101000100130	基準点設置 屋上埋設 [2~3級基準点]
		0010100190	河川水辺環境調査 (河川空間利用実態調査)	00101000100140	基準点設置 コンクリート杭設置 [3級基準点]
		0010100200	水文観測所保守点検	00101000100150	基準点設置 地上埋設 (普通) [1級基準点]
		0010100210	流量観測	00101000100160	基準点設置 地上埋設 (上面舗装) [1級基準点]
		0010100220	水位流量曲線作成	00101000100170	基準点設置 地下埋設 [1級基準点]
		0010100230	水文資料整理	00101000100180	基準点設置 屋上埋設 [1級基準点]
		0010100310	港湾・漁港関係測量	00101000100990	打合せ
		0010100320	簡易検潮器および量水標による検潮		
		0010100322	マルチビーム測深		
		0010100330	水域環境調査業務		
		0010100340	環境生物調査業務		
		0010100350	磁気探査業務		
		0010100360	潜水探査業務		
		0010100370	海象観測装置定期点検・保守業務		

[年度]

これから作業を行う歩掛マスタの年度を選択します。

※ 現在歩掛マスタに登録されている最新年度を初期値としています。

[年度追加] ボタン

新しい年度の歩掛マスタを追加する場合は、テキスト部分に新しい年度を西暦で入力し、[年度追加]ボタンを押してください。



[OK]を押すと、年度が追加した年度に切り替わります。

※通常は新年度の歩掛データは弊社（アライズソリューション）から配布（Web更新）されますので、この[年度追加]ボタンを使用するはありません。弊社案内よりも先行して独自歩掛を作成する場合などに使用できます。

①業種リスト

現在歩掛マスタに登録されている業種が表示されます。

②費目リスト

①で選択されている業種で歩掛マスタに登録されている費目が表示されます。

③工種リスト

②で選択されている費目で歩掛マスタに登録されている工種が表示されます。

④種別リスト

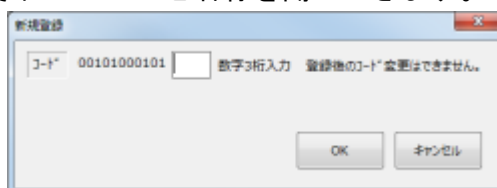
③で選択されている工種で歩掛マスタに登録されている種別が表示されます。

[新規登録] ボタン

現在選択しているリスト（費目、工種、種別のいずれか）に新規登録を行います。

※ 現行バージョンでは業種の新規登録は出来ません。

ボタンを押すとそれぞれのコードと名称を聞いてきます。



※ コードはウィンドウ内のメッセージに従い、定められた桁数で入力してください。

※ コードは重複登録出来ません。

※ 名称は省略不可です。

※ 他の年度で使用されているコードを登録した場合は、警告メッセージが表示されます。今後使う予定がない歩掛であれば[OK]を、よくわからなければ[キャンセル]を押してください。（過去の歩掛からコピーしたい場合は、[年度コピー]を行ってください。）

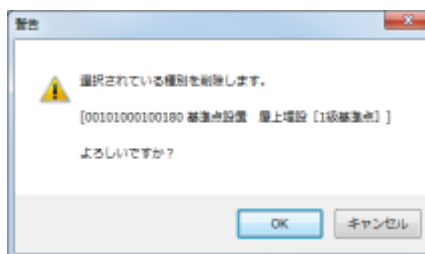
①～③の新規登録時は[OK]を押すと元の画面に戻ります。

④種別の新規登録の場合は、[単価表]登録画面が表示されます。（[「6-3-2-2. 単価表登録画面」](#)参照）

[削除] ボタン

リストで選択されているものを歩掛マスタから削除します。

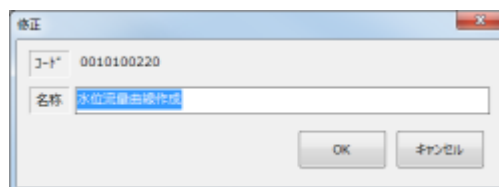
ボタンを押すと、以下のような警告メッセージが表示されますので、[OK]を押すと該当データが削除されます。



※ 削除指定した項目の配下にあたるデータも同時に削除されますので注意してください。

[編集] ボタン

リストで選択されている項目を編集するウィンドウが表示されます。



名称を変更して、[OK]を押すと、①～③の場合は元の画面に戻ります。④の場合は、[単価表]修正画面が開きます。（「[6-3-2-2. 単価表登録画面](#)」参照）

[年度コピー] ボタン

現在選択しているリスト（費目、工種、種別のいずれか）に過去の年度の歩掛マスタをコピーして追加登録を行います。

※各自が作成した歩掛マスタが対象となります。システムが用意した歩掛マスタの年度コピーは行えません。

[年度コピー] ボタンを押すと以下のようにマスタに登録されている各自が作成した歩掛が表示されます。



コピー元の年度を一覧から選択し、追加登録する歩掛にチェックを付けて[OK]を押してください。

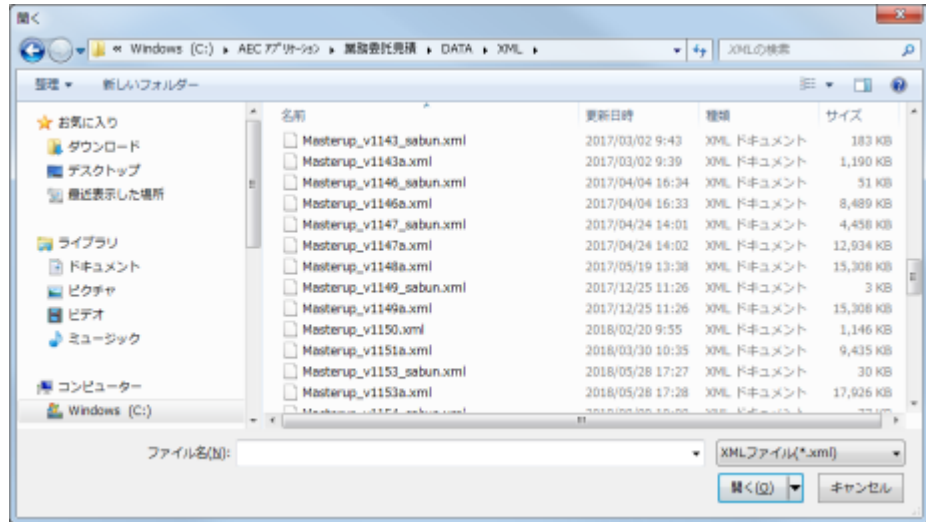
※コピー指定した項目の配下にあたるデータも同時にコピーされます。

年度コピーの際、歩掛コードは変更しません。年度コピー中、コピー元の歩掛コードが既に登録されていた場合、下のような確認メッセージが表示されます。上書きする場合は[はい]を、重複した場合に全て上書きでよければ[全て更新]を、上書きしない場合は[いいえ]を、年度コピーの作業を中止する場合は[キャンセル]を押してください。



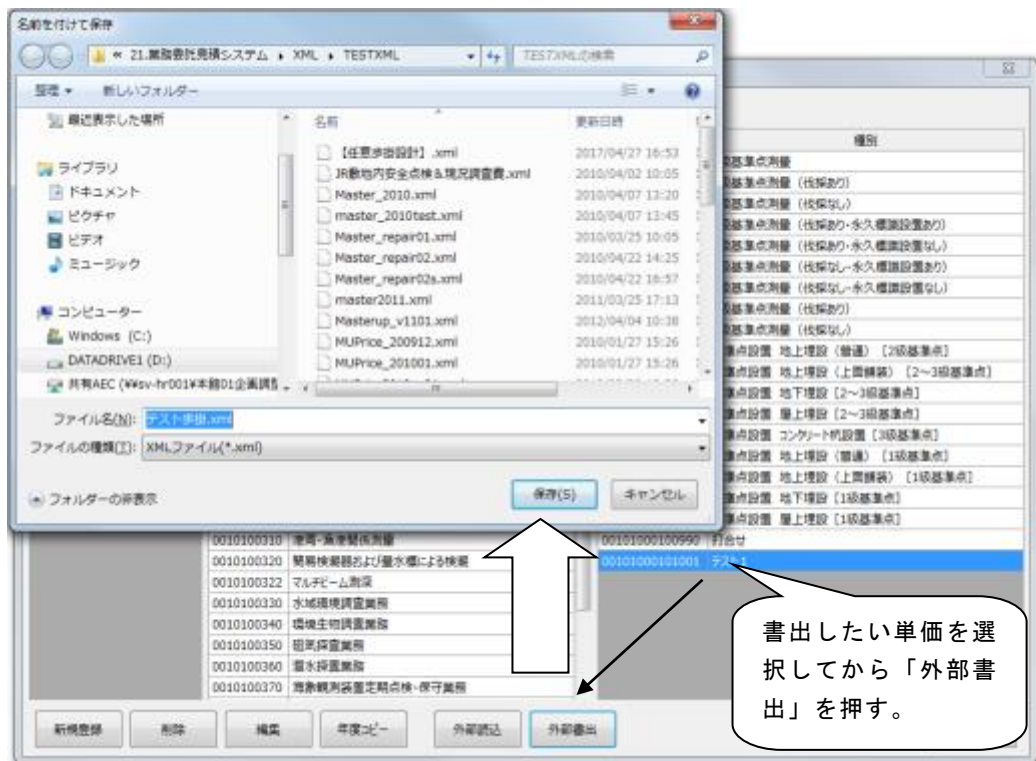
[外部読込] ボタン

[外部書出] ボタンにより書き出されたXML形式のファイルで歩掛マスタに関するデータを読み込み、歩掛マスタに追加又は更新を行います。



[外部書出] ボタン

選択している歩掛をXML形式ファイルに書き出します。

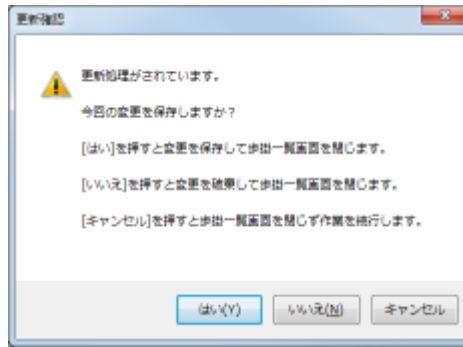


[OK] ボタン

今回の登録・更新内容をデータベースに登録し、[歩掛登録]画面を閉じます。

[キャンセル] ボタン

[歩掛登録]画面を閉じます。新規登録や修正等が行われている場合は以下の確認が表示されます。



[OK]を押すと、今回の登録・更新内容がデータベースに登録されます。

[キャンセル]を押すと、今回の[歩掛登録]画面を開いて行った作業を全てキャンセルし、データベースへの登録を行いません。

6-3-2-2. 単価表画面

[歩掛マスタ設定]画面で種別を選択して[新規登録]または[編集]を押すと表示されます。

単価表画面にはタブがあり、大きく「人件費等」と「機械経費等・変化率」に分かれます。

<人件費等タブ画面>

①ヘッダ欄

[工種名]

[歩掛マスタ設定]画面で選択した種別の属する工種名称を表示します。

※この項目はここでは修正は出来ません。

[種別名]

[歩掛マスタ設定]画面で選択した種別の名称を表示します。ここで名称を修正することが出来ます。新規登録時は空白になっています。

[歩掛年度]

[歩掛マスタ設定]画面で選択した歩掛年度を表示します。

[単価年度]

歩掛年度と同じ年度です。

※ マスタメンテナンス時のこの項目はここでは修正は出来ません。

[基準数量]

[歩掛マスタ設定]画面で選択した種別の基準数量を表示します。この数量を変更すると[計上数量単位当り単価]の額が変わります。新規登録時は0になっています。

[計上数量]

[歩掛マスタ設定]画面で選択した種別の計上数量を表示します。この数量を変更

すると[計上数量単位当り単価]の額が変わります。新規登録時は0になっています。

[単位]

[歩掛マスタ設定]画面で選択した種別の単位を表示します。新規登録時は空白になっています。

②人件費等作業明細欄

[選択] チェック

その行の工程の有効、無効を表します。マウスでクリックすると変更出来ます。

チェックを外すと、見積もり作成時に呼び出される歩掛もチェックが外れた状態で表示されます。

※ チェックを外した行は画面上、行はそのまま残りますが、工数、金額合計は消えます。また、見積り作成時も行自体は引用されます。

[作業工程]

作業工程名称を表示します。また、任意に修正可能です。

[内訳]

内訳の一番左の列は「内業」「外業」が表示されます。カーソルを位置付けると▼が表示されるので、リストから選択して設定します。

[技術者名・単価]

[内訳]の右側（ヘッダ部分）には技術者名と単価が表示されます。

内訳	42,200 測量主任 技師	34,800 測量技師	28,100 測量技師 補	28,000 測量助手	22,700 測量補助 員
内業	1,000	2,000	1,500		
外業		3,000	3,500		

囲み内をダブルクリックすると技術者・単価の変更が出来ます。



直接人件費	名称	規格	単位	単価 (円)	摘要
T30010002	測量主任技師		日	42,200	副増賃金対象比: 55%
T30010003	測量技師		日	34,800	副増賃金対象比: 55%
T30010004	測量技師補		日	28,100	副増賃金対象比: 50%
T30010005	測量助手		日	28,000	副増賃金対象比: 55%
T30010019	測量補助員		日	22,700	副増賃金対象比: 55%
T30010006	操縦士		日	47,000	副増賃金対象比: 35%
T30010007	整備士		日	36,700	副増賃金対象比: 45%
T30010008	撮影士		日	35,100	副増賃金対象比: 50%
T30010009	撮影助手		日	31,100	副増賃金対象比: 50%
T30010020	測量船操縦士		日	26,300	副増賃金対象比: 55%
T30010010	測量技師[24時間]		日	45,566	副増賃金対象比: 55%
T30010011	測量技師補[24時間]		日	36,003	副増賃金対象比: 50%
T30010012	測量助手[24時間]		日	36,662	副増賃金対象比: 55%
T30010021	測量補助員[24時間]		日	29,722	副増賃金対象比: 55%
T30010013	測量技師[昼12時間]		日	43,771	副増賃金対象比: 55%
T30010014	測量技師補[昼12時間]		日	34,685	副増賃金対象比: 50%
T30010015	測量助手[昼12時間]		日	35,218	副増賃金対象比: 55%
T30010022	測量補助員[昼12時間]		日	28,552	副増賃金対象比: 55%

技術者と単価を別のものに変更する場合はリストから選択して、[OK]を押してください。

[各工数]

内訳	42,200 測量主任 技師	34,800 測量技師	28,100 測量技師 補	28,000 測量助手	22,700 測量補助 員
内業	1,000	2,000	1,500		
外業		3,000	3,500		

各技術者・単価が掛かる工数を表示します。単位は日です。小数第3位まで入力出来ます。

③人件費等合計欄

人件費等明細欄の合計が表示されます。修正等は出来ません。

[工数]

作業工程毎の工数の合計です。
※この項目は入力出来ません。

[金額]

各工数に単価を掛けて出した金額の合計額です。
※この項目は入力出来ません。

<機械経費等・変化率タブ画面>

The screenshot shows a software window titled '単価表' (Unit Price Table) with several tabs. The '機械経費等・変化率' (Mechanical Expenses and Change Rate) tab is active. It contains a table with columns for '名称' (Name), '規格' (Specification), '従上単価' (Previous Unit Price), '従上単位' (Previous Unit), '従上数量' (Previous Quantity), '比率計算対象' (Ratio Calculation Target), '比率計算掛率(%)' (Ratio Calculation Rate (%)), '金額' (Amount), and '摘要' (Remarks). A red circle labeled '④' highlights the '従上単価' column. Below this is a table for '変化率式' (Change Rate Formula) with columns for 'コード' (Code), '名称' (Name), '変化率式' (Change Rate Formula), '入力値' (Input Value), and '変化率' (Change Rate). A red circle labeled '⑤' highlights the '変化率式' column. At the bottom right, there are checkboxes for '電子成果品作成費又は業務成果品費等の計算対象' (Calculation target for electronic product production costs or business product costs) and '諸経費の計算対象' (Calculation target for miscellaneous expenses). A red circle labeled '⑥' highlights these checkboxes. The interface also includes a calculator, a summary table, and various control buttons like '行追加' (Add Row), '行挿入' (Insert Row), '行削除' (Delete Row), '上移動' (Move Up), '下移動' (Move Down), '単価マスタ' (Unit Price Master), and '初期値に戻す' (Reset to Initial Value).

④機械経費等欄

機械経費等欄は更に[機械経費・損料]、[通信運搬費]、[材料費]、[精度管理費]、[電子計算機使用料]の5つのタブに別れており、設定されているデータはそれぞれ異なりますが、タブ内の設定項目は同じです。

[名称]

各費用名称が入ります。[単価マスタ]ボタンを押すと単価マスタから選択出来

ます。任意に文字を入力することも出来ます。

[規格]

任意に文字列を入力出来ます。[単価マスター]ボタンを押し単価マスタから選択した場合は、マスタに登録されている内容が設定されます。

[積上単価]

単価を入力します。[単価マスター]ボタンを押し単価マスタから選択した場合は、マスタに登録されている単価が設定されます。マスタとは異なる単価を入力したい場合は、[単価マスター]画面の[独自単価]にチェックを付けてください。単価を変更できるようになりますが、一覧からの選択はできなくなります。

※ 後述の[比率計算対象]を指定すると、この単価はクリアされます。

[積上単位]

[積上数量]に対する単位です。[単価マスター]ボタンを押し単価マスタから選択した場合は、マスタに登録されている内容が設定されます。

[積上数量]

積上げ計算する場合の[積上単価]に掛ける数量です。

[比率計算対象]

単価×数量ではなく、人件費等に一定の率を掛けて金額を計算する場合に指定します。コンボボックスから対象金額を選択します。現行バージョンでは以下が選択出来ます。

- ・ 直接人件費
- ・ 人件費等
- ・ 人件費等及び機械経費
- ・ 標準歩掛
- ・ 上記（その行より上に登録されている経費の合計）

[比率計算掛率]

[比率計算対象]で指定した対象額に掛ける率を百分率で指定します。

※少数点以下第3位四捨五入。

[金額]

[積上単価]×[積上数量]もしくは[比率計算対象]×[比率計算掛率]で計算した金額を表示します。

※この項目は入力出来ません。

[摘要]

任意の文字を入力出来ます。[単価マスター]ボタンを押し単価マスタから選択した場合は、マスタに登録されている内容が設定されます。

⑤変化率欄

現在の歩掛に掛かる変化率を表示・指定します。

[変化率式]

現在の歩掛に掛かる複数の変化率の合計式を表示・指定します。この式は後述する[コード][+][-][*][/][()][RND][FIX]ボタンを使用するか、直接手入力で設定します。式の内容は通常、変化率コードと数値及び四則演算記号で成り立ち

ます。（四則演算記号に関する詳しい説明は、「[6-3-3. 変化率マスタ](#)」の計算式部分を参照）

※ [...]ボタンは後述の[変化率リスト]への登録を行うもので、[変化率式]への登録・変更は行われません。[...]により[変化率リスト]を変更した場合は、それに沿ってこの[変化率式]も修正してください。

[小数点以下桁数]

変化率の小数点以下桁数を表示・指定します。
小数点以下桁数を数字で指定します。

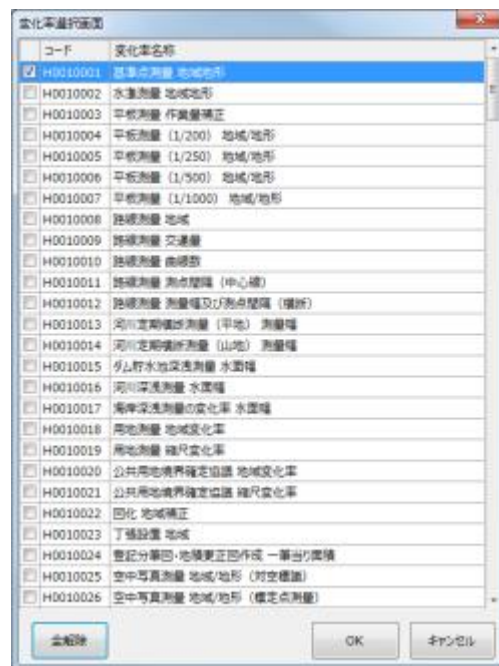
[変化率リスト]

現在の歩掛に掛かる変化率の[コード][名称][選択条件][入力値][計算式]および[変化率]が表示されます。[...]ボタンを押して、リストへの追加・削除を行います。

※ リストの内容（変化率名称や変化率自体）を修正することは出来ません。それらを変更する場合は、変化率マスタの変化率情報を修正する必要があります。（「[6-3-3. 変化率マスタ](#)」参照）

[...] ボタン

ボタンを押すと以下のように[変化率マスタ]に登録されている変化率一覧が表示されます。

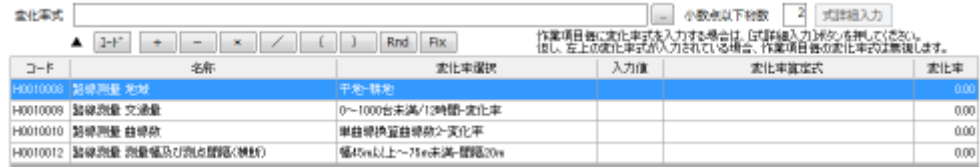


現在の歩掛に設定したい変化率にチェックを付けて[OK]ボタンを押すと、[変化率リスト]に表示されます。

/// 変化率設定例（路線測量-横断測量） ///

1. まず[...]を押し必要な変化率を選択します。

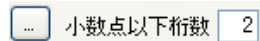




- 次に変化率式を後述する[コード][+][-][*][/][()][Rnd][Fix]ボタンを使用して入力します。

変化率式

- 最後に小数点以下桁数を設定します。



[コード] [+][-][*][/][()][Rnd][Fix]ボタン

ボタンを押すと変化率式に挿入します。コードは[変化率リスト]で選択されている変化率コードを指します。

[式詳細入力] ボタン

作業項目毎に変化率式を設定できます。

- ※ 業種が[設計]、[地質(解析等)]、[補償]の場合のみ入力できます。
- ※ ボタンの左側の変化率式(全作業項目共通の変化率式)が設定されている場合はこのボタンを押せません。
- ※ 作業項目毎に変化率式を設定した後、ボタンの左側の変化率式(全作業項目共通の変化率式)を設定した場合は、作業項目毎に設定した変化率式を無視します。

[式詳細入力]ボタンを押すと、下のような画面が表示されます。画面左側に作業項目を、画面右側に[変化率リスト]が表示されます。

作業項目	変化率式	変化率	コード	名称
得意	H0050001*H0050002	1.00	H0050001	建物等の調査 予備調査の再集
回割等	H0050001*H0050002	1.00	H0050002	本造建物 建物延べ面積
算定	H0050002	1.00		

【▼変化率式を選択した作業項目に設定】ボタン

まず修正したい変化率式にカーソルを合わせます。変化率式が上のテキスト部分に表示されますので、後述する[コード][+][−][*][/] [()] ボタンを使用して修正します。[▼変化率式を選択した作業項目に設定] ボタンを押すと、選択されている行（複数行も可）の変化率式を更新し、再計算した変化率を表示します。

【コード】 [+] [−] [*] [/] [()] [Rnd] [Fix] ボタン

ボタンを押すと変化率式に挿入します。コードは[変化率リスト]で選択されている変化率コードを指します。

【削除】 ボタン

選択されている行（複数行も可）の変化率式と変化率を削除します。

【コピー】 ボタン

選択されている行の変化率式と変化率をコピーします。

【貼り付け】 ボタン

[コピー] ボタンで保存した変化率式と変化率を、選択されている行（複数行も可）に貼り付けます。

⑥フッタ情報欄

【特記欄】

現在開いている歩掛に関する注意事項等を入力します。この項目は改行も入力出来ません。ここに登録した内容は、見積り作成時の単価表を開いた際に表示されます。

【直接人件費計】

人件費等タブで計算された金額のうち、人件費のみの額を表示します。

※ この項目は入力出来ません。

【労務費計】

人件費等タブで計算された金額のうち、労務費のみの額を表示します。

※ この項目は入力出来ません。

【人件費等合計】

[直接人件費計] + [労務費計] です。

※ この項目は入力出来ません。

[機械経費]

[機械経費]タブに登録されている金額の合計です。

※ この項目は入力出来ません。

[通信運搬費]

[通信運搬費]タブに登録されている金額の合計です。

※ この項目は入力出来ません。

[材料費]

[材料費]タブに登録されている金額の合計です。

※ この項目は入力出来ません。

[精度管理費]

[精度管理費]タブに登録されている金額の合計です。

※ この項目は入力出来ません。

[電子計算機使用料]

[電子計算機使用料]タブに登録されている金額の合計です。

※ この項目は入力出来ません。

[変化率]

変化率欄の変化率リストで表されている変化率を変化率合計式で計算した合計変化率です。

※ この項目は入力出来ません。

[合計金額]

※この項目は入力出来ません。

[技術経費率]

歩掛単位で定められた技術経費率を表示・指定します。入力は百分率で行います。

例) 20% → ○20
×0.20

[計上数量単位当り単価] (それぞれの計上数量と単位により表示が異なる)

[合計金額]を[基準数量]で割って[計上数量]を掛けた額です。

最終的に内訳画面の単価に表示される額になります。

※ この項目は入力出来ません。

[行挿入] ボタン

[人件費等][機械経費等・変化率]タブ内の工程明細表、機械経費等一覧表の指定位置に新たな行を挿入します。

[行削除] ボタン

[人件費等][機械経費等・変化率]タブ内の工程明細表、機械経費等一覧表の指定行を削除します。

[列挿入] ボタン

[人件費等]タブ内の工程明細表の指定位置の前に新たに[技術者名・単価]列を挿入します。

[列削除] ボタン

[人件費等]タブ内の工程明細表の指定の[技術者名・単価]列を削除します。

[上移動] ボタン

[人件費等]や[機械経費等・変化率]のタブ内の表の指定行を1行上に移動します。

[下移動] ボタン

[人件費等]や[機械経費等・変化率]のタブ内の表の指定行を1行下に移動します。

[単価マスタ] ボタン

[機械経費・損料]及び[材料費]タブを選択しているときに実行可能です。
所定の行に単価マスタで選択した情報を設定します。

[マスターコピー] ボタン

既存の種別（同一工種内）を選択する画面を表示します。種別を選択して[OK]を押すと、選択された種別に設定されている内容を丸々コピーし現在開いている単価表に設定します。類似歩掛を作成するのに使います。

[電子成果品作成費又は業務成果品費等の計算対象] チェックボックス

当該歩掛が電子成果品作成費または業務成果品費（補償業務の場合材料費等）の対象/非対象かを表示・設定します。

チェックボックスをクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。

[諸経費の計算対象/その他原価・一般管理費等の計算対象] チェックボックス

当該歩掛が諸経費計算の対象/非対象かを表示・設定します。チェックが付いているものは諸経費の対象となり、外れているものは非対象となります。

チェックボックスをクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。

[旅費交通費（率計上）の計算対象] チェックボックス

当該歩掛が旅費交通費（率計上）の対象/非対象かを表示・設定します。

チェックボックスをクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。

[安全費の計算対象] チェックボックス

当該歩掛が安全費の対象/非対象かを表示・設定します。

チェックボックスをクリックすることでON・OFFが切り替え可能です。

[同一作業の内外業は経費をまとめて計算] チェックボックス

当該歩掛単価の要素のうち、割合経費（機械経費、通信運搬費、材料費、精度管理費、電子計算機使用料）の計算において、同一の作業工程が内外業にわかれているものについて、内外業を合わせて一つの作業工程とみなし、合計値に対する割合で算出するか別々の作業工程として計算するかを指定します。

システムVer1.4.4より追加された機能で2018年度歩掛より既定値はONでそれ以前はOFF状態となります。

[有効桁数4桁丸め（作業工程毎）] チェックボックス

測量及び地質（一般）の歩掛の場合、歩掛単価を算出する過程において、各作業工程の金額を算出した際に有効桁4桁丸めを行うか行わないかを設定します。

※測量及び地質（一般）以外の歩掛は、当該チェックボックスは表示されません。

※鏡画面で「測量、地質（一般）の場合の歩掛単価計算時に有効桁4桁丸めを行わない」チェックボックスをONにしている場合は、本チェックボックスは表示されず、鏡での設定が有効となります。

[最終単価有効桁数4桁丸め] チェックボックス

測量及び地質（一般）の歩掛の場合、歩掛単価を算出する最終段階で、単位数量当たりの最終単価を有効桁4桁に丸めるかどうかを設定します。

※測量及び地質（一般）以外の歩掛は、当該チェックボックスは表示されません。

※鏡画面で「測量、地質（一般）の場合の歩掛単価計算時に有効桁4桁丸めを行わない」チェックボックスをONにしている場合は、本チェックボックスは表示されず、鏡での設定が有効となります。

[参考元]

参考元となる書籍名やそのページなどをテキスト入力設定します。

※見積書（Excel様式）出力時に表示・非表示が選択できます。

※見積作成時にも内容は編集可能です。

[OK] ボタン

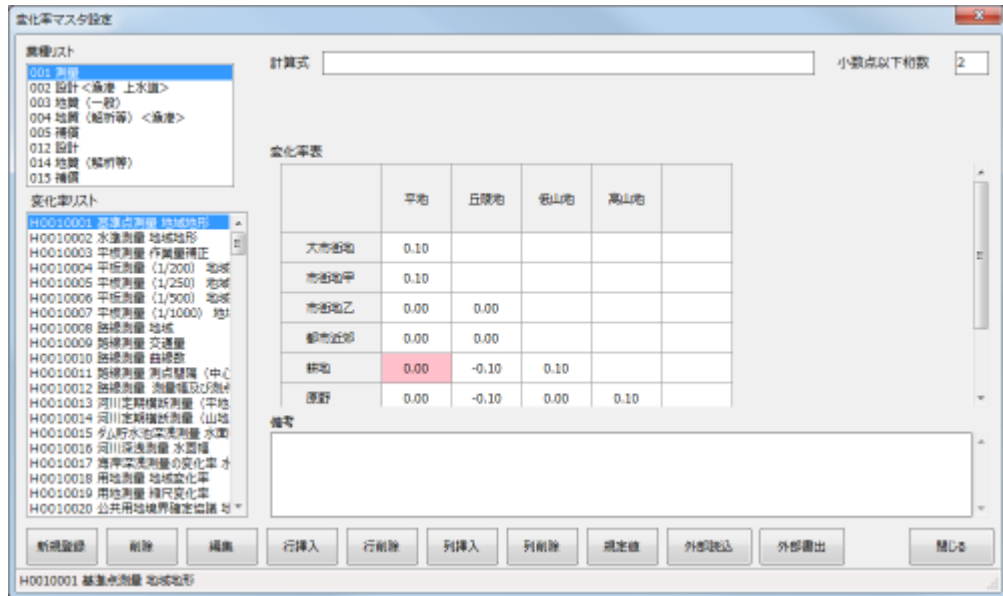
現在の開いている単価表画面の内容を保存して、[歩掛登録]画面に戻ります。

[キャンセル] ボタン

現在の開いている単価表画面を閉じて、[歩掛登録]画面に戻ります。新規登録の場合や内容を変更した場合は、確認メッセージを表示しますので、保存する場合は[OK]を、変更を破棄する場合は[キャンセル]を押してください。

6-3-3. 変化率マスタ

[マスタメンテナンス]のサブメニューで[変化率マスタ]を押すと表示されます。



[業種リスト]

1: 測量、2: 設計、3: 地質（一般）、4: 地質（解析等）5: 補償が表示されます。ここを選択することで、[変化率リスト]の表示が切り替わります。この値は追加・変更出来ません。

[変化率リスト]

[業種リスト]で選択された業種に属する変化率コードと名称がリスト表示されます。リストをシングルクリックして選択すると、右の[計算式][変化率表][小数点以下桁数]がその選択された変化率の内容に切り替わります。

リストをダブルクリックするか、[編集]ボタンをクリックすると[変化率リスト]の内容を変更出来ます。

※但し、あらかじめ登録されているシステムデータは編集・削除出来ません。ユーザが作成した変化率は、リスト中、青字で示され編集可能です。

[計算式]

[変化率リスト]で選択された変化率が、計算式で求められるタイプの場合はここに計算式を表示・記述します。式は必ず「X」を含む一次方程式で表します。

■計算式 (486.38*X+51.362)/100

※ 入力は全て半角で入力してください。

※ 演算記号は以下の通りで入力してください。

- ・ 加算 : + (半角プラス)
- ・ 減算 : - (半角マイナス)
- ・ 乗算 : * (半角アスタリスク)
- ・ 除算 : / (半角スラッシュ)
- ・ べき乗 : ^ (半角^)
- ・ カッコ : () (半角カッコ)

この他、以下の関数が有効です。

(mod、cos、sin、log、ln、sqr<sqrt>、if()、Rnd()、Fix())

※ 計算式で計算する場合は、変化要素である「X」を必ず式に含める必要があります。

<Ifの指定方法>

書式 $if(\langle\text{条件式}\rangle; \langle\text{真の場合の式}\rangle; \langle\text{偽の場合の式}\rangle)$

※ 条件及び各式の間はセミコロン（半角）で区切ってください。

例1) 次の例は、Xが0の場合、変化率は0とし、それ以外の場合は、X/100の式が適用され変化率が求められます。

$$IF(X=0;0;X/100)$$

例2) 次の例は、Xが25以下の場合57.4/100の式が適用され、それ以外の場合は、Xが300以上なら $(0.082*X+267.325)/100$ の式が、それ以外なら $(0.853*X+36.025)/100$ が適用され変化率が求められます。

$$IF(X\leq 25; 57.4/100; IF(X>=300; (0.082*X+267.325)/100; (0.853*X+36.025)/100))$$

<Rndの指定方法>

式で示す数値を、指定する小数点以下桁数+1の位を四捨五入して、指定桁数に丸めます。

書式 $Rnd(\langle\text{式}\rangle, \langle\text{小数点以下桁数}\rangle)$

※ 式と小数点以下桁数との間はカンマ（半角）で区切ってください。

例) 次の例では、結果は0.3になります。

$$RND(1/4, 1)=0.3$$

<Fixの指定方法>

式で示す数値を、指定する小数点以下桁数+1の位を切り捨て、指定桁数に丸めます。

書式 $Fix(\langle\text{式}\rangle, \langle\text{小数点以下桁数}\rangle)$

※ 式と小数点以下桁数との間はカンマ（半角）で区切ってください。

例) 次の例では、結果は0.2になります。

$$Fix(1/4, 1)=0.2$$

[変化率表]

[変化率リスト]で選択された変化率が率を選択するタイプの場合はここに選択表が表示、作成します。

	平地	丘陵地	低山地	高山地	
大市街地	0.10				
市街地甲	0.10				
市街地乙	0.00	0.00			
都市近郊	0.00	0.00			
耕地	0.00	-0.10	0.10		
原野	0.00	-0.10	0.00	0.10	
森林	0.10	0.00	0.20	0.30	

[小数点以下桁数]

変化率の小数点以下桁数を表示・入力します。

[備考]

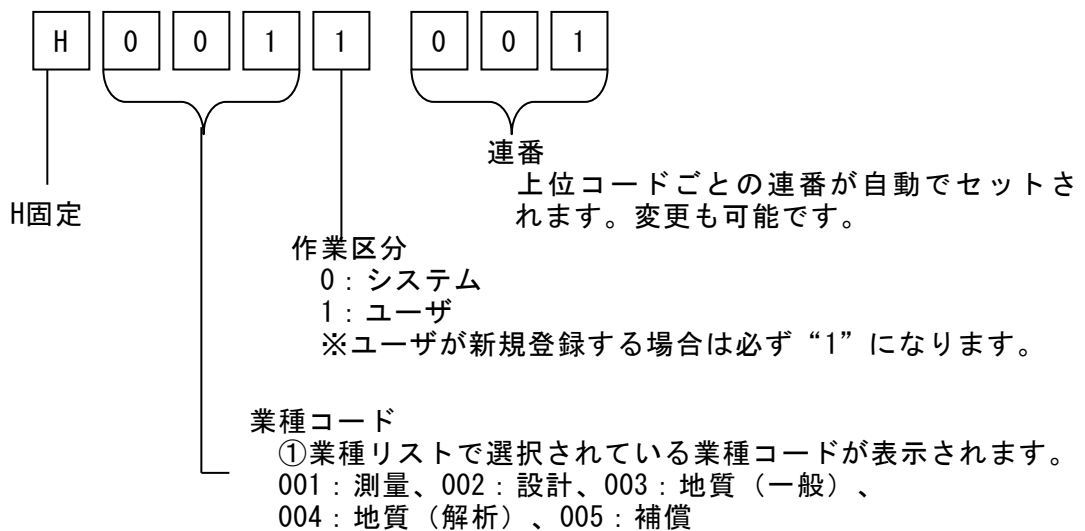
実際の見積り作成の変化率決定時に有効なコメントをここで登録出来ます。

[新規登録] ボタン

業種リストで選択されている業種に新しい変化率を登録するための「変化率 新規登録」画面を表示します。

・コード

変化率コードの各桁の意味は以下の通りです。



・分類

当該変化率が何の歩掛に適用されるものか、等をわかりやすくするための分類名称を任意に設定します。

・名称

当該変化率の名称を設定します。分類とセットで一意的な表現になるように設定してください。

[削除] ボタン

変化率リストで選択されている変化率条件を削除します。
以下の確認画面が表示されます。

[編集] ボタン

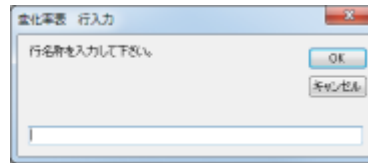
変化率リストで選択されている変化率名を編集します。



※ [新規登録]及び[編集]ボタンは、変化率リストに表示される分類・名称を作成、編集するものです。

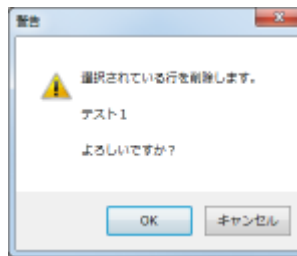
[行挿入] ボタン

変化率表に行を挿入します。



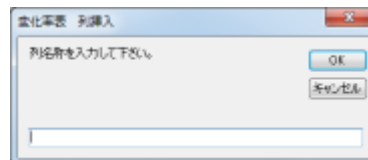
[行削除] ボタン

変化率表で、カーソルが位置づけられているセルの属する行を削除します。



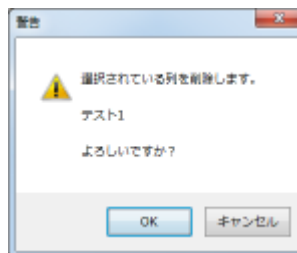
[列挿入] ボタン

変化率表に列を挿入します。



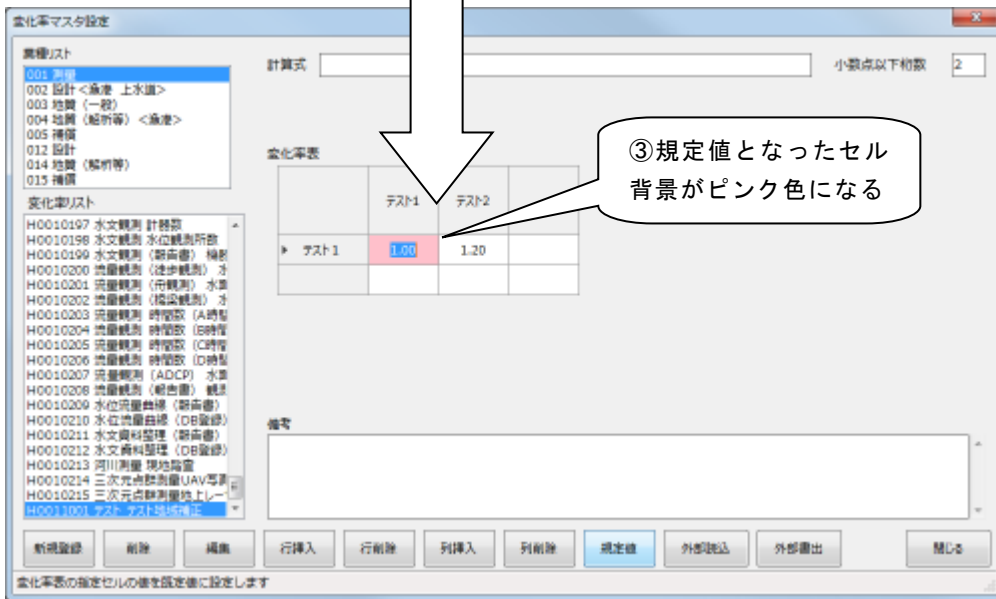
[列削除] ボタン

変化率表で、カーソルが位置づけられているセルの属する列を削除します。



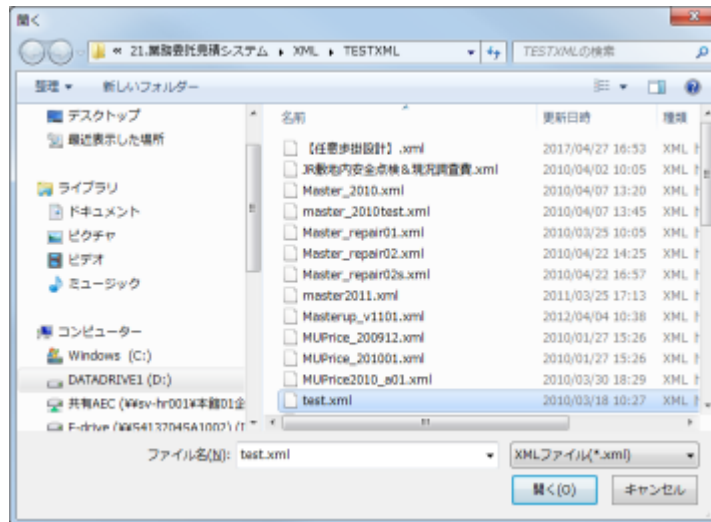
【既定値】ボタン

変化率表で、カーソルが位置づけられているセルを既定値に設定します。



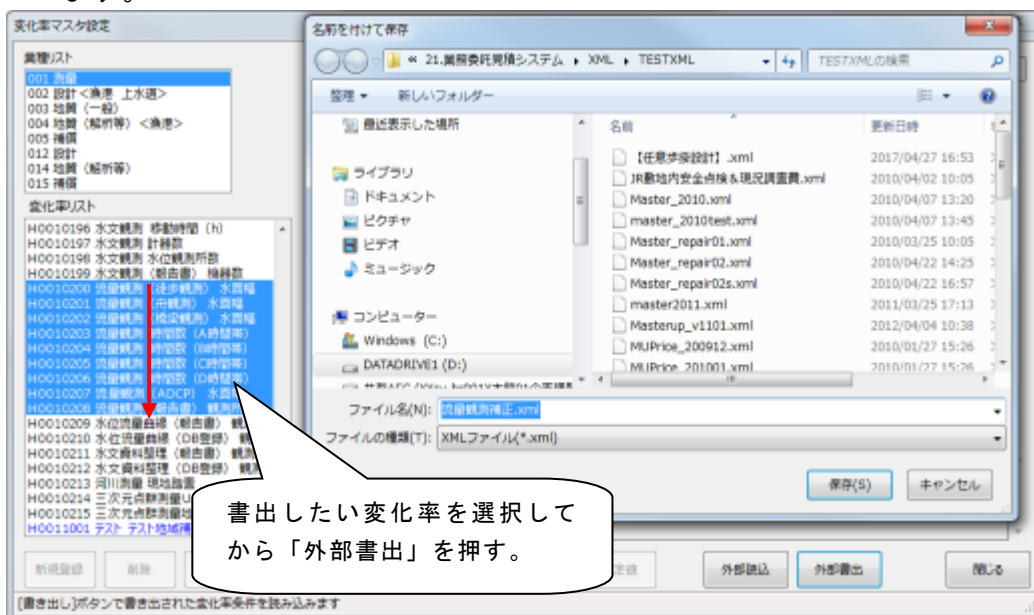
[外部読込] ボタン

[外部書出]ボタンにより書き出されたXML形式のファイルで変化率マスタに関するデータを読み込み、変化率マスタに追加又は更新を行います。



[外部書出] ボタン

変化率リストで選択している変化率マスタデータをXML形式ファイルに書き出します。



[閉じる] ボタン

変化率設定画面を閉じます。内容に変更があった場合は、その旨を表示し、保存の確認がされます。

6-3-4. 単価マスタ

6-3-4-1. 単価マスター一覧画面

[マスタメンテナンス]のサブメニューで[単価マスタ]を押すと表示されます。

コード	名称	規格	単位	単価 (円)	摘要
T3000001	主任技術者 (日当)		日	2,476	
T3000002	理事-技師長 (日当)		日	2,476	
T3000003	主任技師 (日当)		日	2,476	
T3000005	技師A (日当)		日	2,095	
T3000006	技師B (日当)		日	2,095	
T3000007	技師C (日当)		日	2,095	
T3000008	測量主任技師 (日当)		日	2,095	
T3000009	測量技師 (日当)		日	2,095	
T3000010	操縦士 (日当)		日	2,095	
T3000011	整備士 (日当)		日	2,095	
T3000012	撮影士 (日当)		日	2,095	
T3000013	地質調査技師 (日当)		日	2,095	
T3000134	測量船操縦士 (日当)		日	2,095	
T3000014	技術員 (日当)		日	1,619	
T3000015	測量技師補 (日当)		日	1,619	
T3000016	測量助手 (日当)		日	1,619	
T3000017	撮影助手 (日当)		日	1,619	

[年度]

これから作業を行う単価マスタの年度を選択します。

※ 現在単価マスタに登録されている最新年度を初期値としています。

[年度追加] ボタン

新しい年度の歩掛マスタを追加する場合は、テキスト部分に新しい年度を西暦で入力し、[年度追加]ボタンを押してください。



[OK]を押すと、年度が追加した年度に切り替わります。

※ 過去の単価を登録する場合は、[年度コピー]ボタンを使用してください。

[直接人件費] タブ

単価マスタに登録されている人件費を表示します。

[労務費] タブ

単価マスタに登録されている労務費を表示します。

[材料費] タブ

単価マスタに登録されている材料費を表示します。

[機械経費] タブ

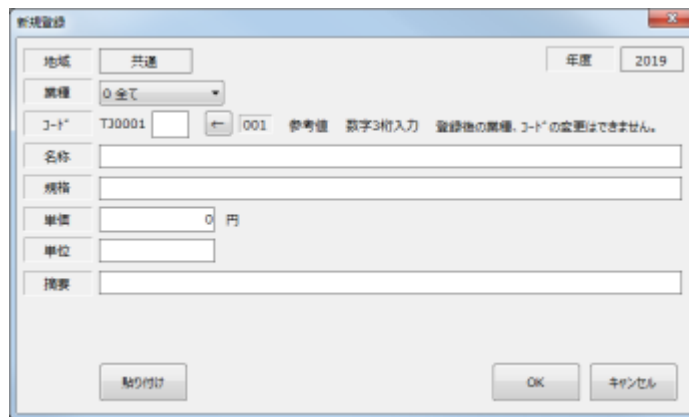
単価マスタに登録されている機械経費を表示します。

[市場単価] タブ

単価マスタに登録されている市場単価（積算資料、建設物価）を表示します。

[追加] ボタン

現在選択されているタブのリストに新たな単価を追加します。以下のようなウィンドウが表示されるので、それぞれを入力し[OK]ボタンを押すと、単価の追加が行われます。



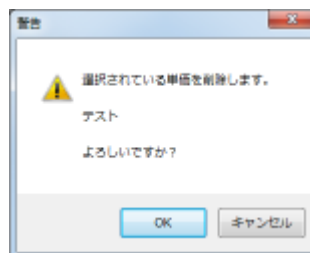
(詳細→ [「6-3-4-2. 登録画面」](#) 参照)

[挿入] ボタン

現在選択されているタブのリストの選択行の前に新たな行を挿入します。
[追加]ボタンと同様のウィンドウが開きます。

[削除] ボタン

選択されている単価を単価マスタから削除します。以下の確認ウィンドウが表示されますので、[OK]を押すとリストから削除されます。



[編集] ボタン

選択されている単価の名称や単価を修正する画面を表示します。以下のようなウィンドウが表示されるので、必要箇所を修正し[OK]を押します。

[コピー] ボタン

選択されている行の単価名称や単位、金額をメモリー内に記憶します。追加、編集、挿入時に[貼り付け]ボタンにより各項目に内容を貼り付けることができます。

※ 見た目は何も変化ありません。

[上移動] ボタン

選択されている行を 1 行上に移動します。

[下移動] ボタン

選択されている行を 1 行下に移動します。

[年度コピー] ボタン

現在選択しているリストに過去の年度の単価マスタをコピーして追加登録を行います。

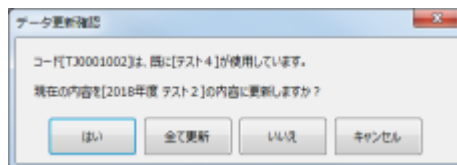
※ 各自が作成した単価マスタが対象となります。システムが用意した単価マスタの年度コピーは行えません。

[年度コピー] ボタンを押すと以下のようにマスタに登録されている各自が作成した単価が表示されます。

コピー元の年度を一覧から選択し、追加登録する単価にチェックを付けて[OK]を

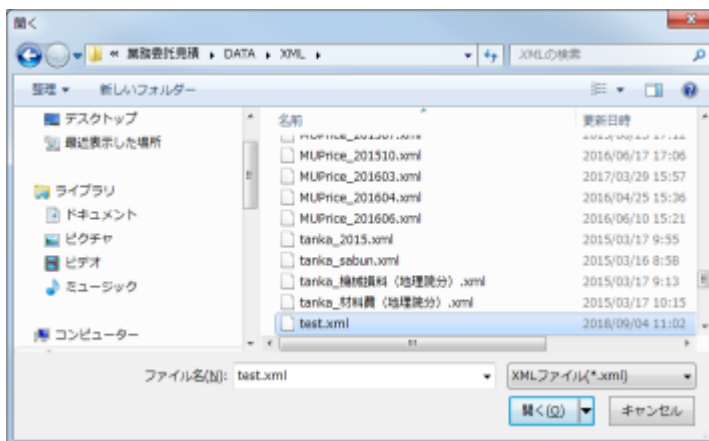
押してください。

年度コピーの際、単価コードは変更しません。年度コピー中、コピー元の単価コードが既に登録されていた場合、下のような確認メッセージが表示されます。上書きする場合は[はい]を、重複した場合に全て上書きでよければ[全て更新]を、上書きしない場合は[いいえ]を、年度コピーの作業を中止する場合は[キャンセル]を押してください。



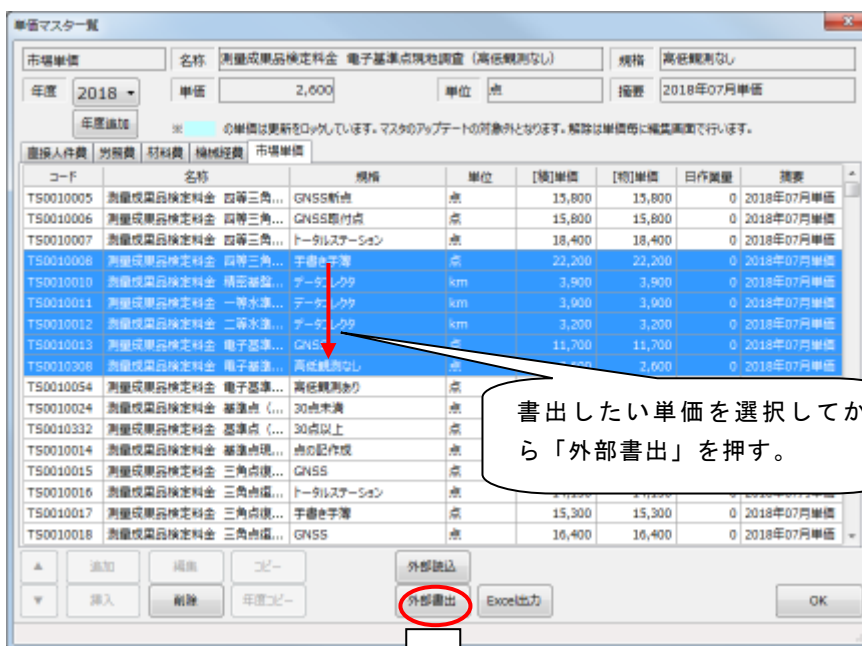
[外部読込] ボタン

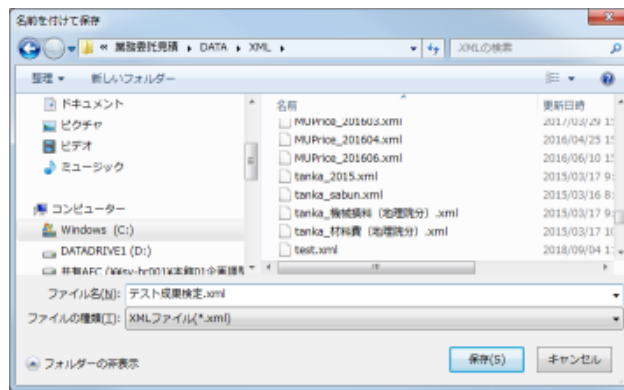
[外部書出] ボタンにより書き出されたXML形式のファイルで単価マスタに関するデータを読み込み、単価マスタに追加又は更新を行います。



[外部書出] ボタン

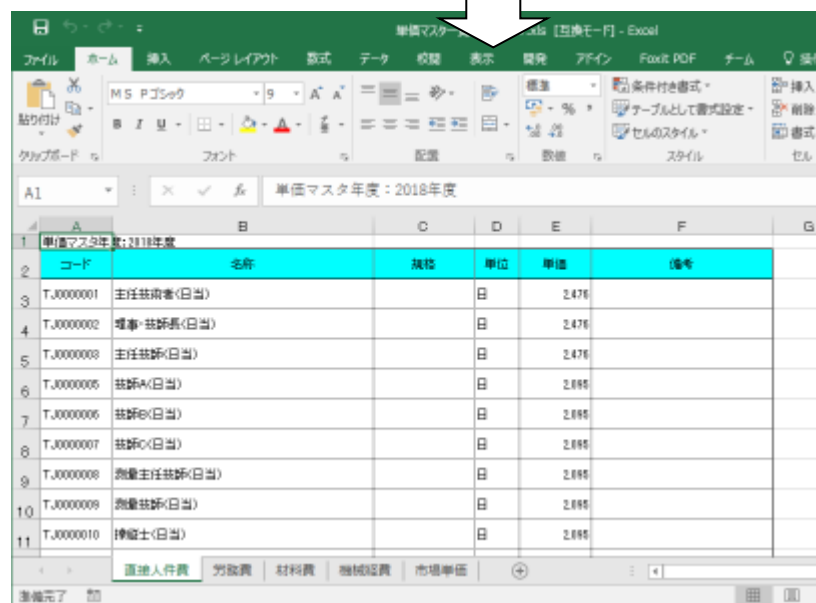
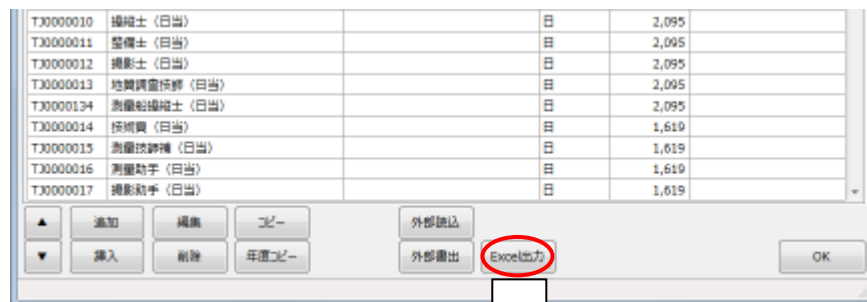
選択されている行をXML形式ファイルに書き出します。





[Excel出力] ボタン

現在の開いている[単価マスター一覧]画面の内容をExcelに書き出します。



※現在表示されている年度の単価を全て出力します。

※この単価マスター一覧を出力するには、以下の通り所定のフォルダに元シートファイルが必要です。

フォルダ	ファイル名
環境設定の「Excelシート保存先」の元シートに設定されているパスと同じフォルダ (インストール既定値 C:\¥AEC アプリケーション¥業務委託見積¥DATA¥XLS)	単価マスタ様式_v010. xls ※ファイル名変更不可

※環境設定によりExcelシートの「元シート」のフォルダを変更した場合は、それに合わせて上記ファイルを移動する必要があります。

[OK] ボタン

現在の開いている[単価マスター一覧]画面の内容を保存して、[マスタメンテナンス]のサブメニューに戻ります。

[キャンセル] ボタン

現在の開いている[単価マスター一覧]画面を閉じて、[マスタメンテナンス]のサブメニューに戻ります。内容を変更した場合は、確認メッセージを表示しますので、保存する場合は[OK]を、変更を破棄する場合は[キャンセル]を押してください。

6-3-4-2. 登録画面

[県] ※労務費の場合のみ表示

登録する単価が労務費の場合は、何処の県の労務費単価かを選択設定します。リストに無い値は設定出来ません。

[業種]

登録する単価が主にどの業種で使用するものかを選択設定します。リストに無い値は設定出来ません。

[コード]

登録する単価につけるコードの末尾3桁の連番部分を指定します。それ以外の部分は自動設定されます。

[名称]

登録する単価の名称を入力します。入力時の文字制限はありませんが、単価表で表示される内容になりますので、出来るだけ短くわかりやすい名称にしてください。材料費や機械経費はこの内容が単価表画面に表示されます。

[規格]

登録する単価の規格を入力します。材料費や機械経費はこの内容が単価表画面に表示されます。

[単価]

単価を1円単位で入力します。材料費や機械経費はこの内容が単価表画面に表示されます。市場単価は2種類の単価を登録できます。[積]単価には積算資料の単価を、[物]単価には建設物価の単価を入力してください。

[単位]

登録する単価の単位を入力します。材料費や機械経費はこの内容が単価表画面に表示されます。

[日作業量] ※市場単価の場合のみ表示

登録する単価の日当たり作業量を入力します。

[摘要]

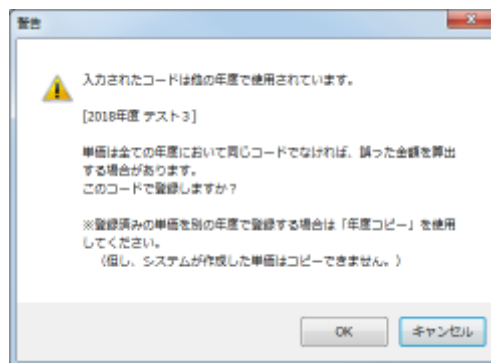
登録する単価に対する特記事項等があれば入力出来ます。材料費や機械経費はこの内容が単価表画面に表示されます。

※単価表等の見積書には印刷されません。

※コードの入力は必須です。[←]を押すと現在使用中の連番の最大値がセットされます。

※[貼り付け]ボタンを押すと、予め[コピー]ボタンにより取得されている元データを各項目にセットします。（[コピー]が押されていない場合は何もセットされません。）

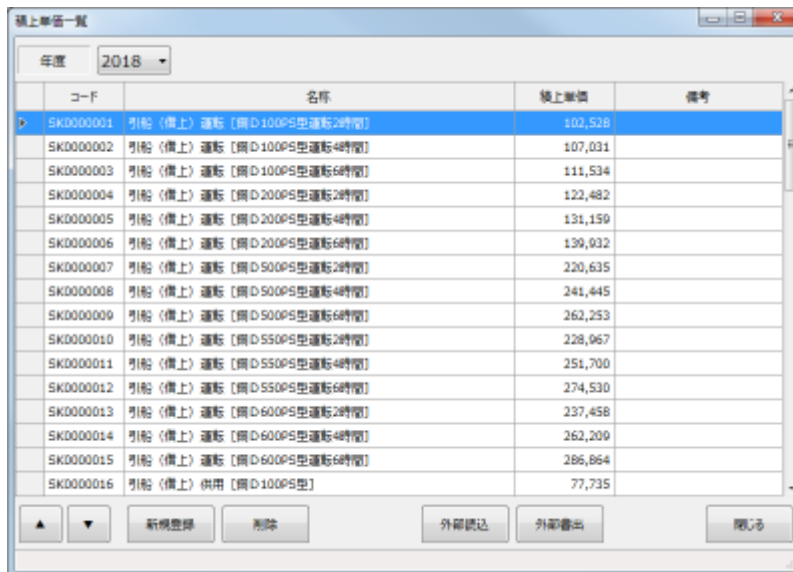
※他の年度で使用されているコードを登録した場合は、下の警告メッセージが表示されます。今後使う予定がない単価であれば[OK]を、よくわからなければ[キャンセル]を押してください。（過去の単価を登録する場合は、[年度コピー]を行ってください。）



6-3-5. 積上単価マスタ

6-3-5-1. 積上単価一覧画面

[マスタメンテナンス]のサブメニューで[積上単価マスタ]を押すと表示されます。



コード	名称	積上単価	備考
SKD000001	引船〈備上〉運転〔機D100PS型運転2時間〕	102,528	
SKD000002	引船〈備上〉運転〔機D100PS型運転4時間〕	107,031	
SKD000003	引船〈備上〉運転〔機D100PS型運転6時間〕	111,534	
SKD000004	引船〈備上〉運転〔機D200PS型運転2時間〕	122,482	
SKD000005	引船〈備上〉運転〔機D200PS型運転4時間〕	131,159	
SKD000006	引船〈備上〉運転〔機D200PS型運転6時間〕	139,932	
SKD000007	引船〈備上〉運転〔機D500PS型運転2時間〕	220,635	
SKD000008	引船〈備上〉運転〔機D500PS型運転4時間〕	241,445	
SKD000009	引船〈備上〉運転〔機D500PS型運転6時間〕	262,253	
SKD000010	引船〈備上〉運転〔機D550PS型運転2時間〕	228,967	
SKD000011	引船〈備上〉運転〔機D550PS型運転4時間〕	251,700	
SKD000012	引船〈備上〉運転〔機D550PS型運転6時間〕	274,530	
SKD000013	引船〈備上〉運転〔機D600PS型運転2時間〕	237,458	
SKD000014	引船〈備上〉運転〔機D600PS型運転4時間〕	262,209	
SKD000015	引船〈備上〉運転〔機D600PS型運転6時間〕	286,864	
SKD000016	引船〈備上〉供用〔機D100PS型〕	77,735	

[年度]

現在表示されている積上単価の年度を表します。

<一覧表>

登録されている積上単価の一覧が表示されます。
コード、名称、積上単価、備考を表示します。

[▲]

一覧表で現在選択されている行を一行上に移動します。

[▼]

一覧表で現在選択されている行を一行下に移動します。

[新規登録]

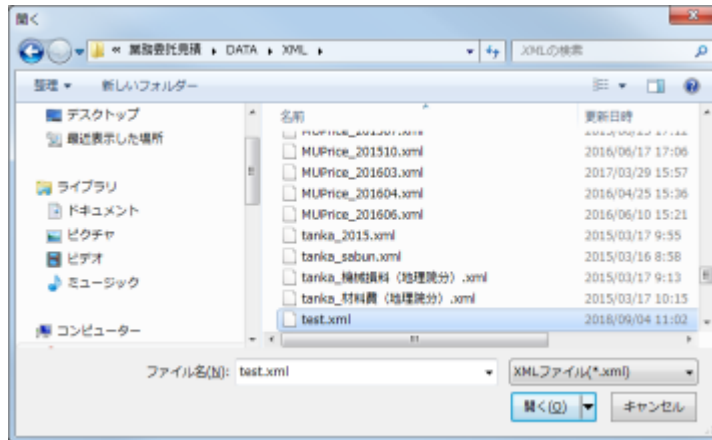
新規の積上単価を作成するために「積上単価の内訳」画面を表示します。
(「[6-3-5-2. 積上単価内訳画面](#)」参照)

[削除]

選択されている積上単価を削除します。
※削除出来るのは、ユーザが独自に登録したものに限りです。

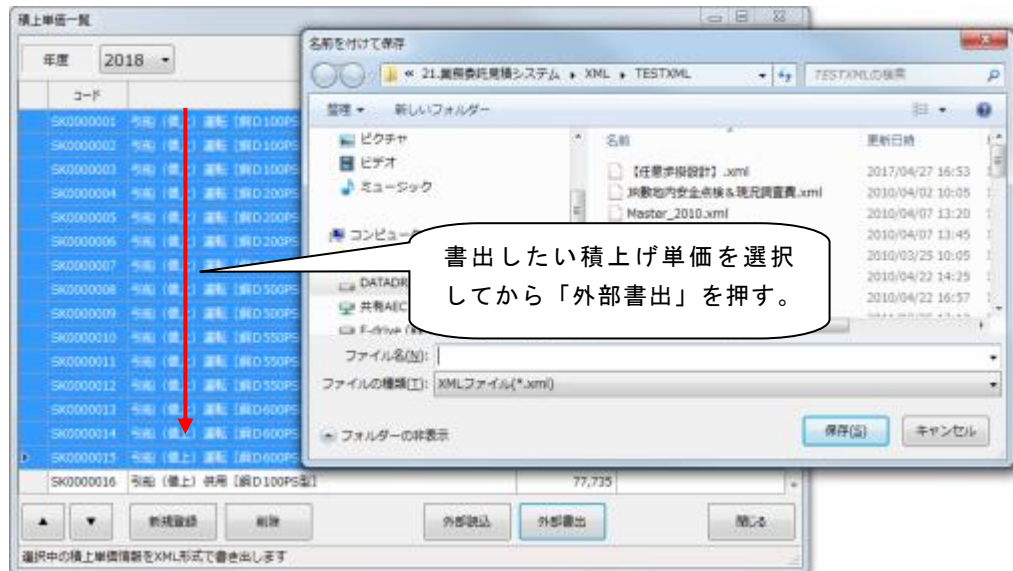
[外部読込]

[外部書出]ボタンにより書き出されたXML形式のファイルで積上げ単価マスタに関するデータを読み込み、積上げ単価マスタに追加又は更新を行います。



[外部書出]

選択されている行をXML形式ファイルに書き出します。



[閉じる]

積上単価一覧画面を閉じます。内容に変更があった場合は、その旨を表示し、保存の確認がされます。

6-3-5-2. 積上単価内訳画面

[積上単価一覧]画面で[新規登録]ボタンを押すか、一覧をダブルクリックすると表示されます。

区分	名称	数量	単位	単価	金額	備考
単価マスタ	船主A	23.00	引船	63.3	1,455	
単価マスタ	高級船員	1.20	日	24,200	29,040	
単価マスタ	普通船員	1.20	日	19,700	23,640	
単価マスタ	引船 (網D100PS型運転時間出の)	2.00	時間	743	1,486	
単価マスタ	引船 (網D100PS型運転共用日出の)	1.65	日	6,890	11,368	
上記合計×率	現地管理費	23.57	%		15,789	
上記合計×率	一般管理費	23.86	%		19,750	
					0	

[単価名称]

積上単価の名称を表示・設定します。

[計上単位]

積上単価の計上単位を表示・設定します。

[就業時間]

計上単位が「1日当たり」で就業時間が設定されている場合に表示・設定します。

<表>

[区分]

その行の単価が以下のいずれのタイプかを表示・設定します。

単価マスタ・・・単価マスタに登録されている単価であることを表します。この場合、[名称]の右にある[...]ボタンを押すと、単価マスタの選択画面が表示され、選択することが出来ます。

上記合計×率・・・当該行より上の行の金額合計に指定の率を掛けた額をこの行の金額に設定します。

手入力・・・・・・・・直接単価を手入力することを表します。

[名称]

名称を表示・設定します。

※ 区分が「単価マスタ」の場合は、選択した単価の単価マスタでの名称が表示されます。

[数量]

数量を表示・設定します。

※ 小数点以下桁数は固定で2桁です。変更することは出来ません。

[単位]

単位を表示・設定します。

※ 区分が「単価マスタ」の場合は、選択した単価の単価マスタでの単位が表示され

ます。

[単価]

単価を1円単位で表示・設定します。

- ※ 区分が「単価マスタ」の場合は、選択した単価の単価マスタでの単価が表示されます。

[金額]

単価×数量が表示されます。

- ※ 計算値であり、直接入力することは出来ません。
- ※ 小数点以下（1円未満）は切り捨てです。

[備考]

必要に応じて文字を表示・設定出来ます。

[合計]

表示中の一覧の金額合計を表示します。

[挿入] ボタン

一覧中のカーソル位置に空の行を挿入します。

- ※ 表の最終行では[挿入]ボタンを押しても行は挿入されません。最終行では、直接何かを入力（例えば[区分]を選択）すれば、自動的に次の行に空白行が追加されます。

[削除] ボタン

選択されている行を削除します。

[別積上からコピー] ボタン

現在作成中の積上単価の内訳を、作成済みの別の積上単価からコピーします。

- ※ 作成途中の場合（当該ボタンを押す前に一覧に表示されている内容）は、クリアされ選択した積上単価の内容に置き換わります。

[OK] ボタン

新規登録や変更内容を保持したまま画面を閉じます。

- ※ 実際の保存作業は「積上単価一覧画面」を閉じる時に行われます。

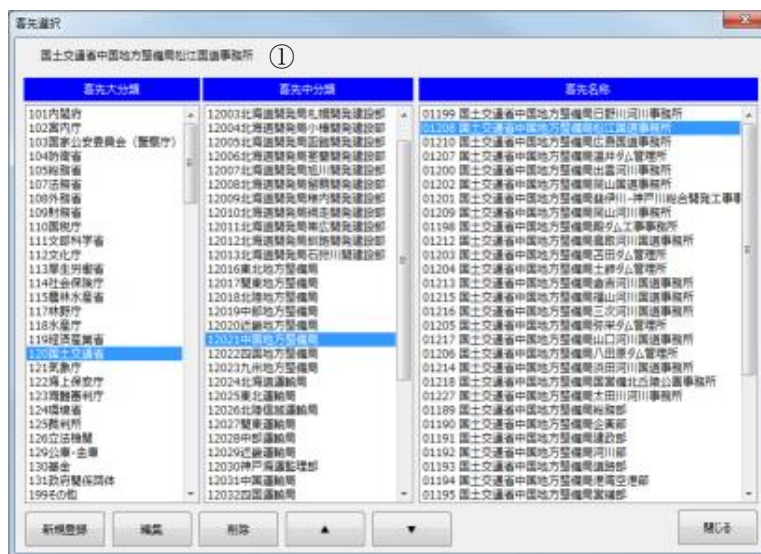
[キャンセル] ボタン

新規登録や変更内容を破棄して画面を閉じます。

6-3-6. 客先マスタ

6-3-6-1. 客先選択画面

[マスタメンテナンス]のサブメニューで[客先マスタ]を押すと表示されます。



[客先大分類]

現在客先マスタに登録されている客先の大分類項目が表示されます。
ここを選択すると、それに該当する客先中分類が②に表示されます。

[客先中分類]

[客先大分類]選択された分類に属する客先の中分類が表示されます。
ここを選択すると、それに該当する客先一覧が[客先名称]に表示されます。

[客先名称]

[客先大分類] [客先中分類]で選んだ客先分類に属する客先のコードと名称が表示されます。

また、ここをダブルクリックすると、登録済みの客先情報を修正するウィンドウを開きます。（「[6-3-6-2. 客先情報画面](#)」参照）

※ここで表示される名称は、同一機関名称が省略されている場合があります。

① [正式名称]

[客先名称]で選択された客先の正式（登録）名称が表示されます。

[新規登録] ボタン

客先を新規に登録するウィンドウを表示します。（「[6-3-6-2. 客先情報画面](#)」参照）

[編集] ボタン

選択された客先情報を修正するウィンドウを表示します。[客先名称]が選択された状態で実行可能です。（「[6-3-6-2. 客先情報画面](#)」参照）

[削除] ボタン

現在選択中の客先を客先マスタから完全に削除します。[客先名称]が選択された状態で実行可能です。

[▲] ボタン

現在選択中の客先を一行上に移動します。[客先名称]が選択された状態で実行可能です。

[▼] ボタン

現在選択中の客先を一行下に移動します。[客先名称]が選択された状態で実行可能です。

[閉じる] ボタン

客先選択画面を閉じます。内容に変更があった場合は、その旨を表示し、保存の確認がされます。

6-3-6-2. 客先情報画面

[客先選択]画面で[新規登録]ボタンを押すか、[編集]ボタンを押すなどで表示されます。

The screenshot shows a 'Customer Information' (客先情報) dialog box with the following fields and values:

- コード: 01210
- カナ: コクドコウツウショウチュウゴクチホウセイビキョウロシマコクダウリョムシヨ
- 名称: 国土交通省中国地方整備局広島国道事務所
- 郵便番号: (empty)
- 住所: (empty)
- TEL: (empty)
- 部署名: (empty)
- 宛先氏名: (empty)
- 敬称: (dropdown menu)
- 市場単価の運用区分: 3 積算費料と建設物価の平均
- 労務費単価の地域: 34 広島県
- 客先大分類: 120 国土交通省
- 客先中分類: 12021 中国地方整備局
- 備考: (empty)
- 使用区分: 使用不可
- Buttons: OK, キャンセル

[コード]

登録する客先ごとに付けられたコードです。

任意の数字5桁で指定出来ます。同じコードを重複して登録することは出来ません。また、修正時にはコードは変更出来ません。

(見積書「鏡」には表示されません。)

[カナ]

客先名称の読み仮名です。

半角カタカナで登録します。入力モードが自動的に半角カタカナに切り替わります。

(見積書「鏡」には表示されません。)

[名称]

客先の正式名称です。(見積書「鏡」に表示されます。)

[郵便番号]

客先の郵便番号です。(見積書「鏡」には表示されません。)

[住所]

客先の住所です。(見積書「鏡」には表示されません。)

[TEL]

客先の電話番号です。（見積書「鏡」には表示されません。）

[部署名]

客先の部署名です。（見積書「鏡」に表示されます。）

[宛先氏名]

当該客先へ見積書を作成する場合の宛先氏名になります。（見積書「鏡」に表示されます。）

[敬称]

当該客先に見積作成する場合の敬称を設定します。見積作成時にこの客先が選択されると、敬称もここで設定された内容が既定値として設定されます。（鏡作成時での変更も可能です）

[市場単価の適用区分]

当該客先に見積作成する場合で市場単価の見積を作成する際の市場単価適用区分を設定します。見積作成時にこの客先が選択されると、当該区分もここで設定された内容が既定値として設定されます。（鏡作成時での変更も可能です）

[労務費単価の地域]

当該客先に見積作成する場合の労務費単価の地域を設定します。見積作成時にこの客先が選択されると、当該区分もここで設定された内容が既定値として設定されます。（鏡作成時での変更も可能です）

※[<<ユーザID設定県]ボタンを押すと、

[客先大分類]

当該客先が属する客先大分類です。既に登録されている客先大分類がリストで表示されます。それらから選択するか、あらたに直接入力することも出来ます。（見積書には表示されません。）

[客先中分類]

当該客先が属する客先中分類です。同画面の[客先大分類]に設定された分類に属する[客先中分類]がリストで表示されます。それらから選択するか、あらたに直接入力することも出来ます。（見積書には表示されません。）

[備考]

この客先情報に対するコメント等を登録できます。（見積書には表示されません。）

[使用区分]

ここに（使用不可）にチェックを入れると、見積書作成の客先選択時に当該客先が表示されません。

[OK] ボタン

新規登録や変更内容を保持したまま画面を閉じます。

※ 実際の保存作業は「客先選択画面」を閉じる時に行われます。

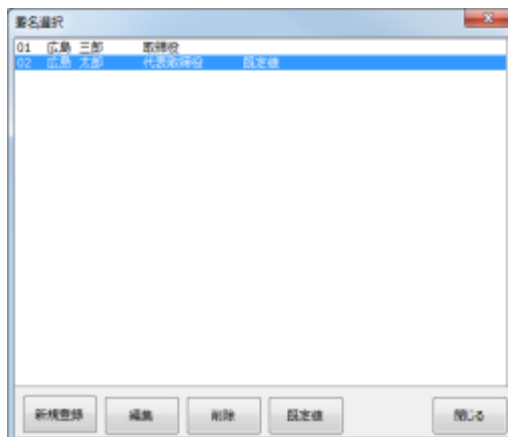
[キャンセル] ボタン

新規登録や変更内容を破棄して画面を閉じます。

6-3-7. 署名マスタ

6-3-7-1. 署名選択画面

[マスタメンテナンス]のサブメニューで[署名マスタ]を押すと表示されます。



[登録リスト]

現在登録されている署名情報が表示されます。
ここをダブルクリックすると登録内容の編集が出来ます。

[新規登録] ボタン

リストにない署名情報を新規に登録するための登録画面を開きます。

[編集] ボタン

リストを選択（シングルクリック）して押すと署名情報の編集画面を開きます。
（リストをダブルクリックするのと同じ意味になります。）

[削除] ボタン

リストを選択（シングルクリック）して押すと選択された署名情報を削除します。

[既定値] ボタン

リストを選択（シングルクリック）して押すと選択された署名情報が規定値に切り替わります。

[閉じる] ボタン

署名選択画面を閉じます。内容に変更があった場合は、その旨を表示し、保存の確認がされます。

6-3-7-2. 署名情報画面

[署名選択]画面で[新規登録]ボタンを押すか、[編集]ボタンを押すなどで表示されます。

No	02		
郵便番号	7300831		
住所	広島市中区江波西1丁目25番5号		
社名	株式会社〇〇建設コンサルタント		
部署名			
代表者名	広島 太郎		
役職	代表取締役		
TEL	082-123-4567	FAX	082-999-9999
MEMO			
担当者氏名			
URL	https://www.aec-soft.co.jp/		
MAIL			
初期値区分	<input checked="" type="checkbox"/> この署名情報を作成時の既定値とする。		

[No]

署名情報固有の番号です。新規作成時は自動採番されたものを修正出来ます。最大3桁まで設定できます。修正時は変更出来ません。

[初期値区分]

ここにチェックをすると、見積り作成時にデフォルトとして引用されます。

その他の項目については文字通りですので省略しますが、現時点で見積書に表示(印刷)されないものがあります。以下を参照ください。

- ・ 見積書(鏡)に表示されるもの
[住所]、[社名]、[代表者名]、[役職]、[TEL]、[FAX]、[URL]、[MAIL]
- ・ 見積書に表示されないもの
[〒]、[部署名]、[MEMO]、[担当者氏名]

[OK] ボタン

新規登録や変更内容を保持したまま画面を閉じます。

※ 実際の保存作業は「客先選択画面」を閉じる時に行われます。

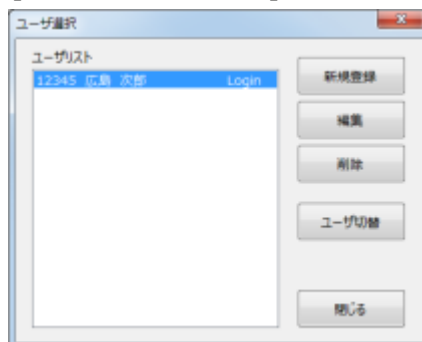
[キャンセル] ボタン

新規登録や変更内容を破棄して画面を閉じます。

6-3-8. ユーザマスタ

6-3-8-1. ユーザ選択画面

[マスタメンテナンス]のサブメニューで[ユーザマスタ]を押すと表示されます。



[ユーザリスト]

現在登録されているユーザIDと氏名が表示されます。
ここをダブルクリックすると登録内容の編集が出来ます。

[新規登録] ボタン

[ユーザリスト]にないユーザ情報を新規に登録するための登録画面を開きます。

[編集] ボタン

[ユーザリスト]を選択（シングルクリック）して押すとユーザ情報の編集画面を開きます。
（[ユーザリスト]をダブルクリックするのと同じ意味になります。）

[削除] ボタン

[ユーザリスト]を選択（シングルクリック）して押すと選択されたユーザ情報を削除します。

[ユーザ切替] ボタン

現在ログインしているユーザを切り替えます。
リストを選択してからボタンを押すと、選択されたユーザIDが入った状態でログイン画面が表示されます。ログイン後は登録ユーザリスト画面に戻ります。

[閉じる] ボタン

ユーザ選択画面を閉じます。内容に変更があった場合は、その旨を表示し、保存の確認がされます。

6-3-8-2. ユーザ情報画面

[ユーザ選択]画面で[新規登録]ボタンを押すか、[編集]ボタンを押すなどで表示されます。



[ユーザID]

ユーザを一意に識別するための5桁のコードです。新規作成時に入力します。修正時は変更出来ません。※省略不可

[氏名]

ユーザの氏名を入力します。※省略不可

[よみがな]

読み仮名をひらがなで指定します。

[分類コード]

当該ユーザを分類するためのグループコード3桁を指定します。※省略不可。見積もりNOに組み込まれます。→ ([「6-2-1. 鏡画面」](#) [見積NO]参照)

[労務費単価県]

見積書を作成する際に、既定値としてセットされる労務単価の県を設定します。当該ユーザIDで見積する際にもっともよく適用する県を登録しておきます。

※ 但し、見積書作成時において、選択した客先情報に労務単価県が設定されている場合は、そちらが優先されます。

[備考]

任意に文字を登録出来ます。

[OK] ボタン

新規登録や変更内容を保持したまま画面を閉じます。

※ 実際の保存作業は「ユーザ選択画面」を閉じる時に行われます。

[キャンセル] ボタン

新規登録や変更内容を破棄して画面を閉じます。

※ ログインしたユーザIDと分類コードは見積り番号の一部に使用されます。見積書の作成者を特定する意味で重要ですので、必ず個人のIDおよび分類コードを確定後、運用するようにしてください。

6-3-9. 最新マスタへ更新

[マスタメンテナンス]のサブメニューで[最新マスタへ更新]を押すと表示されます。(「6-7-1. 更新機能」と同様の画面、機能となります)



[現在のマスタバージョン]

現在の見積システムに設定されている見積マスタのバージョンを現します。メインメニューの下部に表示されているマスタバージョンと同じものが表示されます。

[サーバ上の最新バージョン]

現在の弊社（アライズソリューション）ホームページ上にアップされている見積マスタの最新バージョンを現します。

[マスタバージョンアップファイル一覧]

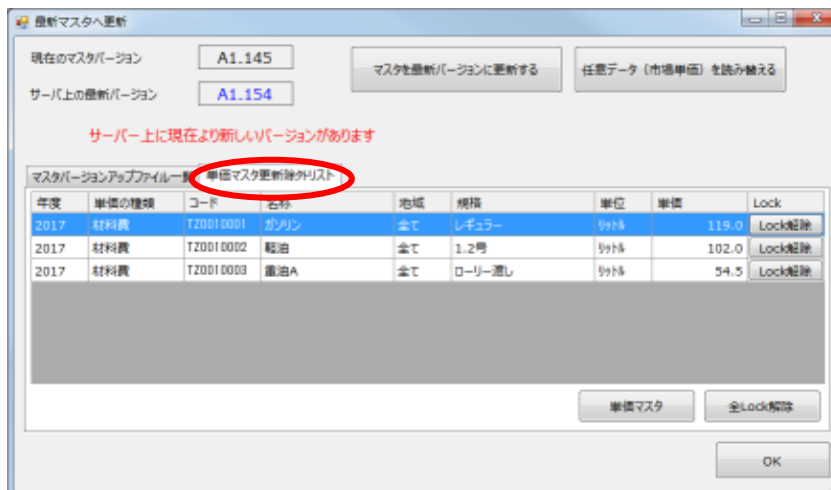
現在の弊社（アライズソリューション）ホームページ上にアップされている見積マスタのバージョンアップファイルの一覧が表示されます。

新しいものが先頭に表示され順次古いものが表示されます。したがって、通常1行目のバージョンが上記の[サーバ上の最新バージョン]と同じものになります。

※通常の運用をする場合、常に最新バージョンの適用を行えばいいので、この一覧の2行目以下は意識する必要はありません。1行目の「主な内容」や「変更内容」をご確認ください。

[単価マスタ更新除外リスト]

現在使用中の単価マスタ内で更新をロックされている単価一覧が表示されます。



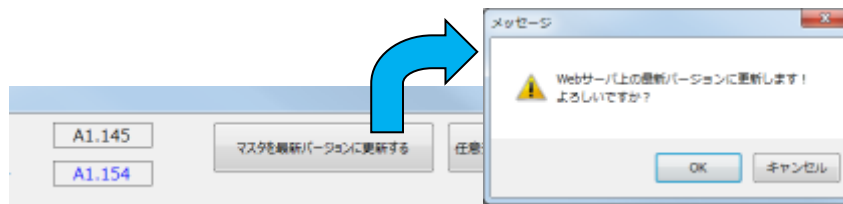
※ここに表示されている単価はマスタのバージョンアップを行っても情報は更

新されません。

- ・ [Lock解除] ボタン 単価マスタ更新除外リストから当該単価を外します。
- ・ [単価マスタ] ボタン 単価マスタ一覧画面を表示します。マスタメンテナンスから単価マスタを開いたのと同じです。ここで単価の編集画面からロックの設定変更が可能です。
- ・ [全Lock解除] ボタン 現在表示されている単価マスタ更新除外リストの単価ロックを全て外します。

[マスタを最新バージョンに更新する] ボタン

現在のマスタをサーバ上の最新バージョンにバージョンアップします。



最新バージョンへの更新に問題がなければ、確認画面が表示されますので、OKを押すと、バージョンアップ処理が開始されます。



※バージョンアップ処理は上記のようにXML形式の更新ファイルを自動でダウンロードし適用する処理が動作します。更新前のバージョン状態によっては、複数回処理が繰り返される場合があります。

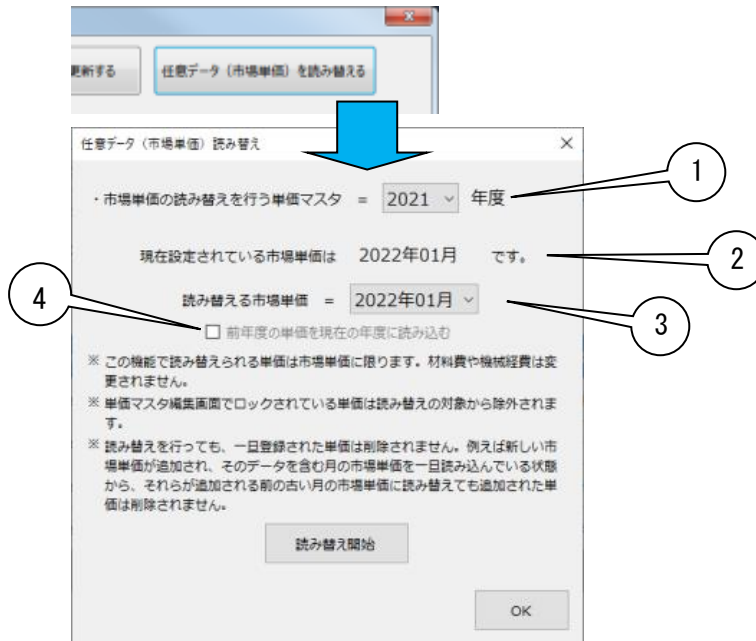
※バージョンアップできないケース

ボタンを押しても次のようなケースではバージョンアップが行われません。

- ・ 現在のバージョンが自動バージョンアップ対象以前の場合
このケースは古いCD等からセットアップをされた場合などが考えられます。一度、自動バージョンアップ対象まで手動によりバージョンアップいただくか、最新のマスタの再セットアップをご検討ください。
- ・ 現在のバージョンが弊社（アライズソリューション）ホームページ上にアップされている最新バージョンよりあたらしい場合
このケースは通常ありえませんが、何らかの不具合が考えられます。サポートまでご連絡ください。

[任意データ（市場単価）を読み替える] ボタン

現在使用中のマスタに含まれる任意データ（市場単価）を別途指定の年月のデータを読み替えるための画面を表示します。



①市場単価の読み替えを行う単価マスタの年度

市場単価の読み替えを行う単価マスタの年度をコンボボックスで選択します。初期値として、見積作成時の内訳項目選択画面で指定している単価年度を表示します。現在の単価マスタに含まれている年度から選択可能です。

②現在設定されている市場単価の年月

①で選択された年度の単価マスタに設定されている市場単価の現在の年月をあらわします。

※こちらの年月は年度ではなく年表示なのでご注意ください。

③読み替える市場単価の年月

指定年度の市場単価として弊社（アライズソリューション）ホームページ上にアップされているものの年月がコンボボックスで選択できます。

④前年度の単価を現在の年度に読み込む

年度変わりのタイミングなどで、前年度の単価を現在の年度として設定したい場合などには本チェックをONにすると、前年度として作成されている任意データが「読み替える市場単価」の選択コンボボックスに表示され、選択可能となります。

※本チェックは状態保存されません。（本ウィンドウを開くたびにOFFになっています。）

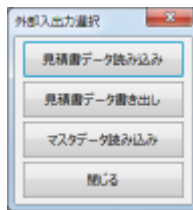
[読み替え開始]ボタン

指定された年月の市場単価データを弊社（アライズソリューション）ホームページ上からダウンロードし単価マスタに読み込み（読み替え）ます。

6-4. 外部入出力機能

6-4-1. 外部入出力選択画面

メインメニューから[外部入出力]を押すと表示されます。



[見積書データ読み込み]

[書き出し]により出力された見積りデータ（XML形式ファイル）をフォルダから選択し、データベース内に読み込みます。

[見積書データ書き出し]

登録されている見積り案件のうち、選択したものを外部ファイル（XML形式ファイル）に出力します。

[マスタデータ読み込み]

歩掛マスタや単価マスタなどのマスタデータに関する追加・更新データ（XML形式ファイル）を読み込みます。

[閉じる]

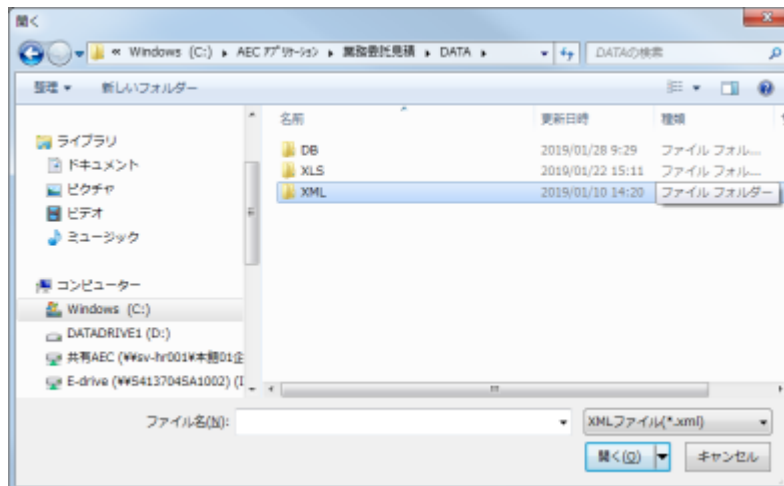
外部入出力選択画面を閉じます。

<外部ファイル>

ファイル形式	: XML形式
ファイル名称	: 任意指定
ファイル拡張子	: xml
ファイル数	: 1（1回に入出力されるファイル数）
入出力される内容	: 見積りデータ（マスタは除く）

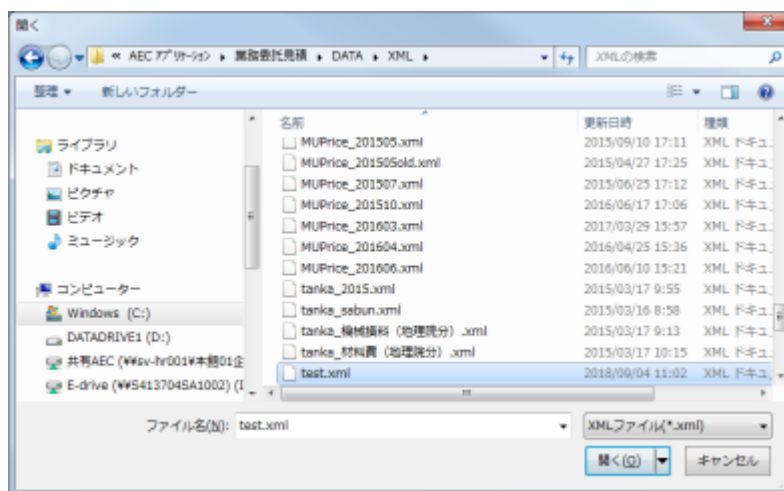
6-4-2. 見積書データ読み込み

[見積書データ読み込み]を押すと以下のウィンドウが開き、読み込むファイルの指定を促します。



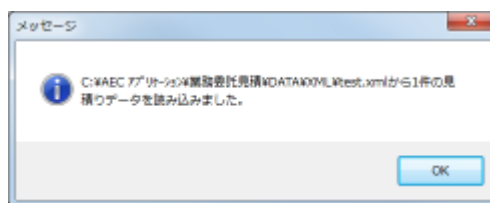
ファイルの保存場所を切り替えて、書き出し済みの見積りデータ（「[6-4-3.見積書データ書き出し](#)」参照）が格納されているフォルダに移動し、該当ファイルを選択して[開く]ボタンを押します。

↓フォルダを移動



↓該当ファイルを選択

↓[開く]を押すと読み込み処理が実行される。

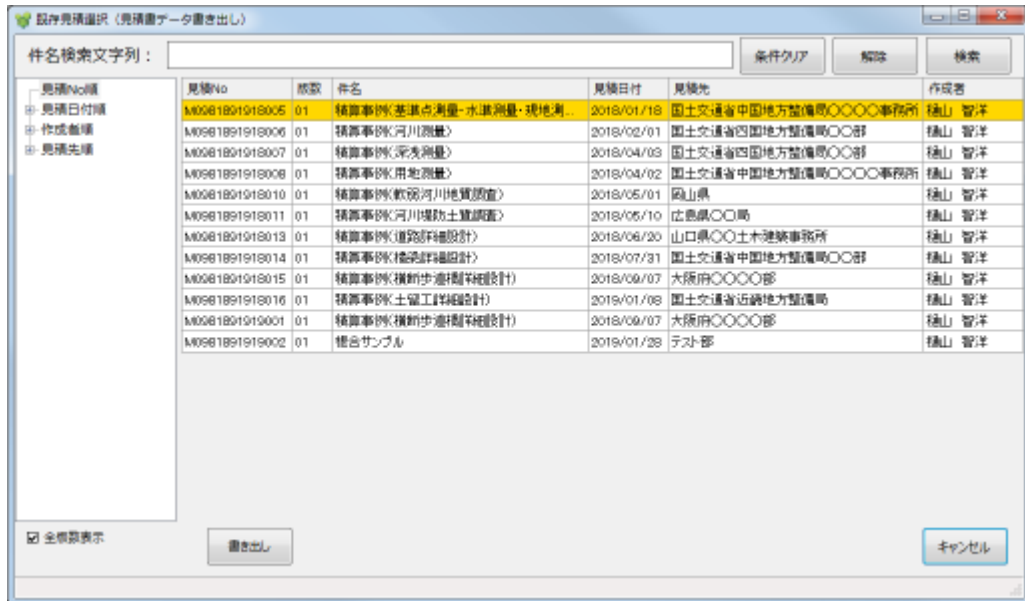


読み込み処理が終了すると、上のような通知メッセージが表示されます。

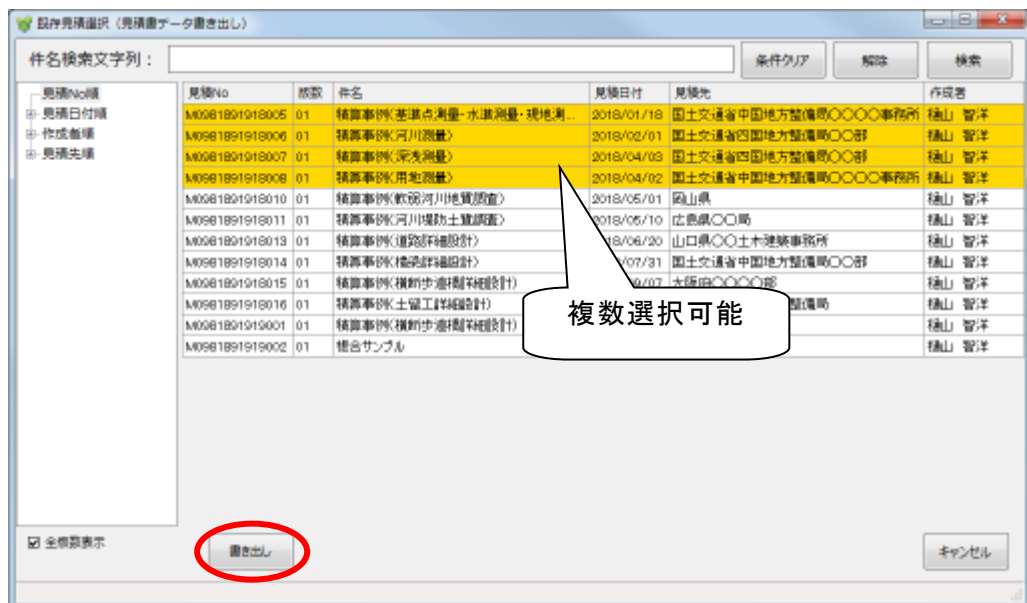
※読み込もうとしたデータが、既にデータベース内に存在する場合（見積りNOと版数が同じデータが存在する場合）は、重複案件は読み込まれません。但し、通知メッセージには、全件読み込んだというメッセージになりますので注意してください。

6-4-3. 見積書データ書き出し

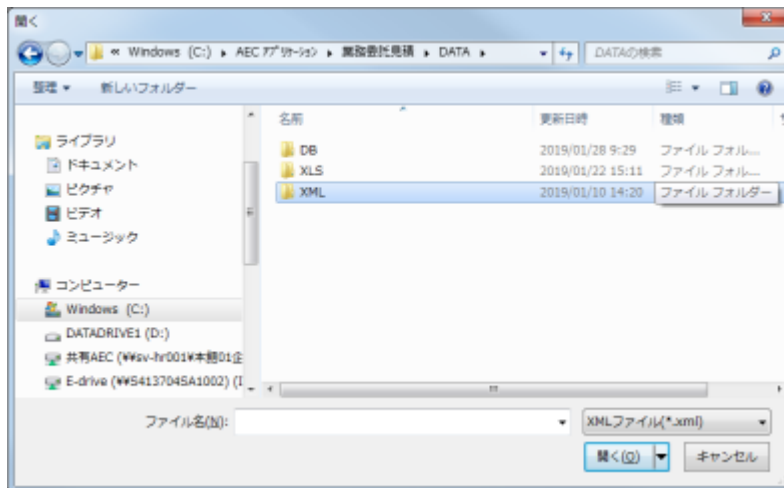
[見積書データ書き出し]を押すと以下のように、書き出し案件を選択する画面が表示されます。



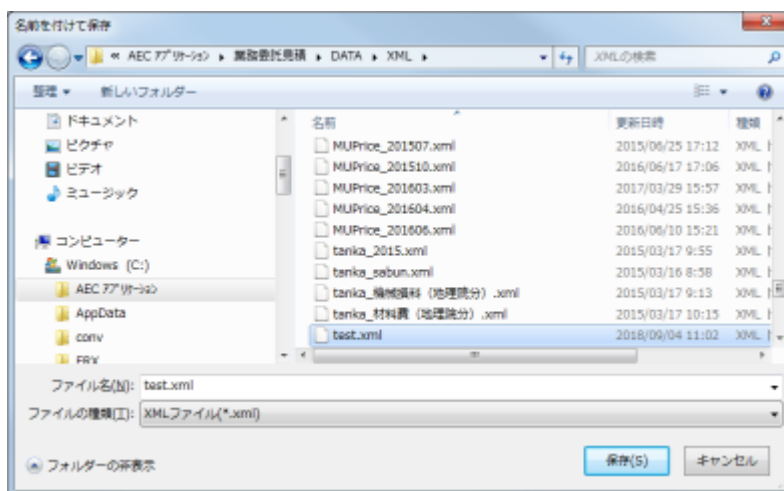
書き出したい見積りをリストから選択（複数選択可）し、[外部出力]ボタンを押します。



↓ 出力先を指定する

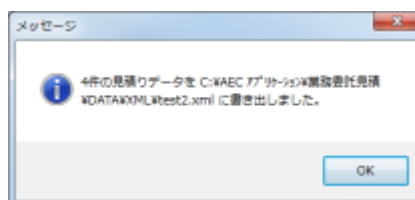


↓フォルダ選択



↓ファイル名指定

↓ [保存]を押すと書き出し処理が実行される。

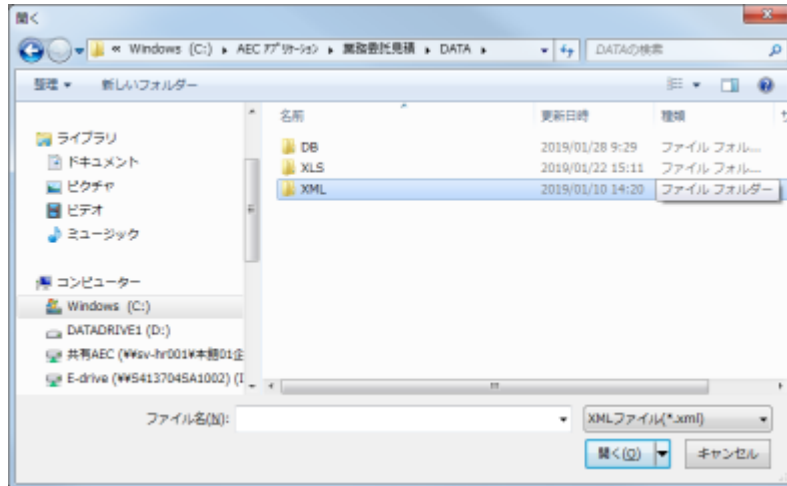


処理が完了すると上のような通知メッセージが表示されます。

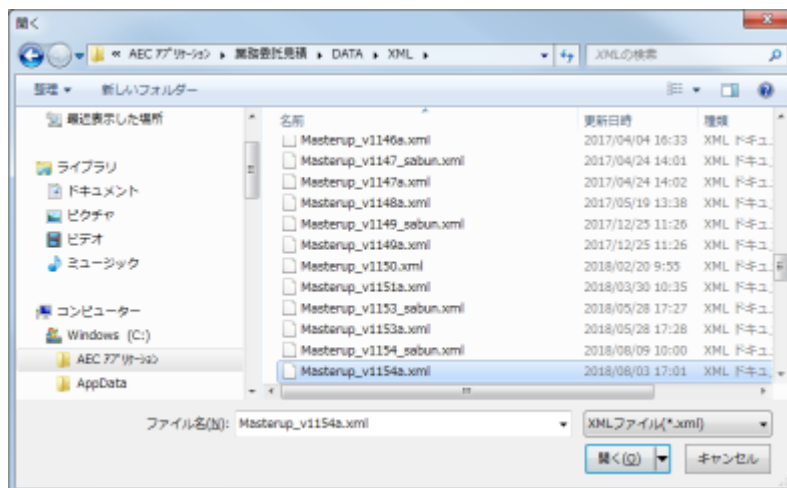
※ 書き出しファイルの名称は任意です。拡張子は指定しなくても自動で付きます。逆に自身で拡張子を付ける場合は必ずxmlにしてください。間違った指定するとそのまま指定された拡張子が付きます。

6-4-4. マスタデータ読み込み

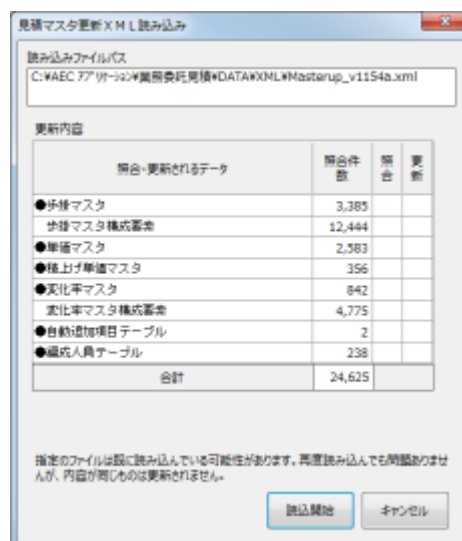
[マスタデータ読み込み]を押すと以下のウィンドウが開き、読み込むファイルの指定を促します。



該当ファイルをダブルクリックするか、選択状態にして[開く]ボタンを押します。



読み込むファイルにより更新されるマスタとその件数が表示されます。



内容を確認の上、[読込開始]ボタンを押すと、再度確認メッセージが表示された後、読み込み処理が行われます。処理が完了すると、結果が更新区分などにより示されます。

- ・ 実行区分チェック状態：読み込んだXMLにデータがあり、正しく読み込んだ。
- ・ 更新区分チェック状態：読み込んだXMLデータがデータベース上に正しく反映された。

※ 実行区分はチェック状態だが更新区分がチェックされない状態である場合は、読み込んだXML情報とデータベースの内容が同じ場合を意味します。同じXMLファイルを重複して読み込んだ場合などが考えられます。

6-5. 環境設定画面

メインメニューで[環境設定]を押すと表示されます。

環境設定

■接続先指定

マスタDB C:¥AEC ア7° リケーション¥業務委託見積¥DATA¥DB¥見積Master.aec ...

データDB C:¥AEC ア7° リケーション¥業務委託見積¥DATA¥DB¥見積Data.aec ...

■Excelシート保存先

元シート C:¥AEC ア7° リケーション¥業務委託見積¥DATA¥XLS¥見積書様式_v051.xls ...

オリジナル鏡シート C:¥AEC ア7° リケーション¥業務委託見積¥DATA¥XLS¥見積書 (鏡) 様式_オリジ ...

出力先 C:¥Users¥Hiyama¥Desktop¥業務委託見積 ...

Excel出力と同時にPDFファイルにも書き出す

■見積作成時の消費税率初期値 10.0 %

データベースの最適化 ライセンス認証 OK キャンセル

[マスタDB]

当システムのマスタデータを格納しているデータベースファイルを指定します。

既定ファイル名 : 見積Master.aec

※マスタデータとは、歩掛マスタ、単価マスタ等の標準歩掛を構成する要素データのことです。

[データDB]

ユーザが作成した見積りデータを格納しているデータベースファイルを指定します。

既定ファイル名 : 見積data.aec

[元シート]

見積書の出力様式元ファイルを指定します。

既定ファイル名 : 見積書様式_vXXX.xls

(※v以下のXXXには様式バージョンを示す数字が入ります。)

[オリジナル鏡シート]

見積書の鏡を独自の様式で出力する場合にチェックし、その独自様式ファイルを指定します。

(「[7-3. オリジナル鏡シート](#)」参照)

[出力先]

見積書内訳画面で[Excel出力]を実行した際に、見積書が書き出されるフォルダを指定します。

この指定のみ、上記3つとは異なり、フォルダ選択となります。

(ファイル名は指定しない。)

※上記の指定は、何れもそれぞれの右側にある[...]ボタンを押すことで選択ダイアログが表示し指定出来ます。

[Excel出力と同時にPDFファイルにも書き出す]チェック

チェックをONに設定すると、見積書のExcel出力において[Excel表示]ボタンを押下した際に、同様の内容をPDF形式ファイルに自動的に書き出します。(出力フォルダはExcelファイルと同じ出力先)

※PDF出力機能に関しては、お使いのPC環境又はExcelのバージョン等によっては動作しない場合がございます。その場合はチェックをOFFに設定してください。

[見積作成時の消費税率初期値]

「新規見積り作成」で見積書を最初に作成した際、鏡に設定される税率を設定します。

[データベースの最適化] ボタン

マスタDB、データDBで設定されている本システムのデータベースの最適化を行います。長期にわたり本システムをご使用頂いているユーザ様はデータベースが非効率な状態になることがあります。その場合は、このボタンを押すことにより、最適化を行ってください。但し、以下の点をご理解頂き行ってください。

※データベースの最適化は、ごく稀なケースですが、不具合を起しデータベースが復旧不能な状態になることがあります。したがって、パソコンの動作が不安定な場合等を行わないようにしてください。また、初めて最適化を行う際は、慎重を期す意味で、事前にマスタDBとデータDBで指定されているデータベースファイルをエクスプローラ等でコピーしてバックアップする等の対応をおすすめします。

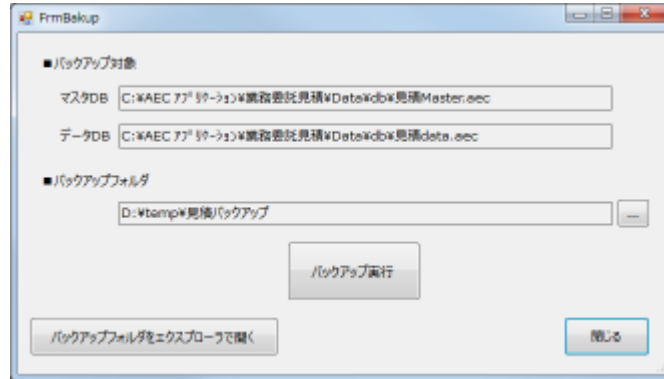
[ライセンス認証] ボタン

本システムに設定されているプロテクタの設定を行います。

([「5-2. ライセンス認証情報の設定」](#)参照)

6-6. バックアップ機能

[メインメニュー] の [バックアップ] ボタンを押すと以下の画面が表示されます。



[バックアップ対象]

バックアップの対象となるファイルのパスをあらわします。マスタDB、データDB共に環境設定で設定されているパスがそのまま表示されます。このバックアップ画面では確認のみで変更は出来ません。

[バックアップフォルダ]

バックアップ先のフォルダです。[...]ボタンを押して切り替え可能です。1度設定すると次回に引き継がれます。

[バックアップ実行] ボタン

バックアップフォルダにバックアップ対象DB(ファイル)をバックアップします。ボタンを押した時刻をファイル名に付加しバックアップファイルを作成します。

- ・作成されるバックアップファイル名
見積Master_backupyyyyMMddhhmmss.aec
見積data_backupyyyyMMddhhmmss.aec

(yyyyMMddhhmmss:西暦年4桁+月2桁+日2桁+時2桁+分2桁+秒2桁)

[バックアップフォルダをエクスプローラで開く] ボタン

バックアップフォルダをエクスプローラで開きます。開いたエクスプローラは見積システムの動作と連動しませんので、終了の際は別途操作してください。

[閉じる] ボタン

バックアップ画面を閉じます。

※当該機能(手動バックアップ)ではファイル名に時分秒まで付加し、上書きが発生しないようにしていますが、何らかの事由により同日同時刻となった場合は上書きされます。

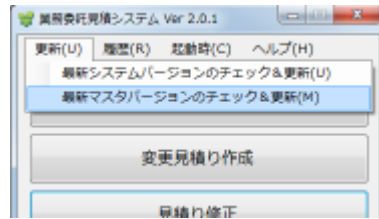
※フォルダ内の自動削除等はいりませんので、手動により(エクスプローラ等で)整理してください。

※バックアップしたファイルを元のファイルに戻す(リストア)機能は設けておりません。同処理が必要な場合はエクスプローラ等を使用し、元のファイル名及びフォルダに手動コピー及びリネームなどの対応をしてください。

6-7. その他の機能（更新・履歴・起動時・ヘルプ）に関する機能

6-7-1. 更新機能

メインメニューで[更新(U)]を押すと以下のサブメニューが表示され実行できます。



【最新システムバージョンのチェック&更新(U)】

見積システムのバージョンアップ画面を表示します。

(「[6-7-1-1. システムのバージョンアップ](#)」参照)

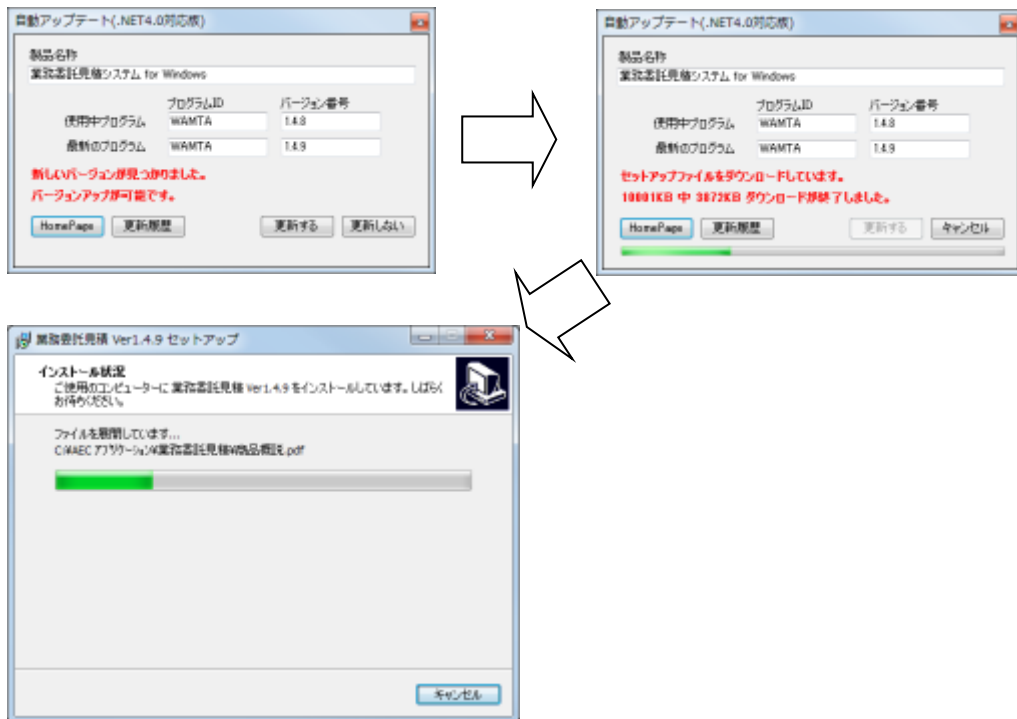
【最新マスタバージョンのチェック&更新(M)】

見積マスタのバージョンアップ画面を表示します。

(「[6-7-1-2. マスタのバージョンアップ](#)」及び「[6-7-1-3. 任意データ（市場単価）を読み替え](#)」参照)

6-7-1-1. システムのバージョンアップ

【最新システムバージョンのチェック&更新(U)】を実行すると、以下の画面が表示されます。



サーバ上のバージョンが新しいか同じ場合は[更新する]ボタンを押すと、サーバから新しいシステムのセットアップがダウンロードされシステムのバージョンアップが開始します。バージョンアップを行わない場合は[更新しない]ボタンを押すと同画面が閉じ、メインメニューに戻ります。

※通常は起こりませんが、サーバ上のバージョンが現在のバージョンより古い場合は[更新する]ボタンが押せない状態となります。

※システムのバージョンアップには歩掛などのマスタデータの更新は含まれません。歩掛や単価の更新に関しましては、その都度、メール又は弊社ホームページ上でご案内申し上げます。

6-7-1-2. マスタのバージョンアップ

[最新マスタバージョンのチェック&更新(M)]を実行すると、以下の画面が表示されます。（「[6-3-9. 最新マスタへ更新](#)」と同様の画面、機能となります）



[現在のマスタバージョン]

現在の見積システムに設定されている見積マスタのバージョンを現します。メインメニューの下部に表示されているマスタバージョンと同じものが表示されます。

[サーバ上の最新バージョン]

現在の弊社（アライズソリューション）ホームページ上にアップされている見積マスタの最新バージョンを現します。

[マスタバージョンアップファイル一覧]

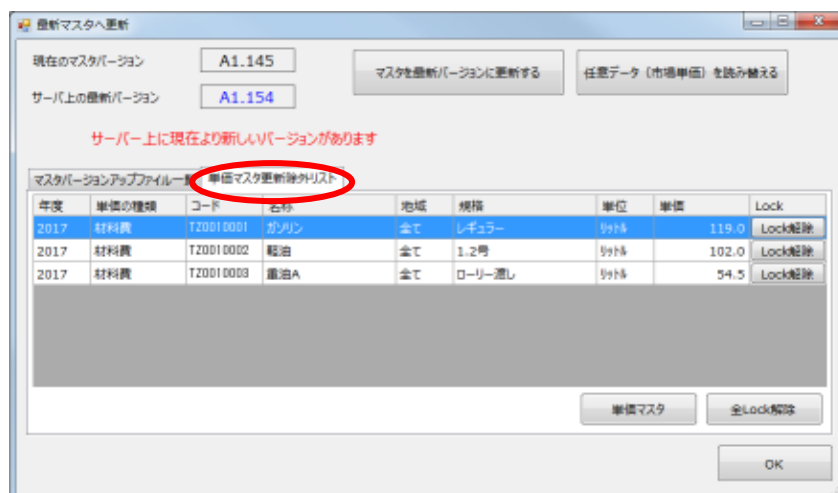
現在の弊社（アライズソリューション）ホームページ上にアップされている見積マスタのバージョンアップファイルの一覧が表示されます。

新しいものが先頭に表示され順次古いものが表示されます。したがって、通常1行目のバージョンが上記の[サーバ上の最新バージョン]と同じものになります。

※通常の運用をする場合、常に最新バージョンの適用を行えばいいので、この一覧の2行目以下は意識する必要はありません。1行目の「主な内容」や「変更内容」をご確認ください。

[単価マスタ更新除外リスト]

現在使用中の単価マスタ内で更新をロックされている単価一覧が表示されます。

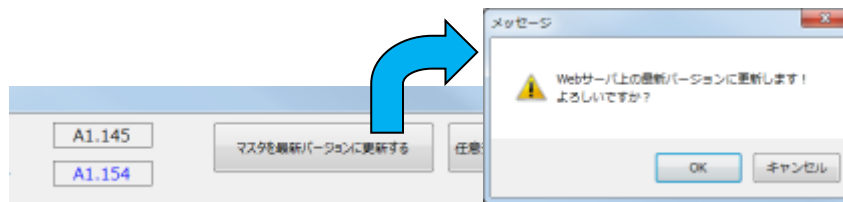


※ここに表示されている単価はマスタのバージョンアップを行っても情報は更新されません。

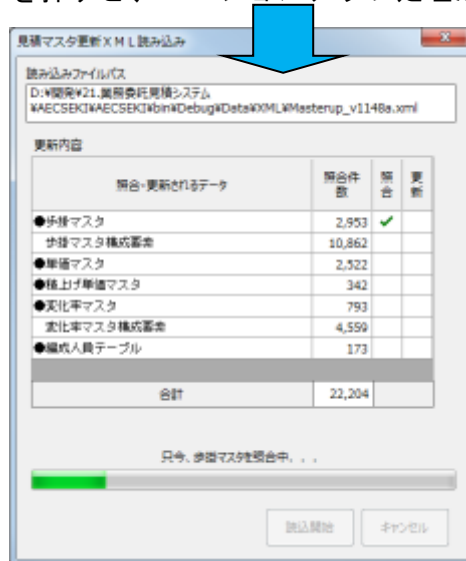
- ・ [Lock解除] ボタン 単価マスタ更新除外リストから当該単価を外します。
- ・ [単価マスタ] ボタン 単価マスタ一覧画面を表示します。マスタメンテナンスから単価マスタを開いたのと同じです。ここで単価の編集画面からロックの設定変更が可能です。
- ・ [全Lock解除] ボタン 現在表示されている単価マスタ更新除外リストの単価ロックを全て外します。

[マスタを最新バージョンに更新する] ボタン

現在のマスタをサーバ上の最新バージョンにバージョンアップします。



最新バージョンへの更新に問題がなければ、確認画面が表示されますので、OKを押すと、バージョンアップ処理が開始されます。



※バージョンアップ処理は上記のようにXML形式の更新ファイルを自動でダウンロードし適用する処理が動作します。更新前のバージョン状態によっては、複数回処理が繰り返される場合があります。

※バージョンアップできないケース

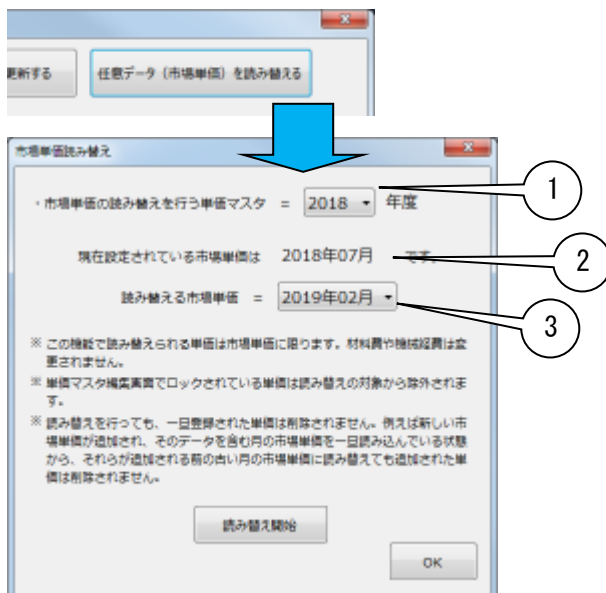
ボタンを押しても次のようなケースではバージョンアップが行われません。

- ・ 現在のバージョンが自動バージョンアップ対象以前の場合
このケースは古いCD等からセットアップをされた場合などが考えられます。一度、自動バージョンアップ対象まで手動によりバージョンアップいただくか、最新のマスタの再セットアップをご検討ください。
- ・ 現在のバージョンが弊社（アライズソリューション）ホームページ上にアップされている最新バージョンよりあたらしい場合
このケースは通常ありえませんが、何らかの不具合が考えられます。サポートまでご連絡ください。

6-7-1-3. 任意データ（市場単価）の読み替え

[任意データ（市場単価）の読み替える]ボタン

現在使用中のマスタに含まれる任意データ（市場単価）を別途指定の年月のデータに読み替えるための画面を表示します。



①市場単価の読み替えを行う単価マスタの年度

市場単価の読み替えを行う単価マスタの年度をコンボボックスで選択します。初期値として、見積作成時の内訳項目選択画面で指定している単価年度を表示します。現在の単価マスタに含まれている年度から選択可能です。

②現在設定されている市場単価の年月

①で選択された年度の単価マスタに設定されている市場単価の現在の年月をあらわします。

※こちらの年月は年度ではなく年表示なのでご注意ください。

③読み替える市場単価の年月

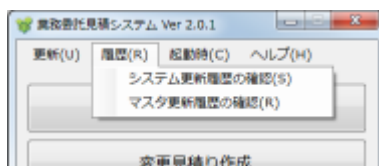
指定年度の市場単価として弊社（アライズソリューション）ホームページ上にアップされているものの年月がコンボボックスで選択できます。

[読み替え開始]ボタン

指定された年月の市場単価データを弊社（アライズソリューション）ホームページ上からダウンロードし単価マスタに読み込み（読み替え）ます。

6-7-2. 履歴機能

メインメニューで[履歴(R)]を押すと以下のサブメニューが表示され実行できます。



[システム更新履歴の確認(S)]

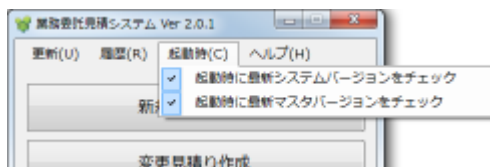
見積システムのシステムに関するバージョンアップに関する情報ページを開きます。システムバージョンアップが行われた際の改訂内容確認にご利用ください。

[マスタ更新履歴の確認(R)]

見積マスタのバージョンアップ内容画面を過去分も含めた表示します。

6-7-3. 起動時設定機能

メインメニューで[起動時(C)]を押すと以下のサブメニューが表示され実行できます。



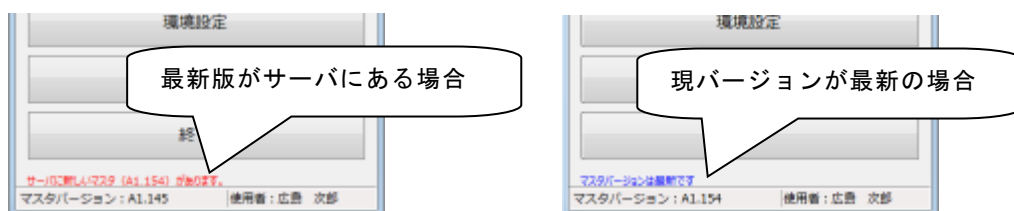
※このメニューは[更新]や[履歴]と異なり、以下のサブメニューを選択すると左端にチェックマークが付いたり外れたりします。

[起動時に最新システムバージョンをチェック]

チェックを付けた状態でシステムを終了すると、次回から見積システムを起動する際に弊社（アライズソリューション）ホームページ上にアップされている見積システムのバージョンをチェックし、起動中のバージョンより新しいものがあがっている場合は自動的にダウンロードしバージョンアップを行います。

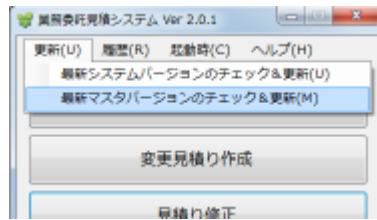
[起動時に最新マスタバージョンをチェック]

チェックを付けた状態でシステムを終了すると、次回から見積システムを起動する際に弊社（アライズソリューション）ホームページ上にアップされている見積マスタのバージョンをチェックし、起動中のマスタバージョンより新しいものがあがっている場合はメインメニュー下部に赤字でその旨を表示します。現在のバージョンが最新の場合は青字で表示します。



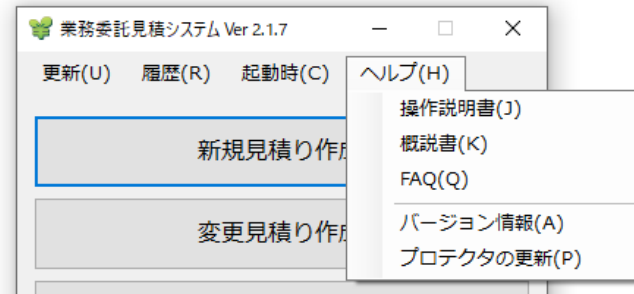
※システム場合とは異なりマスタは自動ではバージョンアップを行いません。赤字で通知を受けたら、[更新(U)]-[最新マスタバージョンチェック&更新(M)]を実行してください。





6-7-4. ヘルプ機能

メインメニューで[ヘルプ]を押すと以下のサブメニューが表示されます。



[操作説明書]

操作説明書（PDF）を開きます。

[概説書]

概説書（PDF）を開きます。

[FAQ]

よくあるご質問とその対応について取りまとめた弊社ホームページ（HTML）を開きます。

[バージョン情報]

現在のシステムバージョンを表示します。

[プロテクタの更新]

現在使用中のUSBプロテクタの更新を行います。
(「[10. プロテクタの更新方法](#)」参照)

7. 帳票説明

7-1. 帳票の種類

当システムで出力出来る帳票は以下の通りです。

帳票名	概説
鏡	いわゆる見積書の表紙にあたるもので、見積り先（宛名）や見積総額、署名情報などを印刷します。
見積条件	内訳画面の[見積り条件]ボタン→[見積り条件]画面に設定した文字が印刷されます。
総括表	業種毎の計と消費税、合計額を印刷します。
数量表	歩掛毎の数量を印刷します。業種毎に別表で印刷されます。
内訳書	歩掛毎の数量および単価、金額を印刷します。業種毎に別表で印刷されます。
内訳書（前回あり）	数量と金額が、前回と今回の2段表示になります。第2版以降の見積書を印刷する際に有効です。（変更見積り作成時に適用）
内訳表[直人別表示]	設計業務の内訳書において、直接人件費とそれ以外の直接業務費（電子計算機使用料など）を分けた表示形式で印刷します。
内訳表[直人別表示]（前回あり）	内訳書（前回あり）と同様で前回と今回の2段表示になります。
単価表	歩掛毎の単位当りの作業工程や人工、または適用変化率条件など、及びそれらによって求められた単価を印刷します。
単価表（2段表示）	単価表の直接業務に当る工数と金額において、標準と独自の値が2段に表示されます。
単価表（宿泊旅費）	「宿泊旅費」限定の単価表様式。（シート名は単価表と同じ表示方法なのでご注意ください。）
2次単価表	単価表内で適用されている単価に積上単価マスタで設定されている単価を使用している場合に自動的に作成されます。 ※該当する単価表に付随する形態なので、単価表を出力設定していない場合は2次単価表も作成されません。
変化率一覧	各歩掛に設定されている変化率条件および変化率を一覧表にして印刷します。 ※内訳表とは異なり、全業種一括の（改ページしない）一覧表になります。
金額構成一覧	内訳書画面に登録されている直接原価（直接業務費）配下の歩掛に関する金額構成一覧が業種毎のシートに分かれて表示されます。 ※当一覧は設計、地質（解析）及び補償業務に限り出力可能です。

金額構成一覧（経費目別）	<p>内訳書画面に登録されている直接原価（直接業務費）配下の歩掛に含まれている機械経費、通信運搬費、材料費、電子計算機使用料を別々のシートに一覧表示します。</p> <p>※当一覧は設計、地質（解析）及び補償業務に限り出力可能です。</p>
外業日数一覧	<p>内訳書画面に登録されている直接原価（直接業務費）配下の歩掛に関する外業日数一覧が業種毎のシートに分かれて表示されます。</p>

7-2. 各帳票の説明

7-2-1. 鏡

The image shows a sample of a Japanese accounting document (鏡) with several fields highlighted by numbered callouts (1-9):

- ① 見積書 (Estimate)
- ② 見積りNo. M881891905006-01 (Estimate No.)
- ③ 金11,613,772円也 (Total amount: 11,613,772 yen)
- ④ (円消費税 553,036円含む) (Including consumption tax of 553,036 yen)
- ⑤ 〇〇測量調査業務 (Measurement and Survey Business)
- ⑥ 国土交通省中国地方整備局広島国道事務所 工務課 国土 一郎 殿 (Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Hiroshima National Road Office, Construction Section, Mr. Ichiro Kuni)
- ⑦ 2009/12/10 (Date)
- ⑧ 広島市中区江波西1丁目2番5号 株式会社荒谷建設コンサルタンツ 代表取締役 荒谷 壽一 (Hiroshima City, Hara West 1-chome 2-ban 5-go, Hara Construction Consultants Co., Ltd., Representative Director Hara Shuichi)
- ⑨ 担当者 (Responsible Person) with a blank box for a signature.

Additional text on the document includes: 上記金額別紙内訳書の通り見積り致します。 (We estimate according to the breakdown sheet of the above amount.)

①表題

様式固定文字です。

②見積りNo

印刷時に「見積りNoの表示」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

③見積り総額

内訳画面で計算された総額が印字されます。

④消費税額

内訳画面で計算された消費税額が印字されます。

⑤件名

鏡画面の件名に設定した文字列が印字されます。

⑥見積り先情報（宛名）

鏡画面の[見積り先]に設定した内容が、印刷時に指定した宛名パターンに従って印字されます。

⑦見積り日付

鏡画面または印刷時に指定した見積日付が印字されます。

⑧署名情報

鏡画面の署名情報が印字されます。

⑨担当者捺印欄

様式固定文字です。

※鏡画面で「営業担当者」が設定できますが、実際に印刷時に担当者名は印字されません。

7-2-2. 見積り条件

① 見積り条件

② 見積りNo. M08189100006-01

③

測量
 <作業編成>
 各工種毎に1割
 <路線測量の現地条件>
 地形
 地質
 コンクリート
 曲線
 clearance
 測点間隔 20m
 地質調査
 <運搬費>
 運搬方法 モノレール
 換算距離 120m
 <準備及び備付けとして、ボーリング箇所の掘削除根、測量及び各種許可、申請手続きを見込んでいます。調査孔の閉塞を3箇所見込んでいます。>
 <諸基盤地～現場作業中心部までのライトバン運転費>

①表題

様式固定文字です。

②見積りNo

印刷時に「見積りNoの表示」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

③条件内容

「見積り条件」画面で登録した記事がそのまま印字されます。
 (「見積り条件」画面→「内訳表」画面の[見積り条件]ボタンで開きます。)

7-2-3. 総括表

① 総括表		③ 〇〇測量調査業務			② 見積り№: JM0081891909006-01	単位:円
費目	単位	数量	金額	備考		
測量業務価格	式	1.00	2,730,330			
設計業務価格	式	1.00	8,330,406			
計			11,060,736			
消費税			553,036			
合計			11,613,772			

1/1

①表題

「総括表」固定文字です。

②見積り№

印刷時に「見積り№の表示」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

③件名

鏡画面の件名に設定した文字列が印字されます。

[費目]

当該見積りに含まれている業種毎の「業務価格」と、それらを合計した「計」、さらにその計に掛かる「消費税」、及び総額を示す「合計」を印字します。

[単位]

業務価格の行に「式」が印字されます。それ以外は空白です。

[数量]

業務価格の行に「1.00」が印字されます。それ以外は空白です。

[金額]

それぞれの金額が印字されます。

[備考]

Excel出力画面で、「歩掛年度表示」にチェックを付けた状態でExcel出力を行うと、業種毎の備考欄に使用歩掛年度が表示されます。

「歩掛年度表示」にチェックをしていない状態の場合は空白です。

7-2-4. 数量表

① 数量表		③ 港湾・漁港(業務成果品費計算テスト)		② 見積りNo. M0981891909003-02	
業種/費目/工種/種別	規格	単位	設計数量	変更数量	摘要
測量					
虚積測量費					
港湾・漁港関係測量					
測量準備		式	1.00	2.00	
測量 陸上測量	1km未満(0.10)	式	1.00	2.00	
測量 海上測量	5km未満(0.10)	式	1.00	2.00	
設標 陸上設標	徒歩移動200m未満(0.00)、影響なし(1.00)、影響なし(1.00)	点	1.00	2.00	
設標 海上設標	1.0km未満(0.00)、影響なし(1.00)、5km未満(1.00)	点	1.00	2.00	
測角・測距	50m未満(0.00)、影響なし(1.00)、影響なし(1.00)	点	1.00	2.00	
整理計算		点	1.00	2.00	
視測基準測定		式	1.00	2.00	
虚積経費					
安全費		%	2.50	2.50	
業務成果品費(浮込測量・水路測量・汀線測量)		式	1.00	1.00	
技術管理費					
成果検定費		式	0.00	0.00	
虚積測量費					
諸経費		%	87.80	83.20	

①表題

「数量表」固定文字です。

②見積りNo

印刷時に「見積りNoの表示」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

③件名

鏡画面の件名に設定した文字列が印字されます。

[業種/費目/工種/種別]

内訳表画面で表示されている歩掛名称がそのまま印字されます。

※ 各「業務価格」の行と「改め計」の行は印字されません。

[規格]

内訳表画面で表示されている規格欄がそのまま印字されます。

[単位]

内訳表画面で表示されている単位欄がそのまま印字されます。

[設計数量]

内訳表画面で表示されている数量が印字されます。

[変更数量]

変更見積の場合で、前版の内訳画面で指定されていた数量が印字されます。

初版の場合は空白です。

[摘要]

内訳表画面で表示されている備考欄が印字されます。

7-2-5. 内訳表

① 内訳書		③		②		見積りNo. M098189190006-01		④
業種/費目/工程/種別	規格	単位	数量	単価	金額	備考	単位:円	
測量					2,730,330			
成程測量費					1,850,443			
路線測量					1,512,628			
作業計画		業務	1.00	64,540	64,540	単-01		
現地踏査	平地-新地(0.00), 0~1000省未満/12時間(0.00)	km	1.00	54,030	54,030	単-02		
線形決定(条件点の観測)	平地-新地(0.00)	点	1.00	7,678	7,678	単-03		
中心線測量	平地-新地(0.00), 0~1000省未満/12時間(0.00), 単曲線設置曲線法	km	1.00	264,350	264,350	単-04		
縦断測量	平地-新地(0.00), 0~1000省未満/12時間(0.00)	km	1.00	147,930	147,930	単-05		
横断測量	平地-新地(0.00), 0~1000省未満/12時間(0.00), 単曲線設置曲線法	km	1.00	446,650	446,650	単-06		
打合せ協議		式	1.00	77,800	77,800	単-07		
用地幅依設置測量	平地-新地(0.00), 0~1000省未満/12時間(0.00)	km	1.00	368,180	368,180	単-08		
線形決定	平地-新地(0.00)	km	1.00	81,470	81,470	単-09		
河川測量					0			
河川定期横断測量 直接水準(平地)	X/400 X=未設定	本	1.00	0	0	単-10		
直線経費					37,815			
旅費交通費		式	0.00	0	0	単-11		
安全費		%	2.50		37,815			
技術管理費					0			
成果検定費		式	0.00	0	0	単-12		
間接測量費					1,179,887			
諸経費		%	76.10		1,179,887			

①表題

「内訳表」固定文字です。

②見積りNo

印刷時に「見積りNoの表示」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

③件名

鏡画面の件名に設定した文字列が印字されます。

④歩掛年度

Excel出力画面で「歩掛年度表示」のチェックを付けた場合にここに歩掛年度が表示されます。チェックをしていない場合は何も表示されません。

【業種/費目/工程/種別】

内訳表画面で表示されている歩掛名称がそのまま印字されます。

【規格】

内訳画面で表示されている規格欄がそのまま印字されます。

【単位】

内訳表画面で表示されている単位欄がそのまま印字されます。

【数量】

内訳表画面で表示されている数量が印字されます。

※ 変更見積書（2版以降）の場合で、印刷設定画面で「内訳表（前回あり）」を選んだ場合は、内訳表画面同様、2段表示されます。

【単価】

内訳表画面で表示されている単価が印字されます。

【金額】

内訳表画面で表示されている金額が印字されます。

※ 変更見積書（2版以降）の場合で、印刷設定画面で「内訳表（前回あり）」を選んだ場合は、内訳表画面同様、2段表示されます。

【摘要】

内訳表画面で表示されている備考が印字されます。

7-2-6. 内訳表[直人別表示]

基本的な印字項目は「内訳表」と同じですが、設計業、地質（解析等）業、補償業に限り、以下の点が異なります。（測量、地質（一般）は通常の「内訳表」と全く同じものです。）

内訳書		〇〇測量調査業務					見積No. M0981891909006-01	単位:円
業務/費目/工種/種別	規格	単位	数量	単価	金額	摘要		
設計					9,639,457			
① 直接人件費					3,466,200			
道路詳細設計					1,353,250			
道路詳細設計(A) 予備設計あり	平地(0.00)、3~4車線(0.00)、複断面(0.00)、管架計画(1.00)、歩道等	km	1.00	1,353,250	1,353,250	単-13		
橋新築造橋詳細設計					2,112,350			
詳細設計	C型、I型(7型鋼使用含む)、H型(0.00)、標準(0.00)、標準の標準型式	橋	1.00	1,931,800	1,931,800	単-14		
現地調査					58,250		単-15	
設計協議					121,700		単-16	
② 直接経費					488,688			
③ 労務費					88,250			
電子計算機使用料					121,844			
繪費交通費		式	1.00	8,195	8,195	単-17		
電子成率品作成費(概略設計、予備設計又は詳細設計)		式	1.00	270,000	270,000			
簡接業務費					5,684,668			
簡接費		%	120.00		4,169,440			
技術経費		%	20.00		1,525,128			
技術経費(20%分)					1,525,128			
設計業務価格					9,639,457			

①直接人件費

内訳表画面の直接業務費から直接人件費のみを抽出した額が集計印字されます。当該配下の各歩掛金額も直接人件費のみになります。

②直接経費

内訳画面上の直接経費と、直接業務費から①の直接人件費を引いた経費を集計印字します。要は画面上の直接業務費のうち、直接人件費以外の部分を直接経費として印字します。

画面上、直接経費として現れていないもので、ここに集計される項目は以下があります。（上図例では③）

- ・ 労務費
- ・ 電子計算機使用料
- ・ 材料費
- ・ 通信運搬費
- ・ 精度管理費
- ・ 機械経費（パース作成費）

7-2-7. 単価表

① 単価表		② 中心線測量					③ 1.00km		④ 見積りNo. M0081891922001-01		⑤ 単価表-6		⑥ 単位:円	
作業工程	内業	測量主任	測量技師	測量助手	測量補助員	員数	金額	補正(率)	金額		金額			
中心点座標計算	内業	45,700	40,000	35,700	29,600	24,300				1,200	42,420	100	42,420	
測定設置	外業	2,500	2,800	2,200			7,500			251,080	100	251,080		
線形地帯四の作成	内業	0,500	0,600				1,100			38,420	100	38,420		
点検整理	外業	0,700	0,600				1,300			46,180	100	46,180		
工数計		0,000	4,300	4,600	2,200	0,000	11,100							
金額計		0	172,000	141,200	65,120	0				378,340		378,340		
直接人件費		0	172,000	141,200	65,120	0						378,340		
労務費		0	0	0	0	0						0		
福利厚生費												9,457		
測量運搬費												0		
材料費												20,808		
積立管理費												38,779		
小計												447,384		
変化率												1,00		
計												447,384		
五捨補正												447,390		
1km当り												447,390		

①表題

「単価表」固定文字です。

②見積りNo.

印刷時に「見積りNo.」の表示にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

③件名

鏡画面の件名に設定した文字列が印字されます。

④単位数量

単価表が示す金額の単位数量を印字します。

⑤単価表No.

内訳表画面の備考欄に表示される単価表No.を印字します。

⑥単価名称・単価

歩掛の構成単価の名称と単価を印字します。

⑦作業工程名称

歩掛の構成の作業工程名称を印字します。

⑧内業・外業

各作業工程が内業か外業かを表します。

⑨各工数

各作業工程・技術者毎の工数を表します。

出力前に設定した状態（変化率による補正前あるいは補正後の値）の工数を表します。（[6-2-8. Excel出力画面](#)を参照）

⑩員数

作業工程毎の工数計を表します。

出力前に設定した状態（変化率による補正前あるいは補正後の値）の工数を表します。（[6-2-8. Excel出力画面](#)を参照）

⑪金額

作業工程毎の各工数⑨に構成単価を掛けた金額を合計した額を表します。

※ 但し、工数の表示方法にかかわらず、設計、地質（解析）、補償に関しては、変化率補正後の工数に金額を掛けたものになります。

⑫補正率

作業工程毎の金額⑪に掛ける補正率を表します。単価表画面の[補正]欄に入力した値がそのまま印字されます。

⑬金額

金額⑪×補正率⑫の金額です。

⑭工数計

全工程の該当技術者の工数合計を表します。

出力前に設定した状態（変化率による補正前あるいは補正後の値）の工数を表します。（[6-2-8. Excel出力画面](#)を参照）

⑮金額計

全工程の該当技術者の単価に工数計⑭を掛けた金額を表します。

※単価表画面に当該金額の表示はありません。

⑯参考元

印刷時に「参考元情報を表示する」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

[直接人件費]

技術者毎の直接人件費及びトータルの直接人件費を印字します。

トータルの直接人件費は単価表画面のフッタ部分にある「直接人件費計」と同じになります。

[労務費]

技術者毎の労務費及びトータルの労務費を印字します。

トータルの労務費は単価表画面のフッタ部分にある「労務費計」と同じになります。

[機械経費]

単価表画面の「機械経費・損料」タブで設定・計算された金額が印字されます。

[通信運搬費]

単価表画面の「通信運搬費」タブで設定・計算された金額が印字されます。

[材料費]

単価表画面の「材料費」タブで設定・計算された金額が印字されます。

[精度管理費]（測量、地質（一般））

単価表画面の「精度管理費」タブで設定・計算された金額が印字されます。

[電子計算機使用料]（設計、地質（解析）、補償）

単価表画面の「電子計算機使用料」タブで設定・計算された金額が印字されます。

[小計]（測量、地質（一般））

[直接人件費]～[精度管理費]までを合計した金額が印字されます。

※設計等はこの小計はありません。

[変化率]

単価表画面の「機械経費・変化率」タブで設定された変化率の各条件と変化率合計が印字されます。

[計]

単価表画面の「合計金額」を印字します。

[全体補正]

単価表画面の「全体補正」に設定された率とその率を「計」に掛けた金額を印字します。

[x x 当り] (単位数量当り)

全体補正後の金額に (計上数量/基準数量) を掛けた金額を印字します。

7-2-8. 単価表（宿泊旅費）

見積No. MO961914007-01

① 単価表 ④ ⑤ ⑥ ⑦	③										④					⑧	⑩ 単位:円	
	⑤ 滞在地		⑨ 乙地方	⑩ 職 種	⑪ 編 成 人 員	⑪ 外業所要日数			⑫ 普通旅費相当分				⑬ 滞在日額旅費相当分			⑭ 合 計		
	⑥ 片道移動日数	⑥ 一泊				休日補正	補正係	金額	滞在日数	日 当	交通費	宿泊費	⑬ 滞在日額旅費相当分		合計			
⑧ 片道の交通費内訳(1人分)			⑪ 外業所要日数										⑫ 普通旅費相当分			⑬ 滞在日額旅費相当分		
交通手段		⑧ 交通費	⑧ 取扱額	⑧ 地質調査技師	⑧ 1	⑧ 13.8	⑧ 4	⑧ 18	⑧ 36,600	⑧ 1	⑧ 2	⑧ 11,998	⑧ 9,333	⑧ 8,782	⑧ 17	⑧ 205,715		
普通運送		3,760	3,472	主任地質調査員	⑧ 1	⑧ 27.6	⑧ 10	⑧ 38	⑧ 29,900	⑧ 1	⑧ 2	⑧ 11,998	⑧ 7,428	⑧ 7,057	⑧ 29	⑧ 6,352	⑧ 8	⑧ 304,795
特急料金		⑦ 2,730	⑦ 2,627	地質調査員	⑧ 1	⑧ 27.6	⑧ 10	⑧ 38	⑧ 22,400	⑧ 1	⑧ 2	⑧ 11,998	⑧ 7,428	⑧ 7,057	⑧ 29	⑧ 6,352	⑧ 8	⑧ 297,296
片道交通費計		⑧ 5,990																
										⑫ 普通旅費相当分計			⑬ 滞在日額旅費相当分計			⑭ 659,722		
													⑯ 差引金額計			⑰ 87,900		
													⑱ 差引金額除く計			⑲ 719,906		
													⑳ 宿泊旅費総額			㉑ 807,806		

1/1

①表題

「単価表」固定文字です。

②見積No

印刷時に「見積りNoの表示」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません

③件名

鏡画面の件名に設定した文字列が印字されます。

④単価表NO

内訳表画面の備考欄に表示される単価表NOを印字します。

⑤～⑱

宿泊旅費画面の「旅費計算表」に設定した各種値が印刷されます。（詳細は「[6-2-12. 宿泊旅費画面](#)」を参照してください。）

7-2-9. 2次単価表

2次単価表				見積りNo. M0981891913003-01		2単-3		単位:円
名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要		
重油A		リットル	62.00	81	5,022			
高級船員		日	1.20	22,500	27,000			
交通船(FRP D 70PS型 3.0t 51kW 運転換材)		日	1.00	3,020	3,020			
交通船(FRP D 70PS型 3.0t 51kW 供用日当り)		日	1.65	2,850	4,702			
現場管理費	上記の合計×率	%	21.54		8,860			
一般管理費	上記の合計×率	%	15.10		7,293			
	*** 計 ***				55,897			

①題

「2次単価表」固定文字です。

②見積りNo.

印刷時に「見積りNo.の表示」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

③2次単価名称

単価表の単価名称に設定表示されている文字列が印字されます。

[名称]

2次単価表を構成する単価の名称が印字されます。

[規格]

一部を除いて空欄です。

[単位]

2次単価を構成する単価の単位が印字されます。

[数量]

2次単価を構成する単価に対する数量が印字されます。

[単価]

2次単価を構成する単価が印字されます。

[金額]

2次単価を構成する単価の金額が印字されます。

[摘要]

2次単価画面で設定した備考欄の内容が印字されます。

7-2-10. 変化率一覧表

変化率一覧		〇〇測量調査業務		見積りNo. M0981891909006-01	
測量	業種/費目/工種/種別	変化率条件名	選択値	変化率	備考
路線測量					
現地調査		H0010008 路線測量 地形	平地-耕地	0.00	
現地調査		H0010009 路線測量 交通量	0~1000台未満/12時間	0.00	
		---<< 補正率 >>---	1+(H0010008+H0010009)	1.00	
線形決定(条件点の観測)		H0010008 路線測量 地形	平地-耕地	0.00	
		---<< 補正率 >>---	1+H0010008	1.00	
中心線測量		H0010008 路線測量 地形	高山地-森林	0.70	
		H0010009 路線測量 交通量	1000~3000台未満/12時間	0.10	
		H0010010 路線測量 曲線数	単曲線換算曲線数	0.20	
		H0010011 路線測量 測点間隔(中心線)	測点間隔10m	0.30	
		---<< 補正率 >>---	1+(H0010008+H0010009+H0010010+H0010011)	2.30	
縦断測量		H0010008 路線測量 地形	平地-耕地	0.00	
		H0010009 路線測量 交通量	0~1000台未満/12時間	0.00	
		---<< 補正率 >>---	1+(H0010008+H0010009)	1.00	
横断測量		H0010008 路線測量 地形	平地-耕地	0.00	
		H0010009 路線測量 交通量	0~1000台未満/12時間	0.00	
		H0010010 路線測量 曲線数	単曲線換算曲線数	0.00	
		H0010012 路線測量 測量幅及び測点間隔(横断)	幅45m以上~75m未満-間隔20m	0.00	
		---<< 補正率 >>---	1+(H0010008+H0010009+H0010010+H0010012)	1.00	
用地幅状設置測量		H0010008 路線測量 地形	平地-耕地	0.00	

①表題

「単価表」固定文字です。

②見積りNo

印刷時に「見積りNoの表示」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

③件名

鏡画面の件名に設定した文字列が印字されます。

[業種/費目/工種/種別]

内訳表画面で表示されている歩掛のうち、変化率条件が設定されているものが印字されます。

[変化率条件名]

歩掛毎に設定されている変化率条件のコードと名称が表示されます。同一歩掛に複数の変化率条件が設定されている場合は、下段に追加する形で印字されます。

[選択値]

変化率条件を選択するタイプは、選択された条件を印字し、計算式によって率を算出するタイプの場合は、計算式とX値を印字します。

[変化率]

選択された変化率条件の率、或いは計算式によって算出された率を印字します。

[備考]

システムで設定することは出来ません。必要に応じてExcel側で設定してください。

7-2-11. 金額構成一覧

金額構成一覧 設計業務サンプル		見積りNo. M0981891913003-01							単位: 円
業種/費目/工種/種別	金額合計	人件費	労務費	機械経費・ 損料	通信運搬費	材料費	電子計算機 使用料	その他経費	
直接原価	7,895,882	6,969,950	0	0	0	0	457,208	729,634	
直接材料	7,006,048	6,550,750	0	0	0	0	457,208	0	
直接材料細設計(A) 予備設計あり	3,678,158	3,405,700	0	0	0	0	272,458	0	
直接材料細設計(B) 予備設計なし	1,954,748	1,809,950	0	0	0	0	144,796	0	
歩留率細設計	1,375,142	1,235,100	0	0	0	0	40,042	0	
歩留率細設計	1,275,142	1,235,100	0	0	0	0	40,042	0	
設計協議	118,200	118,200	0	0	0	0	0	0	
設計協議	118,200	118,200	0	0	0	0	0	0	
直接経費	729,634	0	0	0	0	0	0	729,634	
電子成果品作成費(概略設計、予備設計又は詳細設計)	724,000	0	0	0	0	0	0	724,000	
プリント機転写費	1,878	0	0	0	0	0	0	1,878	
図面穴通費	3,756	0	0	0	0	0	0	3,756	

① 題

「金額構成一覧」固定文字です。

② 見積りNo.

印刷時に「見積りNo.の表示」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

③ 件名

鏡画面の件名に設定した文字列が印字されます。

[業種/費目/工種/種別]

内訳表画面で表示されている歩掛のうち、直接原価（または直接業務費）配下の歩掛名称が表示されます。間接業務費以下は金額構成一覧には集計されません。

[金額合計]

内訳表画面で表示されている金額（通常は数量×単価）と同じ額が印刷されます。

※通常は金額＝数量×単価ですが、一部金額が数量×単価にならないものがあります。（港湾の業務成果品作成費等）

[人件費]～[電子計算機使用料]

金額合計額の内訳を経費種別毎（人件費、労務費、機械経費・損料、通信運搬費、材料費、精度管理費、電子計算機使用料）に印刷します。

[調整額]

測量、地質（一般）業種の場合のみ、調整額を印刷します。

[その他経費]

対象歩掛のうち、直接経費配下はその他経費として印刷されます。

7-2-12. 金額構成一覧（経費目別）

① 電子計算書使用 料一覧		③ 設計業務サンプル		② 見積りNo. M081891913004-01				単位:円
業種/費目/工種/種別	規格	単位	数量	単価	金額	摘要		
直接原価					3,584,570			
道路概略設計					272,520			
道路概略設計(A)	直接人件費 × 7.0%	km	5.00	24,266	121,330	単-11		
道路概略設計(B)	直接人件費 × 7.0%	km	5.00	30,238	151,190	単-12		
設計協議		式	5.00			単-13		
道路予備設計					1,220,270			
道路予備設計(A)	直接人件費 × 7.0%	km	5.00	73,544	367,720	単-14		
道路予備修正設計(A)	直接人件費 × 8.0%	km	5.00	50,916	254,580	単-15		
道路予備設計(B)	直接人件費 × 7.0%	km	5.00	83,518	417,590	単-16		
道路予備修正設計(B)	直接人件費 × 8.0%	km	5.00	36,076	180,380	単-17		
道路詳細設計					2,091,780			
道路詳細設計(A) 予備設計あり	直接人件費 × 8.0%	km	5.00	136,644	683,220	単-18		
道路詳細設計(B) 予備設計なし	直接人件費 × 8.0%	km	5.00	145,472	727,360	単-19		
道路詳細設計(A) 簡素化	直接人件費 × 8.0%	km	5.00	136,240	681,200	単-20		

1/1

② 題

指定された経費項目名+「一覧」と表示されます。

②見積りNo

印刷時に「見積りNoの表示」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

③件名

鏡画面の件名に設定した文字列が印字されます。

[業種/費目/工種/種別]

内訳表画面で表示されている歩掛のうち、直接原価（または直接業務費）配下の歩掛名称が表示されます。間接業務費以下は金額構成一覧には集計されません。

[規格]

指定した経費目の計算方法が表示されます。

※積上げの場合「単価」×「数量」が印刷されますが、単位数当たりではなく、計上数量当たりの値です。

※比率計算の場合は対象の金額は表示されません。（例画面のように「直接人件費×〇%」と表示されます。）

[単位]

内訳表画面で表示されている数量が表示されます。

[単価]

指定した経費目の歩掛単位の単位当たり単価が表示されます。指定した経費が当該歩掛に設定されていない場合は空白になります。

[金額]

指定した経費目の歩掛単位の金額が表示されます。指定した経費が当該歩掛に設定されていない場合は空白になります。

[摘要]

内訳表画面で表示されている備考が印字されます。通常、単価表Noが表示されます。

7-2-13. 外業日数一覧

① 外業日数一覧 ③ 外業日数一覧サンプル		② 見積りNo.M000XXXXXXXXXX-01									
内訳項目	日当り作業量	単位当り必要外業日数	計上数量	外業日数	主任技術者	理事・技師長	主任技師	技師A	技師B	技師C	技術員
直接原価				4,330			2,330	2,330	3,220	2,000	
道路概略設計				0,330			0,330	0,330	0,220		
道路概略設計(A)	0.000	0.165	2.00	0,330			0,330	0,330	0,220		
道路予備設計				2,000			2,000	1,000	1,000		
道路予備設計(A)	0.000	1,000	2.00	2,000			2,000	1,000	1,000		
道路詳細設計				2,000			1,000	2,000	2,000		
道路詳細設計(A) 予備設計あり	0.000	1,000	2.00	2,000			1,000	2,000	2,000		

1/1

①題

「外業日数一覧」固定文字です。

②見積りNo

印刷時に「見積りNoの表示」にチェックを入れると印字され、チェックをはずすと印字されません。

③件名

鏡画面の件名に設定した文字列が印字されます。

[業種/費目/工種/種別]

内訳表画面で表示されている歩掛のうち、直接原価（または直接業務費）配下の歩掛名称が表示されます。間接業務費以下及び直接経費は外業日数一覧には集計されません。また、直接原価であっても外業を含まないものは表示されません。

[内訳項目]

外業日数を含む歩掛の名称（工種と種別）が表示されます。

[日当り作業量]

項目が地質調査市場単価の場合、その項目の日当り作業量が表示されます。市場単価項目以外は「日当り作業量」欄には何も表示されません。

[単位当り必要外業日数]

当該歩掛の単位当りの必要外業日数を表示します。歩掛表で外業登録をされている作業工程の最大日数を表示します。

[計上数量]

内訳書内で指定した数量が表示されます。

[外業日数]

- ・ 日当り作業量の場合

$$\text{外業日数} = \text{計上数量} \div \text{日当り作業量}$$

- ・ 単位当り必要外業日数の場合

$$\text{外業日数} = \text{単位当り必要外業日数} \times \text{計上数量}$$

※「打合せ協議」の場合、上記計算式をそのまま適用しないケースがあるため、注意喚起の意味で赤字表示されます。（外業日数はあくまで上記式で計算された値になっています。）

[各技術者列]

技術者毎の外業日数が表示されます。

$$\text{技術者毎外業日数} = \text{技術者毎単位当り必要外業日数} \times \text{計上数量}$$

※この技術者別の列は印刷時のみの表示になります。外業日数一覧画面には表示されません。

7-3. オリジナル鏡シート

オリジナルの鏡様式を作成し指定することでユーザ独自の見積書鏡が作成可能です。
以下の手順及に従い作成してください。

7-3-1. 作成シートの準備

以下のシートファイルをエクスプローラ等から別名でコピーしてください。

ファイル名	見積書（鏡）様式_v050（空）.xls
フォルダ	インストールフォルダ¥DATA¥XLS 標準インストールの場合（C:¥AEC 77°リケーション¥業務委託見積¥DATA¥XLS）



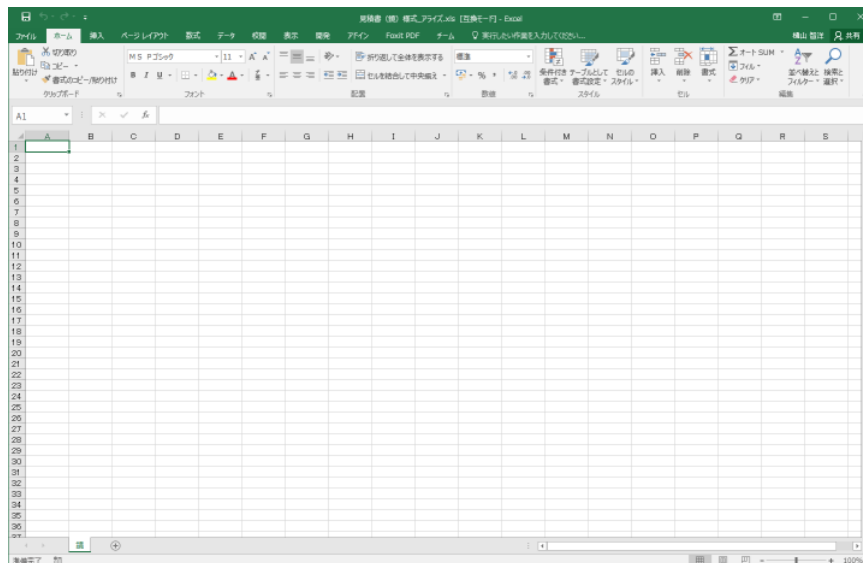
※見積システムVer2.0.1以降をインストールもしくはバージョンアップにより同バージョンになっている場合に限りです。

※この「見積書（鏡）様式_v050（空）.xls」はシステムのインストールやバージョンアップによって都度上書きされますので、そのまま使用されると内容が上書きされクリアされますので必ずコピーしてください。

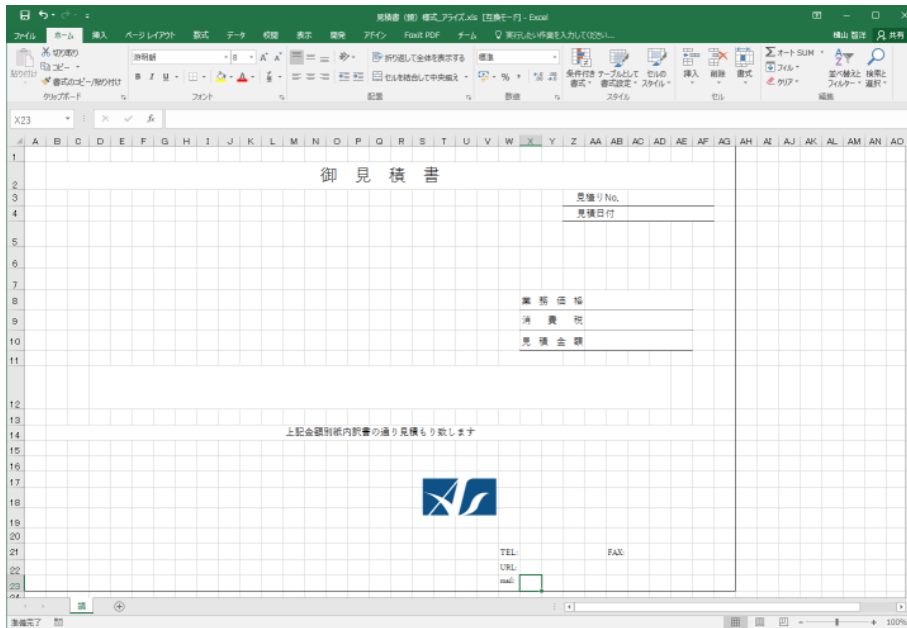
※この「見積書（鏡）様式_v050（空）.xls」は一見するとExcelから新規作成する場合と同じように見えますが、新規作成の場合、ご使用中のExcelのバージョンや環境によって出力に差異が生じるため用意しております。

7-3-2. 鏡シートの作成

- ①先にコピーして準備したExcelシートをエクスプローラからダブルクリックする等して開きます。



②[鏡]シート上のセルの列幅を整えてオリジナルの鏡の様式を作成します。

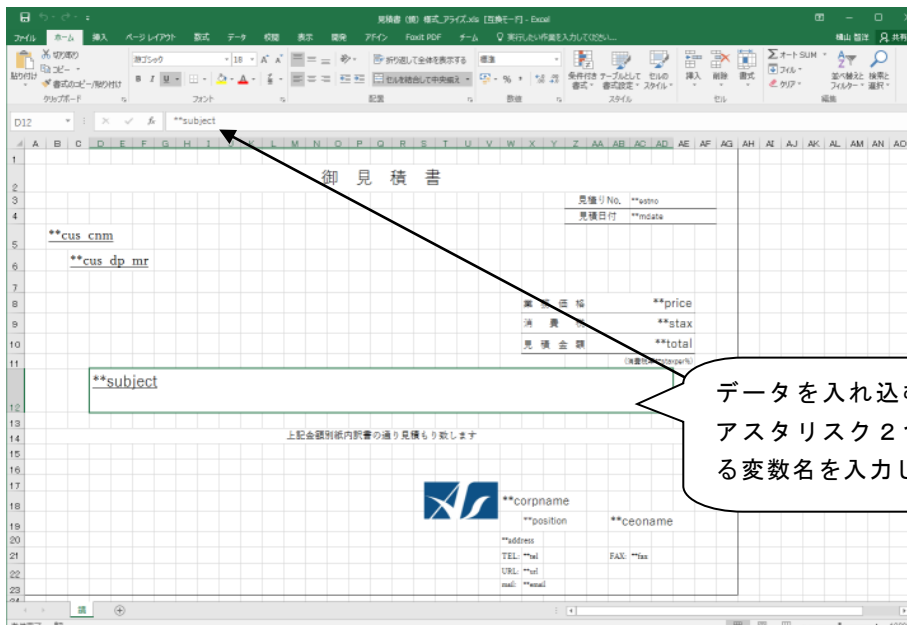


※印刷のプレビューなどを確認し、1ページに収まるかなどに注意してレイアウトを整えてください。

※セルのマージやフォント設定、図形の貼り付けなどの設定してください。

※社名や住所などの署名情報はデータとして書き出す仕様となっていますが、見積もり単位で特に変更する必要がない場合など固定情報としてここで様式シートの中に入れ込んでおいてもかまいません。

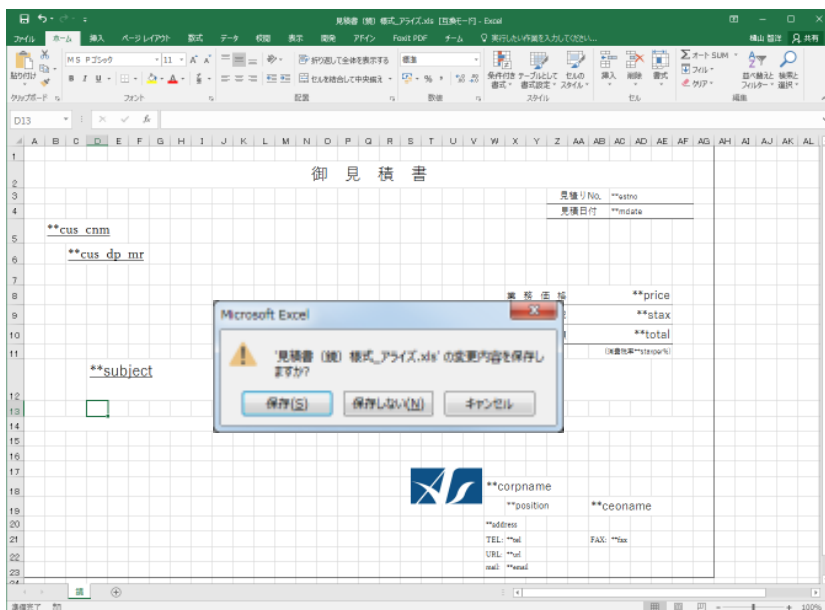
③[鏡]に掲載するデータ情報を以下の変数名でシート上のセルに入力します。



・鏡に書き出せる項目と変数名一覧

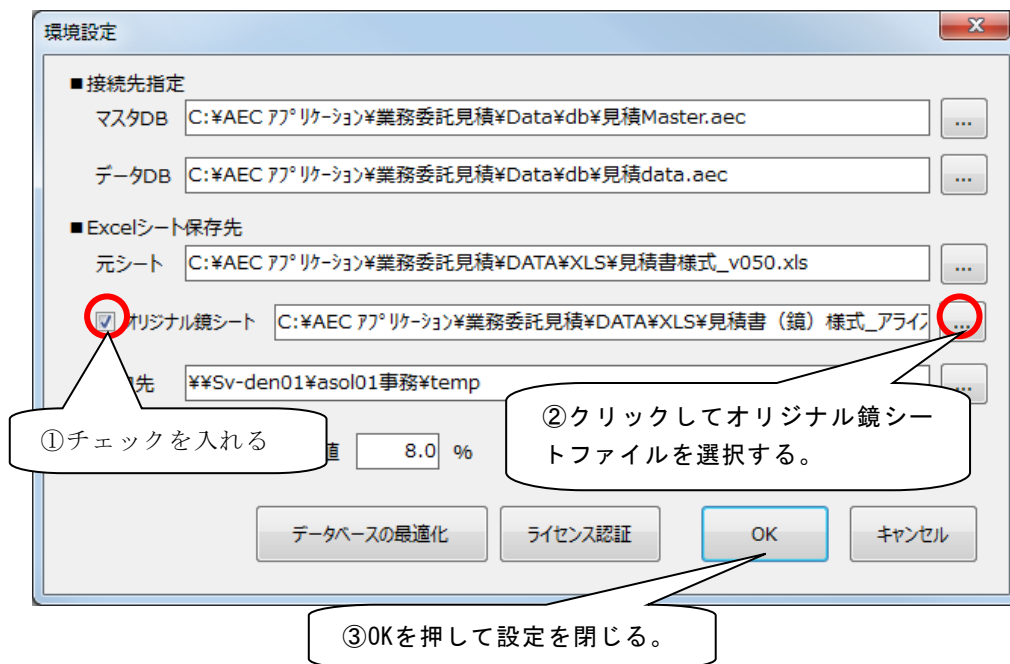
No	項目名	変数名
1	見積番号	**estno
2	見積日付	**mdate
3	見積先（印刷設定時の宛先パターン）	**customer
4	見積先（機関名）	**cus_cnm
5	見積先（部署名）	**cus_dp
6	見積先（氏名）	**cus_nm
7	見積先（敬称）	**cus_mr
8	見積先（機関名＋敬称）	**cus_cnm_mr
9	見積先（部署名＋敬称）	**cus_dp_mr
10	見積先（氏名＋敬称）	**cus_nm_mr
11	業務価格	**price
12	消費税	**stax
13	税込金額	**total
14	消費税率	**staxper
15	件名	**subject
16	署名情報（住所）	**address
17	署名情報（社名）	**corpname
18	署名情報（部署名）	**dep
19	署名情報（役職）	**position
20	署名情報（氏名）	**ceoname
21	署名情報（付加）	**append
22	署名情報（営業担当者）	**staff
23	署名情報（TEL）	**tel
24	署名情報（FAX）	**fax
25	署名情報（URL）	**url
26	署名情報（e-mail）	**email

④[鏡]シートの作成完了したら上書き保存します。



7-3-3. 環境設定でオリジナルシート使用を設定する

環境設定画面のオリジナル鏡シートにチェックを入れ、作成したシートファイルを選択設定してください。



7-3-4. オリジナル鏡シートに関する留意事項


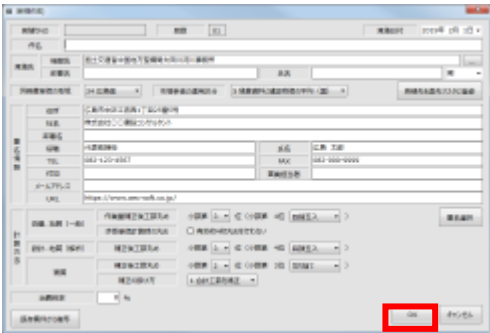
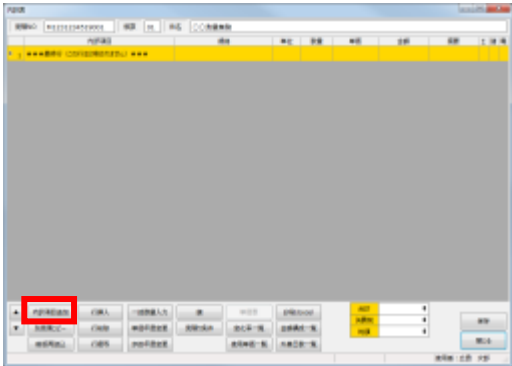
1. オリジナル鏡シート作成する際は、所定のファイルをコピーして使用してください。
2. ファイル形式はかならずXLS形式で作成してください。XLS形式以外（例えばXLSX形式）での動作は致しません。
3. オリジナル鏡シートを使用し見積書のExcel出力をする場合、使用しない場合に比べ若干動作が遅くなります。
4. 環境設定のオリジナル鏡シートのチェックを外せば元の標準の鏡での出力に戻ります。

8. 操作手順説明

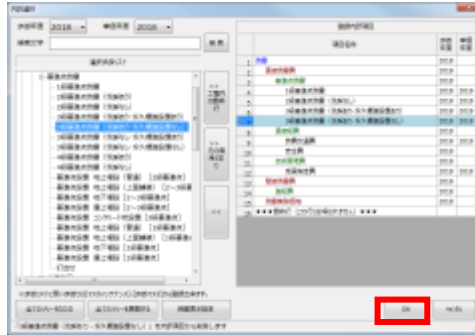
8-1. 基本的な見積書作成手順

見積書の作成に関する「新規見積作成」「変更見積作成」「既存見積修正」の3つの操作手順を説明します。

8-1-1. 新規見積書作成の流れ

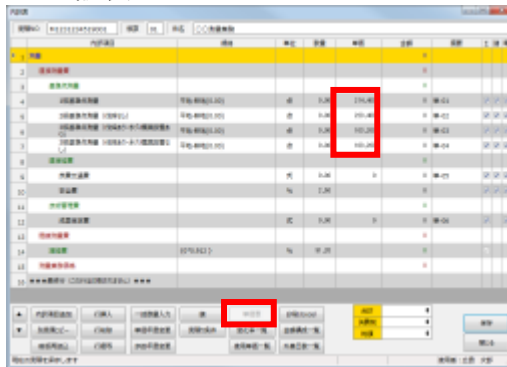
<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の「新規見積書の作成」ボタンをクリックします</p>
<p>2. 鏡</p> 	<p>鏡画面が表示されるので、各項目を入力します。(件名、発注機関名は入力必須)</p> <p>(各種項目については、「各機能説明」の「6-2-1. 鏡画面」を参照ください。)</p>
<p>3. 内訳表</p> 	<p>空の内訳表が表示されるので、「内訳項目選択」ボタンを押します。</p>

4. 内訳選択



内訳選択画面が表示されるので、選択歩掛リストから必要な歩掛を選択して、登録内訳項目に追加します。

3. 内訳表



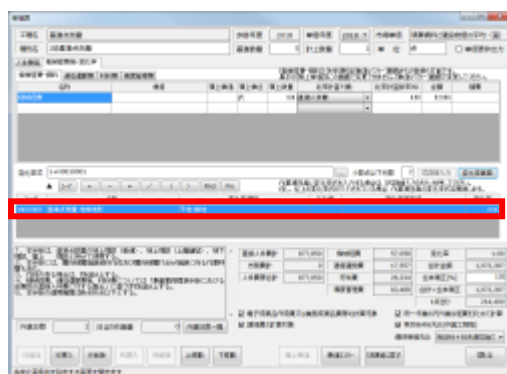
①内訳書に登録された歩掛の数量を入力します。

②各行の単価欄をダブルクリックするか、「単価表」ボタンをクリックします。

4. 単価表

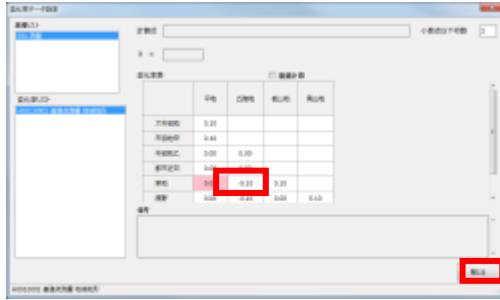


単価の構成要素に修正が必要な場合は、適宜修正します。



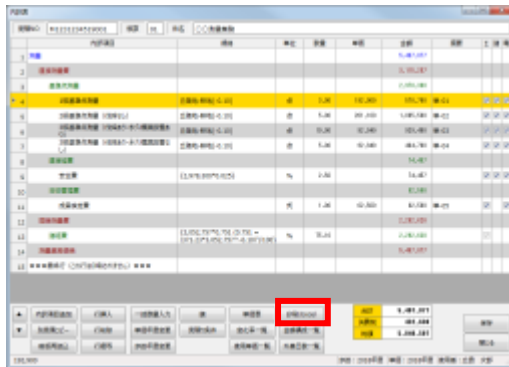
主に修正が必要な変化率条件は「機械経費等・変化率」タブ画面の下部にある変化率一覧をダブルクリックします。

5. 変化率



各変化率条件の設定値を変更又は入力します。

6. 内訳表




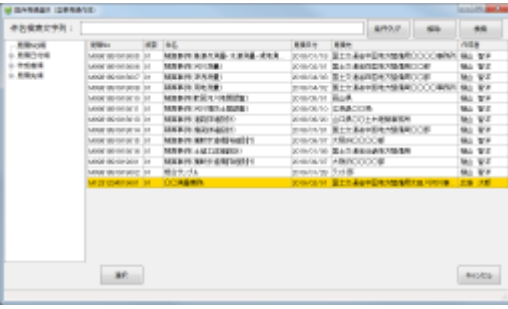
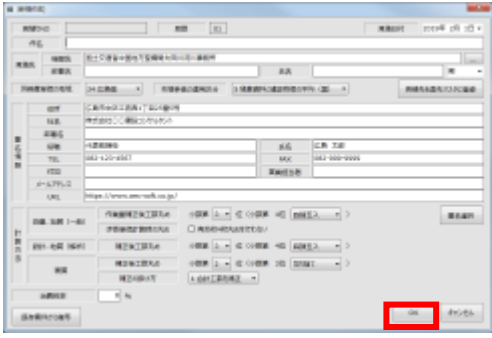

各単価、数量が設定され、見積内容が確定したら「印刷/Excel」ボタンをクリックします。

7. 印刷設定


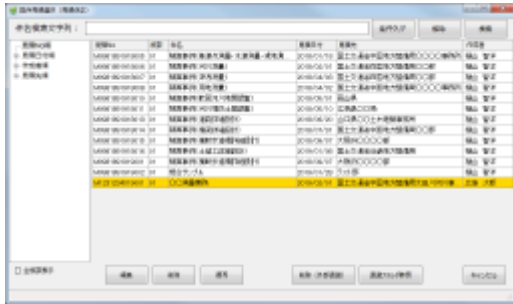
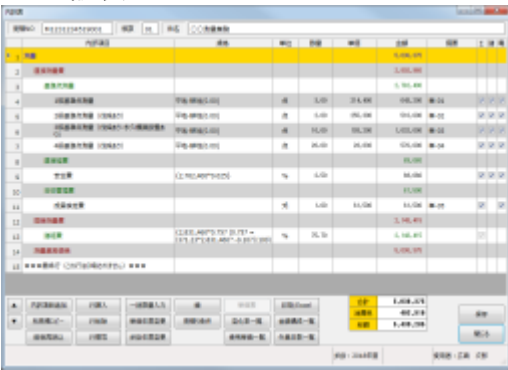


各印刷パラメータを設定して「印刷」もしくは「Excel表示」をクリックします。

8-1-2. 変更見積書作成の流れ

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の「変更見積書の作成」ボタンをクリックします。</p>
<p>2. 既存見積選択</p> 	<p>既存見積選択画面で変更見積を作成する前版の見積書を選択します。</p> <p>当該見積書をダブルクリックするか、行カーソルを位置づけ「選択」ボタンを押します。</p>
<p>3. 鏡</p> 	<p>鏡画面が表示され前版の内容がそのまま表示されるので、修正が必要な箇所を修正し[OK]ボタンを押します。（鏡の内容に修正がなければそのまま[OK]ボタンを押します）</p> <p>（各種項目については、「各機能説明」の「6-2-1. 鏡画面」を参照ください。）</p>
<p>4. 内訳書</p> 	<p>前版の内訳書内容がそのまま表示されるので、必要箇所を修正します。</p> <p>変更された箇所は2段表示となり、前版の内容が下段にカッコ（）書きで表示され、今回の変更値は上段に表示されます。</p> <p>※2段表示で前版情報が表示されるのは内訳書のみで、単価表等は表示されません。</p>

8-1-3. 既存見積書修正の流れ

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の「見積り修正」ボタンをクリックします。</p>
<p>2. 既存見積選択</p> 	<p>既存見積選択画面で修正したい見積書を選択します。</p> <p>該当見積書をダブルクリックするか、行カーソルを位置づけ「編集」ボタンを押します。</p>
<p>3. 内訳表</p> 	<p>指定された見積書の内訳書画面が開くので、必要箇所を修正します。</p>


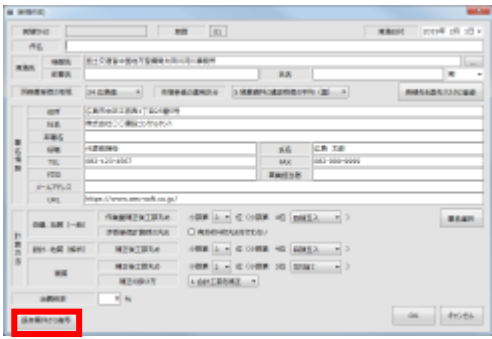
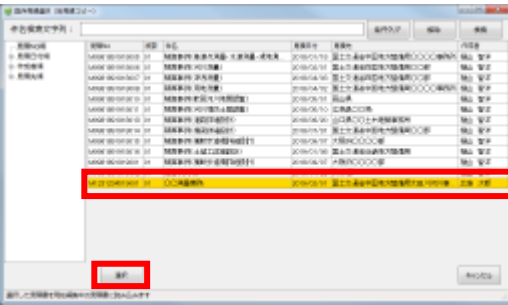
8-2. 作成済み見積りをコピーして類似見積りを作成する

過去に作成した見積りを元に類似の見積書を作りたいケースが発生した場合、2つの手順があります。

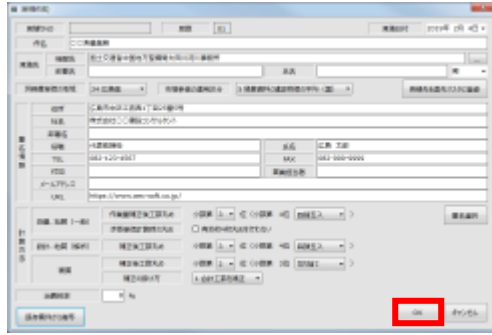
1. [新規見積り作成]ボタンからの「鏡」画面で[既存案件から複写]ボタンを押す方法
2. [見積り修正]ボタンからの「既存見積り選択」画面で[複写]ボタンを押し、一旦複製を作成し、その複製を修正する方法

それぞれの方法について説明します。

8-2-1. [新規見積り作成]ボタンからの「鏡」画面で[既存案件から複写]ボタンを押す方法

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の「新規見積書の作成」ボタンをクリックします</p>
<p>2. 鏡</p> 	<p>鏡画面が表示されるので、[既存案件から複写]ボタンを押します</p> <p>※件名等もコピーされるので、複写する前に入力しないようにご注意ください。</p> <p>(各種項目については、「各機能説明」の「6-2-1. 鏡画面」を参照ください。)</p>
<p>3. 既存見積り選択</p> 	<p>既存見積り選択画面で複写したい見積りを選択します。</p> <p>該当見積りをダブルクリックするか、行カーソルを位置づけ「選択」ボタンを押します。</p>

4. 鏡



鏡画面に戻りなので、[件名]以下必要箇所を修正します

※見積日付は複写されません

5. 内訳表

既存見積から複写された内容が内訳書画面に表示されるので、必要な修正を行い、見積書を完成させます。

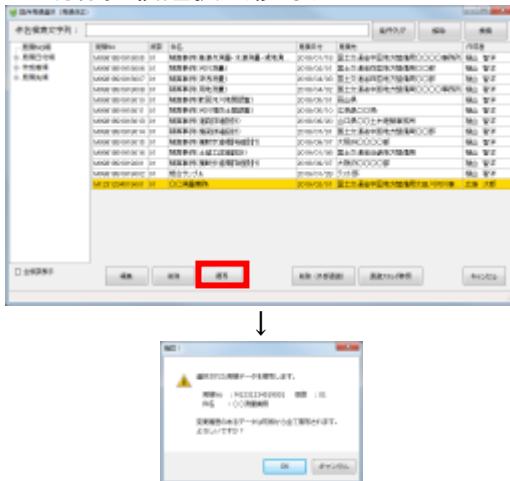
8-2-2. [見積り修正]ボタンからの「既存見積選択」画面で[複写]ボタンを押し、一旦複製を作成し、その複製を修正する方法

1. メインメニュー



メインメニュー画面の「見積り修正」ボタンをクリックします。

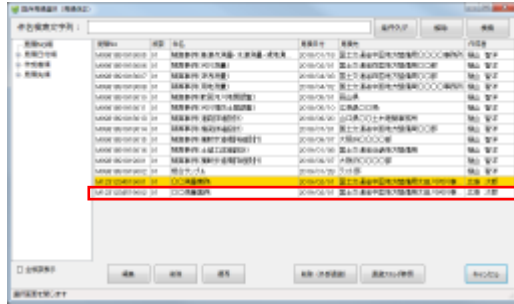
2. 既存見積選択 (複写)



既存見積選択画面で複写したい見積書を選択し、[複写]ボタンを押します

確認メッセージが表示されるので[OK]ボタンを押します

3. 既存見積選択（編集）



複写された見積書が一覧に表示されるので、該当見積書をダブルクリックするか、行カーソルを位置づけ「編集」ボタンを押します。

※複写された見積書は左の例では直下に表示されていますが、表示している一覧の並びに従い表示されるのでご注意ください



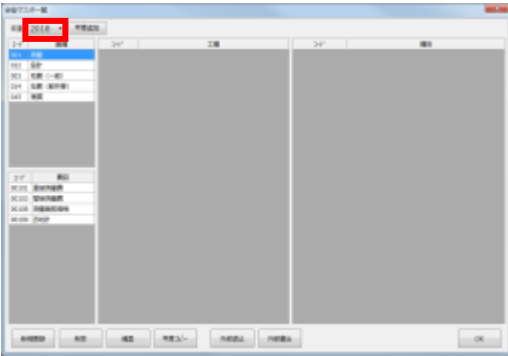
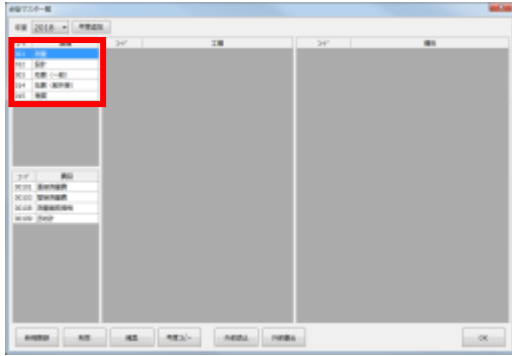
3. 内訳表

指定された見積書の内訳書画面が開くので、必要箇所を修正します。

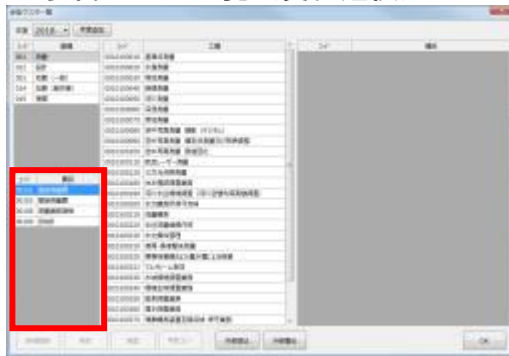
8-3. 各種マスタ設定手順

各種マスタへの基本的な登録方法について新規登録を例に説明します。

8-3-1. 歩掛マスタの登録

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の[マスタメンテナンス]ボタンをクリックします</p>
<p>2. メンテナンスメニュー</p> 	<p>メンテナンスメニュー画面から[歩掛マスタ]ボタンをクリックします</p> <p>※ボタンを押して次の「歩掛マスター一覧」画面が表示されるまでに多少時間(数秒~十数秒)が掛かります。</p>
<p>3. 歩掛マスター一覧 (年度選択)</p> 	<p>表示された「歩掛マスター一覧」画面で、まず、年度を選択します。</p> <p>画面が開いた直後は最新年度が選択された状態となっています。そのまま最新年度でよければ次の業種選択へ移ります。年度を切り替える場合はコンボボックスリストから年度を選択します。</p>
<p>3. 歩掛マスター一覧 (業種選択)</p> 	<p>次に業種を選択します。</p> <p>画面が開いた直後は測量が選択された状態となっています。</p> <p>また、費目リストに測量業務の費目が表示されています。業種を選択し直すと費目リストの内容が切り替わります。</p>

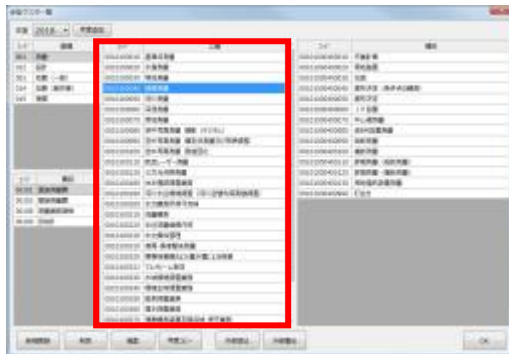
4. 歩掛マスター一覧（費目選択）



次に費目リストから費目を選択します。

費目を選択すると工種リストの内容が表示されます。

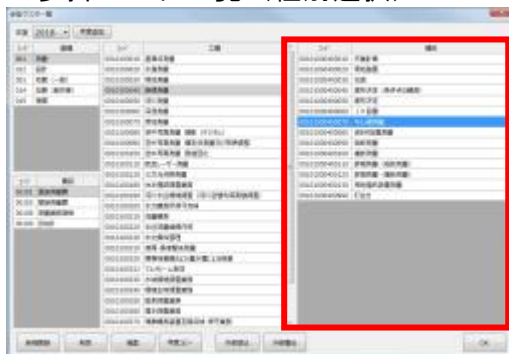
5. 歩掛マスター一覧（工種選択）



次に工種リストから工種を選択します。

工種を選択すると、選択した工種配下に登録されている種別が表示されます。

6. 歩掛マスター一覧（種別選択）


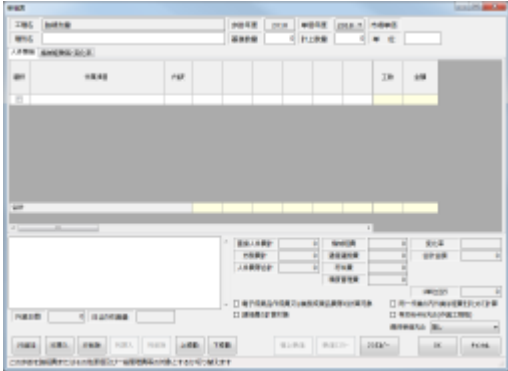
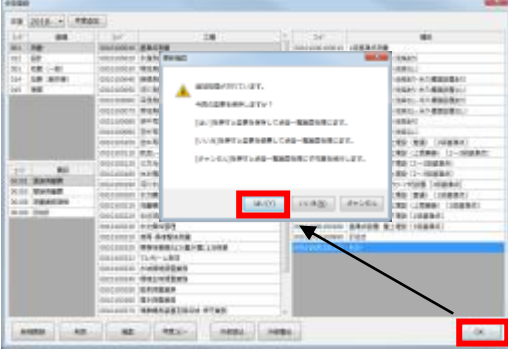


最後に種別リストから種別を選択します。



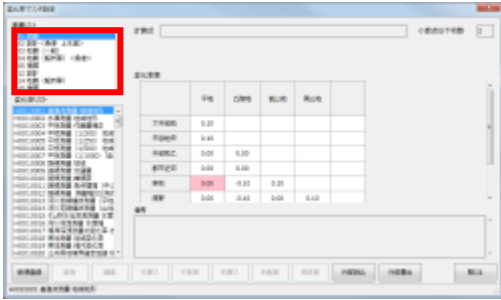
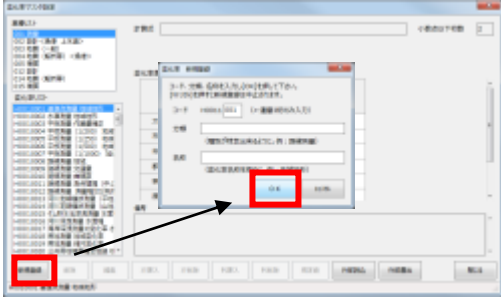
7. 歩掛マスター一覧（新規登録）



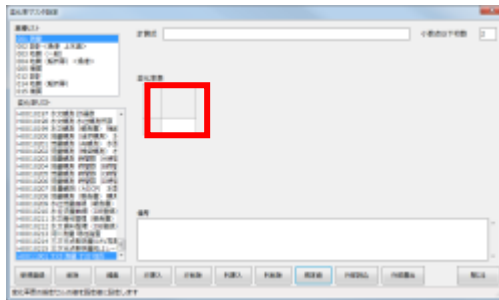
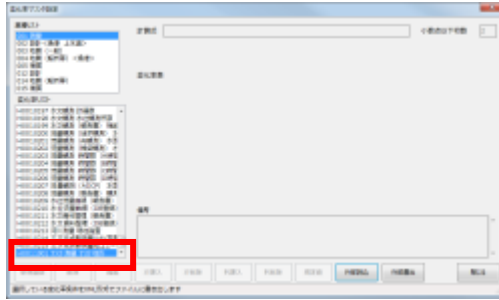
次に画面下部のボタンから「新規登録」ボタンをクリックします。

<p>8. 新規登録</p> 	<p>3桁の数値を入力し[OK]ボタンを押します。</p> <p>※3桁のコードはその同一工種配下の種別内で一意の必要があります。 ※基から登録されている歩掛（システム歩掛）とユーザが登録する歩掛コードは別扱いになっているので、ユーザ独自に作成した歩掛コードを一意になるよう採番してください。</p>
<p>9. 単価表（新規登録）</p> 	<p>単価表画面が空の状態が表示されるので、必要箇所を入力し[OK]ボタンを押します。</p> <p>（以降の単価表操作及び歩掛登録のその他については「各機能説明」の「6-3-2. 歩掛マスタ」を参照ください。）</p>
<p>10. 歩掛マスター一覧（設定内容の保存）</p> 	<p>全ての登録作業が完了したら、歩掛マスター一覧画面の[OK]ボタンをクリックします。</p> <p>更新確認画面が表示されるので[はい]をクリックして設定内容を保存します。</p> <p>※ここで[いいえ]をクリックすると歩掛マスタへの登録はされず設定内容は破棄されるのでご注意ください。</p>

8-3-2. 変化率マスタの登録

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の[マスタメンテナンス]ボタンをクリックします</p>
<p>2. メンテナンスメニュー</p> 	<p>メンテナンスメニュー画面から[変化率マスタ]ボタンをクリックします</p>
<p>3. 変化率マスタ設定（業種選択）</p> 	<p>「変化率マスタ設定」画面が表示されるので、変化率を登録する業種を業種リストから選択します。</p> <p>※業種リストを選択すると、選択した業種の変化率リストが表示され、リストの先頭の変化率条件等の内容が表示されるようになります。</p>
<p>4. 変化率マスタ設定（新規登録）</p> 	<p>[新規作成]ボタンをクリックし、「変化率 新規登録」画面の変化率コード、分類、名称を入力し[OK]を押します</p>

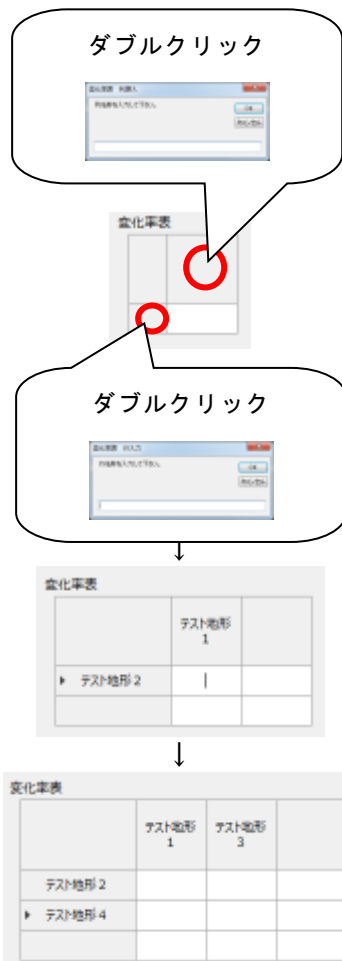
5. 変化率マスタ設定（新規登録）



新規登録された変化率コードと名称が変化率リストに表示されます。

登録直後は計算式や変化率表が登録出来ない状態（左画面例）なので、変化率リストの当該変化率を再度クリックします。

6. 変化率マスタ設定（変化率表の登録 1）



当初、変化率表は左例のとおり何も入っていない状態なので、列ヘッダ、及び行ヘッダ部分をダブルクリックし、列・行を作成します。

列、行それぞれ同様に登録すると、入力した各ヘッダが挿入されます。

この時、空白の列・行が末尾に付きますので、複数の列行を登録する場合は、その空白ヘッダ部分を再度ダブルクリックして、同様に登録を続けてください。

※以下 6～8 は変化率表の登録方法です。計算式の登録は 9 です。

7. 変化率マスタ設定(変化率表の登録 2)

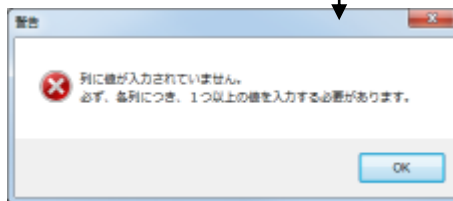
変化率表

	テスト地形 1	テスト地形 3	テスト地形 5
テスト地形 2			
▶ テスト地形 4			



変化率表

	テスト地形 1	テスト地形 3	テスト地形 5
テスト地形 2	0.00		
▶ テスト地形 4	1.00	1.20	



次に、該当する変化率をセルの中に入力します。

この時、全てのセルを入力する必要はありませんが、必ず列行どこかは必ず入力された状態にしてください。

※画面例では3列目が何も設定されていませんので、エラーとなります。3列目の1行目が2行目に値を設定する必要があります。

8. 変化率マスタ設定(変化率表の登録 3)

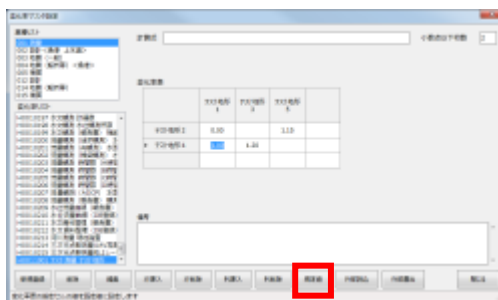
変化率表

	テスト地形 1	テスト地形 3	テスト地形 5
テスト地形 2	0.00		1.15
▶ テスト地形 4	1.00	1.20	



変化率表

	テスト地形 1	テスト地形 3	テスト地形 5
テスト地形 2	0.00		1.15
▶ テスト地形 4	1.00	1.20	



最後に変化率表内に既定値を設定します。

既定値としたいセルをクリックし、カーソルを位置付けます。

画面下部の[既定値]ボタンをクリックします。

既定値に設定されたセルがピンク色になります。

9. 変化率マスタ設定（計算式の登録3）

計算式

計算式で変化率を算出するケースの場合は左例のように計算式欄に実際の計算式を入力します。

※入力は全て半角で入力してください。
※演算記号は以下の通りで入力してください。

- ・加算 : + (半角プラス)
- ・減算 : - (半角マイナス)
- ・乗算 : * (半角アスタリスク)
- ・除算 : / (半角スラッシュ)
- ・べき乗 : ^ (半角^)
- ・カッコ : () (半角カッコ)

※この他、以下の関数が有効です。

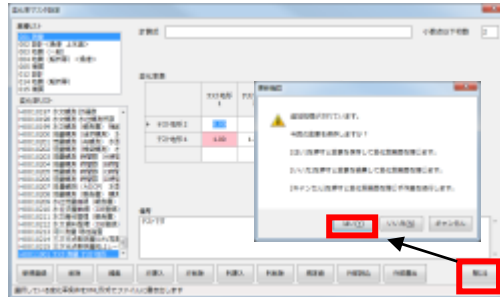
(mod、cos、sin、log、ln、sqr<sqrt>、if())

※計算式で計算する場合は、変化要素である「X」

を必ず式に含める必要があります。

※式中にスペースは入れないでください。

10. 変化率マスタ設定（設定内容の保存）



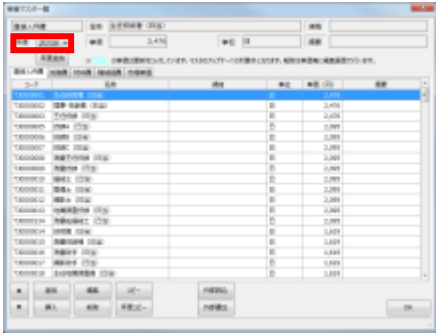
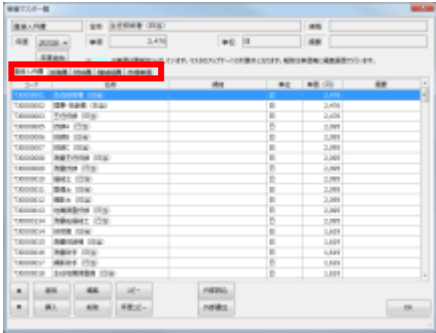


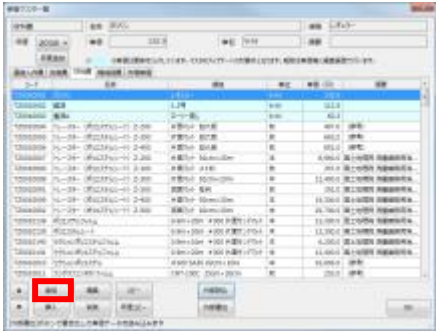
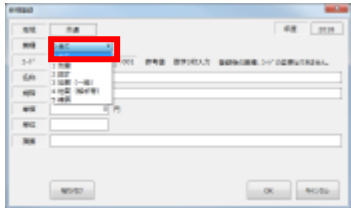

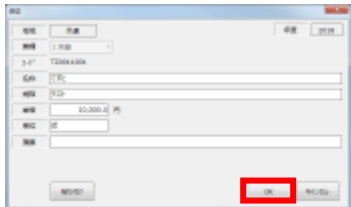
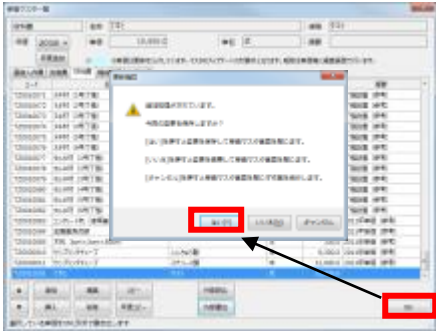
設定が完了したら[閉じる]ボタンをクリックします。

更新確認画面が表示されるので[はい]をクリックします。



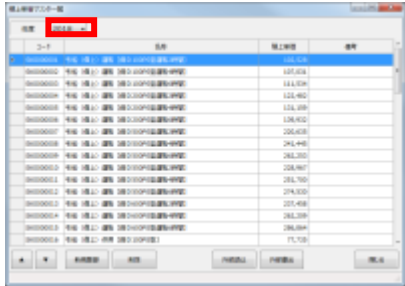
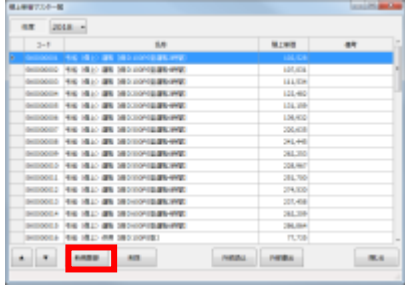
※ここで[いいえ]をクリックすると変化率マスタへの登録はされず設定内容は破棄されるのでご注意ください。

8-3-3. 単価マスタの登録

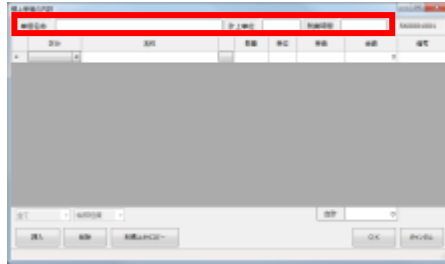
<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の[メンテナンス]ボタンをクリックします</p>
<p>2. メンテナンスメニュー</p> 	<p>メンテナンスメニュー画面から[単価マスタ]ボタンをクリックします</p> <p>※ボタンを押して次の単価マスター一覧画面が表示されるまでに多少時間（数秒～十数秒）が掛かります。</p>
<p>3. 単価マスター一覧（年度選択）</p> 	<p>表示された「単価マスター一覧」画面で、まず、年度を選択します。</p> <p>画面が開いた直後は最新年度が選択された状態となっています。そのまま最新年度でよければ次の区分選択へ移ります。年度を切り替える場合はコンボボックスリストから年度を選択します。</p>
<p>4. 単価マスター一覧（費用区分選択）</p> 	<p>「単価マスター一覧」画面が開いた直後は直接人件費のタブが前面に表示されています。これから設定したい単価の経費区分に当たるタブをクリックし、前面に表示します。</p>

<p>5. 単価マスター一覧（新規登録）</p> 	<p>登録したい単価の経費区分タブを前面にした状態で[追加]ボタンをクリックします。</p>
<p>6. 新規登録（地域、業種選択）</p> 	<p>新規登録画面が表示されるので、業種の選択を行います。経費区分が労務費の場合は地域の選択も行います。</p>
<p>7. 新規登録（コード設定）</p> 	<p>次に設定する単価を一意にあらわすコードの下3桁を数字3桁で設定します。[←]ボタンで自動採番されます。</p>
<p>8. 新規登録（各項目設定）</p> 	<p>名称・規格・単価・単位・摘要を設定します。</p> <p>必要事項を入力したら[OK]ボタンを押します。単価マスター一覧画面に戻り、入力した単価が一覧に追加表示されます。</p> <p>各項目の詳細は「6-3-4-2. 登録画面」参照)</p>
<p>9. 単価マスター一覧（設定内容の保存）</p> 	<p>全ての登録作業が完了したら「単価マスター一覧」画面の[OK]ボタンをクリックします。</p> <p>更新確認画面が表示されるので[はい]をクリックして設定内容を保存します。</p> <p>※ここで[いいえ]をクリックすると単価マスターへの登録はされず設定内容は破棄されるのでご注意ください。</p>

8-3-4. 積上単価マスタの登録

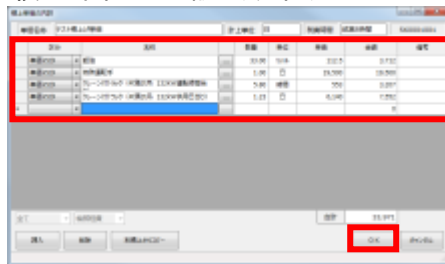
<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の[メンテナンス]ボタンをクリックします</p>
<p>2. メンテナンスメニュー</p> 	<p>メンテナンスメニュー画面から[積上単価マスタ]ボタンをクリックします</p>
<p>3. 積上単価マスター一覧（年度選択）</p> 	<p>表示された「積上単価マスター一覧」画面で、まず、年度を選択します。</p> <p>画面が開いた直後は最新年度が選択された状態となっています。そのまま最新年度でよければ次の業種選択へ移ります。年度を切り替える場合はコンボボックスリストから年度を選択します。</p>
<p>4. 積上単価マスター一覧（新規登録）</p> 	<p>[新規登録]ボタンをクリックします。</p>

5. 積上単価の内訳（ヘッダ）



「積上単価の内訳」画面が表示されるので単価名称、計上単位、就業時間を入力します。

6. 積上単価の内訳（明細）

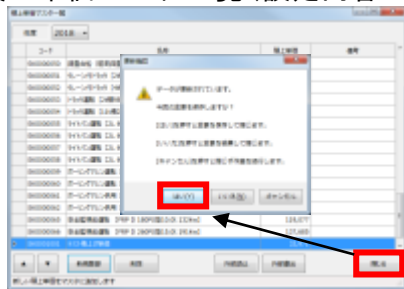


次に下表の区分を設定した後に各項目を設定します。

全て入力したら[OK]ボタンを押します。

各項目の詳細は「[6-3-5-2. 積上単価内訳画面](#)」参照)

7. 積上単価マスター一覧（設定内容の保存）



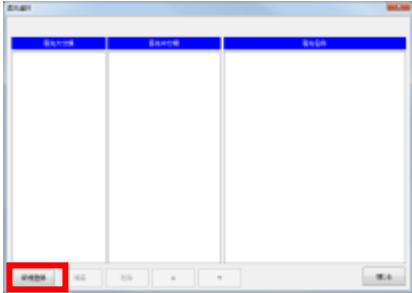
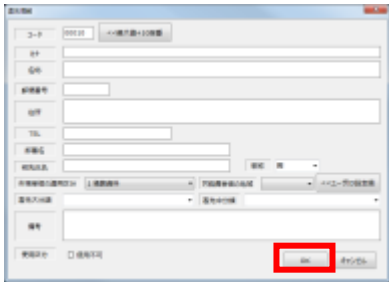


全ての登録作業が完了したら「積上単価マスター一覧」画面の[閉じる]ボタンをクリックします。

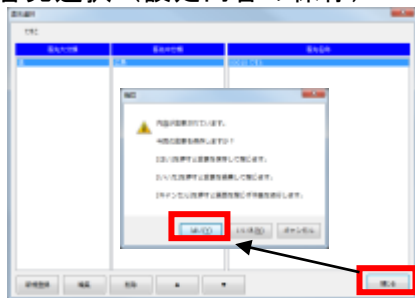
更新確認画面が表示されるので[はい]をクリックして設定内容を保存します。

※ここで[いいえ]をクリックすると積上単価マスターへの登録はされず設定内容は破棄されるのでご注意ください。

8-3-5. 客先マスタの登録

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の[メンテナンス]ボタンをクリックします</p>
<p>2. メンテナンスメニュー</p> 	<p>メンテナンスメニュー画面から[客先マスタ]ボタンをクリックします</p>
<p>3. 客先選択（新規登録）</p> 	<p>「客先選択」画面が表示されます。 当初は、客先マスタは登録されておられないので、上図のように何も表示されない状態ですので、そのまま[新規登録]ボタンを押します。</p> <p>※既に、客先情報が何件か登録されている場合は、大分類、中分類を選択した後に[新規登録]ボタンを押すと、次の「客先情報」画面で、「客先大分類」「中分類」が設定された状態で開きます。</p>
<p>4. 客先情報</p> 	<p>「客先情報」画面が表示されるので、各項目を入力します。</p> <p>入力が完了したら[OK]ボタンを押します。</p> <p>各項目の詳細は「6-3-6-2. 客先情報画面」参照)</p>

5. 客先選択（設定内容の保存）




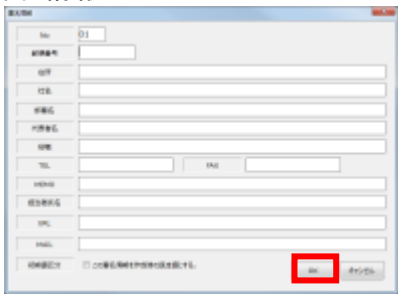
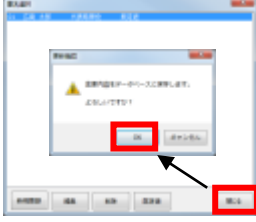


全ての登録作業が完了したら「客先選択」画面の[閉じる]ボタンをクリックします。




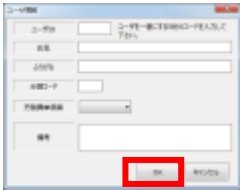
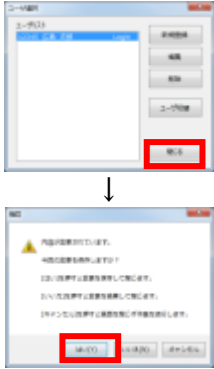
更新確認画面が表示されるので[はい]をクリックして設定内容を保存します。

※ここで[いいえ]をクリックすると客先マスタへの登録はされず設定内容は破棄されるのでご注意ください。

8-3-6. 署名マスタの登録

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の[マスタメンテナンス]ボタンをクリックします</p>
<p>2. メンテナンスメニュー</p> 	<p>メンテナンスメニュー画面から[署名マスタ]ボタンをクリックします</p>
<p>3. 署名選択 (新規登録)</p> 	<p>「署名選択」画面が表示されるので「新規登録」ボタンをクリックします</p>
<p>4. 署名情報</p> 	<p>「署名情報」画面が表示されるので各項目を入力します。</p> <p>入力が完了したら[OK]ボタンを押します。</p> <p>各項目の詳細は「6-3-7-2. 署名情報画面」参照)</p>
<p>5. 署名選択 (設定内容の保存)</p> 	<p>全ての登録作業が完了したら「署名選択」画面の[閉じる]ボタンをクリックします。</p> <p>更新確認画面が表示されるので[はい]をクリックして設定内容を保存します。</p> <p>※ここで[いいえ]をクリックすると署名マスタへの登録はされず設定内容は破棄されるのでご注意ください。</p>

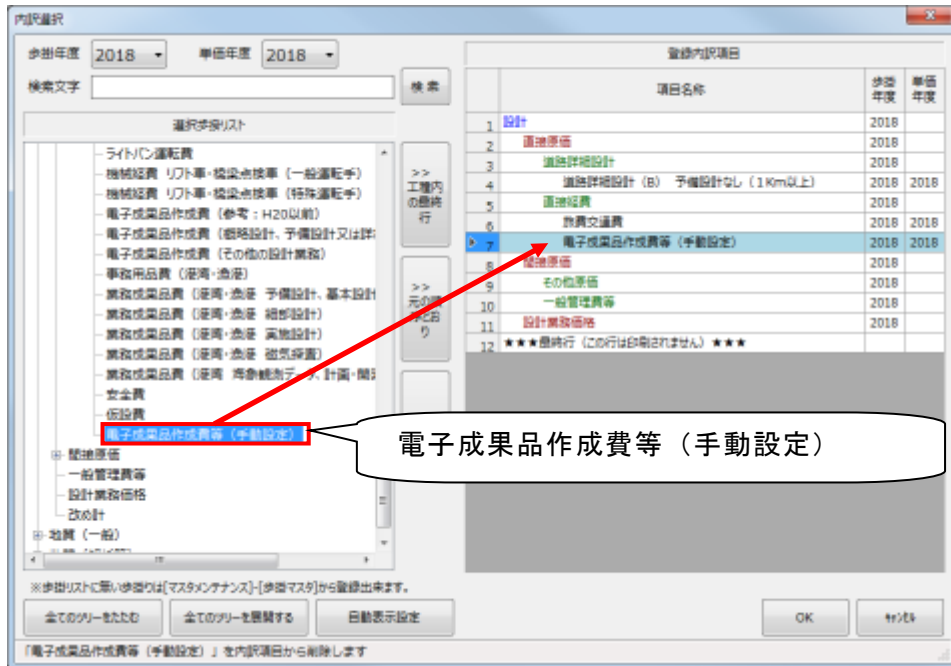
8-3-7. ユーザマスタの登録

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の[メンテナンス]ボタンをクリックします</p>
<p>2. メンテナンスメニュー</p> 	<p>メンテナンスメニュー画面から[ユーザマスタ]ボタンをクリックします</p>
<p>3. ユーザ選択（新規登録）</p> 	<p>「ユーザ選択」画面が表示されるので「新規登録」ボタンをクリックします</p>
<p>4. ユーザ情報</p> 	<p>「ユーザ情報」画面が表示されるので各項目を入力します。</p> <p>入力が完了したら[OK]ボタンを押します。</p> <p>各項目の詳細は「6-3-8-2. ユーザ情報画面」参照)</p>
<p>5. ユーザ選択（設定内容の保存）</p> 	<p>全ての登録作業が完了したら「ユーザ選択」画面の[閉じる]ボタンをクリックします。</p> <p>更新確認画面が表示されるので[はい]をクリックして設定内容を保存します。</p> <p>※ここで[いいえ]をクリックするとユーザマスタへの登録はされず設定内容は破棄されるのでご注意ください。</p>

8-4. 電子成果品作成費等（手動設定）の設定方法

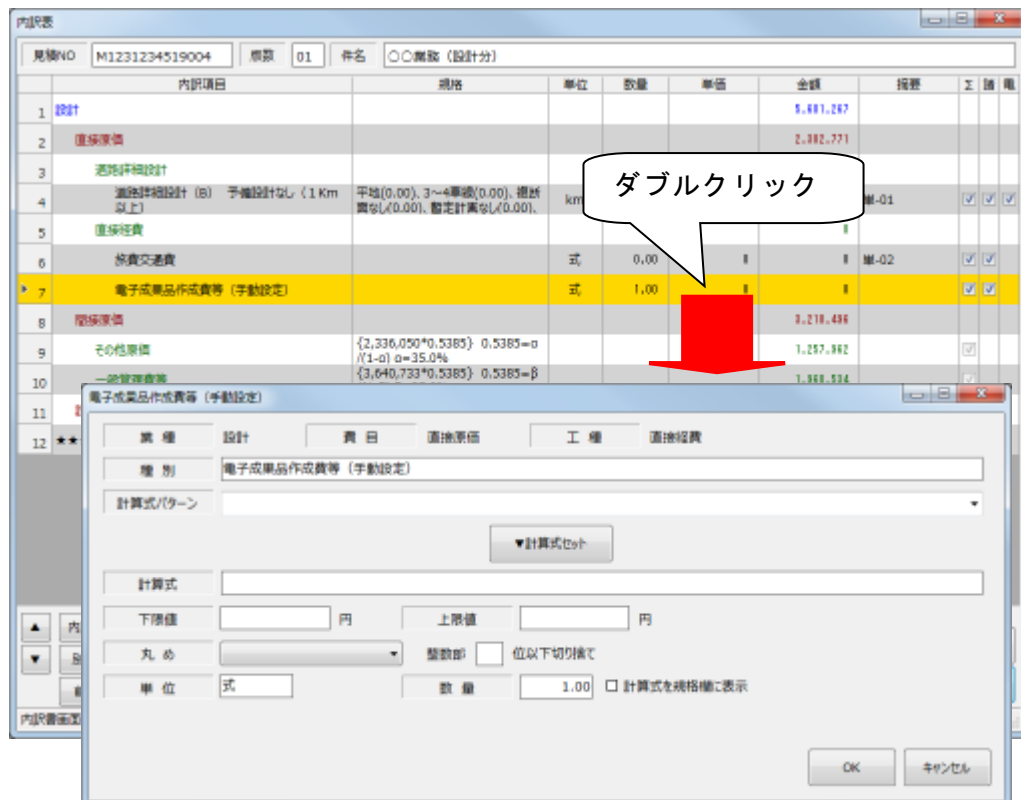
8-4-1. 電子成果品作成費等（手動設定）を追加する

内訳画面の「内訳項目追加」ボタンを押し内訳選択画面で「電子成果品作成費（手動設定）」を選択します。



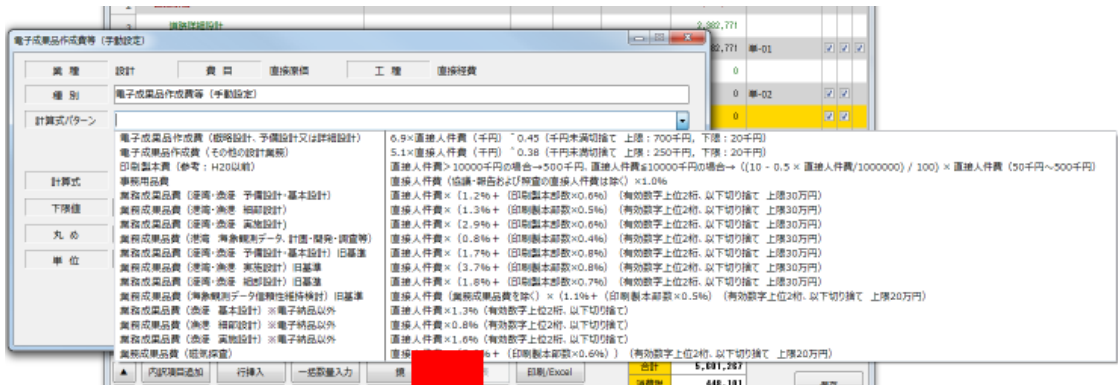
8-4-2. 設定画面を表示する

追加した「電子成果品作成費等（手動設定）」の内訳画面の単価欄をダブルクリックします。

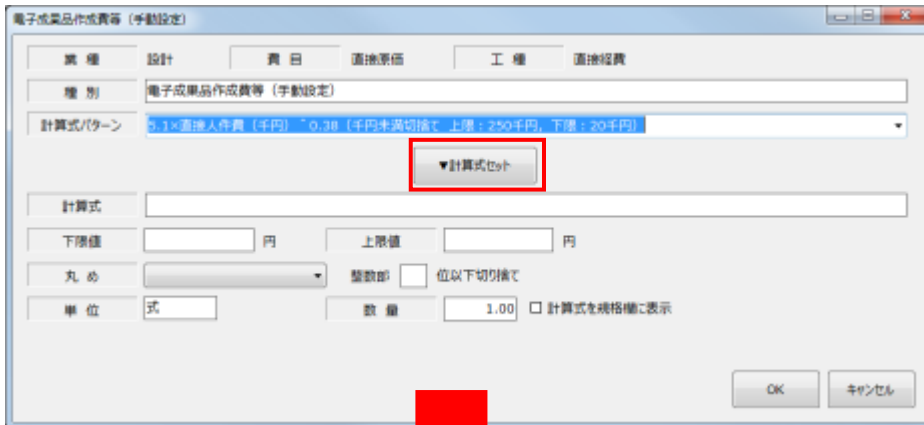


8-4-3. 計算式を設定する。

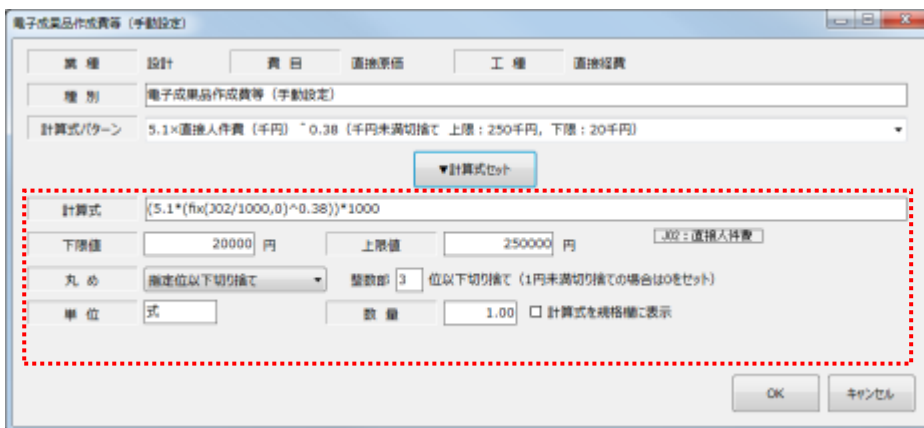
計算式パターンのコンボボックスを開き設定したいものを選択します。



計算パターンを選んだら、「計算式セット」ボタンを押します。



計算式及び上限値、下限値、丸め方法等がセットされます。



※実際の計算式にはここに無い計算パターンを設定することも出来ます。「計算式」欄設定されている式を修正することで任意の式で計算することが出来ます。

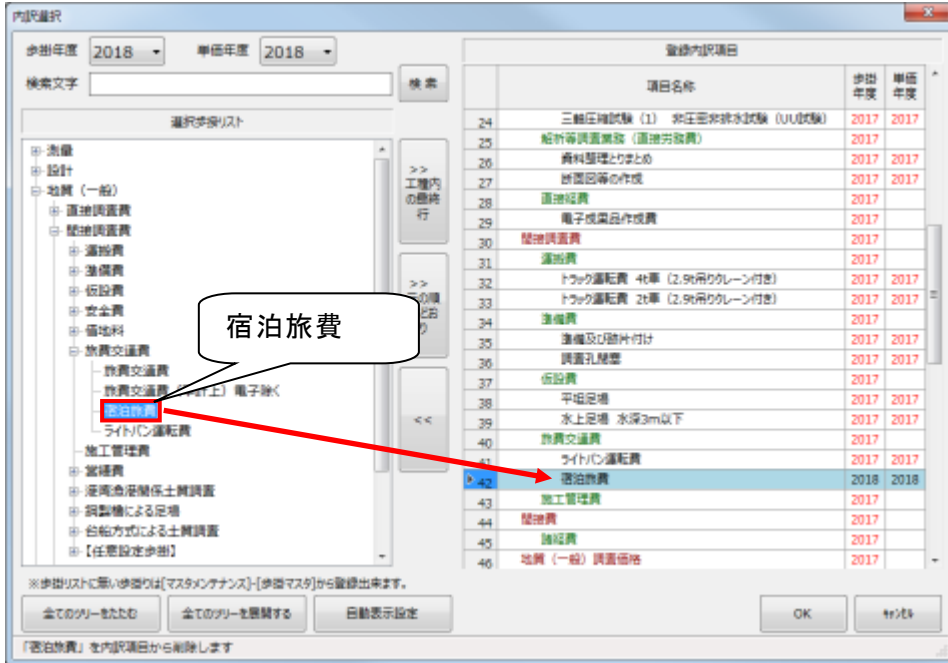
(詳細は「[6-2-12. 電子成果品作成費等 \(手動設定\) 画面](#)」参照)

「OK」ボタンを押すと、内訳画面に戻ります。式が正しく設定されていれば、電子成果品作成費額が表示されています。

8-5. 宿泊旅費の設定方法（率を用いない場合）

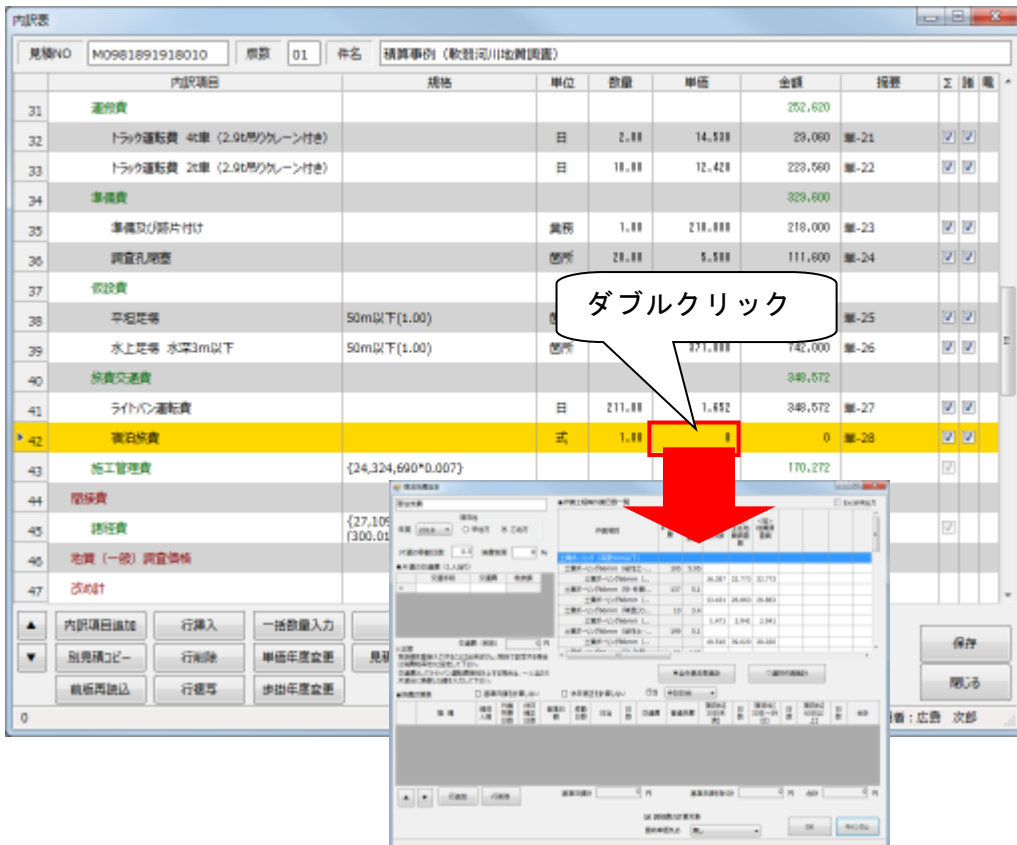
8-5-1. 宿泊旅費を追加する

内訳書画面で「内訳項目追加」ボタンを押し、内訳選択画面で「宿泊旅費」を選択します。



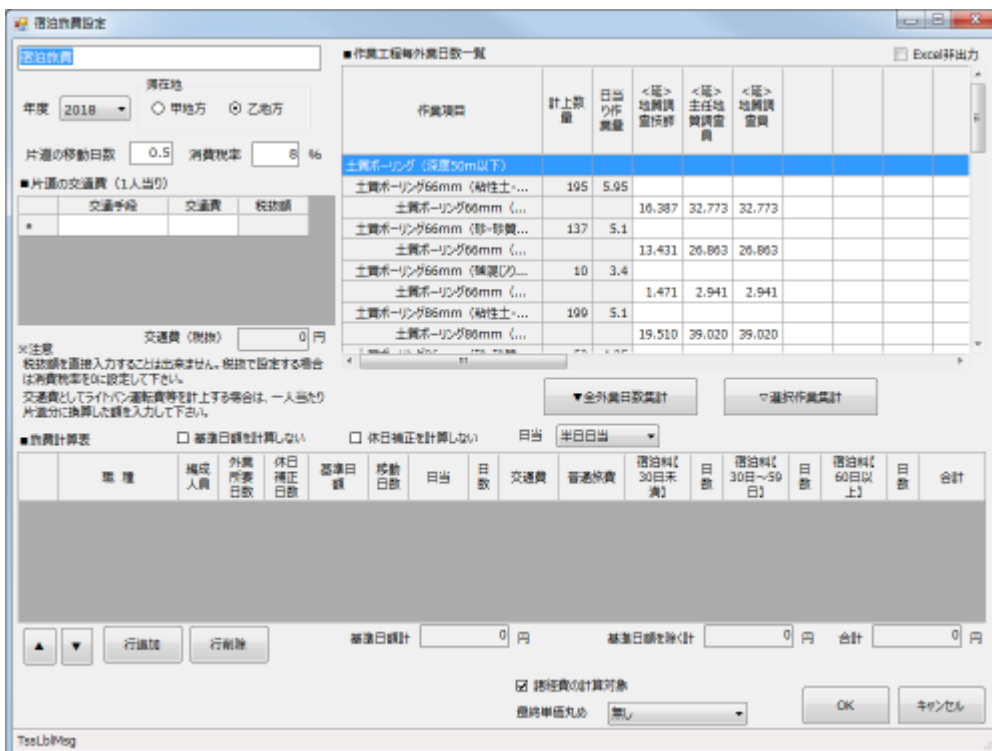
8-5-2. 設定画面を表示する

追加した「宿泊旅費」の内訳画面の単価欄をダブルクリックします。



8-5-3. 各種値を設定する

宿泊旅費設定画面が表示されたら以下の設定を行います。（順不同）

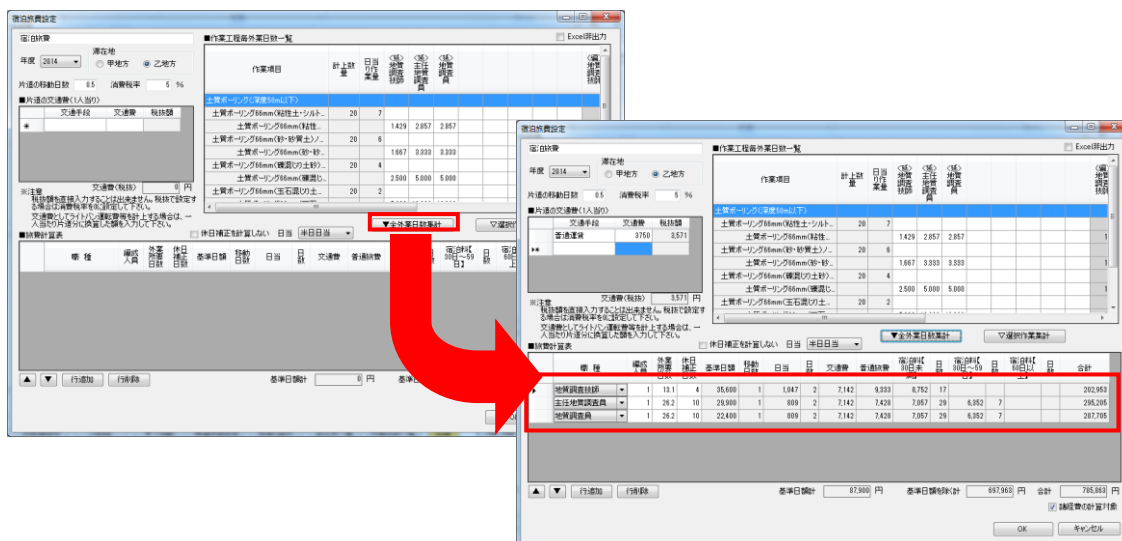


- ・年度、滞在地、片道移動日数、消費税率、を設定します。既定値が設定されているので、異なる場合は変更します。
- ・片道の交通費（1人当り）を登録します。

8-5-4. 職種毎の外業日数を設定する

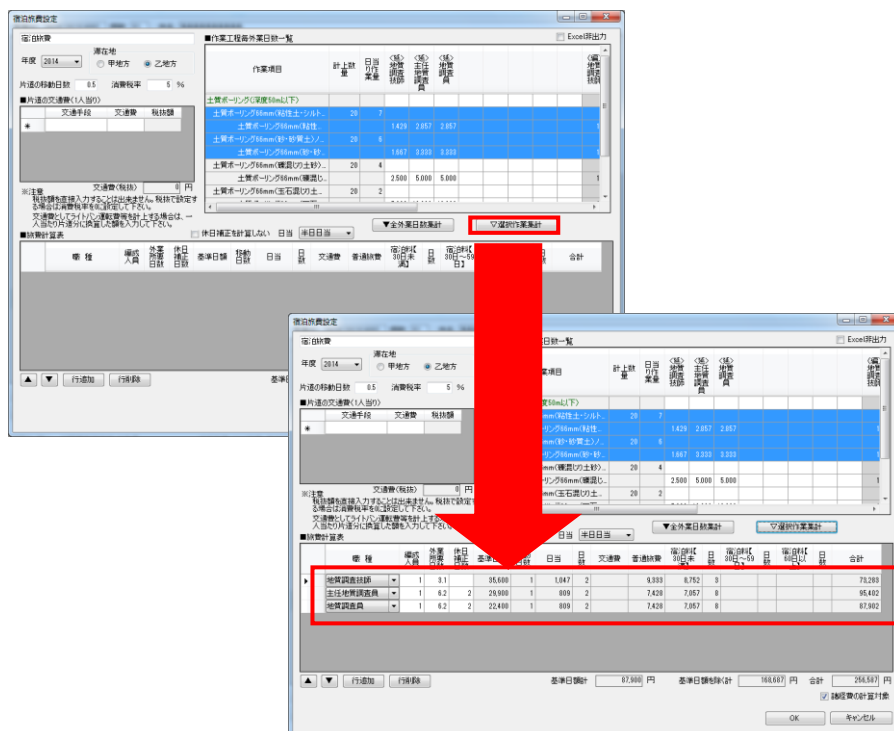
職種毎の外業日数を設定する方法は「全外業日数集計」もしくは「選択作業集計」ボタンを押して、ひとまず自動計算した日数を設定する方法と、手動で個々に設定する方法があります。

- ・「全外業日数集計」ボタンを押して設定する場合
「全外業日数集計」ボタンを押すと当該業種内の全外業日数を集計し、職種毎の外業日数、編成人員等が設定されます。



・「選択作業集計」ボタンを押して設定する場合

作業工程毎外業日数一覧から外業日数を取得したい作業項目を選択してから「選択作業集計」ボタンを押します。

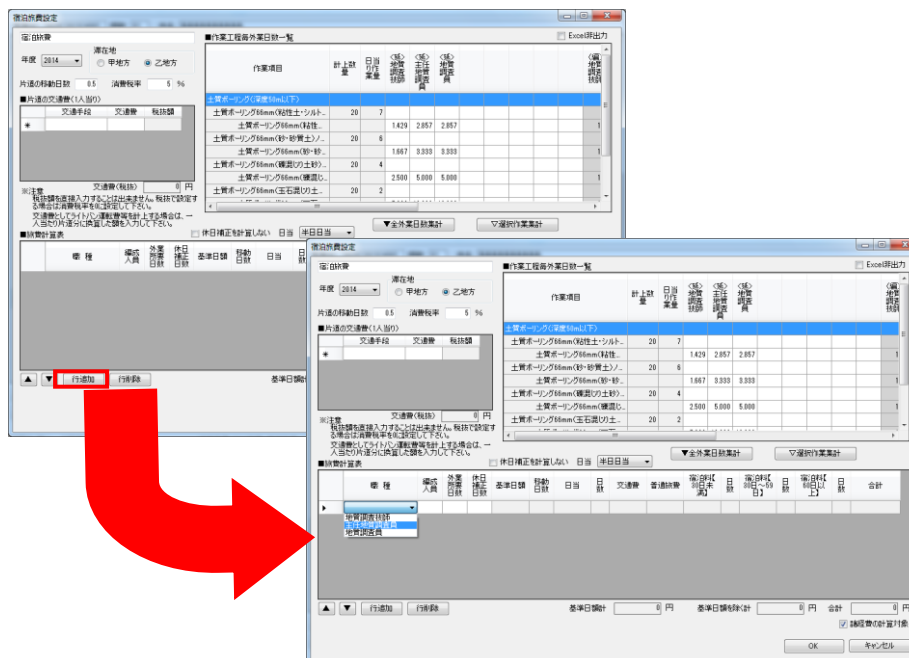


・手入力で個々の外業日数を設定する場合

「行追加」ボタンを押すと旅費計算表に空白行が追加されるので、職種をコンボボックスから選択し、編成人員、外業所要日数を入力します。

※休日補正日数は外業日数を入力すると自動的に計算されます。

※計算後の休日補正日数は修正することもできますが、外業日数を修正すると休日補正日数は再計算されます。



8-5-5. 2025年度以降の宿泊旅費

2025年度の基準改定より以下の点が異なりますが、基本的な操作・手順は同じです。

<2025年度以降>

<画面上無くなった項目>

- ① 滞在地（甲地方、乙地方）
- ② 日当の区分（半日日当、1日日当の選択）
- ③ 旅費計算表内の日当、普通旅費、日数期間毎の宿泊料

<追加された項目>

- ① 宿泊費（県） ※国家公務員等の旅費支給規程（別表第二 宿泊費基準額）
- ② 宿泊手当 ※国家公務員等の旅費支給規程（別表第三 宿泊手当）

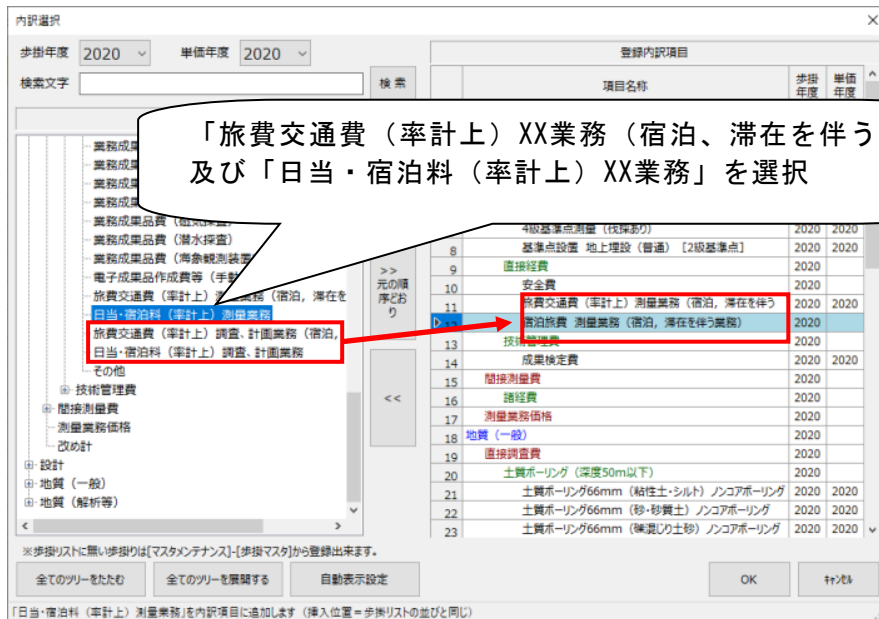
※宿泊旅費に関する注意事項

宿泊旅費に関係する日当、宿泊費、宿泊手当、あるいは延べ日数は歩掛工数や数量が変更され外業日数が変更になっても、自動的に再計算されません。その都度宿泊旅費画面を開き、それらの変更を再設定する必要があります。

8-6. 宿泊旅費の設定方法（率を用いた積算）

8-6-1. 旅費交通費と日当・宿泊料を追加する

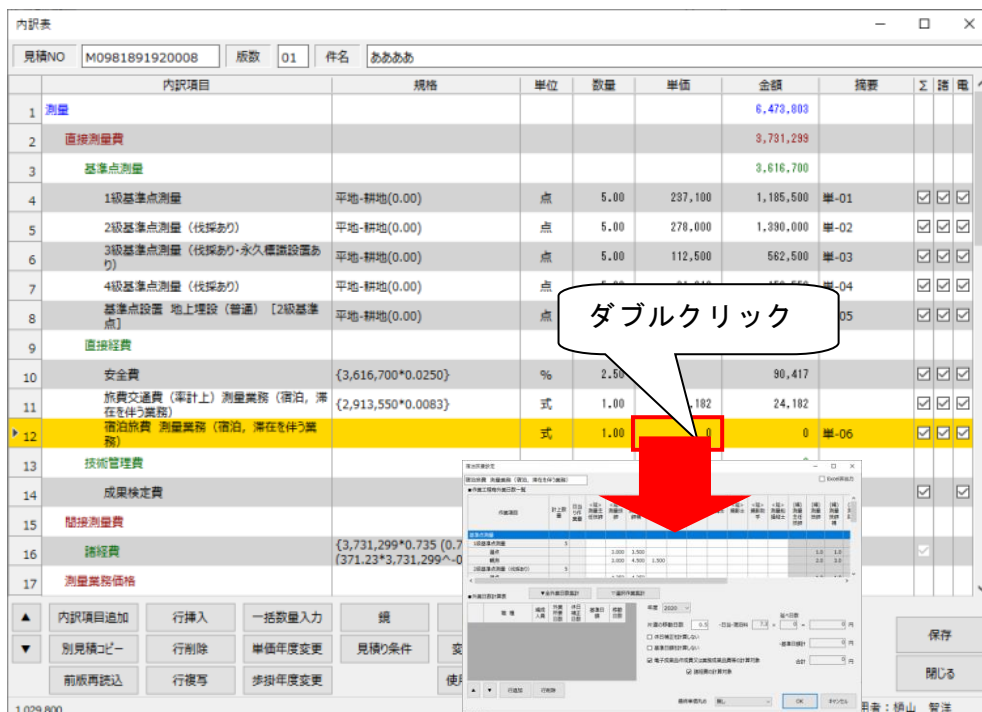
内訳書画面で「内訳項目追加」ボタンを押し、内訳選択画面で「旅費交通費（率計上）XX業務（宿泊、滞在を伴う）」及び「日当・宿泊料（率計上）XX業務」を選択します。



※「旅費交通費（率計上）」には宿泊を伴わないケースに使用するものもありますので、間違えないように選択してください。（掛け率、上限が異なります）
 ※宿泊を伴う場合は、上記のとおり、「旅費」部分と「宿泊及び往復人件費」の部分を別々に分けて2つ登録する必要がありますが、システム上、これらの有無のチェック等は行っておりませんのでご注意ください。

8-6-2. 日当・宿泊料画面を表示する

追加した「日当・宿泊料（率計上）」の内訳画面の単価欄をダブルクリックします。

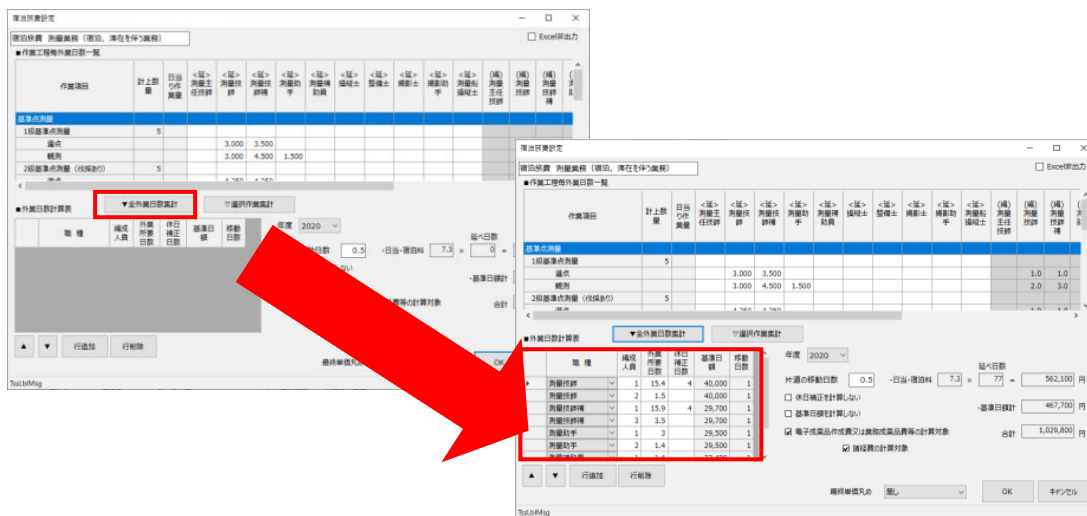


8-6-3. 職種毎の外業日数を設定する

職種毎の外業日数を設定する方法は「全外業日数集計」もしくは「選択作業集計」ボタンを押して、ひとまず自動計算した日数を設定する方法と、手動で個々に設定する方法があります。

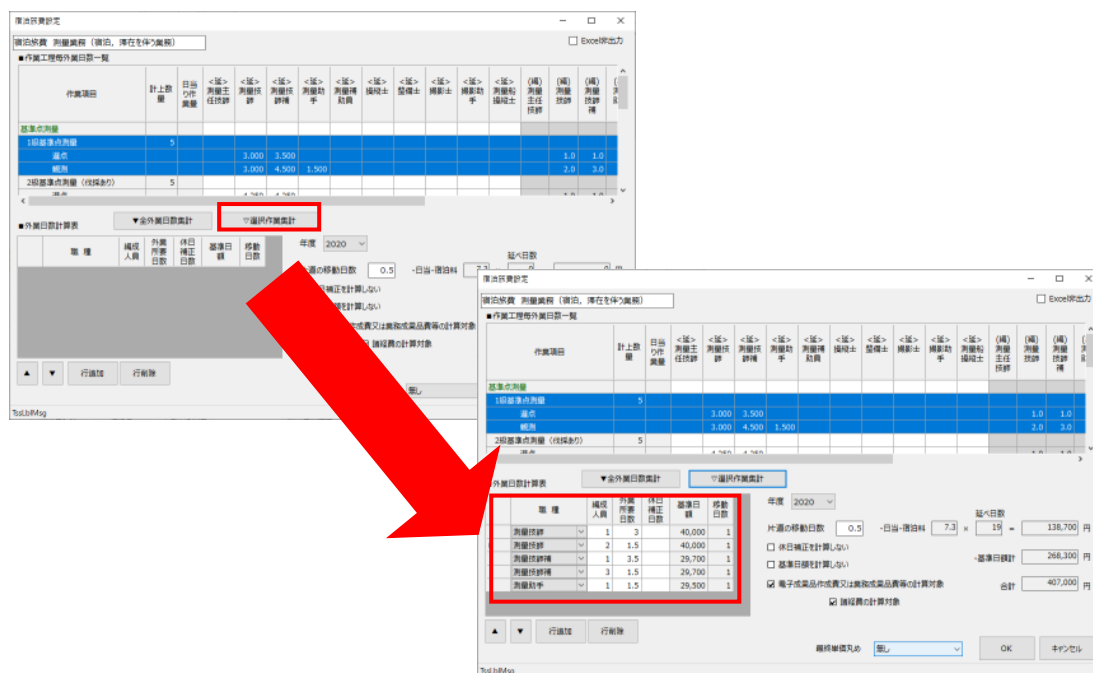
・「全外業日数集計」ボタンを押して設定する場合

「全外業日数集計」ボタンを押すと当該業種内の全外業日数を集計し、職種毎の外業日数、編成人員等が設定されます。



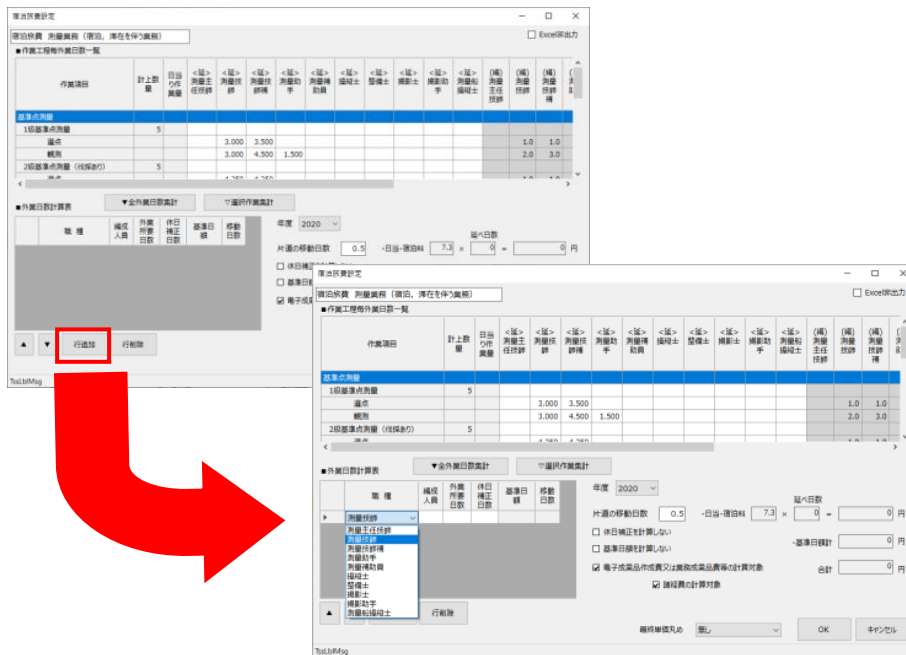
・「選択作業集計」ボタンを押して設定する場合

作業工程毎外業日数一覧から外業日数を取得したい作業項目を選択してから「選択作業集計」ボタンを押します。



・手入力で個々の外業日数を設定する場合

「行追加」ボタンを押すと旅費計算表に空白行が追加されるので、職種をコンボボックスから選択し、編成人員、外業所要日数を入力します。
 ※休日補正日数は外業日数を入力すると自動的に計算されます。
 ※計算後の休日補正日数は修正することもできますが、外業日数を修正すると休日補正日数は再計算されます。



8-6-4. 2025年度以降の宿泊旅費（率を用いた）

2025年度の基準改定より以下の点が異なります。

<2025年度以降>



<画面上なくなった項目>

- ① 日当・宿泊料の計算に用いる業種毎に定められた係数
- ② 日当・宿泊料

<追加された項目>

- ① 宿泊費
- ② 宿泊手当
- ③ 「規定値読み込み」ボタン
- ④ 宿泊費＋宿泊手当

延べ日数を求めるための手順である8-6-3までの手順は同じですが、2025年度以降は宿泊費及び宿泊手当の設定が必要になります。規程どおり「国家公務員の旅費支給規程」に定められて額をそのまま適用する場合は「<規定値読み込み」ボタンを押すと、

単価マスタに設定されてそれらの値が設定され、旅費が計算されます。
宿泊費及び宿泊手当は手入力により設定することも可能になっていますので、規定額と異なる場合は修正してください。

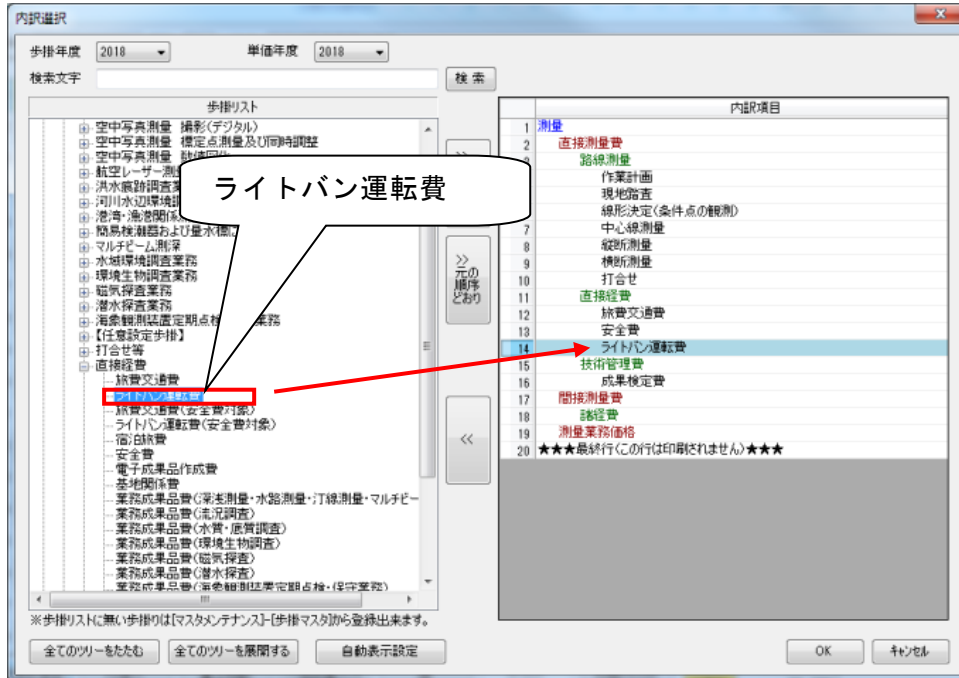
※宿泊旅費に関する注意事項

宿泊旅費に関係する日当、宿泊費、宿泊手当、あるいは延べ日数は歩掛工数や数量が変更され外業日数が変更になっても、自動的に再計算されません。その都度日当・宿泊料（率計上）画面を開き、外業日数等の変更を手動で行う必要があります。

8-7. ライトバン運転費の設定方法

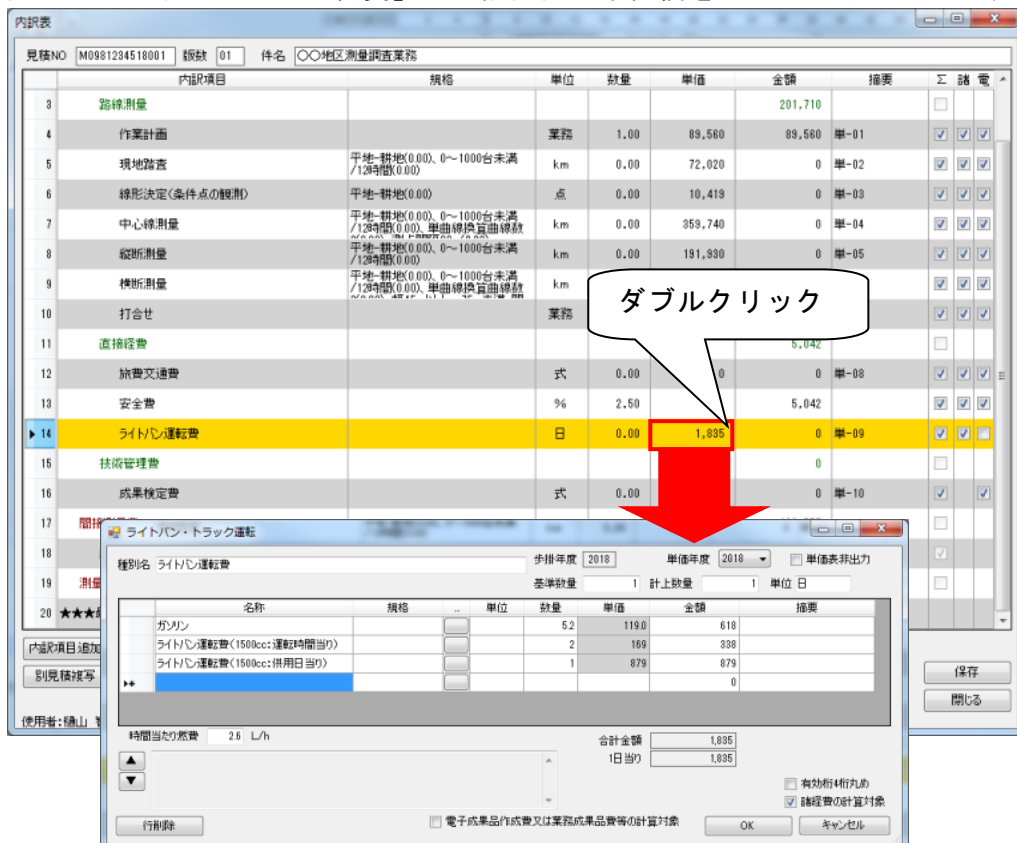
8-7-1. ライトバン運転費を追加する

内訳書画面で「内訳項目追加」ボタンを押し、内訳選択画面で「ライトバン運転費」を選択します。



8-7-2. 設定画面を表示する

追加した「ライトバン運転費」の内訳画面の単価欄をダブルクリックします。



8-7-3. 各種値を設定する

ライトバン運転費設定画面が表示されたら各項目の設定を行います。各項目の説明は「[6-2-14. ライトバン運転費画面](#)」を参照してください。以下には使用方法例としてガソリン単価を独自単価に変更する方法をあげます。

①ガソリンの行のボタンをクリック

②単価マスタ選択画面が表示され材料費のガソリンが選択されている

③「独自単価」チェックにチェックを入れ単価を手入力する。

④「OK」ボタンでライトバン運転費画面に戻る

⑤修正したガソリン単価が青字で表示される

名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ガソリン			5.2	119.0	618	
ライトバン運転費(1500cc:運転時間当り)			2	169	338	
ライトバン運転費(1500cc:供用日当り)			1	879	879	

コード	名称	規格	単位	単価(円)	摘要
20010001	ガソリン	レギュラー	リットル	119.0	
120010002	軽油		リットル	102.0	
			リットル	54.5	
			枚	497.0 (参考)	
			枚	692.0 (参考)	
			枚	851.0 (参考)	
			本	8,960.0	
			枚	357.0	
			本	12,400.0	
			枚	192.0	
			本	15,300.0	
			本	960.0	
			本	253.0 (参考)	
			枚	163.0 (参考)	
			枚	148.0 (参考)	

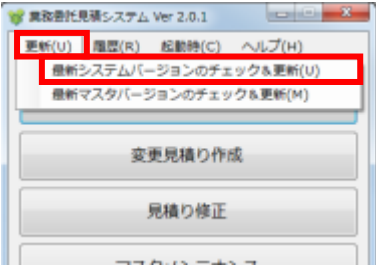
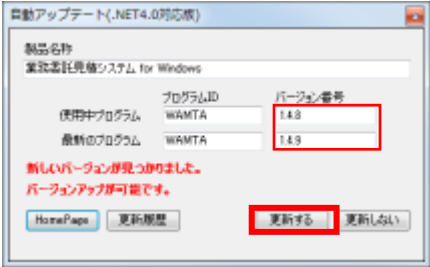
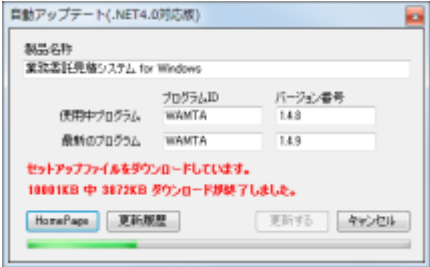
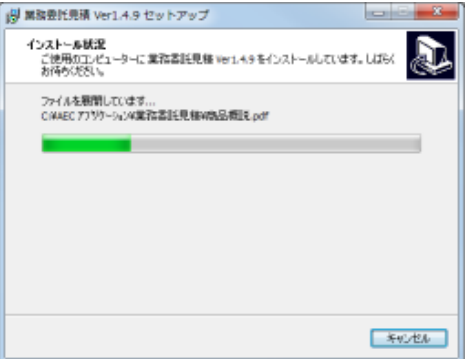
名称	単価	独自単価
ガソリン	119.0	<input type="checkbox"/>
ガソリン	120.0	<input checked="" type="checkbox"/>

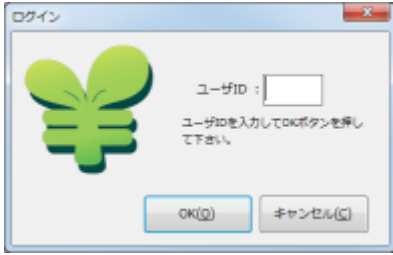
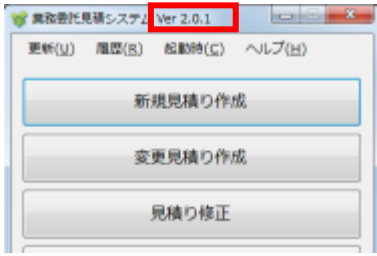
名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
ガソリン	レギュラー	リットル	5.2	120.0	624	
ライトバン運転費(1500cc:運転時間当り)			2	169	338	
ライトバン運転費(1500cc:供用日当り)			1	879	879	

8-8. システムのバージョンアップ手順

見積システムのプログラム本体のバージョンアップ方法を説明します。

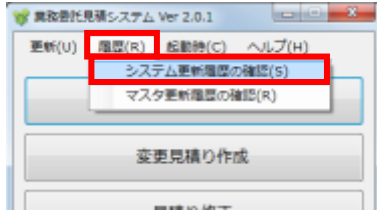

8-8-1. 自動アップデート機能を行う方法


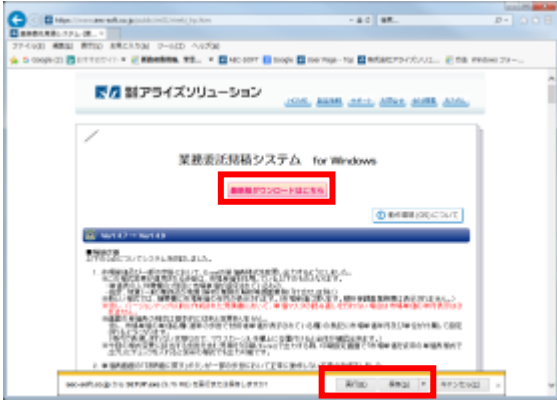
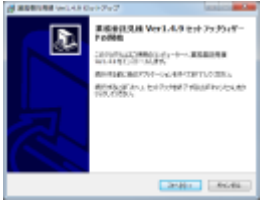

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の上部にある[更新(U)]をクリックし表示される[最新システムバージョンのチェック&更新(U)]ボタンをクリックします。</p>
<p>2. 自動アップデート</p> 	<p>「自動アップデート(.NET4.0対応版)」画面が表示されるので、使用中のプログラムのバージョンと最新のプログラムのバージョンを確認し、最新のプログラムの方が大きいバージョンの場合は更新することができますので[更新する]ボタンをクリックします。</p> <p>※何らかの理由で最新のバージョン番号の方が古い場合は[更新する]ボタンは押せません。</p>
<p>3. 自動アップデート</p> 	<p>インターネットを介して新しいシステムのセットアップファイルがダウンロードされますので、そのまま待ちます。</p>
<p>4. セットアップ</p> 	<p>セットアップファイルのダウンロードが終了すると、自動的にセットアップが開始されます。</p> <p>※お使いのパソコンの環境によっては、セットアップが起動する際に、ユーザアカウント制御の警告画面が表示されますので、[はい]を押して処理を進めてください。</p>

<p>5. ログイン</p> 	<p>セットアップが終了すると、見積システムが自動起動し、ログイン画面が表示されるので、ユーザIDを入力してログインします。</p>
<p>6. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー上部のバージョンを確認して、システムがアップデートされていることを確認します。</p>

8-8-2. 手動でセットアップを行う方法

ご利用環境によっては見積システム起動上からのアップデートが行えない場合があります。その場合は直接弊社ホームページ上のセットアップをダウンロードもしくは直接実行する方法でアップデートを行います。

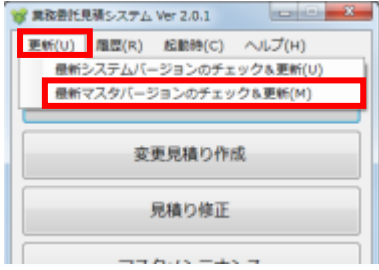
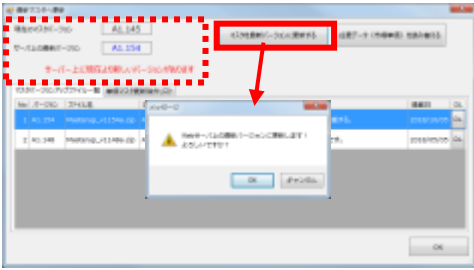

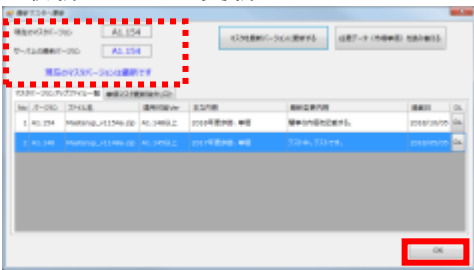
<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の上部にある[履歴(R)]をクリックし表示される[システム更新履歴の確認(S)]ボタンをクリックします。</p>
<p>2. システムの更新履歴ページ</p> 	<p>ブラウザで弊社ホームページのセットアップが配置されているページが開きます。</p>

<p>3. メインメニュー</p> 	<p>ここで、先に開いたブラウザ画面は開いたままで、見積システムを一旦終了します。</p>
<p>4. システムの更新履歴ページ</p> 	<p>先ほど開いたシステム更新履歴ページにある「最新版ダウンロードはこちら」ボタンを押し、「実行」もしくは「保存」して下さい。「保存」した場合は、エクスプローラ等で保存したSETUP.exeを実行してください。</p>
<p>5. セットアップ</p> 	<p>セットアップ画面が表示されるので、順次「次へ」ボタンを押します。最後に「インストール」ボタンを押すとインストールが実行され、完了画面が表示されたら「完了」ボタンを押します。</p> <p>※ステップ3で見積システムを終了し忘れていた場合は、途中「インストール準備中」画面で「セットアップに必要なファイルを使用中」と出ます。その場合「自動的にアプリケーションを終了する」を選択して「次へ」ボタンを押してください。</p>
<p>6. メインメニュー</p> 	<p>セットアップが完了したら、デスクトップにあるショートカットから見積システムを起動し、メインメニュー上部のバージョンを確認します。</p> <p>※ショートカット標記のバージョンも更新されるのでそちらでも確認できます。</p>

8-9. マスタのバージョンアップ手順

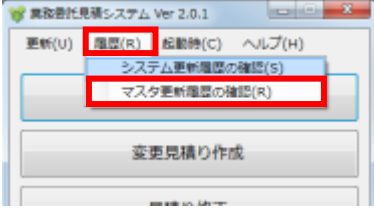
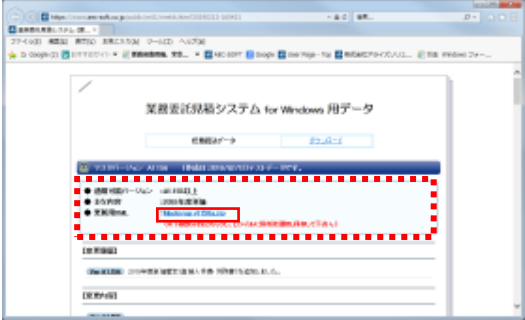
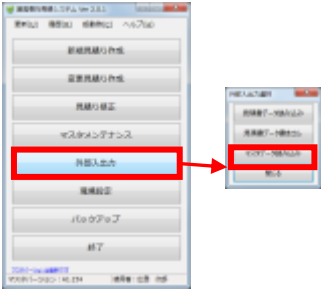
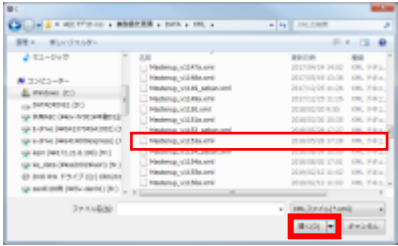
見積システムで使用する歩掛や単価といったマスタデータのアップデート方法を説明します。

8-9-1. マスタバージョンアップ機能を使った方法

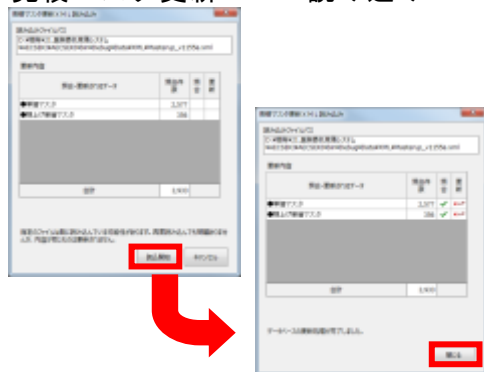
<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の上部にある[更新(U)]をクリックし表示される[最新マスタバージョンのチェック&更新]ボタンをクリックします。</p>
<p>2. 最新マスタへ更新</p> 	<p>「最新マスタへ更新」画面が表示されるので、使用中の現在のマスタバージョンとサーバ上の最新バージョンを確認し[マスタを最新バージョンに更新する]ボタンをクリックします。</p> <p>各項目の詳細は「6-7-1-2. マスタのバージョンアップ」参照)</p>
<p>3. 見積マスタ更新XML読み込み</p> 	<p>インターネットを介してWebサーバ上からマスタの更新ファイルがダウンロードされます。(回線状況により多少時間が掛かります)</p> <p>ダウンロードが完了すると、自動的に「見積マスタ更新XML読み込み」画面が表示され、システム内部への読み込みが開始されます。</p> <p>※現在のバージョン状況により、複数回処理が繰り返される場合があります。</p>
<p>4. 最新マスタへ更新</p> 	<p>バージョンアップが完了すると「最新マスタへ更新」画面の現在のマスタバージョンが更新され「現在のマスタバージョンは最新です」と表示されます。[OK]ボタンを押して画面を閉じます。</p>

8-9-2. 手動で更新XMLをダウンロードし読み込む方法

ご利用環境によっては見積システム起動上からのアップデートが行えない場合があります。その場合の方法として、直接弊社ホームページ上から手動で更新データをダウンロードし読み込んでいただく手順を説明します。

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の上部にある[履歴(R)]をクリックし表示される[マスタ更新履歴の確認(R)]ボタンをクリックします。</p>
<p>2. 見積システム用データページ</p> 	<p>ブラウザで弊社ホームページの「業務委託見積システム for Windows用データ」ページが開きます。</p> <p>「適用可能バージョン」や「主な内容」を確認の上、「更新用XML」欄の右の「Masterup_vxxxxa.zip」という文字をクリックし、ダウンロードします。</p> <p>※ご使用のブラウザにより表現は異なりますが、ご使用パソコンに上記ファイルをダウンロードするよう操作してください。</p> <p>※IEの場合では左クリックで「名前を付けて保存」、右クリックで「対象をファイルに保存」、Googleは右クリックで「名前を付けてリンク先を保存」などを選びます。</p>
<p>3. 外部入出力</p> 	<p>メインメニュー画面から[外部入出力]ボタンをクリックし、外部入出力選択画面の[マスタデータ読み込み]ボタンをクリックします。</p>
<p>4. ファイル選択</p> 	<p>ファイル選択の画面が表示されるので、先ほどダウンロードしたファイル (ZIP またはXML) を選択し、[開く]ボタンをクリックします。</p> <p>※システムVer2.0.1以降はZIP形式ファイルを処理対象としますが、従来バージョンのXML形式も処理可能です。</p>

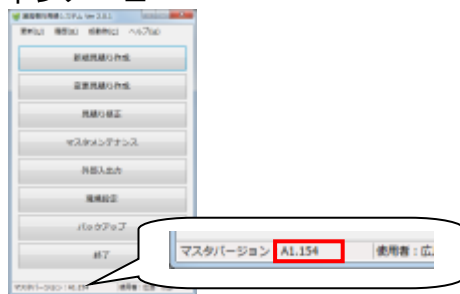
5. 見積マスタ更新XML読み込み



「見積マスタ更新XML読み込み」画面が表示されるので、[読み込み開始]ボタンをクリックします。

読み込みが開始され、処理が完了するとその旨が表示されるので、[閉じる]ボタンをクリックし画面を閉じます。

6. メインメニュー

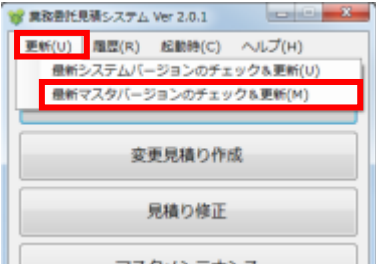
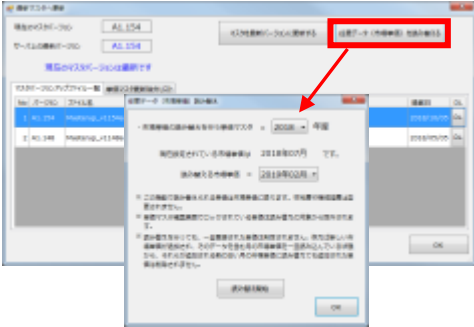



メインメニューの下部にあるマスタバージョンが更新されていることを確認します。

8-10. 市場単価の切り替え手順

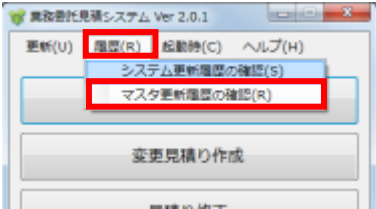
見積システムで使用する市場単価（任意データ）の切り替え方法を説明します。

8-10-1. 任意データ読み替え機能を使った方法

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の上部にある[更新(U)]をクリックし表示される[最新マスターバージョンのチェック&更新]ボタンをクリックします。</p>
<p>2. 最新マスタへ更新</p> 	<p>「最新マスタへ更新」画面が表示されるので[任意データ（市場単価）を読み替える]ボタンをクリックします。</p>
<p>3. 任意データ（市場単価）読み替え</p> 	<p>市場単価の読み替えを行う単価マスタの年度、及び読み替える市場単価の年月を選択して、[読み替え開始]ボタンをクリックします。</p> <p>各項目の詳細は「6-7-1-3. 任意データ（市場単価）の読み替え」参照</p>

8-10-2. 手動で更新XMLをダウンロードし読み込む方法

ご利用環境によっては見積システム起動上からのアップデートが行えない場合があります。その場合の方法として、直接弊社ホームページ上から手動で更新データをダウンロードし読み込んでいただく手順を説明します。

<p>1. メインメニュー</p> 	<p>メインメニュー画面の上部にある[履歴(R)]をクリックし表示される[マスタ更新履歴の確認(R)]ボタンをクリックします。</p>
---	---

2. 見積システム用データページ



ブラウザで弊社ホームページの「業務委託見積システム for Windows用データ」ページが開きます。

ページタイトル直下の「任意読み込みデータ」右の「ダウンロード」部分をクリックします。

3. 任意データページ

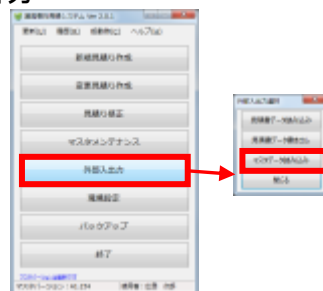


市場単価の年月毎にデータがあるページが開きます。

必要な年月にある「更新用XML」の文字部分を右クリックし、ご使用パソコンにファイルを保存します。

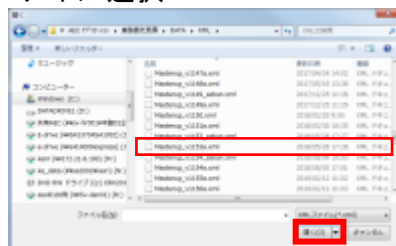
※ご使用のブラウザにより表現は異なりますが、ご使用パソコンに上記ファイルをダウンロードするよう操作してください。
 ※IEの場合では左クリックで「名前を付けて保存」、右クリックで「対象をファイルに保存」、Googleは右クリックで「名前を付けてリンク先を保存」などを選びます。

3. 外部入出力



メインメニュー画面から[外部入出力]ボタンをクリックし、外部入出力選択画面の[マスターデータ読み込み]ボタンをクリックします。

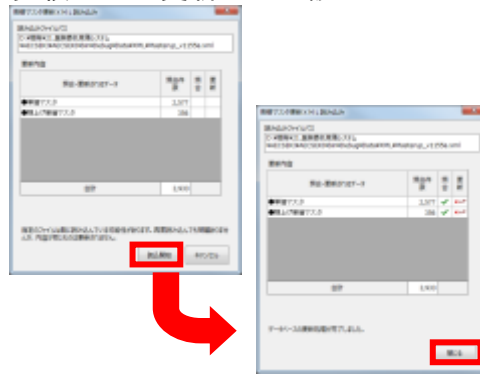
4. ファイル選択



ファイル選択の画面が表示されるので、先ほどダウンロードしたファイル(XML)を選択し、[開く]ボタンをクリックします。

※システムVer2.0.1以降はZIP形式ファイルを処理対象としていますが任意データはXML形式なのでファイルの形式をXMLにして選択してください。

5. 見積マスタ更新XML読み込み



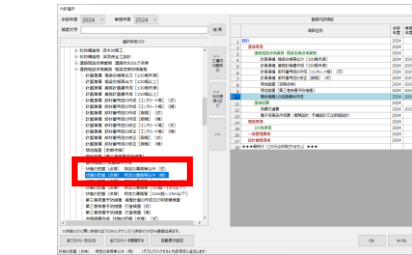
「見積マスタ更新XML読み込み」画面が表示されるので、[読み込み開始]ボタンをクリックします。

読み込みが開始され、処理が完了するとその旨が表示されるので、[閉じる]ボタンをクリックし画面を閉じます。

8-11. 橋梁定期点検のコピー機能の使用方法

8-11-1. 橋梁定期点検業務の「状態の把握(点検) 特定の溝橋等以外(橋)」歩掛を「点検コピー」機能を使用して複数追加する方法

1. 内訳項目追加



まず、コピー元となる「状態の把握(点検) 特定の溝橋等以外(橋)」を「内訳項目追加」から内訳表に登録しておきます。

2. 内訳表

追加した「状態の把握(点検) 特定の溝橋等以外(橋)」の項目名称や補正条件(面積、足場条件)及び人件費単価を通常の単価画面を開いて設定し、コピー元となる歩掛を1つ以上設定します。

3. 内訳表

2で設定した行を選択して右クリックして表示されるメニューに「点検コピー」があるので選択クリックします。

4. 点検コピー画面

点検コピー画面が表示されるので、橋の名前が箇所名に表示されるようにスライダーを右にスライドさせて位置を合わせます。

5. 点検コピー画面

点検コピー画面にある各項目を設定しコピー先の状態を設定します。

以下例

- ① 箇所名を「〇〇橋」から「△△橋」
- ② 面積を「200」に変更
- ③ 足場条件を「地上」に変更
- ④ 適用労務単価を「通常(8h)夜」に変更

6. 内訳表 & 点検コピー画面

内訳表	品名	数量	単価	金額	積算	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	内訳表				2,294,400																				
2	標準単価				800,400																				
3	適用労務単価				841,400																				
4	計費単価				921,800																				
5	計費単価				961,100																				
6	計費単価				961,100																				
7	計費単価				961,100																				
8	計費単価				961,100																				
9	計費単価				961,100																				
10	計費単価				961,100																				
11	計費単価				961,100																				
12	計費単価				961,100																				
13	計費単価				961,100																				
14	計費単価				961,100																				
15	計費単価				961,100																				
16	計費単価				961,100																				
17	計費単価				961,100																				
18	計費単価				961,100																				
19	計費単価				961,100																				
20	計費単価				961,100																				

「上記点検を追加して次へ」ボタンを押します。

すると、内訳画面に一瞬戻り、指定した条件の項目が行挿入され、再び点検コピー画面が表示されますので、次のコピー先条件を設定してコピーを繰り返していきます。

「キャンセル」ボタンを押すことで繰り返しを中断し点検コピーを終了できます。

8-11-2. 橋梁定期点検業務の「点検調書作成」を一括作成

前述の点検コピー機能を使うなどして、あらかじめ点検（1橋当り）歩掛項目が作成されている場合、その項目を元にそれらに対応した（同じ点検面積の）「点検調書作成」歩掛の項目を内訳書に一括登録することができます。

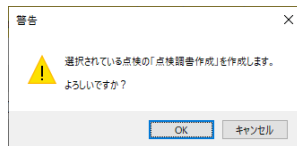
1. 内訳表

内訳書	内訳項目	単位	数量	単価	金額	歩掛	登録	削除
1	設計				2,746,875			
2	点検業務				1,025,244			
3	道路橋の点検業務 橋梁定期点検業務				1,025,244			
4	計画業務 橋梁定期点検業務 (100橋未満)	架設	1.00	100,000	100,000	架-01		
5	計画業務 橋梁定期点検業務 (100橋未満)	架設	1.00	561,100	561,100	架-02		
6	計画業務 歩掛業務項目の修正 (20分以内)	式	1.00	0	0	架-03		
7	計画業務 歩掛業務項目の修正 (超過)	式	1.00	0	0	架-04		
8	現地調査 (定期点検)	橋	8.00	44,720	0	架-05		
9	現地調査 (第三者検査手続調査)	橋	8.00	36,100	0	架-06		
10	緊急修繕の応急処置手続	架設	8.00	59,200	0	架-07		
11	歩掛業務 (歩掛) 〇二橋	X X=150 歩掛業務(1.20)	橋	8.00	81,624	81,624	架-08	
12	歩掛業務 (歩掛) 〇三橋	X X=200 歩掛業務(1.50)	橋	8.00	81,624	81,624	架-09	
13	歩掛業務 (歩掛) 〇四橋	X X=300 歩掛業務(2.00)	橋	8.00	122,560	122,560	架-10	
14	歩掛業務 (歩掛) 〇五橋	X X=450 歩掛業務(3.00)	橋	8.00	81,536	81,536	架-11	
15	歩掛業務				100,000			
16	歩掛業務作成 (定期点検) 〇二橋	X X=150	橋	8.00	81,600	81,600	架-12	
17	歩掛業務作成 (定期点検) 〇三橋	X X=200	橋	8.00	122,784	122,784	架-13	
18	歩掛業務作成 (定期点検) 〇四橋	X X=300	橋	8.00	165,712	165,712	架-14	
19	歩掛業務作成 (定期点検) 〇五橋	X X=450	橋	8.00	102,300	102,300	架-15	
20	歩掛業務	式	1.00	0	0	架-16		
合計					2,746,875			
歩掛業務作成					274,880			
合計					2,472,000			

作成済みの点検項目を選択（複数）し右クリックして表示されるメニューから「点検調書の作成」を選択クリックします。

※選択した行に点検調書作成に対応する点検項目が含まれていない場合は「点検調書の作成」コマンドは表示されません。

2. 確認メッセージ



確認メッセージが表示されるので「OK」をクリックします。

3. 内訳表

内訳書	内訳項目	単位	数量	単価	金額	歩掛	登録	削除
1	設計				2,746,875			
2	点検業務				1,025,244			
3	道路橋の点検業務 橋梁定期点検業務				1,025,244			
4	計画業務 橋梁定期点検業務 (100橋未満)	架設	1.00	100,000	100,000	架-01		
5	計画業務 橋梁定期点検業務 (100橋未満)	架設	1.00	561,100	561,100	架-02		
6	計画業務 歩掛業務項目の修正 (20分以内)	式	1.00	0	0	架-03		
7	計画業務 歩掛業務項目の修正 (超過)	式	1.00	0	0	架-04		
8	現地調査 (定期点検)	橋	8.00	44,720	0	架-05		
9	現地調査 (第三者検査手続調査)	橋	8.00	36,100	0	架-06		
10	緊急修繕の応急処置手続	架設	8.00	59,200	0	架-07		
11	歩掛業務 (歩掛) 〇二橋	X X=150 歩掛業務(1.20)	橋	8.00	81,624	81,624	架-08	
12	歩掛業務 (歩掛) 〇三橋	X X=200 歩掛業務(1.50)	橋	8.00	81,624	81,624	架-09	
13	歩掛業務 (歩掛) 〇四橋	X X=300 歩掛業務(2.00)	橋	8.00	122,560	122,560	架-10	
14	歩掛業務 (歩掛) 〇五橋	X X=450 歩掛業務(3.00)	橋	8.00	81,536	81,536	架-11	
15	歩掛業務作成 (定期点検) 〇二橋	X X=150	橋	8.00	81,600	81,600	架-12	
16	歩掛業務作成 (定期点検) 〇三橋	X X=200	橋	8.00	122,784	122,784	架-13	
17	歩掛業務作成 (定期点検) 〇四橋	X X=300	橋	8.00	165,712	165,712	架-14	
18	歩掛業務作成 (定期点検) 〇五橋	X X=450	橋	8.00	102,300	102,300	架-15	
19	歩掛業務	式	1.00	0	0	架-16		
合計					3,897,319			
歩掛業務作成					389,712			
合計					4,287,031			

内訳画面に1で選択した点検に対応した「点検調書作成」が表示されます。

※選択した行の中に点検調書作成に該当しない行が含まれていた場合は、それらは無視され、対応した行の点検調書作成のみ登録されます。

9. 参考資料【見積作成時の留意点等】

9-1. 共通

■ 独自歩掛の登録について

発注機関により独自の歩掛を適用されている場合等、システムに登録されていない歩掛を登録する場合は「マスタメンテナンス」メニューより歩掛マスタを追加登録してください。（「6-3-2. 歩掛マスタ」参照）

■ 打合せ協議について

打合せ協議については、積算基準書に明示されているものについては、それに準じてセットしていますが、それ以外の種別については標準的な打合せ協議（中間時1回）を設定しています。内容を確認の上、業務に合わせて修正してください。

■ 業務価格の丸めについて

各業種とも、諸経費の計上は既定値として自動計算を行うように設定されています。金額を1万円単位に丸める場合は、以下の2通りの方法があります。

イ) 「改め計」行の挿入

各業種に「内訳項目追加」ボタンにより「改め計」行を挿入してください。自動的に該当業務価格が1万円単位に丸められます。なお、千円単位や10万円単位等丸め単位を変更する際には金額欄をダブルクリックして変更できます。

The screenshot shows a software interface for estimating costs. It features a search bar at the top with '歩掛年度' (Step Rate Year) and '単価年度' (Unit Price Year) both set to 2018. Below the search bar is a '選択歩掛リスト' (Selected Step Rate List) showing a tree view of items like '直接測量費' (Direct Measurement Fee) and '間接測量費' (Indirect Measurement Fee). A '改め計' (Adjustment) button is visible. The main table displays a list of items with columns for '単価' (Unit Price), '金額' (Amount), and '単' (Unit). A red arrow points from the '改め計' row to a dialog box titled '金額入力' (Amount Input) with options for rounding: '○ 十万円 * 一万円 ○ 千円'. The '改め計' row is highlighted in yellow, and its amount is 17,110,000. A summary table at the bottom right shows '合計' (Total) as 17,110,000 and '消費税' (Consumption Tax) as 1,368,800.

単価	金額	単
	9,954,007	
1 測量	61,170	単-01
2 直接測量費	30,315	単-02
3 河川測量	41,778	単-03
4 作業	136,705	単-04
5 現地	61,863	単-05
6 水準	2,715	単-06
7 河川		
10 打合せ等	211,300	
11 打合せ	211,300	単-07
12 直接経費	149,000	
13 旅費交通費	24,000	単-08
14 電子成果物	125,000	
15 間接測量費	6,797,128	
16 諸経費	6,797,128	
17 測量業務価格	17,111,435	
18 改め計	17,110,000	
19 ***最終行 (この行は印刷されません) ***		
合計	17,110,000	
消費税	1,368,800	

ロ) 「調整額」行の挿入

「挿入」ボタンにて任意計算項目として「調整額」を挿入してください。数量に1.00を入力し、合計金額が1万円単位となるよう調整額を単価欄に入力してください。(※Σ欄にチェック)

内訳項目	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	Σ	諸電
4 作業計画		業務	1.00	61,170	61,170	単-01	☑	☑
5 現地踏査		km	10.00	30,315	303,150	単-02	☑	☑
6 水準基標測量		km	16.10	41,778	672,625	単-03	☑	☑
		km	16.10	138,705	2,200,950	単-04	☑	☑
		本	104.00	61,863	6,433,752	単-05	☑	☑
		断面	104.00				☑	☑
		業務	1.00				☑	☑
		式	1.00				☑	☑
14 製品作成費	{(2.3*Fix(8,927,971/1000))^0.44}	式	1.00		125,000		☑	☑
19 間接測量					6,795,693		☑	☑
16 諸経費		%	65.90		6,797,120		☑	☑
17 調整額			0.00		- 1,435			
18 調整額			1.00	- 1,435	- 1,435		☑	☑
19 測量業務価格					17,110,000			
20 ***最終行 (この行は印刷されません)***								

■ 旅費交通費について

旅費交通費は、使用頻度の高い「ライトバン運転費」の単価が年度毎に予めセットされていますが、年度初めに1度設定された単価であり燃料費の変動や地域差は考慮されていません。したがって、使用の都度設定し直してください。

また、宿泊を伴う旅費計算は別途「宿泊旅費」を選択して設定してください。

■ 工種集計項目の入れ替えについて

内訳表の「▲」「▼」ボタンにより、工種を越えて積算項目の移動ができます。例えば、「河川測量」工種の中に「路線測量」の「中心線測量」を含めることができます。これにより設計書に合わせた積算項目の計上が可能となります。

【例】中心線測量を河川測量に計上する場合

5	2級基準点測量 (枕採取)	平地-耕地(0.00)	点	2.00	255,300	510,600	単-02	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	3級基準点測量 (枕採取/永久標識設置あり)	平地-耕地(0.00)	点	16.00	169,200	1,032,000	単-03	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	4級基準点測量 (枕採取)	平地-耕地(0.00)	点	28.00	28,800	576,600	単-04	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	河川測量				28,800	576,600	単-04	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	作業計画		業務	1.00	63,070	63,070	単-05	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	現地踏査	10 X=60	式	1.00	315,580	315,580	単-06	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	河川定期横断測量 直線水準 (山地)	X/100 X=60	本	16.00	86,220	302,200	単-07	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	路線測量					303,200				
13	中心線測量	平地-耕地(0.00), 0~1000社未満 /12時間(0.00), 単曲線換算曲線型	km	1.00	303,200	303,200	単-08	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	直線経費					33,661				
15	安全費	{3,746,450*0.025}	%	2.50		33,661				
16	技術管理費					61,500				
17	成果検定費		式	1.00	61,500	61,500	単-09	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

▲ 内訳項目追加 行挿入 一括数量入力 検索 単価表 印刷/Excel 合計 6,718,412
▼ 別見積コピー 行削除 単価年度変更 見積り条件 変換率一覧 金額構成一覧 消費税 597,312
前戻再読み込み 行複写 歩掛年度変更 使用単価一覧 外費日数一覧 税額 7,253,724 保存
閉じる

中心線測量 歩掛: 2018年度 単価: 2018年度 使用者: 広倉 次郎

※中心線測量を選択して「▲」ボタンをクリック

5	2級基準点測量 (枕採取)	平地-耕地(0.00)	点	2.00	255,300	510,600	単-02	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	3級基準点測量 (枕採取/永久標識設置あり)	平地-耕地(0.00)	点	16.00	169,200	1,032,000	単-03	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	4級基準点測量 (枕採取)	平地-耕地(0.00)	点	28.00	28,800	576,600	単-04	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	河川測量				28,800	576,600	単-04	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	作業計画		業務	1.00	63,070	63,070	単-05	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	現地踏査	10 X=60	式	1.00	315,580	315,580	単-06	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	河川定期横断測量 直線水準 (山地)	X/100 X=60	本	16.00	86,220	302,200	単-07	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	中心線測量	平地-耕地(0.00), 0~1000社未満 /12時間(0.00), 単曲線換算曲線型	km	1.00	303,200	303,200	単-08	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	路線測量					0				
14	直線経費					33,661				
15	安全費	{3,746,450*0.025}	%	2.50		33,661				
16	技術管理費					61,500				
17	成果検定費		式	1.00	61,500	61,500	単-09	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

▲ 内訳項目追加 行挿入 一括数量入力 検索 単価表 印刷/Excel 合計 6,718,412
▼ 別見積コピー 行削除 単価年度変更 見積り条件 変換率一覧 金額構成一覧 消費税 597,312
前戻再読み込み 行複写 歩掛年度変更 使用単価一覧 外費日数一覧 税額 7,253,724 保存
閉じる

現在の見積を保存します 歩掛: 2018年度 単価: 2018年度 使用者: 広倉 次郎

■ 直接人件費等の比率で計上する経費について

「直接人件費の1%」等、直接人件費や直接業務費の比率により計上する経費項目については、以下の要領で計上できます。※「直接経費」以外の項目には計上できません。

②単価欄をダブルクリックし「直接人件費」を選択

③数量をダブルクリックし「比率」を入力

④「Σ」にチェック確認

①直接経費欄にカーソルを合わせ「行挿入」を行い任意で項目を入力

内訳項目	規格	単位	数量	単価	金額	検索	Σ	電
1 設計					9,881,435			
2 直接原価					4,228,718			
3 道路概略設計					383,238			
4 道路概略設計 (A)	平地(0.00)、暫定計画なし(0.00)、成築員工区分割なし(0.00)	km	1.00	383,238	383,238	単-01	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5 道路予備設計					1,276,478			
6 道路予備設計 (A)	平地(0.00)、3~4車線(0.00)、複断面なし(0.00)、暫定計画なし(0.00)	km	1.00	1,276,478	1,276,478	単-02	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
7 道路詳細設計					2,248,892			
8 道路詳細設計 (A) 予備設計あり(1km以上)	平地(0.00)、3~4車線(0.00)、複断面なし(0.00)、暫定計画なし(0.00)	km	1.00	2,248,892	2,248,892	単-03	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
9 直接経費					328,317			
10 パソコン操利率	直接人件費×1.00%	%	1.00	3,881,770	38,817		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
11 電子成算前作成費(概略設計、予備設計又は詳細設計)	$\{(6.9 \times \text{Flx}(3,831,770/1000))^{0.45}\}$	式	1.00	282,000	282,000		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
12 間接原価					2,861,488			
13 その他原価	$\{3,831,770 \times 0.5385\} / (1-\alpha) = 35.0\%$				2,861,488		<input checked="" type="checkbox"/>	
14 一般管理費等	$\{6,292,126 \times 0.5385\} / (1-\beta) = 35.0\%$				3,388,333		<input checked="" type="checkbox"/>	
15 設計業務価格					9,881,435			
16 ***最終行 (この行は印刷されません) ***								

内訳項目	規格	単位	数量	単価	金額	検索	Σ	電
1 設計					9,881,435			
2 直接原価					4,228,718			
3 道路概略設計					383,238			
4 道路概略設計 (A)	平地(0.00)、暫定計画なし(0.00)、成築員工区分割なし(0.00)	km	1.00	383,238	383,238	単-01	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5 道路予備設計					1,276,478			
6 道路予備設計 (A)	平地(0.00)、3~4車線(0.00)、複断面なし(0.00)、暫定計画なし(0.00)	km	1.00	1,276,478	1,276,478	単-02	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
7 道路詳細設計					2,248,892			
8 道路詳細設計 (A) 予備設計あり(1km以上)	平地(0.00)、3~4車線(0.00)、複断面なし(0.00)、暫定計画なし(0.00)	km	1.00	2,248,892	2,248,892	単-03	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
9 直接経費					328,317			
10 パソコン操利率	直接人件費×1.00%	%	1.00	3,881,770	38,817		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
11 電子成算前作成費(概略設計、予備設計又は詳細設計)	$\{(6.9 \times \text{Flx}(3,831,770/1000))^{0.45}\}$	式	1.00	282,000	282,000		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
12 間接原価					2,861,488			
13 その他原価	$\{3,831,770 \times 0.5385\} / (1-\alpha) = 35.0\%$				2,861,488		<input checked="" type="checkbox"/>	
14 一般管理費等	$\{6,292,126 \times 0.5385\} / (1-\beta) = 35.0\%$				3,388,333		<input checked="" type="checkbox"/>	
15 設計業務価格					9,881,435			
16 ***最終行 (この行は印刷されません) ***								

9-2. 測量

■ 成果検定費について

成果検定費の計上については、既定値としては何もセットされていません。必要に応じて以下の要領で計上してください。

- ① 内訳表の成果検定費の数量に「1.00」を入力してください
- ② 単価表を開き、○の部分をクリックして、建設物価、積算資料等の成果検定費を選択して「OK」ボタンをクリックしてください。

選択	作業項目	内訳	工数
<input checked="" type="checkbox"/>	成果検定費		

市場単価	名称	規格	単位	[積]単価	[物]単価	自作単価
TS0010023	測量成果品検定料金 水準点復...	再設法	点	13,400	13,400	
TS0010497	測量成果品検定料金 高度地域...	GNSS	点	0	17,600	
TS0010025	測量成果品検定料金 1級基準...	GNSS	点	12,500	12,500	
TS0010026	測量成果品検定料金 1級基準...	トータルステーション	点	18,500	18,500	
TS0010027	測量成果品検定料金 1級基準...	字書き字簿	点	24,000	24,000	
TS0010028	測量成果品検定料金 2級基準...	GNSS	点	12,000	12,000	

- ③ 該当行に点数等の数量を入力してください。

選択	作業項目	内訳	数量	工数
<input checked="" type="checkbox"/>	成果検定費		3.000	1.000

- ④ 「閉じる」ボタンを押すと金額が計上されています。

8	測量経費					89,888		
9	安全費	(2,762,400*0.025)	%	2.50		89,888	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
10	技術管理費					37,588		
11	成果検定費		式	1.00	37,500	37,588	単-05	<input checked="" type="checkbox"/>
12	監理測量費					2,148,415		
13	雑経費	(2,831,460*0.757 (0.757 = (371.23*2,831,460^-0.107)/100)	%	75.70		2,148,415	<input checked="" type="checkbox"/>	

■ 現地測量の重量平均について

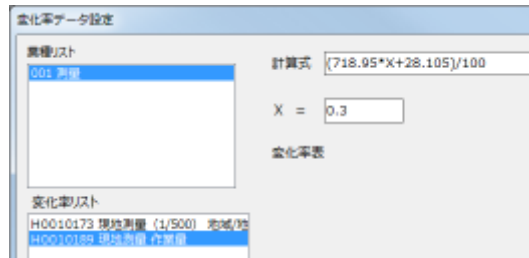
変化率の重量平均を行う場合は、変化率の合計数量が内訳表の数量と一致するようにチェックを行っています。但し、現地測量は、作業量補正がありますので、作業量（面積）とのチェックを行っています。このため、現地測量で重量平均を行う場合は、予め作業量補正に総面積を入力し、該当する地域地形条件の各面積を入力してください。

【例】耕地・平地：0.2[km²]、原野・丘陵地：0.1[km²]の場合

作業量補正：0.3[km²]※総面積を入力

耕地・平地：0.2[km²]※該当面積を入力（重量計算）

原野・丘陵地：0.1[km²]※該当面積を入力（重量計算）



	平地	丘陵地	低山地	高山地
大市地	0.80			
市街地甲	0.70			
市街地乙	0.50	0.80		
都市近郊	0.20	0.50		
耕地	0.00 [0.2]	0.20	0.50	
原野	0.10	0.30 [0.1]	0.70	1.00
森林		0.40	1.40	1.70

9-3. 設計

■ 技術経費率について（2010年度以前の旧基準歩掛適用時に限る）

設計業務の技術経費率は、既定値として「易」20%がセットされています。業務内容に応じて変更してください。技術経費の「数量」欄をダブルクリックすると、参考値として各種別の技術経費率及び対象金額が表示されます。

（「6-2-3. 内訳画面」参照）

見解NO	内訳項目	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
1	設計					7,384,426	
2	図様業務費					3,184,168	
3	測地予備設計					1,226,242	
4	測地予備設計 (A)					818,599	単-01
5	測地予備修正設計 (B)					407,643	単-02
6	測地詳細設計					1,574,818	
7	測地詳細設計 (A)					1,574,818	単-03
8	設計協議					119,988	
9	設計協議					119,988	単-04
10	図様経費					234,888	
11	電子成果品作成費 (測地詳細設計)					234,888	
12	図様業務費					4,158,266	
13	諸経費	{2,530,650*1.200}	%	120.00		3,036,780	
14	技術経費		%	20.00		1,119,488	
15	設計業務費					7,384,426	

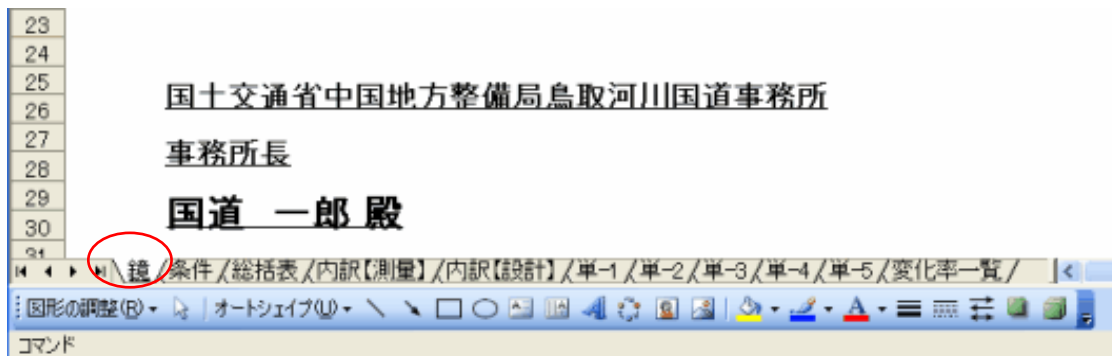
なお、技術経費を種別毎に積上計上する場合は、「内訳項目追加」ボタンから「技術経費（積上）」を選択してください（当初「技術経費」がある場合は追加後削除してください）。種別毎に計上した技術経費の合計額が計上されます。

9-4. その他

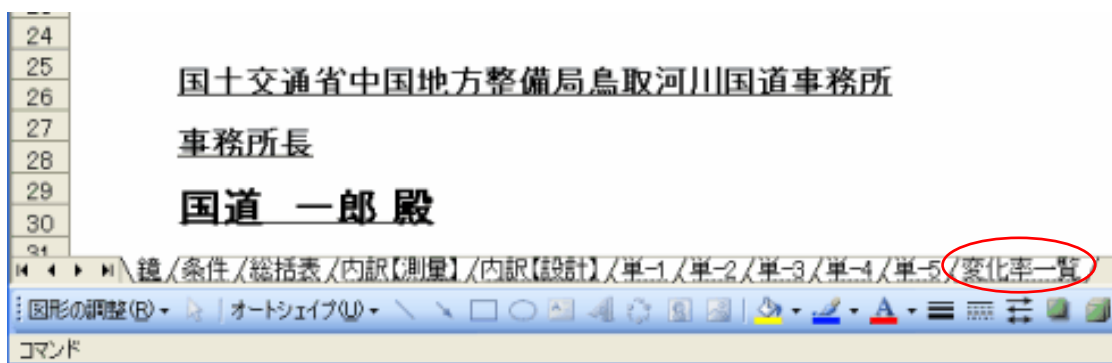
■ Excelのグループ印刷について

Excel出力を行った見積書を一括印刷するには以下の手順で印刷できます。

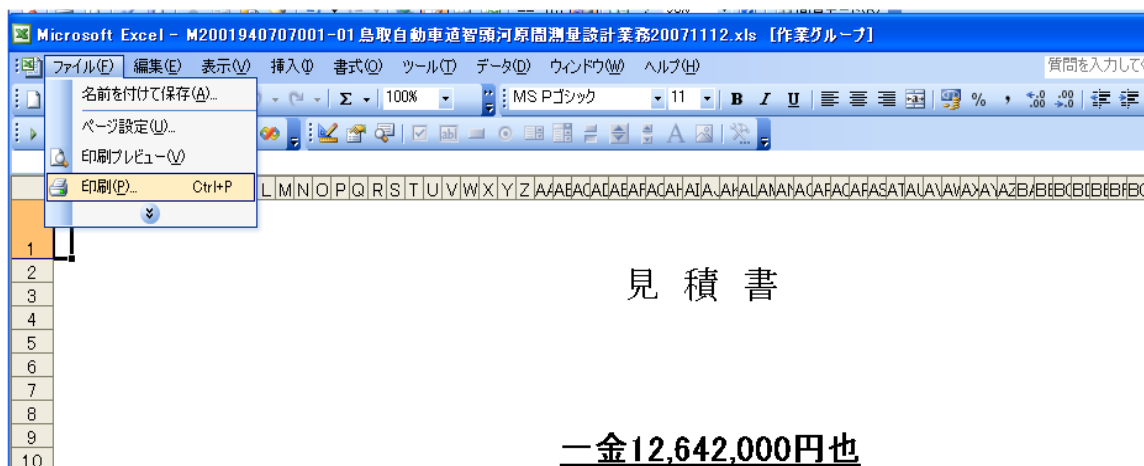
- ① 印刷する最初のタブをクリックします。



- ② [Shift]キーを押しながら、印刷範囲の最終タブをクリックします。



- ③ [ファイル]メニュー等から印刷を実行すると、対象範囲の見積書が一括印刷されます。



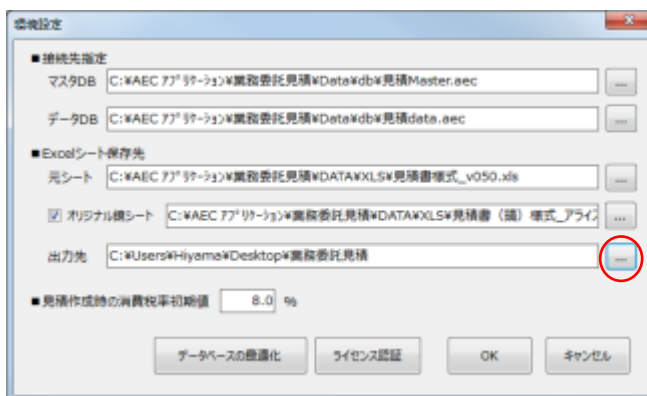
■ Excelファイルの出力先について

見積書のExcelファイルの出力先は以下の手順で変更できます。
※任意で書出先フォルダを作成しておきます。

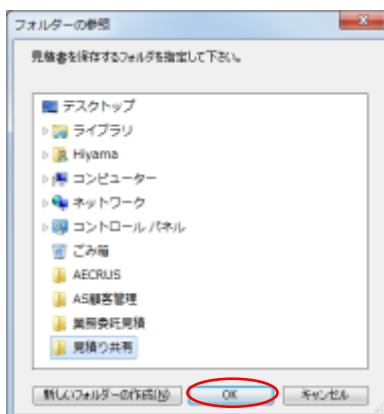
- ① メインメニューから「環境設定」ボタンを選択します。



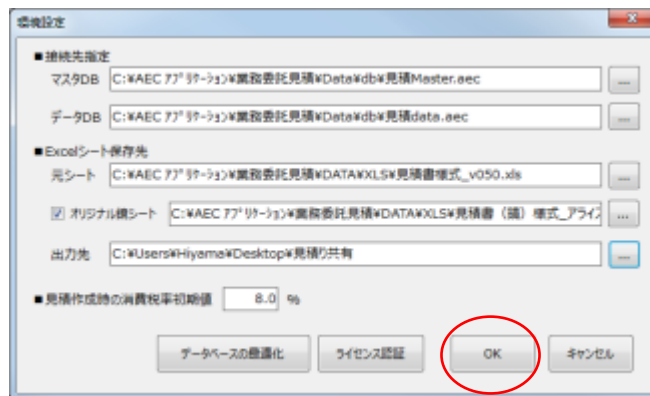
- ② 環境設定画面のExcelファイル出力先の[...]ボタンをクリックします。



- ③ 出力先フォルダを選択し[OK]ボタンをクリックします。



④ [OK]ボタンをクリックします。

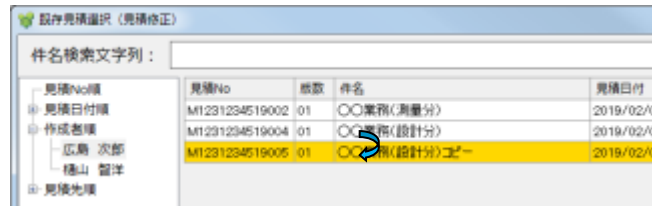


■ 複数業種見積データの統合について

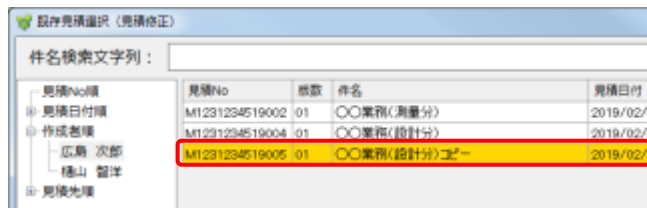
業種毎に別々に作成した見積の統合が可能です（※業種（測量、設計等）が重複している見積データの統合はできません。）。例えば、ある見積で設計分の見積を作成し、別の見積で測量分の見積を作成している場合、それらを集約して一つの見積もりにする事ができます。

【処理手順の事例】 別々に作成した測量分と設計分を統合する

- ① 新規見積作成の「既存案件から複写」機能もしくは既存見積の修正の「複写」機能を使用し「測量分」「設計分」の見積をコピーします。（コピーの作成方法については「[8-2. 作成済み見積りをコピーして類似見積りを作成する](#)」を参照してください）

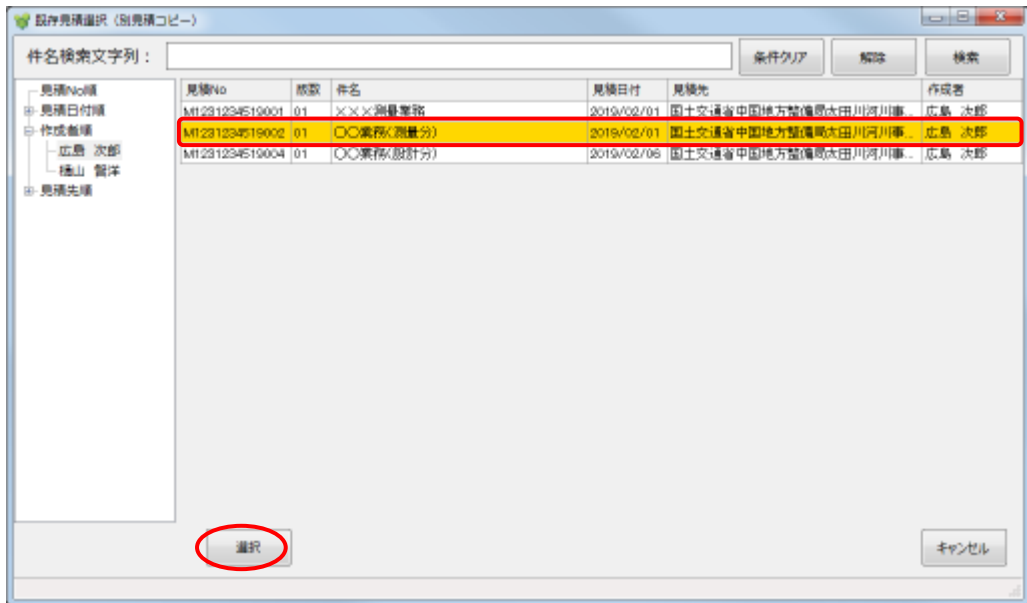


- ② コピーした設計分の見積りを既存見積修正で開きます。

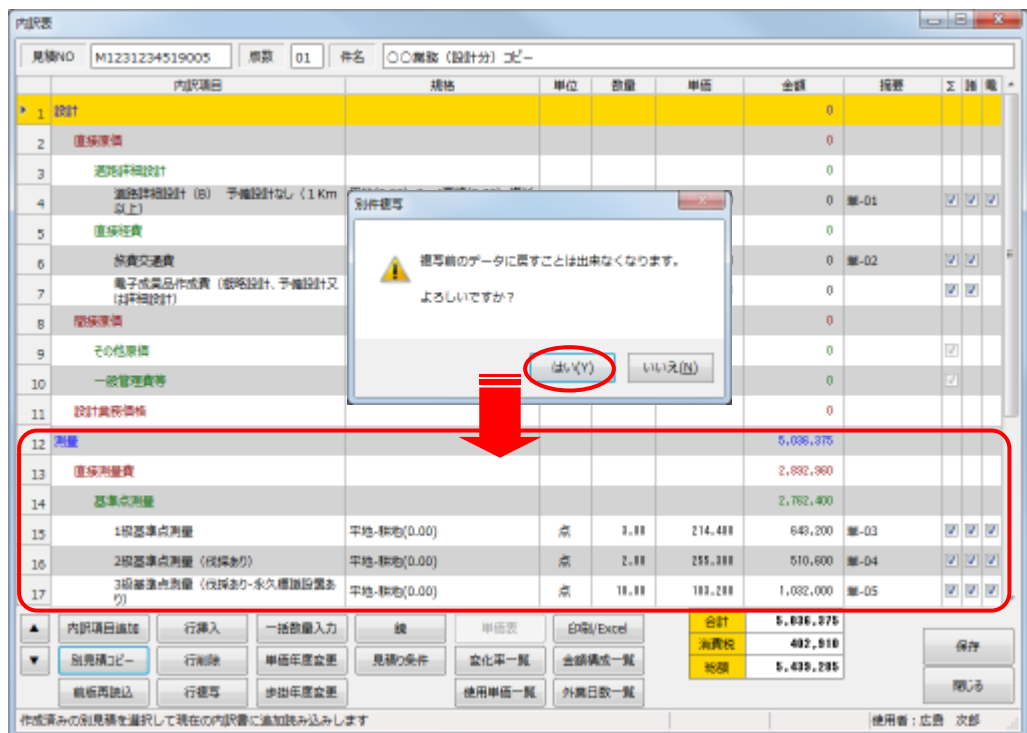


- ③ [別見積コピー]ボタンを押し、追加したい見積書を選択し「選択」ボタンを押します。





- ④ 確認メッセージ後、選択した見積データが追加されます。※業種（測量、設計等）が重複している場合は正常に追加されません。



10. プロテクタの更新方法

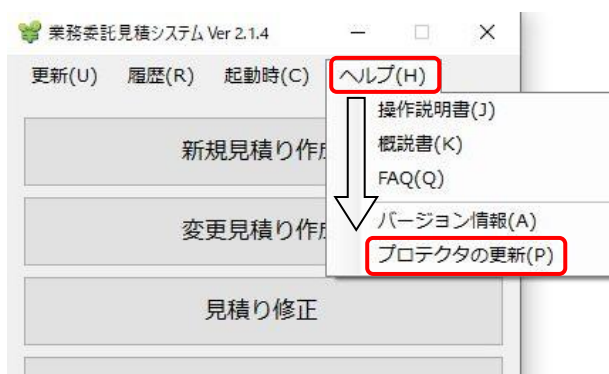
2年目以降、継続的にご契約いただくと、お手元のプロテクタを更新するためのファイルがメールで送られてきます。以下の手順でプロテクタの内容を更新してください。

(1) プロテクタ更新用ファイルの準備

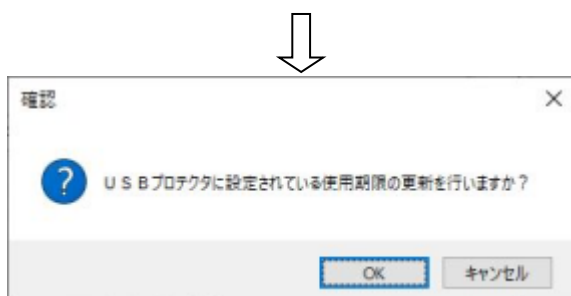
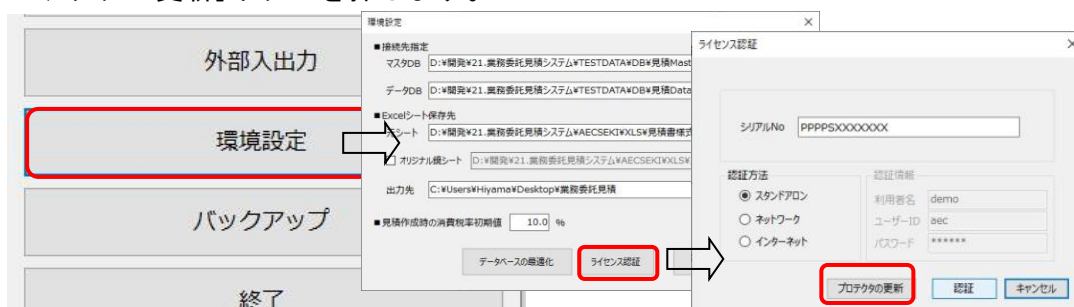
「レンタル期間更新用キーファイル送付」という件名でメールに「spupdate_〇〇〇〇_WAMTA9999999.ksp」というファイルが添付されて送られてきます。(〇〇〇〇は御社名事務所名等、WAMTA9999999は現在お使いのプロテクタに採番されているシリアルナンバー)まずは、この拡張子がkspのファイルをお使いのPCに保存してください。
※保存場所はPC上のどこでも構いません。

(2) 見積システムを起動して、「プロテクタの更新」を実行します。

・見積システムを起動し、メインメニュー画面上部の[ヘルプ]ー[プロテクタの更新]を選択します。



・またはメインメニューの[環境設定]ボタン>>[ライセンス認証]ボタン>>[プロテクタの更新]ボタンを押します。



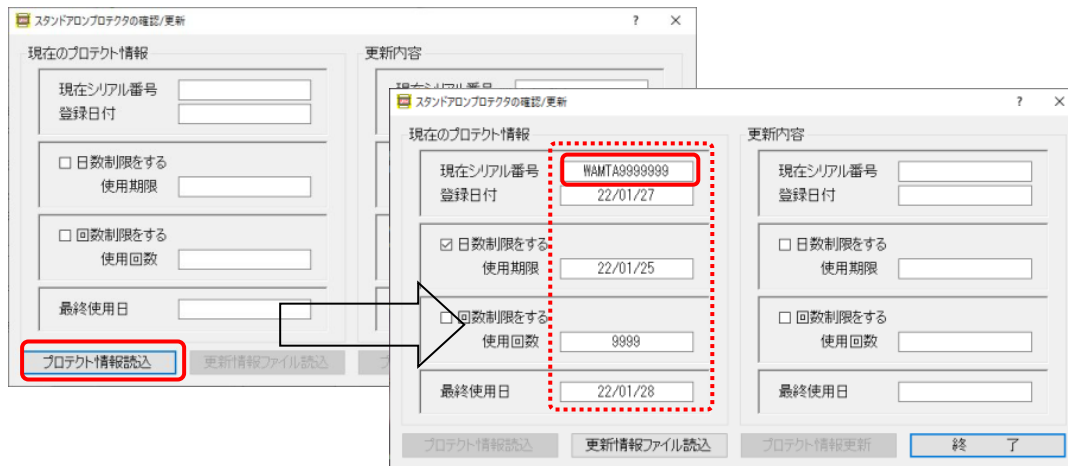
[OK]を押してプロテクタの更新処理に進んでください。

※プロテクタ更新前に、既に見積システムのご使用期限が過ぎている場合は、その旨の警告メッセージが表示され、その後上記メッセージが表示されますので、

同様に[OK]を押してください。

(3) プロテクタの状態を確認する。

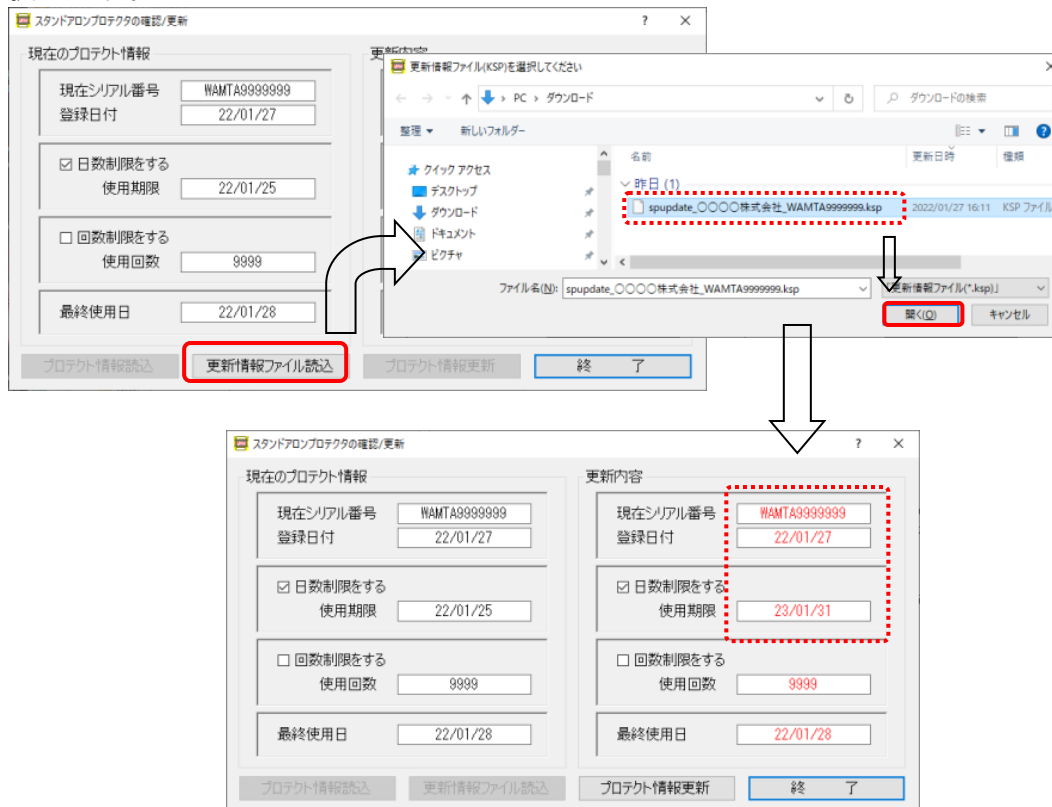
「スタンドアロンプロテクタの確認/更新」画面が表示されますので、USBプロテクタがPCにセットされていることを確認の上、[プロテクト情報読込]ボタンを押してください。



※この時点では、特に「現在のシリアル番号」が今から更新を行うプロテクタとなりますので、間違いがないか確認してください。事前に送られてきたkspファイルに指定されているシリアル番号と異なるプロテクタは更新出来ませんので注意してください。

(4) k s p ファイルを読み込む

次に[更新情報ファイル読込]ボタンを押して、(1)で保存したk s pファイルを選択します。



k s p ファイルを選択すると「更新内容」にその内容が表示されますので、シリアル番号や使用期限が正しいか確認してください。

※この時、現在のプロテクタ情報と更新内容にアンマッチがあり、USBを取り換え

たり、k s pファイルを選択し直す場合は、一旦「終了」ボタンで終了し最初からやり直してください。

(5) プロテクタの更新を行う

現在のプロテクト情報と更新内容に問題がなければ[プロテクト情報更新]ボタンを押してください。

現在のプロテクト情報	更新内容
現在シリアル番号: WAMTA9999999	現在シリアル番号: WAMTA9999999
登録日付: 22/01/27	登録日付: 22/01/27
<input checked="" type="checkbox"/> 日数制限をする 使用期限: 22/01/25	<input checked="" type="checkbox"/> 日数制限をする 使用期限: 23/01/31
<input type="checkbox"/> 回数制限をする 使用回数: 9999	<input type="checkbox"/> 回数制限をする 使用回数: 9999
最終使用日: 22/01/28	最終使用日: 22/01/28

Buttons: プロテクト情報読み込, 更新情報ファイル読み込, **プロテクト情報更新**, 終了

現在のプロテクト情報	更新内容
現在シリアル番号: WAMTA9999999	現在シリアル番号: WAMTA9999999
登録日付: 22/01/27	登録日付: 22/01/27
<input checked="" type="checkbox"/> 日数制限をする 使用期限: 23/01/31	<input checked="" type="checkbox"/> 日数制限をする 使用期限: 23/01/31
<input type="checkbox"/> 回数制限をする 使用回数: 9999	<input type="checkbox"/> 回数制限をする 使用回数: 9999
最終使用日: 22/01/28	最終使用日: 22/01/28

Message Box: 更新 (Update) - 更新が終了しました。 (Update completed). OK

Buttons: プロテクト情報読み込, 更新情報ファイル読み込, プロテクト情報更新, 終了

[プロテクト情報更新]ボタンを押すと数秒後に「現在のプロテクト情報」側の使用期限が新しい日付に変わり、更新終了のメッセージが表示されます。[終了]ボタンを押してウィンドウを閉じてください。

※更新完了後のk s pファイルについて

一連のプロテクタの更新作業が完了したら、P Cに保存したk s pファイルは削除いた
いても構いません。

※見積システム上で使用期限を確認

プロテクタに記録されている使用期限は見積システムの「ヘルプ」－「バージョン情報」
を開くと確認いただけます。

1 1. 業務委託見積システムが必要なくなったとき

業務委託見積システムのアンインストール

- (1) Windowsを起動します。
- (2) [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]より[アプリケーションの追加と削除]を起動してください。ご使用の環境によっては[プログラムの追加/削除]となっている場合があります。
- (3) インストールされているプログラムの一覧表が表示されますので、「業務委託見積システム」を選択してください。
- (4) 「業務委託見積システム」の下に[変更と削除]ボタンが表示されますので、このボタンを選択してください。自動的にアンインストールプログラムが起動します。
- (5) アンインストールプログラムの指示に従ってアンインストールを実行してください。
- (6) 引き続き、インストールした各種データをアンインストールします。インストールされているプログラムの一覧表が表示されますので、「業務委託見積システムデータベース」を選択してください。
- (7) 「業務委託見積システムデータベース」の下に[変更と削除]ボタンが表示されますので、このボタンを選択してください。自動的にアンインストールプログラムが起動します。
- (6) 主なプログラムファイル・データは自動的に削除されますが、一部のファイルが削除されずに残っている場合があります。そのままでも問題ありませんが、完全に削除したい場合には以下の手順で削除することができます。

※Windowsは、管理者権限のあるユーザでログインしてください。

※エクスプローラで、システムをセットアップした位置にある[AEGアプリケーション]の下の[業務委託見積りシステム]フォルダを削除してください。